
2022年度 後期

2単位

あそびの文化史

大原 良通

< 授業の方法 >

遠隔授業（オンデマンド授業）

< 授業の目的 >

この授業では、あそびを通じて、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

私たちがあそびを通じて、社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。

人文学部のDPに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる（思考力・判断力・表現力）。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます（知識・技能）。さらに、この授業を通して多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります（主体性・協働性）。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。（主体性・協働性）。

< 到達目標 >

身近なものにも歴史があることに気づくことができる。

変化には一定の法則があることを知ることができる。

遊ぶことが無駄でないことを知ることができる。

遊ばなければならないことに気づく。

一見無駄だと思うことに真剣に向き合うことが、大事だということに気づくことができる。

< 授業の進め方 >

dotCampusで資料を提示し、課題をこなしてもらいます。配布資料にある講義資料を読んで、レポートもしくはテストを提出してもらいます。

授業では、dotCampusの内容をふまえて、アクティブラーニングの手法を生かし、みなさんの意見を公開することによって、議論を発展させたいと考えています。毎回、dotCampus上で、小テストもしくはレポートの課題を提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

積極的に議論に参加してください。議論、討論がなければ授業が成り立ちません。

出席確認はdotCampusの該当授業へのアクセス記録によって確認しますので、必ず大学に登録している自分のアカウントでアクセスしてください。

dotCampusでの小テストは、電波状況の良い場所で、画面を二つ開けたり、途中で画面を切り替えたりせずに受けてください。

テストは途中で止めることはできません。始めた時点でタイマーが作動します。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampusにある講義内容を確認します。講義資料は60分ほどで読み切れるものを用意しています。ただし、一度では理解できないかもしれないので、余裕を持って2時間ほどかかると考えてください。

授業ごとに15分程度の小テストを実施します。

第二回目の『古事類苑』「遊戯部」の読解には3時間ぐらいかかるかもしれません。

< 提出課題など >

毎回、dotCampusで小試験もしくはレポート提出をもらう予定です。

レポート課題には頭に、表題、学籍番号、氏名を必ず明記してください。書いていないレポートは無効とします。

< 成績評価方法・基準 >

dotCampusでおこなう小テストの点数とレポートで評価します。

小試験は10点満点で10回ほど、レポートは5回から7回ほどを予定しています。

回数は授業の進捗状況やみなさんからの反応で、随時調整します。

それらを総合した点数を100点に按分して成績の点数とします。

< テキスト >

dotCampusで指示します。

< 授業計画 >

第1回 シラバス確認

授業計画についてシラバスから確認する。

授業内容はOneDriveにあります。

まず授業説明を読んでください。

第2回 あそびとは

『古事類苑』の「遊戯部」から日本の遊びの文化について考えてもらう。

『古事類苑』は国立国会図書館のホームページ、また、神戸学院図書館のジャパンナレッジ、にあるので、確認してください。

今回からdotCampusで授業をおこなえるようになりましたので、dotCampusを確認してください。

この授業からdotCampusで授業をおこないます。

第3回 あそびを調べる

『古事類苑』「遊戯部」から、日本人にとって「あそび」とは何かについて考える。

第4回 あそびを定義する

各自、あそびについて考察してもらおう。

第5回 カイヨワとホイジンガ

ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』を解説しながら、遊ぶということがどのように捉えられてきたかについて考察します。

ロジェ・カイヨワの『遊びと人間』を解説しながら、なぜ遊ぶのかについて考えます。

第6回 遊戯を研究する

増川宏一の研究を紹介します。

第7回 近代におけるあそび

近代のあそびについて、柳田國男や森鷗外の著作から考える。

第8回 机上遊戯

碁、将棋、すごろく。

第9回 賭け事

すごろく、競馬、カードゲーム。

第10回 都市と遊戯1

喫茶店、軽食マクドナルドやケンタッキー、ドーナッツ。

第11回 都市と遊戯2

ポロや小説、ハイキング。

第12回 飲酒とあそび

投壺・曲水の宴（負けて得するという理論）。

第13回 貴族とあそび

闘茶、闘香など。

第14回 あそびの未来

私たちはなぜあそぶのか、あそびはこれからどうなるのかを議論する。

第15回 復習とまとめ

「あそび」が社会や私たちの生活でどのような役割を果たしてきたのかをまとめる。

2022年度 前期

2単位

異文化コミュニケーション研究

出水 孝典

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

言葉を使ったコミュニケーションに関して、語用論の知見を援用し、理解を深めることを目的とする。人文学部人文学科のディプロマポリシーで言うと人文学部人文学科のディプロマ・ポリシーのうち2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」、5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に相当する。

異文化コミュニケーションという用語は様々な解釈が可能だが、人がそれぞれ異なる環境で育ち異なる文化を身につけてきていることを踏まえると、あらゆるコミュニケーションは異文化コミュニケーションだと言えなくはない。この授業では、そのような人と人とのコミュニケーションに関して、語用論（文字通りの意味に加えて文脈から読み込まれる言外の意味を扱う学問）の知見を応用し、言語使用に関する理解を深めることを目標とする。

< 到達目標 >

1. 言葉の文字通りの意味に加えて、文脈から読み込まれる言外の意味について理解できる。
2. 言外の意味が読み込まれる仕組みを理解し説明することができる。
3. 言語使用の場面におけるポライトネス（相手に対する気遣い）の諸側面を理解できる。
4. 無意識の言語使用の背後ではたらいている仕組みを理解し、より言葉に敏感になり、適切な言語使用ができるようになる。
5. 言語・文科学科群の卒業研究を執筆する際に、自分の収集した言語データの分析に応用できる。

< 授業のキーワード >

言外の意味、グライスの会話の協調の原理と4つの下位公理、リーチのポライトネスの原理と6つの下位公理、ブラウンとレヴィンソンによるポライトネス理論

< 授業の進め方 >

授業ではまず、日本語の小説やJ-POPの歌詞をデータとして提示し、その一部分の解釈について考える。残りの時間でその内容をさらに掘り下げ、さらなる英語・日本語のデータも挙げながら、卒業研究で言語データを分析する際にどう使えるのか見ていく。なお、授業の最後に、出席カードに確認テストの解答と授業の感想を書いて提出してもらおう。

< 履修するにあたって >

言葉に関してあれこれ「なんでやねん」とツッコミを入れなくなる人はぜひ履修して下さい。言語文化領域の人は、卒業研究のネタ探しにもなると思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、前回の授業でやった内容、特にそれぞれの用語とそれが表す概念についてきちんと復習する（60分～90分）。言語に関して卒業研究を書こうと考えている受講者は、自分が演習クラスで取り上げているテーマに関して、授業内容をどう関連づけられるのか、毎回よく考えること。また、ふだん自分が見ているネット上のサイトの記述、テレビドラマや映画の台詞、小説などについて、授業で学んだことを生かした分析ができないか検討するようにしよう。

< 提出課題など >

授業の最後に出席カードに確認テストの解答と、感想を書いて提出してもらおう。

< 成績評価方法・基準 >

出席カードに記載する確認テストの解答50%、期末レポート50%

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 導入

語用論とは何か、これらは言語学の中でどのように位置づけられるのか

第2回 間接発話行為

ジョン・サールによる、言語表現が間接的に果たす機能（間接発話行為）の研究を見ていく。子供が親におもちゃをねだるときに、「あのおもちゃ買って」という代わりに、「あのおもちゃ買ってこない?」「あのおもちゃ、わたし欲しいの」と言うことができるのはなぜかを考える。

第3回 グライスの質の公理

グライスの協調の原理について概観した後、その下位公理の1つである質の公理について見ていく。「嘘をついたりあやふやなことを言ったりしてはいけない」とよく言われるが、皮肉やメタファーは本当のことを言っていない。本当のことを言わないで間接的に何かを言う場合について考えていく。

第4回 グライスの量の公理

グライスの量の公理である「相手に与える情報は少なすぎても多すぎてもいけない」について考える。これも質の公理と同じく破っても許される場合があるが、それによって何を伝えようとしているのか、見ていく。

第5回 グライスの関係の公理

グライスの関係（関連性）の公理を見る。「関係のない話はしてはいけない」という常識は、グライスの関係の公理で説明される。でも、わざと関係ない話をして話題を変えたりしたことがあるのではないだろうか。

第6回 グライスの様態の公理

グライスの様態の公理について考える。「相手に伝わりよう分かりやすく話をする」のがふつうであり、これはグライスの様態の公理によって説明されるが、そうでないことや、わざと分かりにくくすることもある。

第7回 ポライトネス

ポライトネスという概念を見ていく。politenessを英和辞典で引くと「丁寧さ」と書いてあり昔はそう訳されていたが、日本語の「丁寧さ」が表す表面的なことばの上での丁寧さと完全に一致はしない。英語のポライトネスという概念が表す相手を不快にさせない話し方とはどのようなものなのか、考えていく。

第8回 リーチの気配りの公理・寛大さの公理

リーチの挙げたポライトネスの原理の下位公理のうち、気配りの公理と寛大さの公理を取り上げる。なぜ人を待たせるときに、時間がかかりそうでも「ちょっと待って」と言うのか、「旅行、楽しんで来いよ」と命令形で言われても腹が立たない場合があるのはなぜか、といった

ことが、これらの公理によって説明できることを見ていく。

第9回 リーチの是認の公理など

リーチの挙げたポライトネスの原理の下位公理のうち、是認の公理、謙遜の公理、合意・共感の公理を取り上げる。相手をけなしたり、自画自賛したりするのはなぜだめなのか、違うと思っていなくても相手に話を合わせるのはなぜなのかが、これらの公理によって説明できることを見ていく。

第10回 グライス・リーチのまとめ

グライスの協調の原理に含まれる4つの公理間の関係を見た後、リーチの挙げたポライトネスの原理の下位公理についても整理する。

第11回 ブラウン&レヴィンソンのポライトネス1

ブラウン&レヴィンソンによるポライトネス理論について見ていく。相手をいらだたせたり傷つけたりするリスク（これは相手の面子を傷つけるので、フェイスリスクと呼ばれる）を決定する要因として、お互いの社会的距離（親疎関係）、上下関係、依頼や批判がどれほどおおごとなのか、という3つの要因があることをまず見ていく。その後、その3つの要因の大きさを合計したものによって、5つのストラテジーが選択されることを見ていく。

第12回 ブラウン&レヴィンソンのポライトネス2

ブラウン&レヴィンソンによる5つのストラテジーのうち、ポジティブ・ポライトネスについて詳しく取り上げる。人は仲の良い人とはもっと仲良くなろうとするが、このような気遣いの仕方は、接近に基づき、相手の人に認められたいという欲求を満たすもので、ポジティブ・ポライトネスと呼ばれる。これらがさらに、どのような下位ストラテジーに分類され、どのような興味深い特徴をもっているのかを確認する。

第13回 ブラウン&レヴィンソンのポライトネス3

ブラウン&レヴィンソンによる5つのストラテジーのうち、ネガティブ・ポライトネスという概念を取り上げる。人は、特に仲が良くもない人とは、一定の距離を置いて接することで、なれなれしいと思われまいようにする傾向がある。このような気遣いの仕方は、ネガティブ・ポライトネスと呼ばれ、忌避に基づき相手の縄張りを侵害しないようにするものである。これらがさらに、どのような下位ストラテジーに分類され、どのような興味深い特徴をもっているのかを確認する。

第14回 ブラウン&レヴィンソンのポライトネス3

ブラウン&レヴィンソンによる5つのストラテジーのうち、オフ・レコード（ほのめかし）について詳しく取り上げる。ネガティブ・ポライトネスを用いて接する人よりもさらに親しくない人には、物事を言質を取られるような形ではっきりとは言わず、わざとグライスの公理に違反した形で間接的に示唆しようとする。このようなオ

フ・レコード（ほのめかし）の下位ストラテジーについて見る。

第15回 ブラウン&レヴィンソンのまとめ

ブラウン&レヴィンソンによる5つのストラテジーのまとめをした後、リーチのポライトネスがブラウン&レヴィンソンのポライトネスとどのように関連しているのか確認して、ポライトネスのまとめとする。

2022年度 後期

2単位

異文化コミュニケーション研究

出水 孝典

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

言葉を使ったコミュニケーションに関して、語用論・社会言語学の知見を援用し、理解を深めることを目的とする。文学部人文学科のディプロマポリシーで言うと人文学部人文学科のディプロマ・ポリシーのうち2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」、5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に相当する。異文化コミュニケーションという用語は様々な解釈が可能だが、価値観の異なる者同士のコミュニケーションは異文化コミュニケーションだと考えることができる。社会言語学者であるデボラ・タネンによると、男女は異なる文化に属し、異なる価値観を有する。従って、男女のコミュニケーションも異文化コミュニケーションであるという。そこで、そもそも男ことば・女ことばがどのように異なっているのか、その違いを説明するのにどのような考え方がこれまでであったのかをまず見ていく。一方、性別とは関係なく、人は自分とは縁のない生き方、宗教、思考方法、それに社会的・美学的な文化形態にたいし、身ぶるいし嫌悪を示すということ、意識的・無意識的にやってのけている。そのような否定的感情・評価が、言語使用にどのように反映されるのかという問題も取り上げる。

< 到達目標 >

1. 男性と女性のそれぞれに見られる言葉の使い方の典型的な違いを理解することができる。
2. 言語使用の男女差が生じる理由の諸側面を理解できる。
3. 言葉の文字通りの意味に加えて、用語に込められた価値観、差別意識などの含みについて理解できる。
4. 無意識の言語使用の背後ではたらいている仕組みを理解し、より言葉に敏感になり、適切な言語使用ができるようになる。

5. 言語・文教科目群の卒業研究を執筆する際に、自分の収集した言語データの分析に応用できる。

< 授業のキーワード >

男ことばと女ことば、女ことばに関する支配説と相違説、ことばに込められた価値観、蔑視語、婉曲語、ヘイト・スピーチ、LGBTをめぐる言説

< 授業の進め方 >

授業ではまず、日本語の小説などをデータとして提示し、その一部分の解釈について考える。残りの時間でその内容をさらに掘り下げ、さらなる英語・日本語のデータも挙げながら、卒業研究で言語データを分析する際にどう使えるのか見ていく。なお、授業の最後に、出席カードに確認テストの解答と授業の感想を書いて提出してもらう。

< 履修するにあたって >

言葉に関してあれこれ「なんでやねん」とツッコミを入れたい人はぜひ履修して下さい。言語文化領域の人は、卒業研究のネタ探しにもなると思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、前回の授業でやった内容、特にそれぞれの用語とそれが表す概念についてきちんと復習する（60分～90分）。言語に関して卒業研究を書こうと考えている受講者は、自分が演習クラスで取り上げているテーマに関して、授業内容をどう関連づけられるのか、毎回よく考えること。また、ふだん自分が見ているネット上のサイトの記述、テレビドラマや映画の台詞、小説などについて、授業で学んだことを生かした分析ができないか検討するようにしよう。

< 提出課題など >

毎回の授業の終了後、アンケートに確認テストの解答を書いて提出してもらう

< 成績評価方法・基準 >

確認テストの解答60%、期末レポート40%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 導入

言葉に込められた価値観とは何か、そもそも価値観という概念が何を表すのかを見た後、この講義の言語学内での位置づけを確認し、各回で取り上げる内容を概観する。

第2回 女ことばの特徴

日本語で男ことば・女ことばとされるものの特徴について概観した後、英語の女ことばについてロビン・レイコフが述べていることを見て日本語の女ことばにも当てはまる部分があるのかどうか考える。

第3回 女ことばに対する2つの見方 支配説と相違説

英語の女ことばが生じる理由を、ロビン・レイコフは男性が女性を支配して女性が自信をもてないからだと述べ

た。このような見方は支配説と呼ばれる。一方、そうではなく、男女はそもそも属している文化が異なるため、違った話し方をするのだという相違説と呼ばれる見方もある。これらについて、色々な例に基づいて見ていく。

第4回 支配説と相違説による見方の比較

英語や日本語の女ことばの様々な特徴が生じる理由を、具体例を見ながら支配説と相違説に基づいて考えていく。

第5回 ジェンダー差別を含む言葉1

男性や女性に関して述べるときに用いられる言葉のうち、女性に関するもののみが、女性が性的対象であるとか男性の付属物であるといった男尊女卑的な価値観を含んでいるものがある。男性と女性に言及する場合を比較することで、そうした価値観を浮き彫りにしていく。

第6回 ジェンダー差別を含む言葉2

男性や女性に関して述べるときに用いられる言葉のうち、男性が女性よりも優れていて高い能力を持つという価値観を内包した表現を見ていく。具体的には、女性を子供と同一視したり、無能な男性を女性に喩えたり、女性の社会進出を揶揄したりする言葉を考える。

第7回 ジェンダーに対する固定観念を表す言葉

男性や女性に関して述べるときに用いられる言葉に、男性らしさ・女性らしさに関するジェンダー・ステレオタイプを含意する言葉があることを見ていく。そういった言葉に基づく偏見は、ジェンダー・バイアスと呼ばれる。

第8回 まとめ1

第2回～第7回の内容について復習する。

第9回 言語に込められた価値観

言語を使って何かを記述する場合、記述対象に関して言語使用者がどのような感情を抱いているのか、それが生み出された言語表現の微妙な部分にどのように反映されるのかを考えていく。

第10回 用語に込められたマイナス評価

ある単語そのものに、マイナスの評価（悪玉であるという価値観）が込められている場合がある。そのような語は、蔑称や蔑視語、差別語と呼ばれている。そのいくつかの具体例について考えていく。

第11回 ヘイトスピーチ

ヘイトスピーチ(hate speech)は憎悪表現とよく訳されるが、単なるマイナス評価の込められた用語・表現とは異なり、標的とした被差別マイノリティに対する、差別に基づいた扇動を行い攻撃を加える行為である。この種のヘイトスピーチの実態と問題点について考えていく。

第12回 婉曲表現をめぐる問題

物事を遠回しに言う表現は、不快な言及の仕方を避けるために用いられて来たが、場合によってはそれが、醜悪な現実を隠蔽するのに用いられることがある。そのようなものの例（例えば、オウム真理教の言う「ポア」やナチスの言う「最終的解決」など）について考えていく。

第13回 LGBTとそのカテゴリー化による位置づけ

LGBTという概念について学んだ後、そのような性的マイ

ノリティに言及することばのうち、ある種の問題ある価値観を含んでいる言い方としてどのようなものがあるのかを見ていく。

第14回 LGBTに対する見方を示す表現

LGBTに関する記述において、これまでどのような見方・価値判断が示唆されてきたのかを、小説からの実例、雑誌の記事などを見ながら考えていく。

第15回 まとめ2

第9回～第14回の内容について復習する。

2022年度 前期

2単位

イメージの文化史

金 益見

<授業の方法>

講義形式

<授業の目的>

「イメージの文化史」では、人間が世界をイメージし、その行為を通じて表現されたものを考察します。絵画や写真、映画やテレビなど、多くのジャンルやメディアが人間の表象行為に関わってきました。本講義では、そのなかでも「広告」や「雑誌」の表現に着目し、時代をとらえた言葉（コピー）、デザインや写真から、表象文化を考えていきます。広告を通してみえてくる「イメージ化された文化」「イメージが作り出す文化」について考えていきたいと思えます。

本講義は、人文学部ディプロマ・ポリシーに示された、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる」能力を養うことを目的とします。

<到達目標>

- (1)表象文化の歴史を学ぶことで、人間の社会的・文化的活動に関する知識を総合的、体系的に身につけることができる
- (2)イメージに流されない判断力を養い、社会で有効なリテラシー能力をつけることができる
- (3)身近な「広告」から社会を読み解く力を身に付け、将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できるようになることができる

<授業のキーワード>

表象、メディア、広告、プロパガンダ

<授業の進め方>

講義形式を中心に進めます。毎回、授業に関する内容をミニレポートにまとめてもらいます。

<履修するにあたって>

私語厳禁です。授業に関係のないもの（スマートフォンや雑誌など）を机の上に出すことも禁じます。これらを含めた受講上の約束事は1回目の授業で説明します（受講上の約束事が守れない場合は即退出、場合によっては即不合格とします）。

履修登録の際には、このことを十分に理解してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中に自身で考えたことをメモし、授業後にそれをまとめて更に考えたり、キーワードを検索したり、関連文献を読むという復習を行なってください（1時間程度）。それによって、その次の授業の理解度とその次につながる熟考度に違いが出てくると思います。

< 提出課題など >

毎回授業内容に関するコメントやレポートを提出していただきます。

記入された内容の一部は、受講者の理解を深めるために、次の授業のはじめに共有します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート点で評価する。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 授業の進め方の説明

授業の進め方を説明します。

第2回 表象文化とは

表象文化についての基本的なレクチャーを行った後、「イメージの作られ方」を学びます。

第3回 表象文化とは

前回学んだことを前提に、「イメージの見極め方」「イメージの読み解き方」を学びます。

第4回 悪の表象

「悪」「悪魔」「悪者」「敵」をキーワードに、漫画の悪役を取り上げながら、「作られた悪」を検証します。

第5回 悪の表象

「悪」「悪魔」「悪者」「敵」をキーワードに、映画の悪役を取り上げながら、「作られた悪」を検証します。

第6回 悪の表象

「悪」「悪魔」「悪者」「敵」をキーワードに、戦時下に使用されたプロパガンダ広告を分析します。

第7回 正義の表象

「正義」「英雄」をキーワードに、前回学んだ「悪の表象」と比較しながら、メディアが作り出す表象について考えを深めていきます。

第8回 正義の表象

「正義」「英雄」をキーワードに、様々な広告や漫画を取り上げながら、その描かれ方を分析します。

第9回 正義の表象

「正義」「英雄」をキーワードに、映画を取り上げながら、その描かれ方を分析します。

第10回 広告のなかのイメージ

「ジェンダー」「セクシュアリティ」をキーワードに、様々な広告を取り上げながら表象文化について考察します。

第11回 広告のなかのイメージ

「ジェンダー」「セクシュアリティ」をキーワードに、様々な広告を取り上げながら表象文化について考察します。

第12回 広告のなかのイメージ

「労働」「消費」「階層」「格差」をキーワードに、様々な広告を取り上げながら表象文化について考察します。

第13回 広告のなかのイメージ

「労働」「消費」「階層」「格差」をキーワードに、様々な広告を取り上げながら表象文化について考察します。

第14回 広告のなかのイメージ

「都市」「コミュニティ」「グローバリゼーション」「エスニシティ」をキーワードに、表象文化について考察します。

第15回 広告のなかのイメージ

「都市」「コミュニティ」「グローバリゼーション」「エスニシティ」をキーワードに、表象文化について考察します。

2022年度 前期

2単位

英語コミュニケーション研究

藏園 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、言語文化領域の専門科目に属し、学部のDPに示す 1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章での確に表現することができる」、7.「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係します。

異文化に属する人のことを理解する方法の一つとして、相手の考え方やものの見方、その国ごとに形成された制度や文化の背景を理解するという方法があります。現代の日本にも根付いている異なる文化から取り入れられた制度や文化にも目を向けて、その制度や文化が成立した背景について歴史や宗教、民族など様々な観点から考えていきます。

< 到達目標 >

1. 日本と世界の国々の文化的な違いとその背景を理解し説明できる。
2. 中学、高校で学んだ語彙、語法、文法を使って英文の内容を正確に把握できる。
3. 異なる意見を持つ仲間と積極的に議論し、考えを表

現することができる。

< 授業のキーワード >

intercultural communication、ceremony、food、gender、religion、past vs. future

< 授業の進め方 >

異文化について書かれた英語テキストを精読しながら、日本と異なる国々との間に存在する文化的な違いとその背景について理解を深めます。

授業までに予習してきてもらい、授業中は日本語訳の完成度を高めるためにグループで議論を行ってもらい、その成果を発表してもらいます。

授業の終わりには小テストを行います。何も見ない状態で授業で学んだ英文の日本語訳などをしてもらいます。

< 履修するにあたって >

授業中に単語の意味が分からない場合にその都度調べられるように、英和辞典もしくは英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回授業の内容について予習し、分からないことがあれば辞書や文法書を調べる（1時間）。授業後には学習した内容を復習し、中間および最終発表の準備を進める（30分）。

< 提出課題など >

前半に中間レポート課題を出します。また、最終授業では授業全体で学んだ内容に関する最終レポートを書いてもらいます。授業では振り返りのための小テストを行います。英文の日本語訳や英語訳等をしてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート15%、最終レポート15%、小テスト60%、授業への積極的な参加10%

< テキスト >

石井隆之 監修 『Cross-Cultural Awareness : 英語で学ぶ異文化の不思議』 開文社

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回目 はじめに

自己紹介、授業の進め方や成績の付け方等の説明をします。

第2回目 Wedding ceremonies in the world

結婚式は宗教や考え方によってスタイルが異なる。その背景にはどのような考え方の違いがみられるのかについて考えます。

第3回目 Funerals in the world

仏教式、神道式、キリスト教式、無宗教葬など、葬式と埋葬文化の違いについて考えます。

第4回目 Coming-of-age ceremonies in the world

日本と世界とで成人年齢や成人式のやり方に違いはあるのか。また、なぜ成人の日を祝うのかについて文化の違いから考えます。

第5回目 Toilets in the world

日本では時代と共に変わる、かわや、ウォッシュレットへと変わってきたトイレですが、世界の文化とトイレとの関りについて考えます。

第6回目 Unusual foods in the world

ある国では当然のように食べる食べ物でも、ほかの国ではその捉え方は異なります。食文化とその文化が成立した背景について考えます。

第7回目 Greek and Japanese mythologies

人や国によって信じるものは異なりますが、異国に伝えられる神話にも共通点がみられます。神話の背景に存在する異同について考えます。

第8回目 中間レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてきてもらい、授業内で中間レポートを書いてもらいます。

第9回目 Children's recreation in the world

子どもの夢は現代社会を映し出す鏡とも言えます。社会、文化を反映する世界の子供の遊びについて考えます。

第10回目 Sports of the world

アテネで始まった近代オリンピックが成立した背景やその精神、そして現代のオリンピックが持つ意味合いについて考えてみます。

第11回目 A strange custom

古来より人類には土を食べるという習慣があったとされます。その習慣が成立した背景に存在するものの見方、考え方について考えます。

第12回目 Regions vary in the world

宗教の違いが言語観や自然観の形成にどのような影響を与えるのかという観点から、日本と西洋の文化的な違いについて考えます。

第13回目 Is "right" always right?

日本語で「右腕」はプラス、「左遷」は?イメージを想起しますが、異なる言語では右と左にどのようなイメージを想起するのかについて考えます。

第14回目 P-time culture and M-time culture

時間の概念は文化によって異なります。単一的時間と多元的時間という時間概念の違いとその概念が成立した背景について考えます。

第15回目 最終レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてきてもらい、授業内で最終レポートを書いてもらいます。

2022年度 後期

2単位

英語と文化

服部 亮祐

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学科言語文学科目群の専門教育科目に属し、人文学部DPに示す「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている。」ようになることを目的とします。大学生活、家族、食文化、個人主義、多文化社会など、日米文化の比較を通して文化的背景を学ぶことで、多様な英語表現についてよりよく理解することを目指します。

<到達目標>

多様な英語表現の意味について、文化的背景を踏まえて考察することができる。異文化間の差異を理解し、各文化の背景や価値観について考察することができる。

<授業のキーワード>

日米文化比較

<授業の進め方>

テキストの内容に沿って、読解やリスニングを行う。

<履修するにあたって>

毎回各自必ずテキストと使い慣れた辞書（英和、和英、英英等）を持参すること。授業中に問題を解き、解説を行うので、積極的に授業に参加することが不可欠です。3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されません。

<授業時間外に必要な学修>

各回の内容について予習をし、読解、リスニング問題に備えること（一時間程度）。

<提出課題など>

各回に学んだ内容から、各自テーマをひとつ選択し、考察するレポートを提出すること。また、課題についてはその都度授業中に指示する。解答例は授業内で提示する。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的な参加、質疑応答など40%、課題提出30%、レポート30%

<テキスト>

Justin Charlebois, 佐久間重 (2015) 『日米文化比較で学ぶ総合英語 Cultural Portraits: Japan and the US』金星堂、1,800円

<授業計画>

第1回 Introduction

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 Unit 1

College Life

第3回 Unit 2

Family Life

第4回 Unit 3

Food Culture

第5回 Unit 4

Holidays

第6回 Unit 5

Individualism

第7回 Unit 6

Socializing at Parties

第8回 Unit 7

Dating and Romance

第9回 Unit 8

Pluralistic Society

第10回 Unit 9

Degree of Formality

第11回 Unit 10

Volunteerism

第12回 Unit 11

Context and Communication

第13回 Unit 12

Non-Verbal Communication

第14回 Unit 13

Debate

第15回 Unit 14

Religion

2022年度 前期

2単位

英語音声学

服部 亮祐

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の二科目並びに教職（英語）の資格科目に属している。人文学部DPのひとつである、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。英語音声に関する正しい知識や技能を修得し、英語を正しく聞き取り、発音することを目指す。

<到達目標>

日本語と英語の音の体系の違いを正しく認識できる。正しいイントネーションとリズムを用いて英語の発音ができる。実践的な英語の発音指導法を身に付ける。

<授業のキーワード>

音声学、音素、アクセント、イントネーション

<授業の進め方>

各テーマについて、解説及び例示をする。その後、演習、ペアワーク等を通して実践的に学ぶ。また、学修した内容について口頭で試験を行い、理解を確認する。

<履修するにあたって>

演習やペアワーク等を通して実際に練習することが重要なので、積極的に授業に参加することが不可欠です。

<授業時間外に必要な学修>

復習として、各回で学んだことについて、発話練習を欠かさないこと。（30分程度）

<提出課題など>

その都度、授業中に指示します。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での取り組み：20%、口頭試験（中間：40%、最終：40%）

< テキスト >

深沢俊昭（2015）『改訂版 英語の発音パーフェクト学習事典』アルク、2,600円＋税

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 英語の音の基本

音素と発音記号の必要性について、解説する。

第3回 母音

英語に使われる音素（母音）について学び、練習する。

第4回 子音

英語に使われる音素（子音）について学び、練習する。

第5回 英語のリズム

ストレスアクセントの強弱の差が英語独自のリズムを生むことを理解し、練習する。

第6回 英語のイントネーション

日本語にはない複雑なピッチの変化やイントネーションの使い方を理解し、練習する。

第7回 中間口頭試験

これまで学んだことを踏まえて、音素の読み取り、音読のテストを行う。

第8回 音の連結

単語が滑らかにつながっていく現象を理論的に理解し、練習する。

第9回 音の同化

単語と単語が隣合わさることで音が変わる現象を理解し、練習する。

第10回 短縮形

短縮形になった単語の発音について確認し、練習する。

第11回 破裂音の消失

破裂音があっても、実際には発音されない事例を理解し、練習する。

第12回 脱落

母音や子音の発音が省略される現象について理解し、練習する。

第13回 子音連続

日本語と異なり、母音が入らずに子音だけが続く場合の発音を理解し、練習する。

第14回 これまでのまとめ

これまで学んだことを復習し、練習する。

第15回 最終口答試験

これまで学んだことについて、口頭試験を行う。

2022年度 前期

2単位

英語圏文学読解

長谷川 弘基

< 授業の方法 >

講義

Covid-19による感染症が拡大し、対面の授業が不可能になった場合はZOOMによる授業を行います。その場合は学内システムを使って連絡します。

< 授業の目的 >

この科目は人文学科専門科目の「言語・文学科目群」に配置され、資格に関する科目（英語・中学校一種、英語・高等学校一種）にも指定されており、英語で書かれた著名な文学作品（"Eveline", "Araby" in *Dubliners*）の正確な読解を通して、作品の書かれた背景にある文化や時代の動向に関する知識を深め、人文学科のDPにも示されている専門知識の獲得と、思考力・判断力の伸長を目指すことを目的とすると共に、英語力の伸長を目的とする。

< 到達目標 >

- 1) 作品において使用されている英語特有の表現を理解し、作品内容を正確に把握する。
- 2) 作品の背景にある宗教的（キリスト教的）価値観や芸術及び個人の自由などの文化的側面に関する知識を獲得し、理解を深める。
- 3) 作家James Joyceの文学史的意義を理解する。

< 授業のキーワード >

ジェイムズ・ジョイス、『ダブリン市民』、短編小説

< 授業の進め方 >

作品を読み進めながら、注意すべき英語表現を確認しつつ、作品に込められているメッセージや文化的背景について解説を加える。

< 履修するにあたって >

読み進める作品は英語で書かれており、比較的平易な英語とはいえ、十分な予習が求められる。英語の辞書、英文法の参考書も必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

おおむね2時間程度の予習が求められる。

< 提出課題など >

毎回簡単な英語のテストを行う。結果は採点して返却する。予習の結果を提出してもらうこともある。

< 成績評価方法・基準 >

履修者数にもよるが、毎回講義の前に小テストを行う予定である。その他に期末にレポートを課す。小テストは主に英語に関するものとし、レポートは作品の内容に関する課題を与える。それぞれ50点満点とし、両者の合算で成績をつける。

<テキスト>

最初の授業で教材を配布する。

また、音声データ（作品の朗読）は以下のサイトで聞くことができる。

積極的に聞くことを薦める。

(youtube)

<https://www.youtube.com/watch?v=Pt16dsAi2sc>

<https://www.youtube.com/watch?v=7soqMb0Hub0>

(その他)

<https://listentogenius.com/author.php/84> (個人使用であればダウンロード可)

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

James Joyceの略歴と “Dubliners” の評価

第2回 テキスト精読 # 1

あらかじめ配布したテキストと資料を参考に、第1ページを精読する。

作品の背景、あるいは作品の特徴的構造に注目する。当時の「ダブリン」という街の表象について講義する。

第3回 テキスト精読 # 2

引き続き、テキストの精読を通して、作品の特徴を探る。

第4回 テキスト精読 # 3

物語の冒頭ではさほど明らかではなかった象徴主義的技法について考察する。

第5回 テキスト精読 # 4

引き続き、精読を進める中で、特に注意が必要なキーワードを選出し、その意味/意義について考察する。

第6回 テキスト精読 # 5

引き続き象徴主義的技法について考察する。

第7回 テキスト精読 # 6

作品に表現されている様々な偏見について考察する。

第8回 テキスト精読 # 7

引き続き、テキストの精読を進め、偏見の表現の特徴について考察する。

第9回 テキスト精読 # 8

物語の半分を超えた段階でのまとめを行う。

第10回 テキスト精読 # 9

作品の主題に関する考察を進める。

第11回 テキスト精読 # 10

作品の主題と、その展開の仕方を、特に技法の面から考察する。

第12回 テキスト精読 # 11

主人公の名前が持つ意味について考察する。

第13回 テキスト精読 # 12

この回で作品全体を読み切ったことになるので、作品全体を通じた考察を行う。

第14回 まとめ # 1

全体をふり返り、作品の登場人物が体现する価値観やそれらの異なった価値観が会うことによって生じるドラマ(葛藤)と、その葛藤の解決のされ方を確認する。

第15回 まとめ # 2

前回に続き、先に確認した作品の主題が様々な表現上の工夫によって支えられている事実を、個々の表現を見直すことによって確認する。その際、作品を原語(英語)で読むことの意義についても確認する。

2022年度 後期

2単位

英語圏文学読解

島津 厚久

<授業の方法>

受講生の人数にもよるが、講義、演習の併用とする予定。

<授業の目的>

この科目は人文学科専門科目の「言語・文学科目群」に配置され、資格に関する科目(英語・中学校一種、英語・高等学校一種)にも指定されており、英語で書かれた著名な文学作品の正確な読解を通して、作品の書かれた背景にある文化や時代の動向に関する知識を深め、人文学科のDPにも示されている専門知識の獲得と、思考力・判断力の伸長を目指すことを目的とすると共に、英語力の伸長を目的とする。

<到達目標>

- 1) 作品において使用されている英語特有の表現やイメージ等を理解し、作品内容を正確に把握する。
- 2) 作品の背景にあるユダヤ教的、キリスト教的価値観や芸術及び個人の自由などの文化的側面に関する知識を獲得し、理解を深める。

3) 作家Bernard MalamudとNathaniel Hawthornの文学史的意義を理解する。

4) 小説作品の種々の解釈法について概観する。

< 授業のキーワード >

小説 表現 解釈

< 授業の進め方 >

前半はMalamud、後半はHawthornの代表的短編作品を読み進めながら、注意すべき英語表現等を確認しつつ、作品に込められているメッセージや表現技法、文化的背景、解釈法等について解説を加える。

9月27日以降、資料等はdotCampusにあげるので、授業前に各自確認してください。

< 履修するにあたって >

扱うほとんどの作品には翻訳があるので(リストは初回授業時に配布)、事前に一読した上で授業に臨むことが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で扱う作品の下読み。その他、英語で書かれた文学作品に出来る限り触れるよう努めること。

< 提出課題など >

特になし。

< 成績評価方法・基準 >

履修者数にもよるが、毎回講義時に、そこで扱った作品その他に関する簡単な感想を提出してもらう予定である(20%)。その他に小テスト2回(短答式1回、論述式1回各20%)と期末レポート(40%)を課す。

< テキスト >

特になし。

< 参考図書 >

参考資料をdotCampusにあげる。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の概要、評価方法等について説明し、小説への関心の持ち方の事例を紹介する。併せて作家Bernard Malamudについて説明する。

第2回 “The First Seven Years” and “A Pimp’s Revenge”

当該2作品を正確に読み進め、作品において色彩イメージが印象的な形で機能していることを学ぶ。

第3回 “Idiot’s First” and “The Naked Nude”

当該2作品を正確に読み進め、文学作品に表れたアイコンについて、主として表現面から考察する。

第4回 “The Last Mohican” and “The Loan”

当該2作品を正確に読み進め、併せてそこに盛り込まれたユダヤ人意識、ユダヤ文化史について論じる。

第5回 “The Lady of the Lake” and “Talking Horse”

当該2作品を正確に読み進め、そこに込められたホロコーストイメージに注目する。

第6回 “The Magic Barrel” and “Man in Drawer”

当該2作品を正確に読み進め、そこで数字が機能的に作用していることに着目する。

第7回 “An Exorcism”

当該作品を正確に読み進め、これまでに触れた表現技巧との関連性などを瞥見する。

第8回 中間まとめ

これまで得た知見を再確認し、併せてquiz形式の小テストを行う。

第9回 「改訂」について

最初に扱った“The First Seven Years”を用いて、作品の改訂が及ぼす効果について議論する。

第10回 “Young Goodman Brown”

当該作品を正確に読み進め、Calvinismとの関連について論じる。

第11回 解釈法(1)

平易な英語で書かれた入門書を読みながら、“Young Goodman Brown”の伝記的解釈と道徳的解釈について学ぶ。

第12回 解釈法(2)

上記と同じ方法で、形式主義的解釈について学ぶ。

第13回 解釈法(3)

精神分析学の概要を解説し、その立場から上記と同じ方法で当該作品の解釈を試みる。

第14回 最終まとめ

これまで得た知見を再確認し、併せて論述式の小テストを行う。

第15回 小説論

最後に、ごく簡単にはあるが、E. M. Forsterの小説論Aspects of the Novelの抜粋を講読しながら小説という文学ジャンルの基本的特徴について学ぶ。

2022年度 前期

2単位

英語講読

長谷川 弘基

< 授業の方法 >

講義(演習形式を含む)

Covid-19による感染症が拡大し、対面の授業が不可能になった場合はZOOMによる授業を行います。その場合は学内システムを利用して連絡します。

< 授業の目的 >

この授業は人文学科専門科目の「言語・文学科目群」に配置された科目であり、英語力の増強を目指している。英語の教職免許取得を目指している学生も対象とし、人文学科のDPに示されている、専門分野（英語）に関する知識を身につけることに特化した科目と考えてもらいたい。履修者はこの授業を通して、英語教員ととして不可欠な英語力獲得のための基礎を構築することを求められる。この授業は高等学校で英語を教えた実務経験を有する教員が担当し、高等学校の英語教育内容を踏まえた上で行われる。

< 到達目標 >

- 1) 効率的・合理的な英語学習の方策を理解し、実践する。
- 2) 基本的な英文法を概ね理解する。
- 3) 語彙を増やす。

< 授業のキーワード >

教職、教員免許、英文法、英語学習

< 授業の進め方 >

指定された教科書にもとづき、基本的には文法項目別に英文法の解説とドリル学習を行う。

< 履修するにあたって >

英語の基礎力、応用力を高めるための授業であり、中学校・高校の英語教員免許の取得を目指す学生のみならず、英語力の伸長を考えている学生の積極的な参加が望まれる。

高校時代に使用した英語の学習参考書と辞書を毎時間持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

前述の通り、教員免許取得を目指す学生を対象に行う授業であり、課題その他の要求も多い。当然、多くの予習・復習が期待される。1回の授業に3?4時間の自宅学習が必要である。

< 提出課題など >

小テストは評価を記した上で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の授業で行う小テストの合算が50%。残りの50%は学期末の試験の点数による。

< テキスト >

『読解と表現をめざす基礎文法』 朝日出版社、小中秀彦編著

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の概要説明。英語学習の取り組み方などについて説明する。

第2回 品詞・句・節について

教科書のUNIT 1を用いて、英語の「句」「節」について学習する。

第3回 名詞・冠詞

教科書のUNIT 8を用いて、名詞と冠詞について学習する。

第4回 動詞と基本時制

教科書のUNIT 2?3を用いて、英語の基本時制について学習する。

第5回 進行形と完了形

教科書のUNIT 5-6を用いて、進行形と完了形について学習する。

第6回 助動詞

教科書のUNIT 7を用いて、助動詞について学習する。

第7回 受動態

教科書のUNIT 1 2を用いて、受動態について学習する。

第8回 不定詞

教科書のUNIT 13を用いて、不定詞について学習する。

第9回 動名詞と分詞 # 1

教科書のUNIT 14~15を用いて、動名詞と分詞について学習する。

第10回 動名詞と分詞 # 2

引き続き、主に分詞について学習する。

第11回 否定

教科書のUNIT 16を用いて、英語の否定文について学習する。

第12回 比較

教科書のUNIT 17を用いて、比較級・最上級の使い方について学習する。

第13回 接続詞

教科書のUNIT 19を用いて、接続詞について学習する。

第14回 関係詞

教科書のUNIT 18を用いて、関係詞について学習する。

第15回 仮定法

教科書のUNIT 20を用いて、仮定法について学習する。

2022年度 前期

2単位

英語史

服部 亮祐

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

人文学部人文学科DPのひとつである「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」ことを目的とする。具体的には、世界の共通語といわれるほど広く使われている英語が、どのような歴史を持ち、どのように世界に広まり、発達していったのか、といった知識を教養として身に付けることを目指す。

< 到達目標 >

英語の歴史を理解し、知識として身に付ける。「世界の英語」(World Englishes)の概念を理解する。

< 授業の進め方 >

基本的には講義を中心に進める。毎回、小テストを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回学んだことを復習し、小テストにそなえること。

< 提出課題など >

毎回、授業の内容について小テストを行い、提出してもらう。小テストの解答は、授業中に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での取り組み：10%、小テスト：60%、最終試験：30%

< テキスト >

唐澤一友(2016)『世界の英語ができるまで』亜紀書房、2,000円+税

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明。

第2回 人間の言語のはじまり

人間の言語がどのように生まれ、発達したか、また語族について説明する。

第3回 英国における英語盛衰史

英語のはじまりと中英語までの歴史を概観する。

第4回 英国における英語盛衰史

中英語から近代英語までの歴史を概観する。

第5回 イギリス諸島における英語の発達

標準語と方言の発達について学ぶ。

第6回 イギリス諸島における英語の発達

イギリス諸島の英語(スコットランド英語、アイルランド英語、ウェールズ英語等)の歴史を概観する。

第7回 北米大陸への英語の進出

アメリカ英語の歴史について学ぶ。

第8回 北米大陸への英語の進出

アメリカ英語とイギリス英語の違い、カナダ英語の歴史について学ぶ。

第9回 南半球への英語の伝播

オーストラリア英語、ニュージーランド英語の歴史について学ぶ

第10回 南半球への英語の伝播

南アフリカ英語の歴史について学ぶ。

第11回 ピジン英語とクレオール

ピジン言語の発達とクレオールとの違いについて説明する。

第12回 英語から新たな言語へ

カリブ海地域の英語について学ぶ。

第13回 英語から新たな言語へ

アフリカの英語について学ぶ。

第14回 アジアの英語

南アジア、東南アジアの英語について概観する。

第15回 まとめ

これまで学んだことについて、まとめる。

2022年度 後期

2単位

英語表現法

藏園 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部人文学科の専門教育科目に属しません。人文学部人文学科のDPのうち 2.「自然と人間に関する専門知識や人間の社会的・文化的活動に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解している」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、9.「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」に関係します。英語学の知見を利用して今までに学んできた英語に対する理解をさらに深め、有用な語彙を活用して自分の考えを表現する力を高めることを目的としています。書くためのいわゆる堅い英語だけでなく、身近な日常表現でよく使われる口語英語を学ぶことで、より幅広い語彙や構文の活用方法に慣れ、伝えたい内容を表現するための適切な語彙や構文を選択できるようになりましょう。

< 到達目標 >

1. 英語の語彙や構文などの意味と働きを理解することができる。
2. 英語の語彙や構文などの特徴を理解し、活用することができる。
3. 授業期間を通して、課題の解決のために辞書や関連する文献を調べて自立的な学習に努めることができる。

< 授業のキーワード >

verb pattern、tense、aspect、voice、mood、narration、non-finite verb、noun、adjective、relative、adverb、comparison

< 授業の進め方 >

指定した部分の英文を日本語訳してもらいます。その後、英語を読み書きするための英文法や語彙の知識について整理します。

< 履修するにあたって >

英語を苦手とする人の中には、文法用語は暗記したものの意味や使い方を十分理解できず嫌になってしまった人もいるのではないのでしょうか。

そういった人であっても、この授業で5文型の意義やどのように活用するとよいのかについて日英語対照的に、さらに言語学的な視点から考えることは英語を外国語として学ぶ日本語母語話者にとって有意義なことだと思います。身近な場面で使う表現を学ぶことで、どのような意図で「動名詞」「to不定詞」などが使われているのか

といった日本語母語話者にはないネイティブの感覚を理解し説明できるようになります。英語が苦手な人でも参加してもらい英語を言語学的に分析していくことで新たな発見をしてもらいたいと思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの英作文は毎回入念に予習し、疑問点があれば辞書や文法書で調べる(1時間)。復習以外にも毎日英語に触れて、英語力の向上をはかる(1時間)。

< 提出課題など >

授業の終わりには復習のために小テストを行います。何も見ない状態で、その日学んだ英文を英作文もしくは日本語訳してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト39%、まとめテスト50%、コメント等授業への積極的な参加11%

< テキスト >

八木克正. 『文法活用の日常英語表現』英宝社

< 参考図書 >

江川泰一郎. (1991). 『英文法解説』東京：金子書房.

友繁義典. (2016) 『英語の意味を極める II ? 動詞・前置詞編 ?』東京：開拓社.

八木克正. (2007) 『世界に通用しない英語』東京：開拓社.

八木克正. (2018) 『英語にまつわるエトセトラ』東京：研究社.

< 授業計画 >

第1回目 導入

授業の進め方、成績の付け方を説明します。また、実際に辞書や文法書を使って英作文を行う方法について説明していきます。

第2回目 動詞と動詞型

英語は動詞を中心に文型が決定されること、また様々な文の種類があることに関する理解を深めます。また、5文型の他にも7文型や8文型といった文型について考えてみます。

第3回目 時制とアスペクト

進行形・完了形と関係する「時制と相(アスペクト)」についてみていきます。また、I'm seeing it. や I'm loving it. のように普通、進行形にできない状態動詞の意味と用法などについて考えます。

第4回目 助動詞

Will you open the window, please? のような依頼を表す場合などにも使われる助動詞の意味と用法について考えます。

第5回目 態

I like apples. は言えても Apples are liked by me. は避けられます。受動態をとれる動詞、とれない動詞について考えます。

第6回目 法

It's time you went to bed. ではなぜwentが過去時制

で表されるのか。直説法、命令法、仮定法の特徴について考えます。

第7回目 動名詞

Actually writing the letters と the actual writing of the letters のどちらが動名詞なのかといった問題から、動名詞の特徴について考えます。

第8回目 不定詞

come to see me と come to see that SV とでは意味が異なります。不定詞の特徴と不定詞を用いた表現等について考えます。

第9回目 現在分詞と過去分詞

現在分詞、過去分詞の特徴を概観します。また、A fallen leaf という場合に過去分詞が本当に受身の意味になるのかについて考えてみます。

第10回目 名詞

英語 a/the lion と lions の違いや総称的に用いられる you と we の意味の違いなど名詞について考えます。

第11回目 形容詞

限定用法・叙述用法や一時性・永続性など英語の形容詞がもつ特徴について考えます。

第12回目 関係詞

関係詞の特徴を概観し、その使い方や訳し方についても見ていきます。

第13回目 副詞

Happily, John died. と John died happily. とでは意味が異なります。副詞および副詞的な修飾語句の意味や用法について考えます。

第14回目 比較級

比較・最上級の特徴について概観し、その使い方や訳し方について考えます。

第15回目 まとめ

これまでの講義で扱った内容に関する確認プリントを解いてもらいます。

2022年度 後期

2単位

英文法

服部 亮祐

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の一科目並びに教職(英語)の資格科目に属している。人文学部DP2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」こと、およびDP5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。言語学や英語学に基づいた理論を通して、英文法を科学的見地から分析する能力を養い、同時に英文を読む能力

を養うことを目指す。また、小テストや課題を通して、自分の考えを口頭や文章で的確に表現する能力を身に付けることを目指す。

<到達目標>

英文法に関して理論的に解説し、具体例を提示しながら説明できる。英文法に関する問題に解答し、その過程について適切に説明することができる。英文法の重要性を理解し、指導することができる。

<授業のキーワード>

英語学、生成文法、統語論

<授業の進め方>

各事項について説明したのちに、クラス全体あるいはグループで課題を解き、解説を加える。また、各回の授業後に、学んだ内容について小テストを課す。

<履修するにあたって>

3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されない。

<授業時間外に必要な学修>

予習を行うこと。また、小テストに備え、各回で学んだことについて、復習を欠かさないこと。(1時間程度)

<提出課題など>

小テストについては授業内で解答を提示する。また、課題については添削して返却する。

<成績評価方法・基準>

課題40%、授業中の取り組み20%、小テスト40%

<テキスト>

なし

<参考図書>

阿部潤 (2008) 『問題を通して学ぶ生成文法』 ひつじ書房 1600円 + 税、

北川善久、上山あゆみ (2004) 『生成文法の考え方』 研究社 2800円 + 税

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 「文法」とは

生成文法における「文法」とその変遷について

第3回 「文法」とは

人間の言語習得の観点から「文法」とは何かを説明する

第4回 句構造

統語構造における規則について概観する

第5回 句構造

構造的な同音異義について

第6回 句構造

句構造規則の限界について説明する

第7回 音と意味の分離

名詞、文の派生における音と意味の分離について説明する

第8回 変形規則

深層構造と変形規則

第9回 変形規則

変形規則に関わる一般的条件

第10回 意味解釈規則

代名詞の意味解釈に関する規則について

第11回 意味解釈規則

「作用域」について

第12回 「主語」とは何か

「文法上の主語」と「意味上の主語」について説明する

第13回 「主語」とは何か

「主語」の移動について説明する

第14回 生成文法研究が指すもの

生成文法の研究対象について説明する

第15回 生成文法研究の指すもの

生成文法の研究方法について説明する

2022年度 前期

2単位

英米文学史

長谷川 弘基

<授業の方法>

講義

Covid-19による感染症が拡大し、対面の授業が不可能になった場合はZOOMによる授業を行います。その場合は学内システムを利用して連絡します。

<授業の目的>

この科目は人文学科専門科目に配置され、資格に関する科目(英語・中学校一種、英語高等学校一種)にも指定されており、人文学科のDPに示す専門分野(文学)に関する知識を身につけると共に、各自の思考力・判断力・表現力を高めることを目指している。

[主題] 英米文学の精華でもあり、世界最大級の劇作家であるウィリアム・シェイクスピア(William Shakespeare)の比較的初期に属する2作品『ジュリアス・シーザー』(Julius Caesar)と『ロミオとジュリエット』(Romeo and Juliet)を主な題材として「シェイクスピア入門」を図ると同時に、文学作品の登場人物の分析を通して、「人間とは決して単純な存在ではない」ことを確認し、人間洞察に関して文学が果たす役割について考察を深める。

[目的]

1) シェイクスピア及び近代初頭の英文学に関する基本的理解を得る

2) 劇作品に対する理解と親しみを深める

<到達目標>

1) ルネサンス、西洋近代、エリザベス朝演劇などの概念を正しく理解する。

2) 舞台芸術に親しみ、台詞を通して登場人物の心情が

読み取れるようになる。

3) 登場人物同士の人間関係を正しく把握し、ドラマの中心が人間関係にあることを理解する。

< 授業のキーワード >

シェイクスピア、ルネサンス、エリザベス朝演劇、西洋近代

< 授業の進め方 >

劇の内容に沿って、毎回それぞれのテーマについて講義する。

< 履修するにあたって >

質問があるときは hsgw@human.kobegaiu.ac.jp ホームページを送って下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で言及された固有名詞（歴史的人物、事件など）や文学用語について、必要に応じて各自で調べ、理解を深めておく必要がある。おおむね1?2時間の予習・復習が求められる。

< 提出課題など >

毎回簡単な設問を課す。

『ジュリアス・シーザー』と『ロミオとジュリエット』に関するレポート、合わせて2編のレポートを課す。レポートは要請があればコメント・評価を付した上で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の設問への解答の内容（50%）と、2回のレポート課題の合算（50%）で評価する。レポートは 1) 授業の理解度、2) 記述の正確さ、3) 参考資料の適切さの3点を主な評価項目とする。

< テキスト >

シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』と『ロミオとジュリエット』の翻訳を各自で用意すること。両作品ともに多くの翻訳が主要な出版社（岩波、新潮、角川、ちくま、等々）から出版されている。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

ZOOMによる授業の概要及び授業目標の確認

シェイクスピアの文学史的意義

第2回 『ジュリアス・シーザー』の歴史的背景

歴史的人物としてのカエサルとシェイクスピアの人物像の比較

第3回 『ジュリアス・シーザー』の内容及び主題について

ストーリーの確認

劇の構成

各登場人物の造形

第4回 文学的表現の特質 # 1

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。その上で、表現こそが文学の本質であることを確認する。主に第一幕を検討する。

第5回 文学的表現の特質 # 2

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。その上で、表現こそが文学の本質であることを確認する。主に第二幕、第三幕を検討する。

第6回 文学的表現の特質 # 3

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。その上で、表現こそが文学の本質であることを確認する。主に最終幕を検討する。

第7回 問題点の整理

前半（『ジュリアス・シーザー』）の提出する問題点を整理し、前半のまとめとする

第8回 『ロミオとジュリエット』の内容及び主題について # 1

ストーリーの確認

劇の構成

登場人物の造形

第9回 『ロミオとジュリエット』の内容及び主題について # 2

「名称」と「実質」の乖離に関する問題を「見た目 = 外見」と「こころ」の矛盾に重ねて考察する。

第10回 文学的表現の特質 # 4

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。ロミオを主な対象とする。

第11回 文学的表現の特質 # 5

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。ジュリエットと乳母を主な対象とする。

第12回 文学的表現の特質 # 6

実際の作品を詳細に分析することを通し、主に登場人物の性格がどのように造形されているかを確認する。マキューシオ、ティボルトを主な対象とする。

第13回 『ロミオとジュリエット』の影響

『ロミオとジュリエット』に描かれる「不幸な恋愛」というモチーフの展開を概観する

第14回 『ロミオとジュリエット』以降のシェイクスピア

『ハムレット』『オセロー』『マクベス』『リア王』などの中後期の傑作について概観し、発展的学習への糸口を探る

第15回 まとめ

全体のまとめとして「優れた作品」の条件を確認する

2022年度 後期

2単位

英米文学史

長谷川 弘基

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は資格に関する科目（英語・中学校一種、英語・高等学校一種）にも指定されており、英米文学の中でも最も充実していた時代とも言われているロマン派の詩の読解を通して、西洋近代の自我意識の特徴を確認することを目指している。この点において、人文学科のDPに示されている専門知識の獲得と、異なる分野の知識が相互に関連していることを実践的に理解することをも視野において授業を進めることになる。

[主題]

19世紀ロマン派詩人（Blake, Wordsworth, Shelley, Keats）、及びそれ以後の若干の詩人の作品を、日本語の翻訳を参考にしつつ鑑賞し、ロマン主義及び近代西洋文学の特性について学ぶ。

[目標]

- 1) 個々の翻訳詩及び原詩の意味を理解し、詩の楽しみを理解する。
- 2) 細かい表現に注目し、そこから批評的解釈を試みる。
- 3) それぞれの詩人を比較し、その相違点を理解する。

< 到達目標 >

- 1) 19世紀の英語の詩が持つ形式的特徴を知る。
- 2) ロマン派の特質を理解する。
- 3) ロマン派第一世代（ブレイク、ワーズワース）と第二世代（シェリー、キーツ）の比較を通し、両者の違いを認識する。

< 授業のキーワード >

ロマン派、西洋近代、自我、egotistic sublime、女性性

< 授業の進め方 >

個々の作品の読解・解説を中心とした講義。一回の講義で1?2編の詩を読むことになる。

< 授業時間外に必要な学修 >

翻訳を利用するとはいえ、英語の詩を読むことになるので、英語の語彙や表現などに関しては、気になることはこまめに辞書で調べることが必要である。また、19世紀のイギリスの社会・歴史的背景に関する知識があることが望ましいことは言うまでもない。おおむね1?2時間の予習・復習が求められる。

< 提出課題など >

学期末に作品解釈に関するレポートを書いてもらう。レ

ポートは要請があればコメント・評価を記した上で返却する。

< 成績評価方法・基準 >

毎授業の小さなレポート（200字未満）の合算が50%。

残りの50%は学期末のレポート課題による。

< テキスト >

初回の授業にプリントを配布する。

< 参考図書 >

特に指定はしないが、それぞれの詩人の作品には多くの翻訳があるので、手元にあると便利であろう。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業の概要及び目標の説明（リアルタイムのZOOMで行います）

『イギリスロマン派』の文学史的意義

第2回 ブレイク # 1

ブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確認する。

第3回 ブレイク # 2

引き続きブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確認する。

第4回 ワーズワース # 1

WordsworthのいわゆるLucy Poemsを読み、イギリスの抒情詩の特徴に触れ、理解を深める。

第5回 ワーズワース # 2

WordsworthのDaffodilsを読み、ロマン派に特徴的な自我の表象について考察する。

第6回 ワーズワース # 3

WordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの本質を理解すると同時に、ロマン派第二世代への導入を図る。

第7回 ワーズワース # 4

引き続きWordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの理解を深める。

第8回 キーツ # 1

John KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第9回 キーツ # 2

引き続きJohn KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第10回 キーツ # 3

Ode on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第11回 キーツ # 4

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabil

ityと関連づけた上で読解する。

第12回 キーツ #5

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第13回 キーツ #6

The Negative Capabilityの意義について確認する。

第14回 ロマン派からモダニズムへ #1

エズラ・パウンド (Ezra Pound) と T. S. エリオット (Eliot) の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。

第15回 ロマン派からモダニズムへ #2

引き続きエズラ・パウンド (Ezra Pound) と T. S. エリオット (Eliot) の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。

2022年度 前期

2単位

音楽芸術研究

宇野 文夫

< 授業の方法 >

講義と音楽鑑賞。

< 授業の目的 >

< 主題 >

古代ギリシャから西欧クラシック音楽 (古典主義音楽) に至るまでの、西洋音楽、延いては西洋芸術の通史。古典主義音楽は、現代に至っても多くの音楽の基礎となっており、また音楽を考えるに当たっての基準ともなっている。

< 目標 >

古典主義思想を根底に持つ西洋芸術音楽と、西洋芸術全体に対する基礎的な知識を得る。そして作品を鑑賞することで、その一端に触れる。人文学部人文学科のDPに則り、音楽史に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解する。

本講義は「人間探究科目群」の芸術音楽の講義で、クラシック音楽の起こりからバロック、古典派を経てベートーヴェンまでを扱う。

担当教員は、中学校教諭 (音楽)、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

クラシック音楽の歴史的背景と、古代、中世の音楽から、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンの代表的な作品を知る。

< 授業のキーワード >

古代ギリシャ・ローマ、ヨーロッパ中世、ルネサンス、キリスト教、宗教改革、バロック音楽、対位法、古典主義、啓蒙思想、ロマン主義

< 授業の進め方 >

レジュメと板書による講義と、録音音楽、映像の鑑賞。毎回鑑賞感想の提出を求め、適宜フィードバックを行う。遠隔申請者には第1~第2回はOneDriveにて、その後はdotCampusにて対応する。

< 履修するにあたって >

学生は、1年次配当の以下の授業を予め履修しておくことが望ましい。

共通教育科目「西洋音楽」「日本と世界の民族音楽」「基本音楽理論」「歌唱・合唱実習」。

また (2年生の学生は)、次の授業を同時に履修していることが望ましい。

「芸術文化実践」

アドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

復習と各々での興味に従った発展 (音楽鑑賞、読書など) に2時間。

< 提出課題など >

講義内で音楽を鑑賞した際の、感想の記述提出 (ほぼ毎回)。

< 成績評価方法・基準 >

各回で提出する鑑賞感想文50%、小テスト2回50%。授業後には質問を受け付け、個々の興味の発展に向けて、アドヴァイスを行います。

< テキスト >

適宜プリント配布。

< 授業計画 >

第1回 西洋文化史概説

古代ギリシャに発する西洋文明の変遷。古代ギリシャ、ローマ文化とキリスト教との対比、及び、ルネッサンス、古典主義とクラシック音楽の位置、意味。

第2回 古代世界と音楽

古代ギリシャ・ローマ文化における音楽。記録のない音楽をどう捉えるのか。西洋音楽と民族音楽の関係。

第3回 グレゴリオ聖歌から中世の音楽

西洋における民俗や宗教と音楽との関わり。中世からルネッサンスへの変遷と音楽の変化。世俗音楽と宗教音楽。宗教改革と音楽の関係。ポリフォニーの発達。マシヨー、オケゲム、パレストリーナ。

第4回 バロック音楽

バロックの意味と音楽。世俗音楽の芸術化。神の世界から人間の世界へ。モンテヴェルディ、スカルラッティ父子、パッヘルベル、ヴィヴァルディ。

第5回 ヘンドルの音楽

バロックから古典音楽への道。大衆的音楽としての歌劇

やオラトリオ。イギリスでのイタリア・オペラ運動に携わる国際的ドイツ人ヘンデル。「リナルド」、「メサイア」、「ユダス・マカベウス」等。

第6回 バッハの音楽と対位法

末期バロックに現れた宗教的作曲家バッハの世界。プロテスタントとしての音楽。「受難曲」、「カンタータ」、「フーガ」等。古典的調性の確立と対位法技法の融合。

第7回 バッハ「マタイ受難曲」

西洋音楽史上最高の傑作とも言えるJ・S・バッハ「マタイ受難曲」を抜粋干渉する。

第8回 ハイドンと古典音楽の確立ー古典音楽とは何かー

C・P・E・バッハ、ハイドンによるクラシック（古典）音楽の確立。啓蒙思想と古典主義思想。ピアノ・ソナタ、弦楽四重奏、交響曲等。

第9回 音楽形式学概論

音楽は、時間の芸術であり、その形式や構成は時間に関する事柄である。その様々な形式を講じ、聴取する。

音楽と形式。ソナタとソナタ形式による音楽。西洋古典主義音楽の特殊性と普遍性。

第10回 モーツァルトの多面性

音楽の情緒表現の多様性。ピアノ・ソナタ、「レクイエム」、交響曲第40番等。

第11回 モーツァルトの「魔笛」

モーツァルト最後の歌劇「魔笛」の録音・録画を抜粋鑑賞し、その多彩な表現と作曲者の個性を実感する。

第12回 古典派の作曲家たち

バッハの子供たちや、シュターミツなど古典派音楽の作品とその特性を聴く。

第13回 ベートーヴェンーロマン派音楽のさきがけー古典派音楽から出でて、ロマン派的表現に至るベートーヴェン。フランス革命と、芸術の個人的表現。ロマン主義とは何か。形式と内容。人間の苦悩、運命、歓喜。

2022年度 後期

2単位

音楽芸術研究

宇野 文夫

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

クラシックのロマン派音楽を中心主題に据えた西洋音楽史、延いては西洋芸術史。古典主義とその思想への批判的反応、そこからの逸脱として、ロマン主義芸術は勃興し発展した。その動きは芸術の革新となりやがて破壊となっていく。

< 目的 >

ロマン主義音楽の多彩さを知ると同時に、芸術表現の変化が直前の時代への批判的反応として成されるものであることを認識する。

人文学部人文学科のDPに則り、専門的で総合的且つ体系的な知識を身につけ、対象を分析、考察し、自らの考えを表現できる能力を養う。

担当教員は、中学校教諭（音楽）、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

ロマン主義というものを理解し、シューベルト、シューマン、ショパン、ヴァーグナー、ヴェルディ、ブルックナー、ブラームスといった、ロマン主義音楽作曲家の作品、そしてロマン派の終焉、20世紀音楽の先駆けとしてマーラーとドビュッシーの音楽を知る。

< 授業のキーワード >

ロマン主義、リート、楽劇、イタリア歌劇、キリスト教、宗教音楽、国民楽派

< 授業の進め方 >

レジュメと板書による講義と、録音音楽、映像の鑑賞。

< 履修するにあたって >

共通教育芸術音楽科目、人文学部専門教育科目「芸術文化実践（前期）」、「音楽芸術研究」を履修していることが望ましい。また普段から音楽に親しんでおり、楽譜に少しでも慣れている方が理解し易い。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習、復習と関連する音楽の鑑賞。1週間に2時間。

< 提出課題など >

講義内で、音楽を鑑賞した際の、感想の記述提出（対面時毎回）。講義内での小テスト2回（予定・遠隔時）。

それらの講評を適宜行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義内での感想文50%、講義内での小テスト50%。定期試験は行わない。

感想と小テストに対しては総評などを行う。また要望に応じて常に説明やアドバイスをを行う。

< テキスト >

適宜プリントを配付。

< 授業計画 >

第1回 授業概要と基礎知識

西洋近代の産物であるクラシック音楽。1800年以降のヨーロッパの情勢。古典主義とロマン主義。ロマン派とは何か。

第2回 歌曲を聴く～シューベルト初期ロマン派の世界
ドイツ・リートの世界。詩と音楽との関係。シューベルトの幻想、憧れ、絶望、諦念の世界。「冬の旅」、「未

完成交響曲」、「死と乙女」。

第3回 シューマンの世界。歌曲とピアノ曲。
シューマンのロマンと狂気。歌曲、ピアノ曲と交響曲。

第4回 ショパンのピアノ曲
ピアノとピアノ音楽表現の確立。サンドとの恋愛と悲運の祖国ポーランドへの愛。「別れの曲」、「革命の練習曲」、「英雄ポロネーズ」、「雨だれ」等。

第5回 ヴァーグナーと楽劇1
文学、演劇と音楽との融合。近代を飛び越えた古代や中世への憧れと巨大歌劇。「タンホイザー」、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、4部作「ニーベルンクの指輪」、「トリスタンとイゾルデ」、「パルジファル」。

第6回 ヴァーグナーと楽劇2
最大の歌劇作品、楽劇「ニーベルンクの指輪」四部作。鑑賞と考察。

第7回 ヴェルディとイタリア歌劇1
歌劇の本場、イタリアでのロマン派歌劇の表現。ロッシーニからヴェルディへ、ヴェルディからプッチーニへ、表現の変遷。「椿姫」、「アイダ」。

第8回 ヴェルディとイタリア歌劇2
「アイダ」に聴く、多彩で起伏ある劇的表現。

第9回 ブルックナーの世界1
交響曲と宗教音楽。カトリックの狂信と畏怖の心。特異な管弦楽表現による壮大な交響曲。

第10回 ブルックナーの世界2
特異な管弦楽表現による壮大な交響曲。

第11回 ブラームスの世界
ロマン派時代の古典主義者。プロテスタントとしての宗教音楽。堅固な形式とロマン的内容の融合。

第12回 フランス音楽の系譜
ベルリオーズからフォーレへ。ドイツ中心であったクラシック音楽の表現の、フランス的展開と発展。ビゼー、フランク、サン＝サーンス。ドビュッシーの革新。

第13回 国民学派の名曲
クラシック音楽様式の周辺世界への伝播。民族性と古典主義、ロマン主義の融合により生まれた親しみやすい名曲。ロシアとチャイコフスキー、ボヘミアとドヴォルザーク、オーストリアとJ・シュトラウス、北欧とグリーグ。「悲愴」、「新世界より」、「美しく青きドナウ」等。

第14回 近現代音楽への道～マーラーの音楽
マーラーは、交響曲作家として著名だが、その初期はロマン主義に発し、ときに耽美的ともいえる作風を示す。更にロマン派音楽を集大成し、無調的な新しい表現であ

る現代音楽への道を開いていった。

第15回 近現代音楽への道～ドビュッシーの音楽
ドビュッシーは、クラシック音楽ロマン派への反発から、客観的な外界の描写を行う印象主義音楽を打ち出し、象徴主義に関係し新古典主義へと発展させた。それらはフランス流儀の現代音楽の表現への道を開くことになった。

2022年度 前期

2単位

音楽芸術研究

宇野 文夫

<授業の方法>

講義。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

<主題>

二十世紀の芸術音楽の変遷

<目標>

二十世紀以降の芸術音楽の表現は多種多様であり、それはまた、一般的、日常的なものではない。しかし優れた芸術には、我々が生きる上で、看過できない重要な問題が含まれ、問われ、表現されている。本講義では、二十世紀の音楽を中心とした現代芸術創造の多様な実態と、いわゆる「現代音楽」を、紹介、鑑賞し、様々な観点から考察する。

人文学部人文学科のDPに則り、専門的で総合的且つ体系的な知識を身につけ、対象を分析、考察し、自らの考えを表現できる能力を養う。

担当教員は、中学校教諭（音楽）、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

二十世紀の芸術音楽に関する基礎的な知識と認識を得る。

<授業のキーワード>

後期ロマン派、印象主義、象徴主義、表現主義、12音技法、超越主義、原始主義、新古典主義、ダダイズム、シュールレアリズム、前衛音楽、実験音楽

<授業の進め方>

レジュメによる講義と、録音音楽、映像の鑑賞。毎回提出の小レポートを指示する。

<履修するにあたって>

共通教育の音楽科目、人文学部の「芸術文化実践（前

期)」、「音楽芸術研究」、「」を既に履修しているか、並行して履修することが望ましい。普段から音楽に親しんでおり、楽譜に少しでも慣れている方が理解しやすい。

アドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

予習、復習、音楽鑑賞などに1週間2時間。

< 提出課題など >

講義内、或いは別に時間にて音楽を鑑賞した際の、感想の記述提出(ほぼ毎回)。講評を適宜行う。

< 成績評価方法・基準 >

各講義にて指示する鑑賞感想文50%、2回の小テスト50%

< テキスト >

適宜プリントを配付。

< 授業計画 >

第1回 20世紀芸術の変遷

時代が「近代」から「現代」へ変わった1900年代から、芸術の世界は混迷を深め、新しい表現を模索してきた。

第2回 マーラー

マーラーは、交響曲作家として著名だが、その初期はロマン主義に発し、ときに耽美的ともいえる作風を示す。

第3回 マーラー

マーラーは、クラシック音楽ロマン派を集大成し、無調的な新しい表現である現代音楽への道を開いていった。

第4回 ドビュッシー

ドビュッシーは、音楽を描写的に表現する方途を明示し、印象主義音楽に至った。

第5回 ドビュッシー

ドビュッシーは、印象主義から象徴主義へと進み、同時代の文学とも強いかわりを持った。

第6回 シェーンベルク

シェーンベルクは、いわゆる現代音楽と呼ばれる音楽の様式を確立した作曲家で、初期のロマンティックな音楽から、厳しい無調音楽まで幅広い作風を持つ。

第7回 新ウィーン楽派の展開

シェーンベルクと2人の弟子、耽美的ロマン主義のベルクと、抽象的音響秩序によるヴェーベルンら同傾向の一団を、新ウィーン楽派と呼ぶ。彼らの音楽を紹介し考察する。

第8回 アイヴズ

アイヴズは、今日「実験音楽」と呼ばれる現代音楽のアメリカの発展形態の創始者で、既成の様式に囚われない、極めて自由なアイデアを音楽に大胆に盛り込んだ。

第9回 アイヴズ

アイヴズの自由な発想の背後には、アメリカの理想主義的思想「超越主義」が感じられる。

第10回 ストラヴィンスキー

ストラヴィンスキーは、西欧的教養とロシアの土俗性を背景に持ち、初期の作品は後者に寄る原始主義的作風を

示していた。

第11回 ストラヴィンスキー

ストラヴィンスキーの作風は、原始主義から新古典、無調12音へと大きく変化していく。

第12回 ヴァレーズ

ヴァレーズは、音楽を組織された音響と捉え、世界最初期の電子音楽を試みた。

第13回 同時代の文芸思潮

二十世紀前半の、芸術を巡る様々な思潮、思想を紹介、考察する。シュールレアリズム、ダダイズム、フロイトとユング、社会主義と実存主義など。

第14回 戦後ヨーロッパの前衛音楽

第二次大戦後、芸術はさらに新しい表現を目指して変化していく。それらはヨーロッパでは前衛音楽と呼ばれ、活発に活動を行った。

第15回 戦後アメリカの実験音楽

第二次大戦後、アメリカではその状況ならではの新しい表現が試みられるようになった。実験音楽と呼ばれ、ジョン・ケージなどもこのグループに属するものとされる。

2022年度 後期

2単位

音楽芸術研究

宇野 文夫

< 授業の方法 >

講義、実習

< 授業の目的 >

音楽を様々な視点や角度から捉え、その魅力を考察する。特に極力客観的で論理的な分析を通じて、芸術音楽の奥深い魅力とその真髄に迫る。

人文学部人文学科のDPに則り、専門的で総合的且つ体系的な知識を身につけ、対象を分析、考察し、自らの考えを表現できる能力を養う。

担当教員は、中学校教諭(音楽)、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

音楽作品の直接の分析のみならず、作曲家や時代背景に至るまで音楽を総合的に考察し理解する能力を身につける。

< 授業のキーワード >

音楽分析、音楽研究、モチーフ、フレーズ、和声、対位法、形式構成。

< 授業の進め方 >

講義を軸に、実習や学生の発表を取り入れて進める。

取り上げた作品を上演する演奏会を聴く。

授業計画に記すものは、講義内容の例とであり、必ずしもこれら全てを、また個別に講義するわけではない。履修者の実態や要望をも勘案して、様々な音楽を臨機応変に取り上げる。

<履修するにあたって>

五線紙が必携である。

音楽を聴きながらある程度楽譜を追っていける能力が必要である（精密に読める必要は無い）。

今までに、共通教育芸術音楽科目（全4科目）、人文学部専門科目「芸術文化実践」「実践演習（宇野担当分）」「音楽芸術研究・・・」の内、4科目以上履修していることが望ましい。

音楽の実態や実相を具体的に解明していく内容を持っているため、かなり高度な内容である。

担当教員のアドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

<授業時間外に必要な学修>

1週間に1時間。

<提出課題など>

和声の課題実施。それぞれで選んだ音楽の分析研究レポート。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加度50%。提出課題50%。5回以上の欠席には単位を与えない（理由に如何を問わない。最低でも11回の出席が必要）。

<参考図書>

『楽典 理論と実習』石桁眞礼生他著・音楽之友社。『和声 理論と実習』島岡譲他著・音楽之友社。

『西洋音楽史3 古典派の音楽』ブルーム著・白水社。『楽式論』石桁眞礼生著・音楽之友社。

<授業計画>

第1回 和声と対位法の融合

J.S.バッハ 和声、構成、対位法。「平均律ピアノ曲集」

第2回 多彩な小宇宙

歌曲 モーツァルト「すみれ」

第3回 クラシック音楽の金字塔

ベートーヴェン 作曲の創意工夫の極限。「交響曲」

第4回 クラシック音楽の奥の院

ベートーヴェン 作曲の創意工夫の極限。「弦楽四重奏曲」

第5回 音楽の形式構造

ソナタ 原理と意味。ハイドンからブーレーズまで

第6回 楽器の特性と作曲

ショパン ピアノ書法。「プレリュード」

第7回 調性音楽の可能性

ショパン 「エチュード」

第8回 ロマン派音楽の和声

ヴァーグナー 和声の実相。「タンホイザー」

第9回 特異な転調と無調音楽への道

ヴァーグナー 調性からの逸脱。「トリスタン」「パルジファル」

第10回 視覚の描写としての音楽

ドビュッシー 調性と旋法、和声と音響

第11回 ロマン派から前衛の響へ

新ヴィーン楽派 調性と無調性、12音技法

第12回 現代音楽の実相

現代音楽 その実態。どう聴きどう演奏するのか

第13回 受講者の音楽分析 1

受講者による研究発表と討議。

第14回 受講者の音楽分析 2

受講者による研究発表と討議。

第15回 受講者の音楽分析 3

受講者による研究発表と討議。

2022年度 後期

2単位

女と男の文化

森栗 茂一

<授業の方法>

講義（状況により遠隔）

毎回、約15回、宿題をdotcampusから出します。授業に出ない・動画みないと、的外れな宿題として、評価を低くします。

<授業の目的>

本授業は、人文学科専門教育科目に属し、本学人文学部DPにもとづき、歴史にもとづくファッションの「問題の解決」に向け、「総合的かつ主体的に理解」し、対話によってわかちあい、グループワーク等の「協働によって問題解決」する能力を養う。

??なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた、高校教育・博物館企画展示・歴史的まちづくりに実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史学に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

生活、性に関する多様な協働議論のなかから、多面的科学的論理的思考を育む。

<授業のキーワード>

ダイバシティ、ジェンダー、子育て、夜這い、水子

< 授業の進め方 >

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

使用するブログ、ZOOM、GoogledriveのURLは、{森栗メール,morikuri@human.kobegakuin.ac.jp}で連絡する。
スマホ、PCによるチャットを活用することもある。

< 履修するにあたって >

この授業、step by stepですすすめます。主体的、学ぶ経験ない人にも、歴史探求、面白い。自ずと力がついてくる。それだけに、自ら予習、発表する、主体的思考、大変です。苦しく楽しい授業です。

なお、受講者数、教室の都合によって、シラバスどおり、授業すすまぬこともあり。

< 授業時間外に必要な学修 >

参考文献や資料検索には、60分以上、そのレポート記述には30分以上が、必要となる。

< 提出課題など >

毎回、授業の予習として、参考文献、資料検索等により、下調べ・発展学習をし、引用等を明示してコメント提出する。その予習・発展学習で、次回の授業を展開する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の感想・レポート11回×5=55点

不十分な内容、引用不明は、減点される。

個別の質問、意見、各宿題の意欲作は、毎回3点を加算、上限45点

< テキスト >

森栗「夜這い 夜這いの崩壊・村の崩壊」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集、国立史民俗博物館[277-303頁]、1993年

森栗「水子供養の現状と展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集、国立歴史民俗博物館[95-127頁]、1994年

森栗「地蔵コミュニティーの世相史 都市化・災害と子どもの生きる場の喪失」『子どもの文化』第32巻10号[21-28頁]、文民教育協会:子どもの文化研究所、2000年

< 参考図書 >

三橋順子『女装と日本人』、中野明『裸はいつから恥ずかしくなった』、西川麦子『ある近代産婆の物語 能登・竹島みいの語りより』、千葉徳爾『間引きと水子』、安井真奈美『出産の民俗学・文化人類学』、ヘレン・ハーディカ『水子供養 商品としての儀式』、大塚英志『捨て子たちの民俗学』

< 授業計画 >

1 何故「女と男の文化」なのか

{<https://zoom.us/j/92476684122>}教授者のジェンダー

研究歴から解説する。

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」{<https://kurimori2007.seesaa.net>}で、該当記事「第1回 女と男の文化」の解説、指示を読む。デマンド動画もここにUPする。

宿題 指示にしたがい、dotCampusに宿題（頁も含め引用付）をあげる。

2 現代日本文化 コスプレ、ニューハーフ

「異装のモダリティ」「日本の異装文化」を参考に考える。

3 男装女装の歴史

「とりかえばや物語」から考える。

4 ファッションの哲学

「モードの迷宮」「面とペルソナ」「化粧論」から考える。

5 LGBTを学ぶ

6 LGBTから学ぶ

7 reflection、Dialogue

相互ふりかえり、相互対話をおこないます。

8

性の民俗

性の民俗、聞書水俣民衆誌、夜這いと近代買春

9 都市と遊女

性の民俗、聞書水俣民衆誌、夜這いと近代買春

10 産の歴史

11 中絶の歴史

12 現代の出産

「キャリアと出産」から学ぶ。

13 水子供養

ヘレン・ハーディカ『水子供養 商品としての儀式』から学ぶ。

14 なじみ子、申し子、みなし子、福子、福助
みなし子、捨て子、に関するプレゼン、動画をみなさい。

参考文献で発見したこと、プレゼン・動画で発見したことを、(引用頁付き)でまとめ、金曜までに(時間が無い!) dotCampusにあげなさい。

15 長屋と地蔵と子育て

2022年度 前期

2単位

環境と生命

高橋 鉄美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

地球環境の現状についての知識を習得し、人間がどのように環境を持続しながら利用すべきかを自らが考えられるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

どのように環境を維持しながら利用すべきかを、自らが考えられるようになる。

< 授業のキーワード >

環境、生命、人間

< 授業の進め方 >

パワーポイントによる講義を行う。講義の最後に、小レポートを書いて提出する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業のあとに、自ら作成したノートを用いて復習し、ニュース等で得た知識も含めて整理しておくようにしてください(30分程度)。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑20%、小レポート40%、定期試験40%

< 授業計画 >

第1回 生物多様性と人間

人間の生活がどのように環境とつながっているかを理解する。

第2回 変化に富んだ長い生命史

生物がどのように多様になったのかを、地球の歴史を追って理解する。

第3回 生物の進化

生物がどのように進化したのかを、自然選択と性選択の

観点から理解する。

第4回 種とは何か

種の定義について理解する。

第5回 遺伝的多様性

集団内における遺伝的多様性の重要性について理解する。

第6回 炭素循環

二酸化炭素の循環について学び、大気中の二酸化炭素を減らす方法について理解する。

第7回 生態系サービス

我々が生態系から受けている恩恵について理解する。

第8回 生態系サービス

我々が生態系から受けている恩恵について理解する。

第9回 都市と生物多様性

生物多様性に対する都市の役割を理解する。

第10回 淡水の生物

淡水域に生物種が多いが、人間活動の影響を受けやすいことを理解する。

第11回 6度目の大量絶滅

現在、危機状態にある生物種が多く、6度目の大量絶滅と呼ばれていることを理解する。

第12回 限りある水産資源

かつては無尽蔵にあると思われていた水産資源にも限界があることを理解する。

第13回 気候変動

現在の気候がどのように変動しているのかを理解する。

第14回 外来生物

国外、国内移入種によって生じている問題について理解する。

第15回 自然界の行く末

今後自然界はどのようになるのかを考える。

2022年度 後期

2単位

環境と生命

三木 雅子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP1, 2で示される複数分野の基礎知識、および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指します。

生命は地球に誕生してから、そのときどきの地球環境に対応しながら進化してきました。ここでは地球の誕生、延いては宇宙の誕生にさかのぼり、生命の起源、進化、地球環境との関係について学び、これらに関する基礎知識を身に付けることを目的とします。また、宇宙において、なぜ地球で生命が発生することができたのか、また、地球以外での生命の可能性についても学びます。

授業を通じて、生命や自然環境に対する思考力・判断力

を身に付けることを目的とします。

<到達目標>

宇宙における生命の起源や生命の誕生の条件などの知識を身に付ける。

地球における生命の誕生・進化についての知識を身に付ける。

生命を生物学だけではなく、化学、地学分野からもとらえることで、異なる分野の知識を総合的に身に付ける。生命と地球環境について理解を深め、環境問題などを論理的に考える基礎力を身に付ける。

<授業のキーワード>

生命 宇宙 地球 環境

<授業の進め方>

プレゼンテーションソフトによるスライドを用いた講義を中心に授業を進めます。

授業の終わりに簡単なレポートを書いて提出してもらい、次の時間に解説します。

スライドの一部を抜粋して、プリントとして配布します（モノクロ）。また、同様に資料として本学のe-learningシステムであるMoodleに置きます（カラー）。Moodleには参考となるホームページへのリンクも載せるので、復習・発展学習に活用すること。

<履修するにあたって>

高校1年修了程度の理科の知識があることを前提とします。

<授業時間外に必要な学修>

授業の進度に合わせて、関連内容の参考図書や授業で紹介するホームページで復習及び発展的に学習すること（第2回?第15回の講義ごとに30分程度）。

授業内容に関連した一般書（参考図書にあげてあるものなど）を一冊は精読すること（授業期間中に1回5時間程度）

<提出課題など>

講義後（授業時間内）に簡単なレポートを書いて、その場で提出してもらいます。

レポートの解説や講評を次週に行います。

最終の課題については、解答や解説を追って公表します。

<成績評価方法・基準>

授業中のレポート70%、最終課題30%の割合で評価します。

<テキスト>

無し

<参考図書>

資料集

「ニューステージ 新 地学図表」浜島書店 790円（税別）

「ニューステージ 新 生物図表」浜島書店 790円（税別）

「視覚でとらえるフォトサイエンス 地学図録」数研出版 900円（税別）

「視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録」数研出版 1130円（税別）

一般書

「宇宙に命はあるのか 人類が旅した一千億分の八」小野 雅裕？ SB新書 800円（税別）

ホームページ

{ナショナルジオグラフィック日本版サイト, <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/>}

{JAXA 宇宙航空研究開発機構, <https://www.jaxa.jp/>}

{NASA アメリカ航空宇宙局, <https://www.nasa.gov/>}

上記の参考図書、ホームページの内容については、1回目の授業で紹介します。

その他、授業中にも適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業のすすめかた、内容についてのガイダンス

第2回 生命とは（1）

生命とは何か・生命を構成する物質

第3回 生命とは（2）

生命を構成する元素

第4回 元素の起源（1）

宇宙の始まりビッグバン

第5回 元素の起源（2）

恒星の誕生・進化と元素

第6回 地球の誕生と進化（1）

太陽系の誕生

第7回 地球の誕生と進化（2）

地球の形成

第8回 地球の誕生と進化（3）

海洋の誕生・液体の水の重要性

第9回 地球における生命の誕生（1）

地球で最初の生命とその痕跡

第10回 地球における生命の誕生（2）

生命の発生

第11回 生命の進化（1）

生命の初期進化

第12回 生命の進化（2）

光合成の始まり・大気環境の変化

第13回 宇宙と生命（1）

太陽系内外における生命の可能性

第14回 宇宙と生命（2）

最近の探査・研究の紹介

第15回 まとめ

最終課題

2022年度 後期

2単位

環境フィールドワーク論

飯田 聡子

< 授業の方法 >

講義（学内での野外実習を含む）

< 授業の目的 >

講義では、有瀬キャンパスの敷地内に生育する植物の調査を行い、得られたデータを解析し考察する。身近に存在する植物の多様性を把握し理解を深めるとともに、生物多様性が直面している課題について考える。

人文学部のディプロマ・ポリシーの知識・技能、表現力と関連する。

< 到達目標 >

有瀬キャンパス内に生育する植物を観察し、結果を記録し、考察する方法を身につける。

- ・屋外で安全に配慮して植物観察ができる。
- ・植物観察の基本技術を身につけることができる。
- ・観察結果を客観的な資料としてまとめることができる。
- ・植物に関連する文献を収集することができる。
- ・協調的かつ建設的な議論ができる。

< 授業のキーワード >

生物多様性・植物生態・野外調査

< 授業の進め方 >

・学内での植物観察、種同定、分布調査
・得られたデータを整理し各自レポートにまとめる。レポートの内容をパワーポイントにまとめ発表し、全員で議論する。データの整理や記録、発表はエクセル・パワーポイントを使用する。

・配布資料や提出は全てdotCampus

< 履修するにあたって >

・授業計画は毎回出席することを前提に作られているので、体調およびスケジュール管理を心掛け、欠席がないように努める。

・野外調査の日は虫刺されやケガの防止のため、帽子、長袖、長ズボンを着用、飲物持参、汚れても良い服装がよい。黒い衣服は昆虫（蜂）を惹きつけるため、着用しないこと。

・天候等の理由により相談の上、野外調査の日程を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

・観察の準備や得られた結果の整理、発表準備など、授業時間内以外に、各回につき1-2時間程度の学修が必要。

< 提出課題など >

・レポート課題の提出。提出先はdotCampus。

< 成績評価方法・基準 >

・受講姿勢60%、レポート40%

受講姿勢では観察や種同定などの調査、発表準備、プレゼンテーションおよび質疑応答への積極参加を重視する。

・他の学生に迷惑がかかったりモラル低下につながると判断された場合は減点する。

・2/3以上の出席がない場合は、単位認定・評価対象としない。

・病気や事故、教育実習、就活など特別の事情がある場合の欠席は考慮するので、確認書類を提出する。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

・山溪ハンディ図鑑 野に咲く花 増補改訂新版 門田裕一（監修）、畔上能力（編集）、平野隆久（写真）2013年 山と溪谷社 ¥4,620

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 離弁花1 茂木透，勝山輝男，太田和夫，他 2000年 山と溪谷社 ¥3,960

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 離弁花2 茂木透，勝山輝男，太田和夫，他 2000年 山と溪谷社 ¥3,960

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物 茂木透，勝山輝男，太田和夫，他 2001年 山と溪谷社 ¥3,960

・ネイチャーガイド日本の水草 角野康郎著 2014年 ¥4,180

・レスキュー・ハンドブック 増補改訂新版 藤原尚雄著 羽根田治著 2020年 ¥1,320

< 授業計画 >

第1回 はじめに

授業の概要説明

第2回 現地見学

大学構内の調査地の見学

第3回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第4回 結果のまとめ

調査で観察した植物の形態観察，調査内容のまとめ

第5回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第6回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第7回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第8回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第9回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第10回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第11回 レポートの作成

調査から調査の内容をもとに各自レポートを作成する

第12回 文献調査とレポートの推敲

関連する文献を収集し、その情報を整理するとともにレポートの内容を推敲

第13回 発表用原稿の作成

作成したレポートを基に発表用の原稿を作成

第14回 発表用ファイルの作成

発表用の原稿をベースにパワーポイントファイルを作成

第15回 発表会

プレゼンテーションおよび質疑応答

2022年度 前期

2単位

環境文化誌

鈴木 遥

< 授業の方法 >

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課題を出すので、講義時間内で取り組みます。

< 授業の目的 >

人類とそれを取り囲む環境との相互関係、環境に関わる社会問題を考えるための視点について解説します。私たちの社会は今、地球温暖化や自然環境の劣化など様々な環境問題に直面しています。私たち人類がどのように環境と関係して社会をつくってきたか、政治や市場などの社会状況が環境問題とどのように関係してきているかなどは、こうした問題を紐解く上で重要な視点です。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複数分野の基礎知識を教養として身につけ（知識・技能1）、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につける（知識・技能2）ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 人類とそれを取り囲む環境との相互関係、環境に関わる社会問題を考えるための視点について理解を深め、文章としてまとめて表現することができるようになる。
2. これらの点に関する自分の考えを持ち、文章で表現することができるようになる。

< 授業のキーワード >

環境問題、人類と環境の相互関係

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みます。

< 履修するにあたって >

様々な環境問題とそれを取り巻く社会状況について興味を持ち、それらに取り組むための様々な考え方を受け入れる姿勢で受講することを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習（1時間）、予習（配布する文章を事前に読んでお

く必要がある）（1時間）

< 提出課題など >

毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義後に行う論述形式の課題（70点）、講義全体に関わる最終課題（30点）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

必要に応じて講義内で参考書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 人類と環境の相互関係への理解

関連する学術的視点について説明する。

第3回 環境と文化の相互関係としての住居

アジアの高床式住居と環境の関係を紹介します。

第4回 インドネシアの住文化と環境1

沿岸域の環境と住居、そこでの暮らしについて紹介する。

第5回 インドネシアの住文化と環境2

沿岸域の環境と住居、そこでの暮らしについて紹介する。

第6回 環境保全運動の高まり

地球環境問題、環境保全運動などについて説明する。

第7回 環境人類学の紹介

環境人類学の考え方、研究事例などについて紹介する。

第8回 政治や市場の影響

環境問題と政治や市場との関連について説明する。

第9回 グローバルとローカルの関係

ローカルとグローバルのつながりについて説明する。

第10回 コモンズの問題とは

コモンズの問題について説明する。

第11回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介1

インドネシアの大規模火災問題を取り上げて説明する。

第12回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介2

インドネシアの火災被災地における暮らしについて紹介する。

第13回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介3

インドネシアの火災被災地の復興について紹介する。

第14回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介4

インドネシアの大規模火災と日本との関係について紹介する。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 前期

2単位

基礎英語学

藏園 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学部人文学科のDPに示す1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」2.「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている。」5.「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」と関係します。

世界中に存在する無数の言語のなかで、英語とはどのような歴史や特徴をもった言語なのでしょう。また、言語を分析することでどのような発見があるのでしょうか。英語を歴史、音声・音韻、形態や統語、意味や認知、語用といった観点から観察し、従来の研究がどのような言語的な課題を解決してきたかをみていきます。言語は人間にとってなくてはならないものです。言語学を学ぶことで英語らしい思考やものの見方に気付き、ことばの面白さに気付くはず。そして英語だけでなく日本語の言語能力を向上させるための基礎を築いていけると考えています。

< 到達目標 >

1. 英語学の代表的な研究分野で用いられる基本的な概念や用語を理解できる。
2. 言語学的な視点から英語の語彙や文を分析し、その言語的な特徴を説明できる。
3. 欧米の言語、文化、思考方法の違いについて説明できる。

< 授業のキーワード >

archology、phonetics、phonology、morphology、syntax、semantics、cognitive linguistics、pragmatics

< 授業の進め方 >

この授業では、学生への質問をしながら講義を薄めます。毎回、授業終わりに、理解度確認のための小テストを行います。

< 履修するにあたって >

授業では英語の辞典を使いますので、英和辞典または英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画を参考に、授業で学ぶ内容について概要を把握できるように調べてから授業に臨んでください（30分）。配布したプリントをみて講義で学んだ内容を復習し、分からない部分は参考書を読んだり質問して理解できるようにしてください（30分）。最終レポートに向けて少しずつ準備を行ってください。（30分）

< 提出課題など >

毎回小テストを行い、第15回目には確認プリントを解いてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

各授業の課題（65%）、テスト（30%）、質問・コメント等による授業への積極的な参加（5%）

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

石黒昭博他. (1996). 『現代の言語学』東京：金星堂.

田中春美他. (1994). 『入門ことばの科学』東京：大修館.

堀田隆一. (2016). 『英語の「なぜ?」に答える はじめての英語史』東京：研究社.

三原健一、高見健. (2013). 『日英対照英語学の基礎』東京：くろしお出版.

八木克正(編). (2007). 『新英語学概論』東京：英宝社.

< 授業計画 >

第1回 導入

第1回目は授業の進め方や個人発表、評価について説明します。また、ことばがどのようにして生まれたのか、人間が使うことばとほかの動物の伝達行為とにどのような共通性や違いがあるかについて考えます。

第2回 英語の成り立ち

英語の綴り字や音声などが歴史と共にどのように変化してきたのかについて考えます。

第3回 英語の多様性

世界中で英語が使われる現代において“正しい英語”とはなにかという疑問に関して、方言や変種といった観点から考えます。

第4回 音声学・音韻論 1

音声学とはどのようなものか。また、英語の音声記号のもつ役割について考えます。

第5回 音声学・音韻論 2

音韻論とはどのようなものかについて考えます。また、アクセントやイントネーション、リズムの違いについて考えます。

第6回 形態論 2

語形成とはどのようなものかについて、屈折、派生、複合といった規則について検討します。

第7回 形態論 2

語形成とはどのようなものかについて、転換、短縮、混成、異分析といった規則について検討します。

第8回 統語論

文の語の配列を決める基本的な規則について、さらに生成文法とはどのようなものかについて考えます。

第9回 意味論 1

意味とはなにか。また、英和辞典や英英辞書では、意味はどのように記述されているかについて考えます。

第10回 意味論 2

語と語の意味関係について、同義性、多義性などの観点から考えます。

第11回 認知意味論 1

認知意味論（認知言語学）とはどのようなものかについて考えます。

第12回 認知意味論 2

メタファーやメトニミーとはどのようなものかについて考えます。

第13回 語用論 1

語用論とはどのようなものか、また直接発話行為および間接発話行為について検討します。

第14回 語用論 2

ブラウン&レビンソンに代表されるポライトネス理論について見ていきます。

第15回 まとめ

まとめとして何も見ずに確認プリントを解いてもらいます。

2022年度 前期

2単位

基礎国語

白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は人文学部専門教育科目と、教職課程の「教科に関する科目」（国語）を兼ねます。人文学部のディプロマ・ポリシーに掲げられた「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」ことを目指しています。

本授業は「現代文」を論理的・批判的に読み解く能力、また自らの理解・解釈を的確に表現する能力を向上させることを目標とします。「現代文」としては、随筆・評論・小説等を扱い、文章の種類に応じた読み方を身につけます。

< 到達目標 >

- (1)文章を論理的に読み解くことができる
- (2)文章の内容を的確に要約・説明することができる
- (3)文章を読んで得た自分なりの問題意識や考え、感想などを適切な表現を用いて文章にすることができる

< 授業のキーワード >

現代文 読解 論理的言語

< 授業の進め方 >

授業は講義形式を基本として行いますが、グループワークを実施する予定です。

< 履修するにあたって >

- ・きちんと予習した上で授業に臨んでください。
- ・文学作品を扱います。文学作品を読むことや、感想を述べること、グループワークに抵抗がある人の受講はおすすめしません。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

・5回以上欠席した場合、本授業の単位取得を認めない場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回120分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み（分からない言葉・表現があればきちんと調べておくこと）、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認しててください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

< 提出課題など >

(1)ミニツッペーパー。授業の中でフィードバックを行います。

(2)ワークシート・小レポート。一つの作品につき1?2回の小レポート・ワークシートの提出を求めます。授業の中でフィードバックを行います。

(3)期末レポート

< 成績評価方法・基準 >

ミニツッペーパー・授業についてのコメント、ワークシート・小レポート80%、期末レポート20%として、総合的に評価します。

ミニツッペーパー・授業についてのコメント・ワークシート・小レポートの評価基準は「到達目標」を達成できているか、適切に予習を行うなど、授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、の2点です。期末レポートの評価基準は「到達目標」を達成できているかです。

< テキスト >

夏目漱石『坊っちゃん』（新潮文庫）。ほか、プリントを配布します。電子テキスト等の閲覧を指示する場合があります。

< 参考図書 >

必要に応じて授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、受講上の注意などについてガイダンスを行います。予習は必要ありません。

第2回 「論理国語」 1

「論理国語」をめぐる議論・言説を読み解きます。

第3回 「論理国語」 2

前回に引き続き、「論理国語」をめぐる議論・言説を読み解きます。

第4回 『坊つちやん』 1

以降3回、夏目漱石『坊つちやん』を題材に授業を行います。今回は、『坊つちやん』冒頭を精読します。

第5回 『坊つちやん』 2

『坊つちやん』末尾を精読します。

第6回 『坊つちやん』 3

『坊つちやん』の表現に言及する評論の内容をふまえて、『坊つちやん』末尾についての理解を深めます。

第7回 随筆 1

米原万里『不実な美女か貞淑な醜女か』を精読します。

第8回 評論・論説 1

井上健『翻訳文学の視界』を精読します。

第9回 随筆 2

日高敏隆『里山物語』を取り上げます。

第10回 随筆 3

佐藤卓己『メディア社会』を読みます。

第11回 評論・論説 2

内田樹『論理は跳躍する』を精読します。

第12回 随筆 3

長谷川權『俳句的生活』を精読します。

第13回 説明的文章

別役実『とぜんそう』を精読します。

第14回 小説 1

久生十蘭『生霊』を精読します。

第15回 小説 2

『生霊』の解釈について話し合うグループワークを行います。

2022年度 後期

2単位

基礎国語

中村 健史

< 授業の方法 >

講義・演習。対面。

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「古典国文法」の発展科目、「日本文学読解2」の導入科目として位置づけられる。

この科目は古文の敬語法について学んだ上で、実際の作品に就いて講読を行う。

授業の目的は以下の通りである。

(1) 古文における敬語法を習得し、高校生もしくは中学生を対象とする授業を想定して、適切な説明や解説を行うことができる。

(2) まとまった分量の古文を正しく品詞分解し、それに則った現代語訳を作ることができる。

(3) 正しい解釈に基づき、まとまった分量の古文を適切な音量・速度で音読することができる。

(4) 解釈の上で必要となる文法事項を正しく説明できる。

この科目は、実務経験(高等学校を中心とする国語科教員)のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

(1) 古文の敬語法に関する文法的知識を運用し、高校課程程度の問題を解くことができる。

(2) 古文を正しく現代語訳し、文章・口頭で表現できる。

(3) 古文の任意の箇所について文法的な説明を行える。

ここでいう「古文」とは中古文法に則ってしるされ、おおむね平安時代～鎌倉時代の一般的語彙を踏襲した文章を指す。

< 授業のキーワード >

古文講読、敬語、唐物語

< 授業の進め方 >

演習形式で行うが、担当者をあらかじめ決めることはしないので、全員が毎回予習してくる必要がある。その場で指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

なお、授業の性質上、授業計画(進度、内容)に変更を加える場合がある。

< 履修するにあたって >

履修要件は以下の通りである。特に(1)(2)の要件を満たしていない受講生については、この授業の履修を見直すことを強く勧めることがある。

(1) 古語辞典を引く、文法用語を正しく使用できる、品詞の判別がつく、自立語と助動詞の文法について理解している、文法事項に関し不明な点は適切な工具書を用いて正しい結論に至ることができる等、古典国文法に関する基礎的知識・技能が身につけている。

(2) 古文を正しく品詞分解できる。

(3) 上記二点について、高校生もしくは中学生を対象とする授業を想定して、適切な説明や解説を行うことができる。

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

予習をせずに出席することは認めない。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。次の授業に向けて講読箇所を現代語訳し、必要に応じて文法的な分析を加えて予習しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

敬語法試験（第5回）を30%として評価する。評価の基準は「到達目標」（1）である。

授業時の予習内容を70%として評価する。評価の基準は「到達目標」（2）（3）及び「積極的に授業に参加する意欲」である。

< テキスト >

古語辞典（電子辞書不可）

新たに購入する場合は下記を推奨するが、手もとにすでに古語辞典があるのであればそれを授業時に持参すること。

松村明ほか『旺文社古語辞典 第10版 増補版』（旺文社、2015年）

ISBN：978-4010721209 2780円

< 授業計画 >

第1回 はじめに

古文の読解・現代語訳の方法について講義する。「授業の目的」の（2）（3）に対応。

第2回 敬語法（1）

敬語の種類、現代語訳の方法、本動詞・補助動詞の区別などについて講義し、問題を解きながら実践演習を行う。「授業の目的」（1）に対応。

第3回 敬語法（2）

敬意の方向、敬語の語彙などについて講義し、問題を解きながら実践演習を行う。「授業の目的」（1）に対応。

第4回 敬語法（3）

二重敬語、絶対敬語などについて講義し、問題を解きながら実践演習を行う。「授業の目的」（1）に対応。

第5回 敬語法まとめ

敬語法に関する試験を行い、その内容を解説する。

第6回 平安時代の物語

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。「授業の目的」の（2）（3）に対応（以下すべて同じ）。

第7回 平安時代の随筆

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第8回 平安時代の説話

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第9回 鎌倉時代の軍記

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第10回 鎌倉時代の物語

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第11回 鎌倉時代の歌論

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第12回 鎌倉時代の説話

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第13回 江戸時代の随筆

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第14回 江戸時代の説話

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第15回 江戸時代の小説

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

2022年度 前期

2単位

基礎日本語学

野田 春美

< 授業の方法 >

講義（遠隔の場合はオンデマンド）

< 授業の目的 >

本講義科目は人文学科専門教育科目の言語・文学科目群に属し、「日本語学」「日本語学」といった科目の基礎となる科目として位置づけられます。学部のDPに示されている、「複数の分野の基礎知識を教養として身につけること」、「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけること」、「知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことを目指します。

具体的には、?頃使い慣れている?本語の、?法、音声、

場?にあわせた?語使?などを改めて?直し、?本語のルールや特徴を考えます。そのきっかけとして、?本語を?語としない?本語学習者に対する「?本語教育」や、Jポップの歌詞を参考にします。

<到達目標>

日本語の品詞や活用について説明できる。(知識)

日本語らしい表現について説明できる。(知識)

日本語の濁音、拗音、特殊拍について説明できる。(知識)

言葉に興味をもつ。(態度・習慣)

日本語について深く考え、論理的に表現することができる。(技能)

<授業の進め方>

講義を中?に進めますが、講義中、受講者に?発的な発?を求め、双?向性の授業を重視します(対面の場合)。

<履修するにあたって>

卒業研究で日本語をテーマにしたい人、3年次以降に「日本語学」を受講する予定の人には、ぜひ受講してほしい科目です。

<授業時間外に必要な学修>

・事前に、「授業計画」を参考に、どのようなことが問題になるのかを考え、必要に応じて調べてから授業に臨んでください。(30分程度)

・授業終了後に、内容が理解できているかどうかを確認し、必要に応じて?語や現象について調べ直してください。(30分程度)

<提出課題など>

毎回、授業内容に関する課題を出し、出席カードに書いてもらいます(遠隔の場合は入力)。記?された内容の?部は、次の授業のはじめに共有します。

授業内のテストについては、テスト後に正答を示し解説します(遠隔の場合は次週)。

<成績評価方法・基準>

出席カードの記?内容40%、テスト(2回)60%で評価を出します。出席が授業回数の2/3に満たないときは、評価の対象としません。

<テキスト>

テキストは使用しません。プリントを配布します。

<参考図書>

参考書は必要に応じて紹介します。

<授業計画>

第1回 導?

品詞の境界線

第1回では授業の概要を説明したあと、Jポップの歌詞における「ブルーな」「素直を」のような表現を参考にしながら、品詞の境界線について考えます。

第2回 現代日本語の活用1

?本語教育を参考にしながら、現代?本語の動詞の活?を改めて?直します。

第3回 現代?本語の活?2

現代?本語の動詞の活?を把握します。

第4回 格助詞の基本とゆれ

Jポップの歌詞における「?を好き」のような表現を参考にしながら、格助詞の基本とゆれについて考えます。

第5回 話し?と他者の間の?向性

に関わる表現

「あげる」「もらう」「くれる」のような授受表現など、話し?の他者の間の?向性に関わる表現について考えます。

第6回 聞き?の情報量の配慮に関

わる表現

「ね」「という」など、聞き?の情報量の配慮に関わる表現について考えます。

第7回 前半のテスト

音声1

第6回までの内容についてテストを行います。

日本語の母音と子音の違い、半母音について学びます。

第8回 テストの解説

音声2

テストについて、簡略に解説します。

日本語の濁?,拗?について学びます。

第9回 音声3

?本語の特殊拍(促?,??,撥?)について学びます。

第10回 「のだ」の機能

「悲しいの?」「いや、嬉しいんだ。嬉しくて涙が出てくるんだ」のような文に現れる「のだ」(「んだ」「のです」「んです」「の」)の機能について考えます。

第11回 悪気がなくても失礼になりやすい表現

相手に敬意を払っているつもりなのに、かえって失礼になってしまう表現などについて学びます。

第12回 あいまいな表現

「できないわけではありません」のように、解釈があいまいになったり二義的になったりしやすい表現について考えます。

第13回 予想と現実の一致・不一致に関わる表現

「も」「のに」など、予想と現実の一致・不一致に関わる表現について学びます。

第14回 話し?の気持ちに関わる副

詞

「さすが」「まさか」など、話し?の気持ちに関わる副詞について学びます。

第15回 後半のテスト

後半のテストを?ったあと、その解説を?います。

2022年度 前期

2単位

キャリアスタート

野田 春美

<授業の方法>

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP7,8に示されている主体性や協働性を身につけることを目指している。

学生生活の最終章は、社会人生活の序章を自律した個人として、スタートさせるためのきわめて重要な人生の一時期である。すでに就職活動を通じて、マニュアル本に書かれてあることをそのまま行動に移すような考え方は対応できないことを味わった人は少なくないであろう。

そのために、「どのようなことでやる気が出るのか(動機)」「何を大切にしたいのか(価値観)」といったこだわりを、他者の視点を借り、自分自身と向き合うことを通じて見直しを行う。

さらにキャリアを切り開く鍵は、「日常生活におけるプロセスの中にこそ存在する」という考え方にに基づき、毎日を「どのように考え、行動するか」という思考・行動特性を鮮明にしていく。

学生生活と社会人生活が、クロスオーバーする今、就職活動や様々な課題に取り組み、新たな世界観を身につけるきっかけになることを期待している。

なお、授業担当者は、大手OA機器メーカー販売会社を経て、国際博覧会アテンダント、司会業と、実務経験のある教員のため、より実践的な観点から、キャリア・ビジネスコミュニケーションを解説する。

< 到達目標 >

- 1 仕事に対する理解を深め、生涯を通して、キャリア形成していくことができる
- 2 他者の考えや立場を尊重し、自分の考えや意見を相手に伝えることができる
- 3 収集した情報を就職活動やビジネスの場で活用できる

< 授業のキーワード >

働く意味 キャリアデザイン 人間関係 コミュニケーション

< 授業の進め方 >

身体を拓く(考える・感じる・動く・他者との関係)ことができるよう体験学習を中心に進める。

< 履修するにあたって >

自己のキャリアデザインのため、主体的な姿勢で臨んでほしい。

就職活動の状況により、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識し、行動してほしい。

< 提出課題など >

適宜指示

< 成績評価方法・基準 >

- 1 授業に取り組む姿勢を評価60%(授業中の質疑・発表20% 課題ワーク・ミニレポート等40%)
- 2 最終レポート評価40%

< テキスト >

テキスト名 『キャリア基礎講座テキスト 第2版?自分のキャリアは自分で創る?』

/出版社 『日経BP社』 /978-4-8222-9590-5

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

「キャリア」について考える

授業の進め方 成績評価について

第2回 大学から仕事への

トランジシヨン(移行期)

大学から仕事へのトランジシヨンとは

グローバル化、社会の変化、雇用問題について

「就職するとは」「働くとは」

自己への気づきと他者への理解

第3回 自己表現と

コミュニケーション

人間関係とコミュニケーション 言語・非言語コミュニケーション

面接場面でのコミュニケーション

第4回 就職活動の実際

?面接と対話-

自分を語る一面接時の対話

企業訪問(挨拶・身だしなみ・基本姿勢)、面接試験対策

第5回 就職活動の

最新情報を得る

就職活動に必要な新しい情報の入手法を学び、就職活動に生かす

第6回 就職活動の実際

?企業を選ぶ軸とは-

就職活動の実際を振り返り、メンバーと共有

こだわり、価値観の確認 業界・職種・会社の選び方

第7回 就職活動の実際

?就職活動に必要な

ビジネスマナー再検討-

就職活動の実際を振り返り、メンバーと共有

就職活動に必要なビジネス敬語の使い方、

感じの良い電話のかけ方・受け方やメール等のマナー

第8回 自己認識を深める-1-

?自己分析の再構築?

自己分析の修正 自己PRの修正に活かす

第9回 自己認識を深める-2-

?自己分析の再構築?

自己分析の修正のために第三者の視点で認識を深める

自己PRの修正に活かす

第10回 グループディスカシヨン

グループディスカシヨンとは 自己の振り返り

第11回 コンセサスを得るために

コンセンサスとは 課題の達成

コンセンサスゲームのプロセスの分析
自己の気づきを深める
第12回 論理的情報発信
コンテキスト(文脈)の違いを乗り越える
論理性を保つための構造とは
第13回 「未来のはたらきかた」を
考える
様々な働き方、生き方を知る
就職活動を体験して、これからの自分の生き方を考える
第14回 振り返り まとめ
総復習と質疑応答
第15回 最終レポート
キャリアスタート の授業内容や、就職活動に関連する
ものから
テーマを設定し、レポートを作成

2022年度 後期

2単位

キャリアスタート

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP7,8に示されている主体性や協働性を身につけることを目指している。キャリアスタート に引き続き、本講座を学生生活の最終章として、自立・自律した個人として、社会人生活をスタートさせる、きわめて重要な人生の転回点と位置づける。

すでに就職活動を通じ、マニュアル本に書かれている内容をそのまま行動に移すような考え方では対応できないということを味わった人は少なくないであろう。そのために、「どのようなことでやる気が出るのか(動機)」「何を大切にしたいのか(価値観)」といったこだわりを、他者の視点を借り、自分自身と向き合うことを通じ、見直しを行う。

さらにキャリアを切り開く鍵は、「日常生活におけるプロセスの中にこそ存在する」という考え方に基づき、毎日を「どのように考え、行動するか」という思考・行動特性を鮮明にしていく。学生生活と社会人生活がクロスオーバーする今、本講座のビジネスマナーが、新たな世界観を身につけるきっかけとなることを期待している。

なお、授業担当者は、大手OA機器メーカー販売会社を経て、国際博覧会アテンダント、司会業と、実務経験のある教員のため、より実践的な観点から、キャリア・ビジネスコミュニケーションを解説する。

< 到達目標 >

1 ビジネスマナーの基本を身につけ、社会生活で実践できる

2 他者の考えや立場を尊重し、自分の考えや意見を伝えることができる

3 ロールプレイングを通して、多角的に物事を見つめることができる

< 授業のキーワード >

マナー 人間関係 コミュニケーション

< 授業の進め方 >

身体を拓く(考える・感じる・動く・他者との関係)ことを中心に進める。

< 履修するにあたって >

より良いコミュニケーション・ビジネスマナーを身につけるため、主体的な姿勢で臨んでほしい。

就職活動の状況により、授業内容を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回の授業に対し、1時間程度の予習・復習。

日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識し、行動してほしい。

< 提出課題など >

適宜指示

< 成績評価方法・基準 >

1 授業に取り組む姿勢を評価60%

(授業中の質疑・発表20% 課題ワーク・ミニレポート等40%) 2 最終レポート評価40%

< テキスト >

テキスト名『ビジネスマナー』/出版社『早稲田教育出版』/ISBN978-4-89826-067-8

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ー社会で働くとはー

ビジネス社会で求められるエチケットやマナーを学び、良い人間関係を築けることを目指す

働くことの意義 授業の進め方 成績評価について

第2回 ビジネスの現場

「企業」とは

仕事の基本・心構え 仕事を通して学びや成長、可能性を拓く

企業とは 社員の役割 仕事のすすめ方

第3回 人間関係を築く

コミュニケーションと

身体表現

ビジネス社会での人間関係

言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
傾聴

第4回 仕事をするための

基礎知識

第一印象 身だしなみとおしゃれ コミュニケーションの潤滑油である挨拶 エチケットとマナーについて

第5回 言葉遣い-1-

良い印象を与える話し方・聞き方 敬語の使い方をマ

スターする

知っておきたいビジネス慣用語について

第6回 言葉遣い-2-

気づかずに使っている間違い敬語

クッション言葉の効果的な使い方 ロールプレイング

第7回 要領の良い電話応対

電話の重要性と心構え 要領の良い電話のかけ方・受け方

間違い電話 ロールプレイング

第8回 訪問のマナー

訪問の心得 受付・応接室でのマナー 名刺の取り扱い お辞儀の種類

ロールプレイング

第9回 来客対応の基本

対応の基本要素 ロールプレイング

第10回 感じ良い接客対応

接客対応の流れ ロールプレイング

第11回 案内

取り次ぎと案内 お茶の接待 ロールプレイング

第12回 社会人としての

つきあい -1-

冠婚葬祭の知識とマナー 慶事

第13回 社会人としての

つきあい -2-

冠婚葬祭の知識とマナー 弔事

第14回 メンタルヘルス

自分のストレスを知る

ストレスのマネジメント・コーピング方法

第15回 まとめ

最終レポート

キャリアスタート の授業内容や、就職活動に関連するものからテーマを設定し、 レポートを作成

2022年度 前期

2単位

キャリアトレーニング特別講義 SPI対策講座

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学科専門教育科目のキャリア科目に属し、人文学部のディプロマ・ポリシーに示されている主体性や協働性を身につけることを目指しています。

大学での学びを進めていくためには、基礎学力を身につけていることが不可欠です。その基礎学力を身につけると同時に、社会で生きていくための基礎となる教養力を身につけることを目指します。基礎学力を必ずアップさせることは、就職活動での筆記試験対策にもなります。筆記試験対策を早いうちから始めることで、就職対策へ

の準備も万全にしましょう。

なお、この科目は、長年キャリアデザイン教育に携わってきた実務経験のある教員が講師として担当します。

< 到達目標 >

・数学が苦手な学生や初めてSPIに取り組む学生でも、基礎的な理解を得られる。

・基本的な事項を復習することで基礎力を養い、自立的に勉強する習慣が身につく。

・SPIの出題傾向をつかみ、SPI試験の合格ラインまで到達できる。

特に頻出度の高い単元を解ける力を身につけると、必ず筆記試験で解ける問題は増えます。授業内や宿題で様々な問題を解き、就職試験に慣れましょう。

・筆記試験対策を万全にすることで、就職に向けたモチベーションをあげることが出来ます。

< 授業のキーワード >

就職試験、SPI試験、筆記試験、テストセンター試験、WEBテスト、基礎学力

< 授業の進め方 >

講義を中心に、テキスト及び配布プリントを用いて演習を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業で復習のための宿題を提示する。(目安として1時間)

< 提出課題など >

・小テストを実施します。

・最初の授業では、自身の学力を知るためのテストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

最終回の模擬試験と小テスト 40%

授業内での課題成果物提出 60%

定期試験は実施しません。

< テキスト >

最新最強のSPIクリア問題集2023年版(成美堂出版)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・プレースメントテスト

授業の目的、目標、流れの理解

第2回 計算問題と割合

計算問題と割合の復習

第3回 仕事算

仕事算の解き方を理解する。

第4回 鶴亀算

鶴亀算の解き方を理解する。

第5回 速さと時間の単位

速さの単位を理解する。

第6回 速さ・時間・距離

速度算の解き方を理解する。

第7回 まとめ・復習・中間テスト

中間テストを実施する。前半のまとめと苦手分野を理解する。

第8回 損益算

損益算の解き方を理解する。

第9回 損益算/割引料金

割引料金解き方を理解する。

第10回 代金の精算/分割払い

代金の精算の解き方を理解する。

第11回 分割払い

分割払いの解き方を理解する。

第12回 場合の数

順列・組み合わせの解き方を理解する。

第13回 確率

確率の解き方を理解する。

第14回 非言語分野の復習

SPI非言語分野の解き方を復習する。

第15回 模擬試験・

まとめ

自身のSPI能力と授業開始時からの上達を知る。

2022年度 後期

2単位

キャリアトレーニング特別講義 SPI対策講座

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は人文学科専門教育科目のキャリア科目に属し、人文学部のディプロマ・ポリシーに示されている主体性や協働性を身につけることを目指しています。

大学での学びを進めていくためには、基礎学力を身につけていることが不可欠です。その基礎学力を身につけると同時に、社会で生きていくための基礎となる教養力を身につけることを目指します。基礎学力を必ずアップさせることは、就職活動での筆記試験対策にもなります。筆記試験対策を早いうちから始めることで、就職対策への準備も万全にしましょう。

なお、この科目は、長年キャリアデザイン教育に携わってきた実務経験のある教員が講師として担当します。

< 到達目標 >

- ・数学が苦手な学生や初めてSPIに取り組む学生でも、基礎的な理解を得られる。
- ・基本的な事項を復習することで基礎力を養い、自立的に勉強する習慣が身につく。
- ・SPIの出題傾向をつかみ、SPI試験の合格ラインまで到達できる。

特に頻出度の高い単元を解ける力を身につけると、必ず筆記試験で解ける問題は増えます。授業内や宿題で様々な問題を解き、就職試験に慣れましょう。

・前期でキャリアトレーニング特別講義を受講している学生に関しては、同じ教材を用いることでさらに理解

を深めることが出来ます。

< 授業のキーワード >

就職試験、SPI試験、筆記試験、テストセンター試験、WEBテスト、基礎学力

< 授業の進め方 >

講義を中心に、テキスト及び配布プリントを用いて演習を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の授業で復習のための宿題を提示する。(目安として1時間)

< 提出課題など >

・各回の授業の最後に復習課題を提示(授業内にできなければ、期限までに提出)

・小テストを実施します。

・最初の授業では、自身の学力を知るためのテストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

最終回の模擬試験と小テスト 40%

授業内での課題成果物提出 60%

定期試験は実施しません。

< テキスト >

最新最強のSPIクリア問題集2023年版(成美堂出版)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・ブレースメントテスト

授業の目的、目標、流れの理解

第2回 前期授業の復習 / 参考問題

前期授業の復習と計算問題。

第3回 前期授業の復習 / 参考問題

前期授業の復習

第4回 推論 (順序)

順序関係の推論の解き方を理解する。

第5回 推論 (対応関係)

対応関係の推論の解き方を理解する。

第6回 推論 (内訳)

内訳の推論の解き方を理解する。

第7回 推論 (その他の問題) / 命題

その他の推論の解き方を理解する。

第8回 まとめ・計算問題・中間テスト

中間テストを実施する。前半のまとめと苦手分野を理解する。

第9回 復習/集合

中間テストの解説と苦手分野を理解する。

第10回 集合

集合の解き方を理解する。

第11回 グラフの領域

グラフの領域の解き方を理解する。

第12回 図表の読み取り

図表の読み取りの解き方を理解する。

第13回 図表の読み取り

図表の読み取りの解き方を理解する。

第14回 非言語分野の総復習/新傾向問題

SPI非言語分野の解き方を復習する。

第15回 模擬試験・

まとめ

自身のSPI能力と、授業開始時からの上達を知る。

2022年度 前期

2単位

キャリアトレーニング特別講義 SPI対策講座

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は人文学科専門教育科目のキャリア科目に属し、人文学部のディプロマ・ポリシーに示されている主体性や協働性を身につけることを目指しています。就職試験や公務員試験で必要となる数学の基本的な考え方を理解します。

また、多くの仕事が人工知能（AI）に取って代わろうとする時代に備え、情報を収集分析するだけではなく場合によって柔軟に編集する能力を鍛えます。

基礎的な算数、数学の力と論理的な思考力を習得します。なお、この科目は、長年キャリアデザイン教育に携わってきた実務経験のある教員が講師として担当します。

< 到達目標 >

- ・SPIの問題を繰り返し解くことで、就職試験の合格ラインに到達することができる。
- ・今ある知識そして今回学んだ知識を編集して、問題によって解き分ける力を身につける。
- ・解法パターンや、効率的に問題を解く能力を身につける。
- ・筆記試験対策を万全にすることで、就職に向けたモチベーションをあげることができる。
- ・数学的思考を身につけ、筋道を立ててものごとを考える能力を高める。

この科目での学習は大学での学びや実社会においてもたいへん役に立ちます。

この授業を通して人生とキャリアステップの道が開かれることを望んでいます。

< 授業のキーワード >

基礎学力 数学、就職試験、SPI試験、筆記試験、公務員試験

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。テキストの例題を解説後、類似した問題を演習します。

< 履修するにあたって >

- ・この授業は2年次開講キャリアトレーニング特別講義

・ [SPI対策講座 ・ クラス] をすでに履修したか、SPIについての課外講座などで基礎力を身につけている人を対象とします。

・テストを実施します。算数や数学力を基礎から鍛えます。

・受講者各人の積極的な勉学が基本です。分からないところは、必ず質問してください。

・予習・復習や宿題に取り組む量を増やしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で学習した問題の反復練習、類似問題を解くことで理解が深まります。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

< 提出課題など >

授業の進度に応じて考慮していきます。各テスト終了後、解説・講評を行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業内で提示する課題40%と模擬テスト40%、授業中の質疑・意見20% の割合で総合的に評価します。なお前半確認テストは選択ではなく記述式とし解答に至るまでの考え方を重視します。

< テキスト >

就活BOOK2023 内定獲得のメソッド SPI 解法の極意 マイナビ出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の目的・ゴールを理解します。

第2回 割合

割合は算数・数学の土台となる最重要単元です。この単元の強化が算数・数学力を向上させます。

第3回 売買損益

実務に近い割合の応用問題を数多く解きます。

第4回 数表・図表

実務に近い問題で、統計解析力を強化します。

第5回 推理

与えられた情報を上手く整理し、論理的思考の訓練をします。

第6回 順列、組み合わせ・確率

順列、組み合わせを区別して場合の数を求め、パターン化された確率の応用問題の解法をマスターします。

第7回 速さ

速さの公式をしっかりと押さえ、単位に留意します。

第8回 前半確認テスト・解説

これまでの分野の復習及び疑問点をなくす。時短での解法を習得する。

第9回 料金の割引・集合

料金の割引は身近な問題で、割合の基礎を確認します。集合問題では、ベン図や表等を効率的に利用します。

第10回 グラフ（領域と不等式・条件と領域）

関数のグラフがいかに身近に応用できるかを学びます。

第11回 経路と比率・分割払い

割合の概念を、どのように社会に活かせるか考えます。
基本的なフローチャートに慣れ処理できるようにします。

第12回 記号・ブラックボックス

パターン化されていて一度やっておくと得点を伸ばしやすい単元の解法を学習します。

第13回 特殊算

色々な解法を学び、効率的な解法のテクニックをマスターします。

第14回 フローチャート

特殊算・未消化分及び復習

基本的なフローチャートに慣れ処理できるようにします。
問題文を視覚的に分かりやすく整理し、方程式を確実に解く計算力をつけます。

第15回 就職適性試験対策(模擬テスト)・解説

これまでの分野の復習及び疑問点をなくす。時短での解法を習得する。

2022年度 後期

2単位

キャリアトレーニング特別講義 (神戸新聞)

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は人文学科専門教育科目のキャリア科目に属し、人文学部のディプロマ・ポリシーに示されている、8「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」力を身につけることを目指しています。

テーマは「新聞社の仕事と新聞の役割」です。兵庫県を代表する新聞社である「神戸新聞」で長期にわたる実務経験を有する14名の方々のお話を聴くことのできる、貴重で贅沢な授業です。実体験や活動の具体的な紹介をとおして、新聞という情報メディアができるプロセス、社会における役割、利用の方法を学びます。

「新聞」は近代文明の重要なアイテムであり、情報の提供や言論の場として大きな社会的役割を担ってきました。近年はインターネットなどから情報を獲得することが多いですが、玉石混淆の情報を取捨選択する力をつけ、真に価値ある情報を取得するために、「新聞」の価値が見直されています。

この講座によってメディアリテラシーや判断力を身につけ、「社会人力」をアップしましょう。メディア、ジャーナリズム、出版業界、情報関連、社会問題、各種の文化活動など公共の仕事に関心のある人には必聴の講義です。

フェイクニュースの問題、デジタル化の問題など、今日(こんにち)的な話題も取り上げられますので、今、この

時代を賢く生きていくためにも役に立ちます。

< 到達目標 >

現代社会におけるメディアの役割を理解し、説明することができる。

メディアをとおして社会の動向を分析することができる。広い視野から社会を理解し、大人として社会に出る基盤ができる。

< 授業のキーワード >

新聞、メディア、報道、取材、SNS、情報、メディア・リテラシー

< 授業の進め方 >

第1回目に授業の目標と評価方法について説明します。
2回目以降は神戸新聞社で現役として活躍する諸分野のエキスパートに、毎回その日の新聞を利用しながら、それぞれの分野における仕事の意義や苦労、およびその魅力について語ってまいります。毎回の授業の最後には、課題に応じた小レポートを書いてまいります。

< 履修するにあたって >

講義の順番は変更する可能性があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスに従って、あらかじめ講義に関連した事項について図書館やインターネットなどで調べること。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

< 提出課題など >

・レポート(3回。詳細は掲示等で連絡する)。
・毎回の授業の最後に、その日の理解度を見るため小レポート。(課題は授業中に指示)

< 成績評価方法・基準 >

小レポートを含む普段の授業への取り組み・授業への姿勢(50%)、3回のレポート(50%(第1回15点・第2回15点・第3回20点))によって評価する。

< テキスト >

講義日の神戸新聞を補助教材として使用する予定。

< 参考図書 >

神戸新聞社著「神戸新聞の100日」(角川ソフィア文庫)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス - 講義の概要と評価方法について(担当:野田)

新聞報道に関連するDVD

次回以降の14回の授業で講義される「新聞」というメディアの重要性についてDVDなどを用いながら紹介する。また、評価の方法についても説明する。

第2回 事件事故報道/巨悪、悲劇と向き合いながら具体的な記事の実例を引きながら、ニュースの発掘から取材、執筆、出稿、掲載までの過程をジャーナリズムの側面を押さえながら紹介する。

第3回 SNSとフェイクニュース/問われるメディア・リテラシー

ネット情報は真偽曖昧なものが多い。確かな情報選択眼

や分析力を養うため、新聞を利用した情報の活用を講義する。

第4回 経済ニュースとの付き合い方 / 企業取材のオモテとウラ

取材の現場から - 経済部編：経世済民という言葉から経済の語が生まれたように、経済は生活そのものであり、政治でもある。兵庫という地域経済の動きを伝えるニュースと暮らしの関係を説明する。

第5回 聴く力を養う / トップアスリートが本音を語る

取材の現場から - 運動部編：プロ野球やサッカー、相撲のような比較的興味を引きやすいスポーツ界の取材話やエピソードを紹介する。

第6回 時代を切り取る技術 / 「ニュース映え」する写真・映像

取材の現場から - 映像写真部編：報道には欠かせない映像・写真について、記者の立場とは違う視点から「情報の伝達」を語る。

第7回 実践的インタビュー論 / 私が取材したスター、文化人

取材の現場から - 文化部編：文化・芸能・くらしなど、社会のさまざまな出来事を地方紙の視点から捉える。

第8回 スマホの先へ / グーグルはメディアの敵？ デジタルをめぐる攻防

ITという言葉が聞かれない日がない今日、情報のデジタル化に対して 新聞社はどのような対応をしていくのか、紙媒体の新聞とどう共存するのかなど、神戸新聞の多メディア発信を語る。

第9回 メディアの使命 / 震災報道、コロナ報道を経て被災地の報道機関として今もなお追い続ける復興と、新型コロナウイルスに関する対応について、取り組みや課題などを提示し、メディアの果たす役割を講義する。

第10回 メディアの中のジェンダー / 無意識の偏見を読み解く

相次ぐ政治家の問題発言やSNSの炎上など最近ニュースになった事例を「ジェンダー平等」の視点で読み解く。翻って新聞紙面に潜む「無意識の偏見」にもメスを入れる。「当たり前」を疑うことから見えてくるのは -。

第11回 伝わる言葉の磨き方 / 新聞はこうしてつくる

取材第一線の理解を踏まえ、ニュースとはいったい何か、毎日の作業のなかでどのように判断され紙面化されるのかという新聞づくりの最も肝要なところを講義する。

第12回 フラッシュは世界を走る / 共同通信社の24時間 毎日の掲載記事に占める通信社の送信原稿の割合は大きい。地方紙の編集紙面を側面で支える通信社の働きを解説する。

第13回 わがまち主義 / 地方紙最多 12 エリア別の地域版を武器に

地域に密着した地方紙づくりについて具体的な取材や掲載の例を挙げながら紹介し、コミュニティ・ペーパー

論を展開する。

第14回 新聞マーケティング入門 / 経営を支える個別宅配網

新聞社を経営していくために不可欠な販売と地域との絆を深めるサポートについて、神戸新聞社の特徴を解説する。

第15回 デジタルサバイバル / デイリー流、コンテンツでの稼ぎ方

スポーツのほか、レジャー・芸能ニュースなど、一般紙にはないデイリースポーツの情報発信を紹介する。

2022年度 前期

2単位

キャリア形成講義

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマ・ポリシー3.4.5.6. に示す「思考力・判断力・表現力」、7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

デジタル技術とグローバル化の急速な進展があらゆる産業や社会に大きな変革をもたらす現代。直面するであろう社会の変化に流されることなく、様々な課題に柔軟かつたくましく対応していけるよう、「自らの人生を生き抜くための基礎力」を養うことを目的とします。

本講義は、「キャリア形成科目」の基礎力に含まれる、2つのテーマについて学びます。

「職業観・勤労観の育成」：世の中の現状を理解した上で、はたらくことや仕事に対し意欲を持ち、当事者として向きあい始める

「ポジティブな自己理解と自己変容」：自身の良さを認め、さらに成長するために自分を変えることに挑戦する

ウィズコロナの経済成長を確かにするために働き方の変革が求められています。横並びの年齢によらず、職責や成果で評価するしくみや、専門性を生かした働き方が主流になると想像されます。よって着実に「学生としてのキャリア」を積み上げ、キー・コンピテンシー（主要能力）やソーシャルスキル（社会適応スキル）を身につけておくことが求められます。何気ない日常においても挑戦は可能なはずで、大学生にしかできない学業や課外活動に「意欲的」に取り組み、公私にわたる様々な経験を積み重ねていくことが「自らの人生を生き抜くための基礎力」の成長につながります。

本講義を通じて身につけるこの2つの力は、学内外の

あらゆるシーンで必要とされ、大学時代を有意義に過ごすためにも必要な力であり、将来自立した社会人となるための基盤となります。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である

<到達目標>

- ・働くことや社会についての理解が深まる
- ・集団の中で、課題発見から解決までにおいて、自主性
- ・協働性を発揮できる
- ・一般社会の常識が身につく
- ・成功や失敗から学ぶ（自己変容）ことができる

<授業のキーワード>

職業意識・就労観、情報収集・探索能力、金銭管理、一般常識、シチズンシップ

<授業の進め方>

本授業では、個人の責任において自由な発言やコミュニケーションを尊重していますが、授業風景・映像、授業で知り得た個人情報などを無断でネット上に流すことはやめてください。

また、Zoom授業を妨害した学生は厳正な処分を下します。

<履修するにあたって>

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、他の学生に迷惑がかかります。自らの考えで積極的に意見を述べ、自分を成長させることに挑戦してください

<授業時間外に必要な学修>

授業前に提示した課題について、自由な視点で問題点を調べ、自分なりの意見をまとめておく。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習を要する。

<提出課題など>

授業中に指示する。提出方法は、学習管理システム（LMS: Learning Management System）である「dotCampus（ドットキャンパス）」を使用することもある。

提出されたレポートについては、次の授業時に総評などを行う。

<成績評価方法・基準>

・受講態度、ディスカッションの取組み度（自主性・協働・判断力）40%、出席カード（思考力）30%、最終課題・発表資料など（表現力）30%の割合で総合的に評価する。

・定期試験は実施しない。

<テキスト>

ハンドアウト（スライド資料）を適宜配布します

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目的や仕組み、グループワークを行なう際のルールについて理解する。

第2回 キー・コンピテンシー

社会が求める人材像について理解する

第3回 “主張”しよう

グループワークのかかわり方

第4回 客観的自己理解

第一印象から印象管理の重要性を知る。

長所と短所のとらえ方を理解することで、自分を認め、新しい自分に挑戦する。

第5回 ケーススタディ（1）

「ブラックバイトとホワイトバイト」

アルバイトをする目的、選択の基準と優先順位を洗い出し、「アルバイトをすることのそれぞれの意味」を共有する。

第6回 目的と目標の違い

なりたい自分に近づくための目標の捉え方と「目標設定」について考える

第7回 チーム・ビルディング

チーム一丸の組織作りを体感する。

第8回 パーソナリティとアイデンティティ

過去の具体的な行動の中に反映されている自分の価値観や意志について、客観的に見つめなおす

第9回 ケーススタディ（2）

やりがいとは何か、働く意味とは何か、自分にとって意味のある仕事とは何か、を考える。

第10回 グループ・ワーク（1）

問題解決（PBL学習）にチームで挑戦する

第11回 グループ・ワーク（2）

プレゼンテーション。発表に向けて協働する。

第12回 グループ・ワークを振り返る

フレームワーク「KPTシート」を使って、伸ばす点・改善点を発見する

第13回 金銭管理・コスト意識

費用対効果の大きいほうを模索し採用することでコンピテンシーを高める。

第14回 マーケティングと創造力

世の中の問題解決を図るために、広く情報を集め複眼的な価値観を増やす

第15回 最終課題

レポート提出

2022年度 後期

2単位

キャリア形成講義

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマ・ポリシー3.4.5.6. に示す「思考力・判断力・表現力」、7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

デジタル技術とグローバル化の急速な進展があらゆる産業や社会に大きな変革をもたらす現代。直面するであろう社会の変化に流されることなく、様々な課題に柔軟かつたくましく対応していけるよう、「自らの人生を生き抜くための基礎力」を養うことを目的とします。

本講義は、「キャリア形成科目」の基礎力に含まれる、2つのテーマについて学びます。

「職業観・勤労観の育成」：世の中の現状を理解した上で、はたらくことや仕事に対し意欲を持ち、当事者として向きあい始める

「ポジティブな自己理解と自己変容」：自身の良さを認め、さらに成長するために自分を変えることに挑戦する

コロナ禍による企業の業績格差が拡大しています。ウィズコロナの経済成長を確かにするために働き方の変革が求められています。横並びの年齢によらず、職責や成果で評価するしくみや、専門性を生かした働き方が主流になると想像されます。よって着実に「学生としてのキャリア」を積み上げ、キー・コンピテンシー（主要能力）やソーシャルスキル（社会適応スキル）を身につけておくことが求められます。何気ない日常においても挑戦は可能なはずで、大学生にしかできない学業や課外活動に「意欲的」に取り組み、公私にわたる様々な経験を積み重ねていくことが「自らの人生を生き抜くための基礎力」の成長につながります。

本講義を通じて身につけるこの2つの力は、学内外のあらゆるシーンで必要とされ、大学時代を有意義に過ごすためにも必要な力であり、将来自立した社会人となるための基盤となります。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である

< 到達目標 >

- ・働くことや社会についての理解が深まる
- ・集団の中で、課題発見から解決までにおいて、自主性

- ・協働性を発揮できる
- ・一般社会の常識が身につく
- ・成功や失敗から学ぶ（自己変容）ことができる

< 授業のキーワード >

職業意識・就労観、情報収集・探索能力、金銭管理、一般常識、シチズンシップ

< 授業の進め方 >

本授業では、個人の責任において自由な発言やコミュニケーションを尊重していますが、授業風景・映像、授業で知り得た個人情報などを無断でネット上に流すことはやめてください。

また、Zoom授業を妨害した学生は厳正な処分を下します。

< 履修するにあたって >

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、他の学生に迷惑がかかります。自らの考えで積極的に意見を述べ、自分を成長させることに挑戦してください

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前に提示した課題について、自由な視点で問題点を調べ、自分なりの意見をまとめておく。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習を要する。

< 提出課題など >

授業中に指示する。提出方法は、学習管理システム（LMS：Learning Management System）である「dotCampus（ドットキャンパス）」を使用することもある。

提出されたレポートについては、次の授業時に総評などを行う。

< 成績評価方法・基準 >

・受講態度、ディスカッションの取り組み度（自主性・協働・判断力）40%、出席カード（思考力）30%、最終課題・発表資料など（表現力）30%の割合で総合的に評価する。

・定期試験は実施しない。

< テキスト >

ハンドアウト（スライド資料）を適宜配布します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の目的や仕組み、グループワークを行なう際のルールについて理解する。

第2回 キー・コンピテンシー

社会が求める人材像について理解する

第3回 “主張”しよう

グループワークのかかわり方

第4回 客観的自己理解

第一印象から印象管理の重要性を知る。

長所と短所のとらえ方を理解することで、自分を認め、

新しい自分に挑戦する。

第5回 ケーススタディ(1)

「ブラックバイトとホワイトバイト」

アルバイトをする目的、選択の基準と優先順位を洗い出し、「アルバイトをすることのそれぞれの意味」を共有する。

第6回 目的と目標の違い

なりたい自分に近づくための目標の捉え方と「目標設定」について考える

第7回 チーム・ビルディング

チーム一丸の組織作りを体感する。

第8回 パーソナリティとアイデンティティ

過去の具体的な行動の中に反映されている自分の価値観や意志について、客観的に見つめなおす

第9回 ケーススタディ(2)

やりがいとは何か、働く意味とは何か、自分にとって意味のある仕事とは何か、を考える。

第10回 グループ・ワーク(1)

問題解決(PBL学習)にチームで挑戦する

第11回 グループ・ワーク(2)

プレゼンテーション。発表に向けて協働する。

第12回 グループ・ワークを振り返る

フレームワーク「KPTシート」を使って、伸ばす点・改善点を発見する

第13回 金銭管理・コスト意識

費用対効果の大きいほうを模索し採用することでコンピテンシーを高める。

第14回 マーケティングと創造力

世の中の問題解決を図るために、広く情報を集め複眼的な価値観を増やす

第15回 最終課題

レポート提出

2022年度 前期

2単位

キャリア形成講義

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマ・ポリシー3.4.5.6.に示す「思考力・判断力・表現力」、7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

ウィズコロナの経済成長を確かにするために働き方の変革が求められています。横並びの年齢によらず、職責

や成果で評価するしくみや、専門性を生かした働き方が主流になるでしょう。よって着実に「学生としてのキャリア」を積み上げ、キー・コンピテンシー(主要能力)やソーシャルスキル(社会適応スキル)を身につけておくことが求められます。何気ない日常においても挑戦は可能なはず。大学生にしかできない学業や課外活動に「意欲的」に取り組み、公私にわたる様々な経験を積み重ねていくことが「自らの人生を生き抜くための基礎力」の成長につながります。

卒業後も自分らしく生きるため、生涯を通じてどのように社会とかがかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活後半をどうおくるのか、自らキャリアデザインを描き、行動を始めることが大切です。

なかでも、夏のインターンシップ(企業によるしごと体験イベント)は、仕事内容や業界理解を始めるには最適な手段の一つです。インターンシップの募集は、前期授業開始早々の初夏に始まります。講義の中では、具体的な指導によるインターンシップの獲得を目指します。

また、就職活動に役立つワークを実施し、社会人基本スキルの獲得を目指します。先送りにせず、この講義でゆっくりとスタートアップさせましょう。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である。

< 到達目標 >

・経済・社会の変化、企業経営の変化・公務員業務の変化、雇用システムの変化、働き方の多様化など働くことを取り巻く状況を踏まえ、職業や働き方についての理解が深まる

・面接のルールやマナーを学び、適切な自己表現ができる

・進路・職業選択などのとらえ方を整理し、具体的な行動の方法やアプローチが理解できる。

< 授業のキーワード >

自己決定理論、協働性、職業意識・就労観、社会人基礎力、労働者福祉に関する法律

< 授業の進め方 >

本授業では、個人の責任において自由な発言やコミュニケーションを尊重しています。クラスメートとの情報交換により、他者との交流の重要性を理解してください。なお、授業で知り得た個人情報などを無断でネット上に流すことはやめてください。

< 履修するにあたって >

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、他の学生に迷惑がかかります。自らの考えで積

極的に関わり、自分を成長させることに挑戦してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で学習した問題についての回答練習を行う、また類似問題を研究することで就業力は高まります。よって、1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

< 提出課題など >

授業中に指示します。提出レポートに対しては、次の授業時に総評などを行います。

< 成績評価方法・基準 >

・受講態度、ディスカッションの取組み度（自主性・協働・判断力）40%、出席カード（思考力）30%、最終課題・発表資料など（表現力）30%の割合で総合的に評価する。

・定期試験は実施しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

本講義の目的と授業の進め方

第2回 インターンシップ（就業体験）は経験すべきか
インターンシップから始まる就職活動の流れを知るとともに、自己分析、エントリーシート、面接など対策を理解する

第3回 集合知を生かす

異質な他者とのコラボレーションによる異なる考え方を学ぶ

第4回 動機づけ：就職活動を円滑に進めるために
就職活動の流れを知るとともに、自分にとっての働く意味を考える

内発的動機づけと外発的動機づけから、学業成績やパフォーマンスに与える影響について考える

第5回 就職活動の情報源

大学図書館にある関連書籍や、データベース活用法を知る

第6回 産業社会の理解（民間企業）

産業社会の構造、持続可能な社会、今後の動向、会社の仕組み、雇用形態などを理解する

第7回 産業社会の理解（公務員）

公務員の業務内容、責任、やりがいなどに触れる

第8回 自己分析

自分の個性・特徴を発見する

第9回 目標達成のためのコラボレーション

GD選考を意識し、集団での目標達成を体験する

第10回 一般常識とビジネスマナー

基本的なビジネス知識とマナーを習得する

第11回 コミュニケーション能力

ゲストスピーカーと交流をはかり、自らのキャリア形成につなぐ

第12回 コミュニケーション能力

事例検討からコミュニケーション能力の生かしかたを学ぶ

第13回 就職試験提出書類の書き方

履歴書・エントリーシート（ES）をはじめとする提出書類の書き方を学ぶ

第14回 働く人を守る法律

労働基準法、改正男女雇用均等法、育児・介護休業法、社会保険制度などの法律・制度を学習する

第15回 最終課題

レポート提出。

2022年度 後期

2単位

キャリア形成講義

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマ・ポリシー3.4.5.6.に示す「思考力・判断力・表現力」、7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

ウィズコロナの経済成長を確実にするために働き方の変革が求められています。横並びの年齢によらず、職責や成果で評価するしくみや、専門性を生かした働き方が主流になるでしょう。よって着実に「学生としてのキャリア」を積み上げ、キー・コンピテンシー（主要能力）やソーシャルスキル（社会適応スキル）を身につけておくことが求められます。

卒業後も自分らしく生きるため、生涯を通じてどのように社会とかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活後半をどうおくるのか、自らキャリアデザインを描き、行動を始めることが大切です。

本講義では、就職活動本選考を目前に控え、応募先の絞り込みからエントリーシートの作成、模擬面接、グループディスカッションといった実際の就職活動を想定した極めて実践的な内容で展開していきます。大学から職場へのトランジション（移行）を成功させ、社会人キャリアの扉を開けましょう。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である。

<到達目標>

- ・経済・社会の変化、景気、市場の状況、政治などから、知識の幅を広げ、職業選択や働き方について深く考えることができる
- ・社会を身近なものとして捉え、新聞・ニュースなどから業界理解を深めることができる
- ・面接のルールやマナーを学び、適切な自己表現ができる
- ・説得力のあるエントリーシートや自分の個性を生かした履歴書を作ることができる
- ・社会人に移行する覚悟ができる

<授業のキーワード>

アイデンティティ、問題発見・解決能力、情報収集・探索能力、論理的文章表現、レジリエンス

<授業の進め方>

- ・実践に沿った事例検討と模擬選考練習を行い、本番への自信を深める授業を中心とする

(進捗によってシラバスの順序が変わる場合があります)

<履修するにあたって>

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、自らの就職活動にマイナスの影響を及ぼす事につながります。ステップアップのチャンスと捉え積極的に関わり、自分を成長させることに挑戦してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業内で学習した問題についての回答練習を行う、また類似問題を研究することで就業力は高まります。よって、1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

<提出課題など>

授業中に指示します。出席カードに記載されたこと、提出された課題に対しては、次の授業時に総評などを行います。

<成績評価方法・基準>

- ・受講態度、ディスカッションの取り組み度(自主性・協働・判断力) 40%、出席カード(思考力) 30%、最終課題・発表資料など(表現力) 30%の割合で総合的に評価する。
- ・定期試験は実施しない。

<テキスト>

ハンドアウト(スライド資料)を適宜配布します

<参考図書>

一般社団法人日本ポジティブ心理学協会(JPPA)(2016)『折れない心のつくりかた -はじめてのレジリエンス

ワークブック-』すばる舎

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本講義の位置づけと狙い。授業の進め方とルール(マナー)

第2回 自分を客観視する

これまで培ったスキルをふりかえり成長の棚卸しする
コラボレーションルーブリックを通して自分を評価する
第3回 就活準備(1)

就職活動の基礎

・スケジュール

・業界動向研究: チームで業界について調べる、インターンシップ情報を共有する

・新聞の読み方を学ぶ

第4回 就活準備(2)

自己分析

自分の特徴・個性や考え方などのアイデンティティに出会うことで、個性に気づく

第5回 就活準備(3)

人間関係形成力

第一印象で失敗しないためのマナーと話し方・聴き方を身につける

第6回 就活準備(4)

ビジネスコミュニケーション

敬語・ビジネス文書に関する知識を理解し、口頭だけでなくオンラインでのコミュニケーションを学ぶ

第7回 自分を知る

・自己理解の促進のため、自分の対人関係におけるクセをつかむことで、よりよい対人関係の構えを知る

・自己PR文を作成する

第8回 ゲスト講師

先輩の学生生活や、社会人の仕事などについて話を聴く

第9回 グループディスカッション試験対策

他者のさまざまなアイデア、価値観の多様性を結果に生かす議論を学ぶ

第10回 グループディスカッション試験対策

コンセンサス(合意形成)

目標達成のために、最適な結果を得るための議論を学ぶ

第11回 プレゼンテーション能力を高める

大勢の前での発表において、わかりやすく伝え、主張するコツを学ぶ

第12回 レジリエンスとは

ストレスや自信喪失などのリスク回避と、しなやかな回復力で人生を前向きに考える理論を学ぶ

第13回 面接試験対策

模擬面接会

第14回 面接試験対策

模擬面接会

第15回 最終課題

レポート提出

2022年度 前期

2単位

キャリア形成入門

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、「自分」と「他者」を理解しながら、人文学部のディプロマ・ポリシー7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

高度なテクノロジーとデジタル化の急速な進展があらゆる産業や社会に大きな変革をもたらす現代。多様化する価値観と次々とあらわれる諸問題に、他者と協力しながら柔軟かつたくましく対応していけるよう、「自らの人生を生き抜くための基礎力」を養うことを目的とします。

本講義は、「キャリア形成科目」の基礎力に含まれる、2つのテーマについて主に学びます。

「自分を知る」：世の中の多様な個性を理解し、自己理解を深め、互いに認め合うことを大切にして意見交換する力

「コミュニケーション能力」：多様な集団・組織の中で、コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら、協働性をもって成果に貢献していく力

自分らしく人生を生きるために、生涯を通じてどのような「役割」を重ねていくのか、そのためにこれからのどのような大学生活をおくるのか、などキャリアのデザインを描き、行動を開始することが重要となります。この2つの力は、学内外のあらゆるシーンで必要とされ、大学時代を有意義に過ごすためにも必要な力であり、将来自立した社会人となるための基礎となります。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である

< 到達目標 >

- ・その場に合ったコミュニケーション手段（読む・書く・話す・聴く）を工夫し使うことができる
- ・知らない他者と意見交換することに慣れている
- ・自分に自信を持つ
- ・人文学の知見にもとづき、知的好奇心のもと学習意欲

が深まる

< 授業のキーワード >

人間関係形成能力、OECDキー・コンピテンシー、ロジカルシンキング（論理的思考）、アクティブ・ラーニング（主体的・能動的な深い学び）、ダイバーシティ

< 授業の進め方 >

本授業では、個人の責任において自由な発言やコミュニケーションを尊重していますので、自由闊達な意見交換を存分に楽しんでください。ただし、授業で知り得た個人情報などを無断でネット上に流すことはやめてください。

< 履修するにあたって >

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、他の学生に迷惑がかかります。自らの考えで積極的に関わり、自分を成長させることに挑戦してください

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義の内容を整理しておくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

・毎回出席カード（振り返りレポート）を提出する（必須）。次の授業時に総評などを行う。

・課題レポートの提出方法として、学習管理システム（LMS：Learning Management System）である「dotCampus（ドットキャンパス）」などを使用する。

・教員からの指示をよく聞くこと

・提出期限を確認し、計画的に提出計画をたて、自己管理を行うこと

< 成績評価方法・基準 >

・受講態度やディスカッションの取り組み度（自主性・協働）40%、出席カード（思考力）30%、最終課題・発表資料など（表現力）30%の割合で総合的に評価する。

・定期試験は実施しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション（授業概要の説明）

キャリア形成入門の位置づけと狙い。授業の進め方とルール・マナー。

第2回 キャリアについて考える

大学とはどういうところか。未来につなぐ大学生活について考える。

第3回 コンピテンシー

社会で求められるキー・コンピテンシー（主要能力）について学ぶ。

第4回 自己理解

性格テストから自己理解を促進する。対人関係の基本的な構えを知る。

第5回 コミュニケーション（1）

私のコミュ力とは。自分を伝える（話す）、他者の意見

に耳を傾ける（聴く）。

第6回 コミュニケーション（2）

集団活動に必要なコミュニケーションスキルと自分の役割

第7回 コミュニケーション（3）

聴く力、理解する力、伝える力（書く・話す）を活用した意思疎通とは

第8回 ロジカルシンキング

筋道だった合理的な思考とそれを理解するための様々な方法を使い、自分の意見を深く理解した上で、わかりやすく主張する力を学ぶ。

第9回 コミュニケーション実践

グループワーク（チームワークを体感する）

第10回 コミュニケーション実践

ブレインストーミング、KJ法などを使って提案や意見交換の方法を学ぶ

第11回 コミュニケーション実践

グループワーク・グループディスカッションを通してプレゼンテーションを学ぶ

第12回 先輩から学ぶ

先輩、学内支援者、OBOG、社会人、教員などから、アドバイスを聴き、キャリア形成のヒントをつかむ。

第13回 私のキャリアデザイン

他者からの評価と自己評価。またPDCAサイクルを回し、経験からの深い学びを次に生かす。今後の行動策定と学修プランを作成する。

第14回 グループ課題研究

チーム対抗「課題」研究発表。一つの事案についてプレゼンテーションスライド（パワーポイント）を使って、全員で発表する。

第15回 最終課題

自分の「特徴」「傾向」を再確認し、態度や行動を見直す。

レポート提出。

2022年度 後期

2単位

キャリア形成入門

新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、「コミュニケーション」を理解しながら、人文学部ディプロマ・ポリシー7.8に示す「主体性・協働性」を身につけることを目指すものです。

デジタル技術とグローバル化の急速な進展があらゆる産業や社会に大きな変革をもたらす現代。直面するであろう社会の変化に流されることなく、様々な課題に柔軟

かつたくましく対応していけるよう、「自らの人生を生き抜くための基礎力」を養うことを目的とします。

本講義は、「キャリア形成科目」の基礎力に含まれる、2つのテーマについて学びます。

「多様性（ダイバーシティ）」：自己理解を深めると同時に、他者の多様な個性や価値観にも触れ、互いに認め合うことを大切しながら、世の中の問題解決を探る

「アサーティブ・コミュニケーション」：多様な集団・組織の中で、コミュニケーションを通して、自分も他人も大切にすかかわり方や、無理をし過ぎない合理的な方法を学習する

「人文の知研究発表会」を通じて、人文学部の学びを理解し、学修意欲を高める

人は、固定概念や偏見から物事を判断してしまうことが多々あります。世論、マスコミのイメージ情報、身近な周囲の見解などに引きずられ、本当に正しいのか真偽を確かめずに否定するようなかかわり方は、人間関係だけでなくチームの意思決定にも影響を及ぼします。

本講義を通じて身につけるこの2つの力は、学内外のあらゆるシーンで必要とされ、大学時代を有意義に過ごすためにも必要な力です。また、将来、創造力豊かな社会人となるための基盤となります。

教員は、民間企業で実務経験を持つキャリアコンサルタント資格保有者であり、実践的教育から構成されるキャリア理論を用いた授業科目である。

< 到達目標 >

- ・その場に応じたコミュニケーション手段（読む・書く・話す・聴く）が使える
- ・知らない他者とでも、相手も自分も尊重した対話ができ、協働で成果にかかわることができる
- ・さまざまな社会問題について意見交換ができる
- ・安心と安全のチームづくりに挑戦できる
- ・人文学部の学問分野への興味を広げ、自律的に学修できる

< 授業のキーワード >

クリティカルシンキング、ダイバーシティ、アサーション、グループセラピー、アクティブ・ラーニング（主体的・協働的な深い学び）、社会問題、シチズンシップ

< 授業の進め方 >

学習を社会化したグループワークを通して、体験的理解を中心に進めます

（進捗によってシラバスの順序が変わる場合があります）

< 履修するにあたって >

受け身、非協力的、不真面目な態度でグループワークに臨むと、グループ内での信頼形成に影響します。自らの

考えで積極的に関わり、自分を成長させることにも挑戦してください

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義の対象であった教科書と内容を整理しておくこと。(目安として1時間)

< 提出課題など >

・毎回出席カード(振り返りレポート)を提出する(必須)。次の授業時に総評などを行う。

・課題レポートの提出方法として、学習管理システム(LMS: Learning Management System)である「dotCampus(ドットキャンパス)」などを使用する。

・教員からの指示をよく聞くこと

・提出期限を確認し、計画的に提出計画をたて、自己管理を行うこと

< 成績評価方法・基準 >

・受講態度やディスカッションの取組み度(自主性・協働) 40%、出席カード(思考力) 30%、最終課題・発表資料など(表現力) 30%の割合で総合的に評価する。

< 参考図書 >

平木典子(2013)『図解 自分の気持ちをきちんと「伝える」技術 人間関係がラクになる自己カウンセリングのすすめ』PHP研究所

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション(授業概要の説明)

キャリア形成入門の位置づけと狙い。授業の進め方とルール・マナー。

第2回 キャリア・ソリューションについて考える

夏休みの振り返り。未来につなぐ大学生活について考える。

第3回 コンピテンシーを高めるアクティブラーニング社会で求められるキー・コンピテンシー(主要能力)について学ぶ

第4回 ダイバーシティを学ぶ

個性や違いを認め合い、その多様性を集団の成果につなげる楽しさを学ぶ

第5回 アサーティブ・コミュニケーション

相手を尊重しすぎるのではなく、対等に自分の要望や意見を伝えるコミュニケーション法を理解する

第6回 アサーティブ・コミュニケーション

事例検討

第7回 コミュニケーション・スキル

ポジティブリスニングとネガティブリスニングからコミュニケーションを通して「傾聴」の重要性を知る。

第8回 コミュニケーション・スキル

5つのコミュニケーションスキルを使った会話を体験する。

第9回 社会問題について考える

時事問題・トレンド・日本の課題など社会の中で起こっている事象や問題について、さまざまな考え方や主張があることを知る

第10回 問題解決に挑戦する

今起きている社会問題やトレンドと、自分の「学び」の関係性を考える

第11回 グループディスカッション応用編

与えられたテーマについて、グループワークを行い、答えを導き出す。

第12回 グループ研究課題

人文の知科目群共同研究

人文の知科目群1~9においてチーム毎に科目を選び、学習内容や特徴・深い学びを復習して内容をまとめる

第13回 グループ研究課題

人文の知科目群共同研究

学習内容や特徴を発表するため、プレゼンテーションスライド(パワーポイント)を共同で作成する

第14回 グループ課題研究

人文の知科目群共同研究

発表会

チーム対抗「人文の知」研究発表会

第15回 最終課題

自分の「特徴」「傾向」を再確認し、態度や行動を見直す。

2022年度 後期

2単位

教育課程論

水谷 勇

< 授業の方法 >

講義(状況によってはオンデマンドまたはハイブリッドで実施)

< 授業の目的 >

教育の本質を理解し、教育を生活の中に活かしていく知恵と手法を習得させることを目的としている。より具体的には、教育課程に関する諸概念を理解し、教育課程作成の意義、学習指導要領との関係を正しく理解させる。また、教育課程編成及び評価の手法を理解し習得させる。教育課程への理解を深めることで、一市民として学校教育に対する理解を深め、学校教育の良き支援者へと育てるとともに、学生自身が自己の人生や生活の良く設計者・運営者になる一助となることを目的とする。こうして学部DP全般に関わってその達成の一助となる授業である。

学校教育の質を決定的に左右するのは、どれだけ生徒の発達や関心、地域の実態に即した教育課程を編成できたのか、それを最適に実施に移すことができたのか、適切な評価が行われているのかである。つまり、教育目標についての適切かつ明確な理解と、生徒の発達段階の正確な理解が必要であるし、子どもたちはどのような事柄

に関心を持っているのか、どのようにすれば、子どもたちの興味関心を探り当て、それを引き出すことができるのかについて教師は常に心がけておかなければならない。また、子どもたちの日常生活空間は学校だけでなく、地域社会にもある。学校の所在する、あるいは子どもたちの居住する地域は様々であり、それらの地域の多様な特色を生かした教育が行われてこそ、子どもたちの日常生活に引き付けた、興味関心に即した教育実践が可能となる。たとえ立派な教育課程ができたとしても、その理念を実行する教師の力量が問われざるを得ないし、教師の授業実践の有効性も検証されなければならない。授業と教育課程の相互作用についての評価の重要性が常に求められる根拠はここにある。また、教育課程は日本的な学校教育の特性を多分に反映しているが、国際的に見れば、特異性も理解できよう。教育課程の比較研究も必須である。さらには、学習指導要領の変遷をたどるとともにこの授業では、学校教育活動の中核的な位置にある教育課程について、その概要と今日的課題について明らかにすることを目的とする。また、新学習指導要領で必須となったカリキュラム・マネジメントについて正しく理解し、実践する力を培う。

この授業は、積極的に参画することで、人文学部DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

<到達目標>

1. 教育課程に関する諸概念を理解し、教育課程作成の意義、学習指導要領との関係を正しく理解する。また、教育課程編成及び評価の手法を理解し習得する。
2. 上記成果を期末試験において答案として書き上げることができる。
3. 上記成果を、実際の教育課程を作成し、レポートとして提出することができる。
4. これらの作業を通して教育への深い理解を形成するとともに、文献を読み込み理解する力、自らの経験を省察し、それを文章にまとめて他人に伝える力、自分が書いた文章を読み返して、論理構成や記述を見直し、レポートや答案としてまとめる力をつける。

<授業のキーワード>

教育課程に関する諸概念

学習指導要領の歴史と現行の特徴

中学、高校の教育課程

教育課程編成及び評価の手法

諸外国の教育課程

<授業の進め方>

事前に配付した講義資料を受講生が事前学習してきていることを前提に、資料の補足と受講生からの疑問に答える形で授業を進める。これゆえ、受講生は学習成果(質問・疑問を含む)を毎回小レポートで提出することが求められる。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足

を加えながら次の課題を提示する形で授業を進める。

<履修するにあたって>

質問等は、mizutani_human.kobegakuin.ac.jp まで。

「_」を[@]に代えて送信してください。

<授業時間外に必要な学修>

配布された授業資料の熟読・理解や関連図書の読み込みとして、最低でも毎回1~3時間の予復習をして臨んでください。

<提出課題など>

毎授業ごとに聴講の証となる学びの記録(出席カードに記入)の提出を求めるほか、授業終了時までにレポートの提出(実際に教育課程を作成してレポートする)を求める。

提出された課題に対しては、原則、次回の授業で、採点・コメントして返却するなど、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

ミニレポート(15%)、大レポート(45%)、定期試験(40%)。

毎回の小レポート(1点×15)の提出が3分の2にあたる合計10未満の場合、評価なしになります。

レポートは、講義を踏まえて、各自でどれだけ学習して深めたかを評価の尺度とします。定期試験は、講義内容の総まとめとしての筆記試験です。しっかり、講義資料を読み込むとともに、図書館利用や文献読破による事前・事後の深め学習に精励してください。

教職履修者に対しては大レポートは総合学習の指導案の作成提出(20時間以上分)になります。

<テキスト>

現行及び2018年に公表された新学習指導要領(総則及び、自分の取得教科の部分)

メイン：柴田義松編『教育課程論』学文社。

サブ：山崎準二編『教育課程論』学文社

<参考図書>

新学習指導要領とその解説文書

詳細については授業中に指示します。

<授業計画>

第1回 本講義のガイダンス

本講義の概要を述べるとともに、教育課程、カリキュラムといった基本用語の解説を行う。

第2回 カリキュラムの思想・理論

カリキュラムの基本問題について解説するとともに、その思想・理論の諸系譜を整理・解説する。

第3回 カリキュラムの編成原理

カリキュラムの編成原理について説明し、各自がカリキュラムを作成するための実践的なスキームの形成をめざす。レポートとして実際にカリキュラムを作成するという課題(本講義終了時が締め切り)と関連している。

第4回 教育目的・目標と学力問題

教育目的・目標の意義と学力問題について、学習指導要

領、カリキュラムと教育方法、それぞれの関連について述べる。

第5回 学習指導要領とカリキュラム

今日の我が国における教育課程行政とその仕組みについて述べる。学習指導要領とカリキュラムとの関係について概説し、現行学習指導要領の特質を明らかにし、その下での教育課程編成、カリキュラム作りの工夫などを紹介する。

第6回 カリキュラムの変遷と改革動向

前時の補足をしつつ、カリキュラムの歴史と改革動向について簡潔に説明し、受講生の基本的な理解と探求のための枠組み作りをめざす。

第7回 カリキュラムの開発と評価

カリキュラム開発と評価の原理と様々な手法について解説する。

第8回 中間テスト

これまでの授業の理解度を確認する。

第9回 テスト返し

テスト返却・解説を通してこれまでの再学習を行い、弱点を克服し、理解の精度は上げる。このための補足的な講義・解説を行う。

第10回 中学・高校教育と教育課程

中学、高等学校教育の特質とその教育課程のそれぞれの特質について述べる。

第11回 道徳・特別活動とカリキュラム

教科外教育とカリキュラムについて、とりわけ、道徳、特別活動に焦点を当てて述べる。

第12回 総合的な学習、設置趣旨

総合的な学習についてその設置趣旨等を踏まえ、また、先進的事例などを紹介しながら、その基本的理解を図る。

第13回 総合的な学習、先進事例、など

前時の続きとして、先進事例を列挙・検討し、総合的な学習の時間の運用について理論的・実践的な理解を深めることをめざす。併せて、レポート課題について詳しく解説し、レポート作成上の注意・解説を行う。

第14回 諸外国のカリキュラム

諸外国のカリキュラムについて、先進国とアジアの近隣の国々などを紹介し、我が国の特質とあり方を探る。

第15回 21世紀のカリキュラム（カリキュラム研究の課題）

上記講義のまとめを行うとともに、カリキュラム研究の課題を列挙し、今後のさらなる学習に向けた課題と方法論を提示したい。

2022年度 前期

2単位

教育制度論

立田 慶裕

< 授業の方法 >

講義

講義を基本とする。各講義の内容については、基本的な知識の習得のために、小テストやレポートを課する。

講義では、

第1回の講義から、対面講義を行うことを予定していますが、コロナ禍の状況によって、進め方が変わります。各講義の動画は、one drive に掲載する。

講義では、LMSのmanabaを利用します。

レポートとアンケートは、manabaで提出すること。

ManabaにみなさんのIDとパスワードを用いて入ります。

manabaの利用は、学内情報システムの画面上のタブ「学内システム」をクリックし、その下部にある「manaba」をクリックして、ユーザー画面でIDとパスワードを入力して利用する。IDとパスワードは、別途、受講者に連絡する。

Manabaの画面には、大学外部からアクセスするときは

<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp>

（スマホの場合も同様のアドレスです）のアドレスを用います。

何か、質問がある場合は、

tatsuta@human.kobegakuin.ac.jp へ遠慮なくどうぞ。

< 授業の目的 >

教育制度について、教育がなぜ社会で必要とされるのかを考えることから始め、その教育を実現するための社会制度としての教育制度についての基本的知識を習得する。さらに、教育制度の基本としての教育基本法の意義を理解し、その目標実現のためにはどのような制度が必要かを探求する。加えて、現代の日本の教育制度の現状を欧米諸国の制度と比較しながら、その課題を考える。この目的達成のため、本学DPの専門的知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力と共に、主体的に深い学びを行うことを目指す。国立教育政策研究所にての20年以上の教育研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

教育制度についての認識を持ち、その意義を説明でき、積極的に考える態度を持った学生の形成を到達目標とする。具体的には、教育制度の重要性、とりわけ教育基本法に則る公教育行政と制度の現状と課題について明確な認識を持ち、考え、問題に対処できる学生を育成する。社会の変化に応じた急速な教育改革の進行中、現代の教育課題についての問題意識を持ちながら、実践的な教育問題の解決力を備えた学習者へと成長できることを期待する。特に、教職課程の学修を目指す学生には、教員という立場から現代の教育制度の課題について建設的な

議論ができることを目標とする。

< 授業のキーワード >

教育制度、公教育思想、学校教育制度、教育基本法、教育行政、小学校、中学校、高等学校、大学、生涯学習

< 授業の進め方 >

講義を基本とする。各講義の内容については、基本的な知識の習得のために、小テストやレポートを課する。またオンライン講義では、manabaを利用します。

講義では、

第1回の講義から、対面講義を行うことを予定していますが、コロナ禍の状況によって、進め方が変わります。

各講義の動画は、one drive に掲載する。

レポートとアンケートは、manabaで提出すること。

manabaの利用は、学内情報システムの画面上のタブ「学内システム」をクリックし、その下部にある「manaba」をクリックして、ユーザー画面でIDとパスワードを入力して利用する。IDとパスワードは、別途、受講者に連絡する。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の事前学習として、シラバスに表示されているテーマについての情報収集を行うこと。事後学習としては、毎回の授業終了後提供する、講義のコンテンツについて、振り返り学習を行い、自身のポートフォリオに制度論ノートを作成するようにしていくこと。

< 提出課題など >

オンライン上のアンケート回答。プロジェクト学習でのレポート提出等。

< 成績評価方法・基準 >

講義中に実施する課題レポート（200字以上のアンケート形式）による形成的評価と、

総括的なレポートのレポート提出（1回）

および最終テストで評価する。

テストでは6割以上の得点の習得

総括レポートは、A4版用紙（1200字）×3枚以上を下限とし、内容、参考・引用文献などのレポートの形式の遵守を基準として評価する。

< 参考図書 >

指定図書は、各講義で示す。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の目的、講義の内容、方法、評価法についての説明と講義への動機付けのための教材を提供する。

第2回 近代以前の学校

世界と日本の教育史として、近代以前の教育制度について講義する。

第3回 公教育の思想史

欧米および日本における教育思想を中心にその概略を説

明し、公教育がなぜ必要とされるようになってきたかを論じる。

第4回 近代学校制度の成立と展開

日本における明治から大正、昭和戦前期までの教育制度の歴史を講義し、いかに現代の教育制度へと展開されるようになってきたかを講義する。

第5回 戦後の学制改革

第2次世界大戦後の日本において、教育制度がどのように形成されていったかを講義する。20世紀後半までの教育制度について論じる。

第6回 教育基本法とは何か

第1回から第5回までの講義内容について、知識確認のため、小テストを行い、学生の知識の定着化を図る。さらに、戦後教育の要となる教育基本法の内容とその意義、改正された教育基本法について論じる。

第7回 学校と教育行政 1

教育行政として、学校に大きく関わる文部科学省と地方教育行政の組織やその活動について論じ、教育委員会が持つ役割を論じる。

第8回 学校と教育行政 2

小学校、中学校、高校を中心に学校の組織構造を論じ、学校管理職や教員の役割、そして学校の運営、チーム学校やカリキュラムマネジメントの重要性等について論じる。

第9回 義務教育制度の現状と課題

小学校、中学校の教育制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じると共に、プロジェクト学習を行い、その成果をレポートとして提出する。

第10回 後期中等教育制度の現状と課題

高校を初めとする後期中等教育の制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じる。

第11回 高等教育制度の現状と課題

大学や大学院の教育制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じると共に、プロジェクト学習を行い、その成果をレポートとして提出する。

第12回 生涯学習と社会教育の展開

戦前からの社会教育や20世紀後半に発展した生涯学習の制度を中心に、その統計、政策から現状を論じ、どのような課題があるかを論じる。同時に、政府が戦後展開してきた教育制度改革について、これまでの歴史を振り返るとともに、現在の教育改革がどのように進められているか、新たな学習指導要領の内容を含めて論じ、現在の課題を講義する。

第13回 総括的評価

第6回から第12回までの講義から、学生自身が興味を持つテーマを選択させ、そのテーマについて、自分が得た認識と解決すべき問題について考えるレポートを総括的

な評価の方法として提示する。レポートの構成、評価のポイントを提示することで、学生自身がより高度な内容のレポートを作成できるよう指導する。オンライン上での提出とする。

第14回 参考文献紹介

参考文献を紹介する。

第15回 Q & A

疑問のある人への回答機会とします。オンライン上での質問に回答します。

2022年度 後期

2単位

教育と倫理

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 省察的实践における暗黙性と創造性を、ベルクソンの哲学から再考する。

目的

省察的实践というD.A. ショーンによる実践知の認識論を、そのベルクソン哲学との類縁性を基盤として批判し、再構築します。

ショーンは「専門家は行為の中でいかに思考するか」と問い、専門家の専門性の実質を明らかにしようとした。その試みは、従来、理論的にも制度的にも従属的に扱われてきた専門家たちの実践的な知を、実践の中に埋め込まれた暗黙の理論として取り上げ、再評価するものです。ショーンのこの研究は、日本では教育学において紹介され、教育現場における教師たちのわざartistryの秘密を明らかにし、正當に評価するものとして受容されました。

本講義は、ショーンの研究をベルクソンの哲学から捉え直すことで、省察的实践が持つ暗黙性と創造性を、ショーン自身の理解を超えて問い直し、明らかにします

そうすることで、受講者の目を、混沌と錯綜のただなかで行われる新たな理解と行為の方向の模索へと、そしてそれを可能にするわざないしは方法へと、開きます。そして、将来的に、受講者が省察的实践を行いうる知的土壌を培います。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

目標

・D.A. ショーンにおける省察的实践を理解し、説明できる。

・M. ポランニーにおける暗黙知を理解し、説明できる。

・ベルクソンの哲学の骨子を理解し、説明できる。

・省察的实践をベルクソンの哲学から批判的に検討できる。

・受講者が将来的に省察的实践を行う土台を築く。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深めること。(目安として1時間)

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察(60%)、レポート課題(40%)

< 参考図書 >

D.A. ショーン、柳沢昌一、三輪健二監訳『省察的实践とは何か プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房、2007年。

マイケル・ポランニー、高橋勇夫訳『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫、2003年。

アンリ・ベルクソン、原章二訳『精神のエネルギー』平凡社、2012年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の全体像について。

第2回 省察的实践とは何か

D.A. ショーン「省察的实践」の概要を理解し、日本の教育学におけるその導入と受容を概観する。

第3回 「行為の中の知の生成」

「行為の中の知の生成」knowing-in-actionの概念を検討する。

・「非論理的なプロセス」、言語化できない知

・「否定する声」

・M. ポランニー「暗黙知」

第4回 「行為の中の省察」

「行為の中の省察」reflection-in-actionの概念を検討する。

・行為のプロセスに内在する省察

・ジャズミュージシャンたちによるインプロビゼーション

ンの例

・子どもたちによるブロックのバランス実験の例

第5回 「実践の中の省察」

「実践の中の省察」reflection-in-practiceの概念を検討する。

- ・専門家の専門性、わざartistryの構成要件
- ・「自分の実践の中で(in)省察する」
- ・四つの事例、トルストイの教員養成論

第6回 省察的实践と

ベルクソンの哲学

D.A. ショーン「省察的实践」とベルクソンの哲学との類型性を検討する。

- ・パルメニデス的思考とヘラクレイトス的思考
- ・「行為内省察」とベルクソン哲学の直観論

第7回 ベルクソンの哲学

ベルクソン哲学の骨子を理解する。

- ・持続とは何か。
- ・記憶の潜在性
- ・生成の「予見不可能性」と知性の批判
- ・直観、生成に内的な反省

第8回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(1)

ショーン、「行為内知」における「質的理解」と「非論理性」

ベルクソン、持続の「質的多様性」と「言表不可能性」

第9回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(2)

「行為内知」とベルクソン哲学における直観の「否定の力」

第10回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(3)

- 「行為内知」の暗黙性と記憶の潜在性
- ・ベルクソン『物質と記憶』の記憶論
- ・現在における過去の潜在的存続

第11回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(4)

- 「行為内省察」と生成に内的な「反省」
- ・ベルクソン哲学における「反省」としての直観
- ・「出来上がったもの」から「出来上がりつつあるもの」へ

第12回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(1)

「行為内知」の暗黙性と、「行為内省察」における「フレーム実験」解釈との問題を、ベルクソン哲学における記憶の潜在性という観点から批判し、再検討する。

第13回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(2)

「行為内省察」における「状況との対話」と「問題の枠組み転換」

- ・ショーンによるデザイナーと学生のプロトコル分析

- ・「予期しない変化」の発生と「問題の枠組みの変容」
- ・専門家における「絶え間なく進化する意味の体系」

第14回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(3)

ベルクソンの哲学からショーンにおける「問題の枠組み転換」の可能性の条件を問う。

- ・「行為内省察」の根底にあるプロセス
- ・記憶の潜在性から「行為内知」の暗黙性を捉え直す。
- ・全体と部分とのあいだ、包括的なものと局所的なものとのあいだ
- ・「行為内省察」が持つ創造性の秘密

第15回 総括

講義全体のレビューと総括

2022年度 後期

2単位

教育方法論

井上 豊久

<授業の方法>

講義及び演習

<授業の目的>

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、目的に適した指導技術を身に付ける。DP主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の実践的な育成を目指す。将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に学修できる力量形成を目的とする。

<到達目標>

1. 教育方法の基礎的理論と実践の理解、2. 主体的対話的で深い学びの理解と実践、3. 授業構成と技術の理解、4. 機器の理解と活用

<授業のキーワード>

アクティブラーニング、指導案、メディアリテラシー

<授業の進め方>

対面、オンライン授業とレポート、指導案の検討等で行う

<履修するにあたって>

自己研究を着実にを行うことを求めます。

<授業時間外に必要な学修>

課題の提出、自己研究を重視し、テーマに合わせ180分程度の時間外の学習を基本とする。

<提出課題など>

ミニレポート、中間レポート、最レポート、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

<成績評価方法・基準>

毎回のレポート40%、中間レポート20%、最終レポート40%の総合判断

<参考図書>

立田慶裕・今西幸蔵編『学校教員の現代的課題』法律文

化社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の目標・内容と方法、評価の説明

第2回 教育方法論の概要と意義

教育方法の理念、意義、諸問題

第3回 教育方法論の歴史1

ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト等の教育方法論

第4回 教育方法論の歴史2

デューイ、ブルーナー等の教育方法論、日本の教育方法史

第5回 教授理論

問題解決学習、系統学習、経験学習等

第6回 授業の構造と設計

学習指導の過程、授業設計、指導案の作成の基礎

第7回 主体的対話的で深い学び

主体的対話的で深い学びの意義と実践

第8回 中間レポート

これまでの授業の復習と中間まとめ

第9回 ワークショップ1

参画学習とは、アイスブレイキング、アクティビティー1

第10回 ワークショップ2

アクティビティー2 . プレインストーミング、カード分類法、

第11回 ワークショップ3

シェアリング、プレゼンテーション、気づきと共有、改善

第12回 指導案作成1

指導案作成の基礎・基本の理解、教育方法におけるICTなどメディアの理解

第13回 指導案作成2

指導案作成実践、メディアリテラシー、学校とICT、PC等の活用

第14回 プレゼンテーション、ICTを活用した授業

レポート提出による指導案発表、ICTを活用した教材の作成とプレゼンテーション、シェアリング

第15回 まとめ

総括と最終レポートに向けて

2022年度 前期

2単位

芸術文化実践

宇野 文夫

< 授業の方法 >

演習。

音楽のより深い理解のために、集中して聴き、楽譜を検討する。

初歩の和声学を実習する。

< 授業の目的 >

音楽の基礎的な仕組みを知り、音楽の簡単な分析が出来るようになる。

全学DPの2に則り、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけることを目的としたものである。

担当教員は、中学校教諭（音楽）、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

音楽を多角的に捉えることができるようになる。

音楽の仕組みを理解し、初歩的な音楽分析ができるようになる。

< 授業のキーワード >

音楽理論、楽典、楽式、和声、作曲技法、音楽分析。

< 授業の進め方 >

講義とそれに連動した実習。

< 履修するにあたって >

五線紙を使用するので必ず持参すること。

楽譜を追いながら音楽を聴ける程度に、楽譜を見ることが出来る状態にあることが望ましい。

楽譜が不得手な学生は、先に共通教育科目「基本音楽理論」（後期）を履修しているのが望ましい。

2021年度より担当者が代わり、内容も異なっているので注意すること。

担当教員のアドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

1週間に2時間。

< 提出課題など >

適宜課題を与え提出を求め、教師からフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度（毎回の課題の実施を含む）60%。授業内での小テスト（複数回）40%。11回以上の出席が必要。

< 参考図書 >

『楽典 理論と実習』石桁真礼生他著、音楽之友社。『和声 理論と実習1』島岡譲他著、音楽之友社。

< 授業計画 >

第1回 楽典の復習 その1

楽譜の仕組みと読み方。音符の読み方。

第2回 楽典の復習 その2

音階と調の仕組み。

第3回 和音と和声

和音と和声の解説。コード・ネームと和音記号。四声体について。

第4回 和声学 その1

、 、 和音による和声実習。

第5回 和声学 その2

、 和音による和声実習。

第6回 和声学 その3

カデンツの考え方と構造。トニック、ドミナント、サブドミナント。

第7回 和声学 その4

8小節課題の実習。

第8回 音楽鑑賞と分析 その1

ハイドン、モーツァルト。

第9回 音楽分析と鑑賞 その2

ヴィヴァルディ、ヘンデル。

第10回 音楽分析と鑑賞 その3

J・S・バッハ

第11回 音楽の形式と構造

フレーズや旋律の扱いと、形式構造を検討する。

第12回 音楽分析と鑑賞 その4

ベートーヴェン、シューマン、ブラームス、ヴァーグナー。

第13回 音楽分析と鑑賞 その5

履修者の希望する曲を取り上げる。

第14回 音楽分析と鑑賞 その6

ブルックナー、マーラー、ドビュッシー。

第15回 まとめと小テスト

授業内容を振り返り、小テストを行う。

2022年度 後期

2単位

芸術文化論

小原 延之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、身体表現のワークショップを通じて個人の表現力の向上と、人文学部のDPに示す「主体性、協調性」を育むことを目的とします。また、アンサンブル(即興劇・戯曲の創作)は、舞台芸術の専門知識を身につけ、共同創作ではアイデアの共有と発展を思考し、他者の異なった個性や価値観を見出す感性を育むことを目指します。

身体表現のために考案された数々のワークショップ・プログラムを体験することは、声の出し方、身体の動かし方への理解を深め、その訓練にもなります。それらは日常の生活の身体活動に新たな観点を与え、言葉や会話の

理解はコミュニケーション能力の向上につながります。即興劇を用いたエチュードは様々な場面に活かすことができ、社会生活での自己を表現する機会、例えば就職活動や人前で話しをする職業(教員としての振舞い等)に役立ちます。また演技で養われる自己客観性は、他者の個性の発見と価値観の理解にもつながります。この科目の担当者は、現役のアーティストとして活躍する実務経験のある教員が担当します。舞台芸術の可能性を実感し、社会生活に活かすことが目標です。

< 到達目標 >

人前でも臆することなく自分の意見や感情を伝えることが出来る。

他者とアイデアを共有し、イメージを発展させることが出来る。

自分の感情や考えを言葉や動きに表し、他者に伝えることが出来る。

演劇や身体表現の創作技法に触れることができる。

< 授業のキーワード >

演劇、表現、コミュニケーション、ワークショップ、声、身体、言葉、イメージ、人前に立つ、共有する、伝える。

< 授業の進め方 >

ウォーミングアップのためのエクササイズや、身体や声を使ったシアターゲームを通じて、身体表現の可能性を知る。自己の感性に基づいた日常生活での表現方法を探る。参考資料や講師からの提案をもとに、人前で話す、動くなどの表現の可能性を考える。また他者とアイデアを出し合い作品創作を行う。

< 履修するにあたって >

本授業は講義ではなく、実際に声を出したり身体を動かします。ジャージ等の動きやすい服装・靴などで参加してください。また、実習の内容によっては時間割や教室が変更になる可能性もあります。日頃から、演劇、身体表現のみならず、様々な芸術表現への関心を持っておい

< 授業時間外に必要な学修 >

演劇・舞台・オペラなどの上演を見る。またそれらのテレビ中継やインターネットなどの映像を見る。映画や音楽・美術鑑賞など芸術に触れる機会を月に2?3回程度は意識して持ってみてください。日常生活において、何かを美しいと思った瞬間や、違和感をもった出来事など、感情が動いたときに言語化することを意識的に行って

< 提出課題など >

短編のシナリオを提出してもらいます。個々の作品の可能性を探り、他者の意見を取り入れて推敲してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

授業時の自発的な発言と発表10%、グループ発表40%、シナリオ創作30%、劇評・レポート20%

・グループ発表では、その過程とアンサンブル、個々の

演技のレベルで判断します。

・短編シナリオは、現代演劇の理解と独自性、シナリオの完成度で判断します。

< 授業計画 >

第1回 コミュニケーションのとりかた

授業の進め方を説明します。それから初対面の人と、どうすればコミュニケーションがとれるようになるのか、実際に自己紹介から対話をはじめましょう。

第2回 コミュニケーションのとりかた

あらゆるシチュエーションを設定して、コミュニケーションのとりかたについて考えてみます、エチュード(即興劇)を使って、実際に演じてみます。

第3回 自己表現の可能性を探る

自分の身体をゆっくり観察してみよう。呼吸・声・言葉・動き・リズム、意識した通りに動かない身体を自覚してみよう。自分のことを他人に説明してみませんか。出来るだけ率直に、自分の良さが出るように。試してみるとわかりますが、自分のありのままを表現し、伝えることはとても難しいことがわかります。

第4回 自己表現の可能性を探る

自分の身体をゆっくり観察してみよう。呼吸・声・言葉・動き・リズム、意識した通りに動かない身体を自覚してみよう。自分のことを他人に説明してみませんか。出来るだけ率直に、自分の良さが出るように。試してみるとわかりますが、自分のありのままを表現し、伝えることはとても難しいことがわかります。

第5回 自己表現の可能性を探る

自分の身体をゆっくり観察してみよう。呼吸・声・言葉・動き・リズム、意識した通りに動かない身体を自覚してみよう。自分のことを他人に説明してみませんか。出来るだけ率直に、自分の良さが出るように。試してみるとわかりますが、自分のありのままを表現し、伝えることはとても難しいことがわかります。

第6回 他者との関係を考える

日常生活での対話を振り返り、様々なシチュエーションに適したテキストを創作して演じてみる。

第7回 他者との関係を考える

日常生活での対話を振り返り、様々なシチュエーションに適したテキストを創作して演じてみる。

第8回 他者との関係を考える

日常生活での対話を振り返り、様々なシチュエーションに適したテキストを創作して演じてみる。

第9回 演技とキャラクター

テキストを用いて演じてみましょう。ここでは演技について考えていきます。役作りを通じて、自己表現、および他者の観察、キャラクターについて考察していきます。

第10回 演技とキャラクター

テキストを用いて演じてみましょう。ここでは演技について考えていきます。役作りを通じて、自己表現、および

他者の観察、キャラクターについて考察していきます。

第11回 演技とキャラクター

テキストを用いて演じてみましょう。ここでは演技について考えていきます。役作りを通じて、自己表現、および他者の観察、キャラクターについて考察していきます。

第12回 創造と表現

物語の創作をします。作品の創作を通じて他者とアイディアの共有と発展を思考し、よりユニークで創造性あふれた創作活動をします。

第13回 創造と表現

物語の創作をします。作品の創作を通じて他者とアイディアの共有と発展を思考し、よりユニークで創造性あふれた創作活動をします。

第14回 創造と表現

物語の創作をします。作品の創作を通じて他者とアイディアの共有と発展を思考し、よりユニークで創造性あふれた創作活動をします。

第15回 表現と観察

作品を発表してみます。グループのアイディア、個々の表現がどのように伝わったのか、検証してみます。

2022年度 前期

2単位

芸術マネジメント

宇野 文夫

< 授業の方法 >

音楽のより深い理解のために、集中して聴き、楽譜を検討する。

初歩の和声学を実習する。

< 授業の目的 >

音楽の基礎的な仕組みを知り、音楽の簡単な分析が出来るようになる。

全学DPの2に則り、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけることを目的としたものである。

担当教員は、中学校教諭(音楽)、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

音楽を多角的に捉えることができるようになる。

音楽の仕組みを理解し、初歩的な音楽分析ができるようになる。

< 授業のキーワード >

音楽理論、楽典、楽式、和声、作曲技法、音楽分析。

< 授業の進め方 >

講義とそれに連動した実習。

< 履修するにあたって >

五線紙を使用するので必ず持参すること。

楽譜を追いながら音楽を聴ける程度に、楽譜を見ることが出来る状態にあることが望ましい。

楽譜が不得手な学生は、先に共通教育科目「基本音楽理論」（後期）を履修しているのが望ましい。

2021年度より担当者が代わり、内容も異なっているので注意すること。

担当教員のアドレス

uno@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

1 週間に2時間。

< 提出課題など >

適宜課題を与え提出を求め、教師からフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加度（毎回の課題の実施を含む）60%。授業内での小テスト（複数回）40%。11回以上の出席が必要。

< 参考図書 >

『楽典 理論と実習』石桁真礼生他著、音楽之友社。『

和声 理論と実習 1』島岡譲他著、音楽之友社。

< 授業計画 >

第1回 楽典の復習 その1

楽譜の仕組みと読み方。音符の読み方。

第2回 楽典の復習 その2

音階と調の仕組み。

第3回 和音と和声

和音と和声の解説。コード・ネームと和音記号。四声体について。

第4回 和声学 その1

、 、 和音による和声実習。

第5回 和声学 その2

、 和音による和声実習。

第6回 和声学 その3

カデンツの考え方と構造。トニック、ドミナント、サブドミナント。

第7回 和声学 その4

8小節課題の実習。

第8回 音楽鑑賞と分析 その1

ハイドン、モーツァルト。

第9回 音楽分析と鑑賞 その2

ヴィヴァルディ、ヘンデル。

第10回 音楽分析と鑑賞 その3

J・S・バッハ

第11回 音楽の形式と構造

フレーズや旋律の扱いと、形式構造を検討する。

第12回 音楽分析と鑑賞 その4

ベートーヴェン、シューマン、ブラームス、ヴァーグナー。

第13回 音楽分析と鑑賞 その5

履修者の希望する曲を取り上げる。

第14回 音楽分析と鑑賞 その6

ブルックナー、マーラー、ドビュッシー。

第15回 まとめと小テスト

授業内容を振り返り、小テストを行う。

2022年度 後期

2単位

言語と人間

建石 始

< 授業の方法 >

講義形式

毎回、身近で具体的な例を取り上げ、それについて考えることによって授業を進めていきます。日本語教育の現状を確認し、外国人に日本語を教えることがどういうことなのかを理解することが目標となります。

< 授業の目的 >

まず、日本語教育についての概説を行い、外国語としての日本語の見方を提示します。次に、日本語教育における音声、文字・表記、文法がどのようなものかを考えます。さらに、日本語を教えている際に遭遇する異文化間の問題を取り上げ、多文化共生のための日本語教育のあり方についても考えます。以上のことから、日本語教育の現状を確認し、外国人に日本語を教えることがどういうことなのかを理解することを目指します。

< 到達目標 >

1. 日本語教育の現状について理解することができる。

（知識）

2. 普段使っている日本語や日本語教育に興味を持つことができる。（態度）

3. 日本語を外国語として分析する視点を持つことができる。（技術）

< 授業の進め方 >

授業中に配布するプリントなどをもとに、身近で具体的な例を取り上げながら、それについて考えることで授業を進めていきます。また、授業時にグループワークやディスカッションを行うこともあるので、他の学生と協調して学習することが求められます。板書も多い授業なので、受講する学生は覚悟をもって受講してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に主題と内容をよく読んで、そのテーマについて理解を深めるようにしてください。（30分程度）授業後は、授業の内容を復習して、他の科目との関連も含めて整理しておくようにしてください。（1時間程度）

< 提出課題など >

毎回の授業時に出席カードを提出してもらいます。

<成績評価方法・基準>

授業中の質疑・発表30%，確認テスト60%，レポート10%

ただし、欠席が5回以上の場合、評価の対象とはしません。また、授業中に私語をした場合や携帯電話・スマートフォンを使った場合はその後の受講を認めません。

<テキスト>

テキストは使用せず、授業中にプリントを配布します。

<参考図書>

講義の時に、適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 日本語教育とは

(授業の概要説明)

日本語教育とはどのようなものなのか、また、日本語教育の現状について解説する。

第2回 国語教育と日本語教育

外国語としての日本語教育を考えるために、日本語教育と国語教育の違いについて考える。

第3回 日本語教育能力試験

日本語教師になるためにはどのような方法があるのかを解説します。また、その一つである日本語教育能力試験がどのようなものかを体験してもらいます。

第4回 日本語教育における音声(1)

外国人に日本語を教える際の音声について考えます。具体的には、日本語の音声の特徴を学びます。

第5回 日本語教育における音声(2)

外国人に日本語を教える際の音声について考えます。具体的には、学習者の音声の問題点、および、音声の指導法について解説します。

第6回 日本語教育における文字・表記

外国人に日本語を教える際の文字・表記について考えます。外国人に日本語の文字がどう見えるのか、外国人にとって日本語の文字のどこが難しいのかについても考えます。

第7回 これまでのまとめと確認テスト(1)

これまでのまとめを行い、確認テストを実施します。

第8回 日本語教育における文法(1)

外国人に日本語を教える際の文法について考えます。具体的には、学校文法と日本語文法の違いについて解説します。

第9回 日本語教育における文法(2)

外国人に日本語を教える際の文法について考えます。具体的には、学習者の文法の問題について解説します。

第10回 日本語教育における文法(3)

外国人に日本語を教える際の文法について考えます。具体的には、文法の指導法について解説します。

第11回 日本語教育における異文化コミュニケーション(1)

日本語を教えている際に遭遇する異文化間の問題を取り上げます。日本語教育における異文化間コミュニケーション

ンについて考えます。

第12回 日本語教育における異文化コミュニケーション(2)

日本語を教えている際に遭遇する異文化間の問題を取り上げます。多文化共生のための日本語教育のあり方について考えます。

第13回 これまでのまとめと確認テスト(2)

これまでのまとめを行い、確認テストを実施します。

第14回 学習者の日本語/日本語の教材分析

学習者の日本語がどのようなものかを観察するとともに、日本語の教材分析を行います。

第15回 レポート作成

これまでのまとめとして、レポートを作成してもらいます。

2022年度 前期

2単位

言語文化特別講義

藏園 和也

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、言語文化領域の専門科目に属し、学部のDPに示す 1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7.「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係します。異文化に属する人を理解する方法の一つとして、相手の考え方やものの見方、その国ごとに形成された制度や文化の背景を理解するという方法があります。現代の日本にも根付いている異なる文化から取り入れられた制度や文化にも目を向けて、その制度や文化が成立した背景について歴史や宗教、民族など様々な観点から考えていきます。

<到達目標>

1. 日本と世界の国々の文化的な違いとその背景を理解し説明できる。
2. 中学、高校で学んだ語彙、語法、文法を使って英文の内容を正確に把握できる。
3. 異なる意見を持つ仲間と積極的に議論し、考えを表現することができる。

<授業のキーワード>

intercultural communication, ceremony, food, gender, religion, past vs. future

<授業の進め方>

異文化について書かれた英語テキストを精読しながら、日本と異なる国々との間に存在する文化的な違いとその背景について理解を深めます。

授業までに予習してきてもらい、授業中は日本語訳の完成度を高めるためにグループで議論を行ってもらい、その成果を発表してもらいます。

授業の終わりには小テストを行います。何も見ない状態で授業で学んだ英文の日本語訳などをしてもらいます。

<履修するにあたって>

授業中に単語の意味が分からない場合にその都度調べられるように、英和辞典もしくは英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回授業の内容について予習し、分からないことがあれば辞書や文法書を調べる（1時間）。授業後には学習した内容を復習し、中間および最終発表の準備を進める（30分）。

<提出課題など>

前半に中間レポート課題を出します。また、最終授業では授業全体で学んだ内容に関する最終レポートを書いてもらいます。授業では振り返りのための小テストを行います。英文の日本語訳や英語訳等をしてもらいます。（オンラインの場合は方法が変わる場合がありますので、改めてお知らせいたします。）

<成績評価方法・基準>

中間レポート15%、最終レポート15%、小テスト60%、授業への積極的な参加10%

<テキスト>

石井隆之 監修『Cross-Cultural Awareness：英語で学ぶ異文化の不思議』開文社

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回目 はじめに

自己紹介、授業の進め方や成績の付け方等の説明をします。

第2回目 Wedding ceremonies in the world

結婚式は宗教や考え方によってスタイルが異なる。その背景にはどのような考え方の違いがみられるのかについて考えます。

第3回目 Funerals in the world

仏教式、神道式、キリスト教式、無宗教葬など、葬式と埋葬文化の違いについて考えます。

第4回目 Coming-of-age ceremonies in the world

日本と世界とで成人年齢や成人式のやり方に違いはあるのか。また、なぜ成人の日を祝うのかについて文化の違いから考えます。

第5回目 Toilets in the world

日本では時代と共におまる、かわや、ウォッシュレットへと変わってきたトイレですが、世界の文化とトイレとの関りについて考えます。

第6回目 Unusual foods in the world

ある国では当然のように食べる食べ物でも、ほかの国で

はその捉え方は異なります。食文化とその文化が成立した背景について考えます。

第7回目 Greek and Japanese mythologies

人や国によって信じるものは異なりますが、異国に伝えられる神話にも共通点がみられます。神話の背景に存在する異同について考えます。

第8回目 中間レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてきてもらい、授業内で中間レポートを書いてもらいます。

第9回目 Children's recreation in the world

子どもの夢は現代社会を映し出す鏡とも言えます。社会、文化を反映する世界の子供の遊びについて考えます。

第10回目 Sports of the world

アテネで始まった近代オリンピックが成立した背景やその精神、そして現代のオリンピックが持つ意味合いについて考えてみます。

第11回目 A strange custom

古来より人類には土を食べるという習慣があったとされます。その習慣が成立した背景に存在するものの見方、考え方について考えます。

第12回目 Regions vary in the world

宗教の違いが言語観や自然観の形成にどのような影響を与えるのかという観点から、日本と西洋の文化的な違いについて考えます。

第13回目 Is "right" always right?

日本語で「右腕」はプラス、「左遷」は?イメージを想起しますが、異なる言語では右と左にどのようなイメージを想起するのかについて考えます。

第14回目 P-time culture and M-time culture

時間の概念は文化によって異なります。単一的時間と多元的時間という時間概念の違いとその概念が成立した背景について考えます。

第15回目 最終レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてきてもらい、授業内で最終レポートを書いてもらいます。

2022年度 前期

2単位

神戸スタディーズ

田中 晋平

<授業の方法>

対面授業（講義）で実施する。

授業の内容にかんする質問などは、下記のメールアドレスにて問い合わせること（課題・コメントシート、レポートなどの提出は、dotCampusで行うこと）。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いにつ

いて 遠隔授業を実施する。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動すること。

学期開始前や授業期間内でコロナウイルスの状況が悪化した場合は、ハイブリッド授業あるいは遠隔授業へ移行する。

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学部のDPが示す、「人間の行動や文化を学際的に研究し教育することにより、現代社会の大きな変化に対応しうる人材の育成をめざし」、その目標を達成するための能力の修得を目指すものである。

・1896年に「キネトスコープ」が日本で最初に公開された神戸は、映画と深い繋がりをもった街であり、戦前から「西の浅草」と呼ばれてきた新開地には、多くの映画館が立ち並んでいた。かつての神戸では、どのように映画が観られてきたのか、その受容の歴史を学ぶことを通じて、都市への理解を深める。

・本授業は、人文学科比較文化領域の専門教育科目（2年次配当）に位置づけられる。

・教員は、これまで神戸映画資料館に勤務し、ノンフィルム資料の収集・保存や神戸の映画館マップ作成作業を進めてきた。実務経験のある教員として、神戸の映画史関連資料とその調査成果を活用した授業を実施する。

< 到達目標 >

映画が上映され、受容される空間の性質に注目する視点を身に付け、神戸という地域の映画文化とその歴史の独自性について具体的に説明できるようになること。

< 授業の進め方 >

・パワーポイントでスライドを提示する形式で進める。
・過去の神戸の風景を捉えた記録映像なども適宜提示する。

・授業の理解度を把握するため、受講生に課題を指示し、授業内容についてのコメントを提出してもらう。

< 履修するにあたって >

事前に専門とする知識などは必要ない。神戸の街や映画文化に関心を寄せていることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定した映画や資料に予め目を通しておいてもらう場合がある（90?120分）。

< 提出課題など >

課題・コメントシート（毎回）、学期末レポート。
学生から寄せられたコメントに対しては、次回の授業開始時にフィードバックを行うことで、理解度を高める。

< 成績評価方法・基準 >

課題・コメントシートの内容40%、学期末レポート60%

< テキスト >

特に定めない。オンラインストレージを活用して資料配布を行う。

< 参考図書 >

・板倉史明編『神戸と映画 映画館と観客の記憶』神戸新聞総合出版センター、2019年。

・神戸100年映画祭実行委員会・神戸映画サークル協議会編『神戸とシネマの一世紀』神戸新聞総合出版センター、1998年。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義全体の内容、成績評価の基準について詳しく説明する。

第2回 近代化する神戸

幕末に開港し、近代化を歩みはじめた19世紀末の神戸の歴史を概観する。

第3回 映画伝来

エジソンの発明した「キネトスコープ」が、神戸の神港?楽部で公開され、その後映画が普及していく経緯を考える。

第4回 新開地の映画館

「西の浅草」とも呼ばれ、数多くの映画館が立ち並んでいた戦前の新開地という街の成立について考える。

第5回 新開地の映画館

新開地を代表する劇場・聚楽館の歴史を中心に、サイレントからトーキーの時代に移行していった時代の映画館の変容について考える。

第6回 戦時下の神戸の映画館

国内が戦時体制に突入していくなかで、映画館にどのような役割が求められたのかを確認する。

第7回 戦時下の神戸の映画館

戦火で失われた神戸の街、映画館の被害を具体的な映像資料とともに検討した上で、戦後の焼け跡から映画館文化が再び立ち上がる過程を確認する。

第8回 戦後神戸の映画館

戦後に神戸の盛り場の中心が三宮に移り、大劇場などが建設されていった経緯を検討する。

第9回 ミニシアターの時代

映画産業が斜陽化するなか、80年代の東京から現れたミニシアターのブームが、神戸にどのように到来し、映画鑑賞のスタイルにも変化を及ぼしたか考える。

第10回 震災と映画館

1995年の阪神・淡路大震災が神戸の映画興行に与えた被害、および復興のプロセスにおいて映画上映が果たした役割について考える。

第11回 シネマコンプレックスの時代

本格的なシネマコンプレックスの進出がはじまる時代の流れを確認しながら、多様な映画を上映する環境を作るための取り組みについても考える。

第12回 地域映像アーカイブの役割

神戸の記憶を保存している、地域の映像アーカイブの役割について考える。

第13回 映画館マップのプロジェクト

過去の神戸の映画文化を身近に感じてもらうために、映

画館マップを作成する取り組みを紹介し、その役割を考える。

第14回 映画館マップのプロジェクト

映画館マップを活用した地域での取り組みを紹介し、その可能性と課題について考える。

第15回 全体のまとめ

授業内容の確認とまとめ

2022年度 後期

2単位

神戸スタディーズ

上田 学

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・本授業は、全学DPが示す、「幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができる」ことの修得を目指すものである。具体的には、身近な地域で製作された、過去の映像文化について知見を深めることで、現在の映像文化を捉え直す「メディア考古学」の考え方を身につける。

・私たちの周囲に、当たり前のように存在している映像文化は、歴史的な変遷を経て、現在の形式に至っている。そうした過去の映像は、現在の私たちにとって、決して無関係ではなく、むしろ将来の様々な映像の可能性を示唆している。身近な神戸市・兵庫県で製作・撮影された映画作品をテーマに、現代の映像文化を再考する。

< 到達目標 >

1．現代に生きる私たちにとって「他者」である、過去の映像文化を、身近な地域との関連で理解することで、現在の映像文化を捉え直し、未来の映像文化と向き合うための知識を身につける。

2．身近な地域に関わる過去の映像を分析し、解釈するための方法を理解し、自らの考えを文章として表現することができる。

< 授業のキーワード >

映画史

< 授業の進め方 >

・基本的にPower Pointを使った講義形式で授業を進める。適宜、必要な映画作品の抜粋を提示する。
・授業の理解度を把握するために、毎回の授業で前回授業に関する小課題を、第5・10回の授業で小レポートを提出してもらう。
・毎回配布する資料について、予習、復習に活用すること。
・出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< 履修するにあたって >

本授業は専門知識を必要としないが、ロケ地として取り上げた神戸市・兵庫県の各地域について、理解を深めておくことが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：授業の時間は限られているため、事前に映画作品の視聴を指示することがある。(90~120分)。

事後学習：毎回の授業で配布する資料を復習に活用すること(一回の授業につき目安として60分)。

< 提出課題など >

小課題(毎回)、小レポート(第5回・第10回)、期末レポート(第15回、2800字以上、規定字数に到達しないレポートは受領しない)。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 成績評価方法・基準 >

小課題(前回授業の内容・キーワードについて、2点×15回)30%、小レポート(10点×2回)20%、期末レポート(2800字以上)50%で評価する。

出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小テスト、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< テキスト >

特に定めない。毎回の授業で資料を配布する。

< 参考図書 >

神戸100年映画祭実行委員会・神戸映画サークル協議会『神戸とシネマの一世紀』神戸新聞総合出版センター、1998年

宝塚映画祭実行委員会編『宝塚映画製作所』神戸新聞総合出版センター、2001年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全体的な概要、進行方法と成績評価の基準について説明する。

第2回 初期映画

米仏で映画が発明された直後、19世紀末に神戸から輸入された初期映画について学ぶ。

第3回 湊川新開地の映画館街

日本最大規模の映画館街があった湊川新開地について学ぶ。

第4回 無声映画時代の神戸

無声映画時代の映画上映と、当時のロケ地としての神戸について学ぶ。

第5回 甲陽撮影所と芦屋撮影所

かつて甲陽園にあった東亜キネマの撮影所と、芦屋にあった帝国キネマの撮影所で製作された映画作品について学ぶ。

第6回 配給拠点としての神戸

関東大震災後、外国映画の輸入配給の拠点となった時期の神戸について学ぶ。

第7回 トーキー化と兵庫県

サウンドフィルムの普及が、兵庫県の映画館をどのように変えたのかについて学ぶ。

第8回 東宝の出現

小林一三の経営戦略と、東宝という映画会社の出現について学ぶ。

第9回 新開地の変化

新開地から三宮への映画館街の移行と、神戸の都市構造の変化について学ぶ。

第10回 宝塚映画

東宝配給の宝塚映画で製作された映画作品について学ぶ。

第11回 神戸映画サークル協議会

映画サークル運動の誕生と展開、現状という歴史的経緯について学ぶ。

第12回 アニメーションの中の神戸

『火垂るの墓』等、アニメーション映画に登場する神戸市・兵庫県について学ぶ

第13回 ロケ地としての神戸

阪神・淡路大震災後の神戸フィルムオフィスの誕生について学ぶ。

第14回 現在の神戸と映画

『ハッピーアワー』等、現在の神戸が登場する映画作品について学ぶ。

第15回 まとめ

講義の全体的な復習をしつつ、過去の映像文化が、未来の映像文化にどのように接続していくのかを考える。

2022年度 前期

2単位

神戸スタディーズ

川口 ひとみ

< 授業の方法 >

対面講義を予定している。

コロナの状況により遠隔授業（オンデマンド）になる可能性がある。

< 授業の目的 >

【人文学部DP】

地元神戸の歴史、文化、経済、災害を学び、基礎的・専門的な知識を深める。（知識・技能）

獲得した知識を活用し、広い視野から神戸について考察する力を高め、地域社会に貢献する人材となることが出来る。（思考力・判断力・表現力）

神戸という多様な文化・他者と共存する地域を学ぶことにより、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。（主体性・協働性）

< 到達目標 >

1、神戸の歴史、文化、経済、災害について基礎的・専

門的な知識を深める。

2、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働することで地域社会に貢献できる人材となる。

< 授業のキーワード >

神戸の歴史 神戸の文化 神戸の経済（観光） 震災と復興

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使用して講義を進めます。

授業終わりにコメントカードを記入してもらい次回授業時に共有します。

< 授業時間外に必要な学修 >

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと（週1時間）。自分の生活圏内で、この施設は何だろう、この碑には何が書かれているのだろうかなど普段気にしない周囲についてよく見てみる。

< 提出課題など >

* 対面授業の場合

毎回授業終わりに出席カードに指定した課題（授業のまとめなど）を書き提出（次回授業時フィードバック）（35%）

中間確認プリント（25%）

期末確認プリント（40%）

* 遠隔授業の場合

【授業の資料、課題提出はドットキャンパスで行なう】

・予習・授業・復習での作業は?書きで?なう。

・手書きの作業に用いるため、ノートを必ず?意しておかなければならない。

・ノートに書いた課題は、撮影して提出する。

・課題を提出する期限は授業の行われた日を含めて授業の4日後とする。

・課題提出期限とは別に、クイズ形式（4択問題）で答える際に回答時間制限（10問を10分で答えなさいなど）を設ける場合がある。課題はドットキャンパスでおこなう。

< 成績評価方法・基準 >

対面授業の場合

毎回の課題提出（35%）、授業内の中間（25%）、期末確認プリント（40%）の評価を以って成績を評価する。

* 遠隔授業の場合

・提出された課題に対する評価を以て成績を評価するための材料とする。

・最終的な成績は中央値補正法によって補正を?なう。

< テキスト >

指定なし。

< 参考図書 >

指定なし。適時授業時に示す。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方について説明し、神戸の概要と発展について学ぶ。

第2回 神戸の歴史 古代・中世

五色塚古墳、大輪田の泊、兵庫津ミュージアムなど神戸の古代中世の歴史を学ぶ

第3回 神戸の歴史 近世

日本開国と兵庫（神戸）開港など近世の歴史を学ぶ

第4回 神戸の歴史 近代

国際貿易都市としての神戸 ヨーロッパについて学ぶ

第5回 神戸の歴史 近代

国際貿易都市としての神戸 アジアについて学ぶ

第6回 神戸の歴史 近代

国際貿易都市としての神戸 日清修好条規と訴訟の解決

第7回 神戸の歴史 近代

山田作之助の生涯からみる神戸

第8回 中間確認プリントと近代

中間確認プリントとばいかる丸の歴史と神戸

第9回 神戸の歴史 現代

神戸市、海上都市・ポートアイランドの誕生など現代の神戸の発展を学ぶ

第10回 神戸の食文化

神戸の食文化について学ぶ

第11回 神戸と文化施設

神戸の文化施設について学ぶ

第12回 神戸と観光

神戸市がタイアップしたサブカルチャーと観光について学ぶ

第13回 神戸と災害・復興

震災と復興、文書の修復と保全活動、今後の取り組みについて学ぶ

第14回 期末確認プリント

期末確認プリントをおこなう

第15回 まとめ

授業の総復習

2022年度 後期

2単位

神戸スタディーズ

山下 史朗

< 授業の方法 >

講義（対面及び遠隔授業）を基本とし、一部で現地実習を実施します。

< 授業の目的 >

地域の歴史や成り立ちを知ることは社会生活を営む上で重要な意味を持っています。この授業では、まず150年前に全国に例のない旧五国を合わせて成立した兵庫県のはじまりの地である「兵庫」の繁栄と、そこから神戸市が発展した経緯を学ぶことにより人文DPの知識・技能を学ぶことができます。さらに2021年秋に一部開館、2022

年度中に本格開館する「県立兵庫津ミュージアム」と連携しながら兵庫津のプロモーション映像としてまとめることで、より地域に対する興味や関心が増すとともに、深い理解を得ることができ、その方法や資料の制作、公開の過程を通じて人文DPの思考力・判断力・表現力を身につけることができ、社会貢献にも繋がります。また、グループでの協働作業を通じてリーダーシップの発揮や集団での合意形成など人文DPの主体性・協働性を身につけるなど、社会で役立つ実践経験の場とします。

講師は長年にわたり兵庫県教育委員会に勤務し地域の歴史遺産の保存・活用に携わってきたほか、県立博物館の運営にも携わっており、授業を通じその実務経験を活かして学生と社会との連携や、広報について実践的に学んでもらいます。

< 到達目標 >

知識として、兵庫、神戸の地域資源について学ぶことができる。

態度、習慣として、地域の良さ見つけなおしたり、発見することができる。

技能として、プロモーションビデオなどを作成することによって、広報の方法について具体的实际的に学ぶことができる。

< 授業のキーワード >

大輪田泊、兵庫津、兵庫県の成立、兵庫津ミュージアム、地域資源

< 授業の進め方 >

前半は講義を聴きながら兵庫を中心とした神戸に関する理解を深めます。その後数人のグループで地域資源の新たな魅力を発見するためのプロモーション映像作成について企画書をまとめます。企画書に基づき現地で映像を撮影し、編集し、最後に発表会を行います。現地見学等は土・日曜日などでおこない、授業の進捗状況により、授業内で調整します。また、交通費などは学生負担とします。なお作成したプロモーションビデオは、兵庫県立兵庫津ミュージアムのHPを使って公開する予定です。なお、一部の回については、ゲストティーチャーとして県立兵庫津ミュージアムの学芸員が行います。

< 履修するにあたって >

授業を通じて兵庫と神戸の成立の経緯を理解したうえで、現地を訪れ、兵庫津の魅力発信のための動画を作成します。特に本年11月にグランドオープンする「県立兵庫津ミュージアム」と連携しながら授業を進めますので、めったにない博物館整備に触れるまたとない機会となります。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の理解に必要な「兵庫津」の歴史や地域資源について関心を持って随時調べておき、グループでの企画書作成の準備を進めておいてください。

< 提出課題など >

兵庫津魅力発信映像制作に関する企画書、及び映像デー

夕。

<成績評価方法・基準>

兵庫津魅力発信映像制作企画書（30%）や、完成したプロモーション映像を参加者全員による投票により評価（30%）するとともに、取り組み姿勢など（40%）も評価に加えます。

<テキスト>

講義資料は各回とも概要のレジюмеを配布します。

<参考図書>

図書

・神戸新聞「兵庫学」取材班編『ひょうご全史?ふるさと7万年の旅(下)』神戸新聞総合出版センター、2005年、2200円、ISBN: 4343003167

・神戸市立博物館編『特別展 よみがえる兵庫津?港湾都市の命脈をたどる?』神戸市立博物館、2004年

・神戸市教育委員会文化財課編『神戸の遺跡シリーズ 平氏と神戸の遺跡』神戸市教育委員会文化財課、2012年、販売終了（もしくは、歴史資料ネットワーク編『平家と福原京の時代（岩田書院ブックレット 歴史考古学系）』岩田書院、2005年、1600円、ISBN: 4872943791）

・神戸市兵庫区HP「兵庫区の歴史」

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方についてのガイダンスと、プロモーション動画作成のグループ編成について協議します。

第2回 六甲山と神戸の地形

神戸発展のもととなった天然の良港神戸港を生み出した六甲山と地形の関係について学びます。

第3回 平清盛と福原京

神戸港発展の基礎を築いたとされる平清盛の取り組みや伝説、清盛夢の都・福原京について学びます。

第4回 中世の兵庫

瀬戸内海の交易、楠木正成や足利義満、新たな仏教など、鎌倉?室町時代の兵庫津の発展について学びます。

第5回 まぼろしの兵庫城

兵庫に城があった!織田信長の命で池田恒興が築いた兵庫城が発掘調査により明らかになっています。どんな城だったのかにせまります。

第6回 北前船と兵庫津の繁栄

江戸時代に繁栄をとげた兵庫津とその発展に寄与した人物について学びます。

第7回 兵庫開港と兵庫県の成立

日本の近代化はここから始まった!? 兵庫津ミュージアム整備の目的きっかけともなった兵庫県発祥の経緯について学びます。

第8回 兵庫津ミュージアムの概要

兵庫津ミュージアムの概要を学びます。

第9回 兵庫津の地域遺産

兵庫津の地域遺産を紹介し、動画作成に向けての準備を始めます。

第10回 現地見学

「県立兵庫津ミュージアム」と周辺の地域資源を見学し、映像制作のイメージを膨らませます。

第11回 現地見学

「県立兵庫津ミュージアム」と周辺の地域資源を見学し、映像制作のイメージを膨らませます。

第12回 映像制作企画書作成

各自で作成した企画書を元に、数人のグループに分かれて映像制作企画書をまとめ、取材方法を検討します。

第13回 映像制作

映像制作企画書をもとに現地で映像を撮影します。

第14回 映像制作

映像制作企画書をもとに現地で映像を撮影します。

第15回 まとめ

作成した動画をグループごとに発表し意見交換します。

2022年度 前期

2単位

国語概説

米澤 優

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

教員として教えるには、日本語とはどのような言語なのか、理解しておく必要があります。本科目は、普段何気なく使っている日本語について理解を深め、そのために必要な基礎知識を身につけることを目的とします。

人文学部DPに示される2つの知識・技能の他、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」という能力・態度を身につけることを目指します。

<到達目標>

・言語の特性を理解する。

・音声算出の仕組み、母音・子音、音素、音節・モーラについて理解する。

・文字の役割と種類、漢字・仮名の歴史、表記と音の歴史について理解する。

・語の特徴と形態素、語種、語と語との意味関係について理解する。

・品詞と活用、主語と主題、文法カテゴリーと受身文について理解する。

<授業のキーワード>

国語、日本語の音声・音韻、日本語の文字・表記、日本語の語彙、日本語の文法

<授業の進め方>

限られた範囲にはなりますが、日本語の音声・音韻、文字・表記、語彙、文法について、なるべく身近で具体的な例を取り上げて学習します。毎回、受講生には問題に

ついて考えて発表してもらいます。クラスの人数によってはグループワークを導入します。その後、解説を行い、理解を深めます。

また、毎回授業の最初に、前回の授業内容が身についているかを確認するために、小テストを行います。座席は固定となるので、初回の授業で決定します。前のほうでないと見えないという学生は、事前に申し出てください。

<履修するにあたって>

・単位の認定には、確認テストの受験と3分の2以上の参加が必要です。

・授業に参加しているかどうかは、課題やグループワークに積極的に取り組んでいるか、積極的に発表しているかなどで判断します(グループワークや発表などが難しい学生については、根拠資料をもとに代替措置を検討します)。

・遅刻・授業中の無断退席・私語・携帯電話の操作などは大きく減点します。

<授業時間外に必要な学修>

毎回必ず復習し、授業内容の理解・定着に努めてください。そのうえで、しっかり時間をかけて考えてさまざまな課題に取り組んでください。

それでも理解が足りない場合は、配布資料に示されている参考図書なども読み、主体的に勉強するようにしてください。

また、学習したことを念頭に置いて、さまざまな文章を読む時や書く時などに、日本語について考え、さらに理解を深めてください。

目安として示す時間は、それぞれの不足している知識・能力によるので難しいですが、毎回2時間以上は必要ではないかと思えます。

<提出課題など>

復習して授業内容が身についているか確認するために、毎回小テストを実施します。

最終回には学習内容すべてについての理解度を確認するテストを行います。

いずれも授業でフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

授業中の課題・発表20%、小テスト30%、確認テスト50%

単位の認定には、確認テストの受験と2/3以上の参加が必要です。

授業に参加しているかどうかは、課題に積極的に取り組んでいるか、積極的に発表しているかなどで判断します。

<テキスト>

資料を配布します。

<参考図書>

授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス / 言語の特性

授業の概要を説明します。言語とは何かを考え、言語の特性について学習します。

第2回 音声・音韻1

音声産出の仕組み、母音について学習します。さらに、五十音図ではなぜアイウエオという配列なのかを考えます。

第3回 音声・音韻2

子音について学習します。さらに、五十音図ではなぜカサナハマヤラワという配列なのかを考えます。

第4回 音声・音韻3

ローマ字表記をめぐる問題から音素について学習し、日本語の音韻体系を考えます。

第5回 音声・音韻4

音節とモーラについて学習し、特殊モーラについて考えます。

第6回 文字・表記1

文字の役割と種類について考えます。また、なぜ1つの漢字にさまざまな読みがあるかなど、文字の歴史を学習します。

第7回 文字・表記2

実際の表記とその発音から、表記と音の歴史について学習します。

第8回 語彙1

語の特徴、形態素という言語単位について学習します。

第9回 語彙2

和語・漢語・外来語という語種について学習します。

第10回 語彙3

語と語の意味関係について学習し、慣用句と連語についても考えます。

第11回 文法1

品詞について考えます。

第12回 文法2

活用について考えます。

第13回 文法3

主語と主題について考えます。

第14回 文法4

文法カテゴリーについて学習し、受身文について考えます。

第15回 全体のまとめと確認

全体のまとめをし、授業で学んだことが身についているか確認します。

2022年度 後期

2単位

子どもの文化

金 益見

<授業の方法>

講義形式

<授業の目的>

現代社会においては少子化は諸課題のひとつです。本講義では、子どもを通して、現代の私たちが関わる社会問題の望ましい解決のあり方について考察を深めていきます。

子どもという考え方は、近代以前には存在しませんでした。子どもは近代になって社会によって産み出された創造物といっても過言ではありません。

本講義では、まず「社会的存在としての子ども」について考えます。次に、子どもが誕生した後で、子どものために作り出された文化に着目します。それらを通して、「子どもの文化」からみえてくる、社会の諸相について考えていきます。

また、講義を通して、人文学部ディプロマポリシーに掲げられた、「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」および「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことが可能になります。

<到達目標>

子どもという概念が生まれた歴史的経緯とその後の社会変化を体系的に理解することができる。

「子どもの文化」の成立と発展の背景を学ぶことで、家族や福祉などにおける倫理的課題を明確にすることができる。

現代の諸課題を自己の課題とつなげて、これから社会を担っていく人間としてのあり方について自覚を深めることができる。

<授業の進め方>

講義形式を中心に進めます。

毎回、授業に関する内容をミニレポートにまとめてもらいます。

15回のうちの14回目に、最終レポートを授業中に作成してもらいます。

<履修するにあたって>

私語厳禁です。授業に関係のないもの（スマートフォンや雑誌など）を机の上に出すことも禁じます。

これらを含めた受講上の約束事は1回目の授業で説明します（受講上の約束事が守れない場合は即退出、場合によっては即不合格とします）。

履修登録の際には、このことを十分に理解してください。

また小テストは、「授業内容を把握しかつ試験準備が十分されていないと合格できない」レベルのものを課します。

履修登録の際には、このことも十分に理解してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業ノートを作り、毎回授業後に1~2時間程度の復習を行ってください。また授業中に出てきたキーワードを、自分で調べたりしながら、興味の幅を広げていただけると嬉しいです。

<提出課題など>

毎回授業内容に関するミニレポートの課題を出し、出席

カードに書いてもらいます。

記入された内容の一部は、受講者の理解を深めるために、次の授業のはじめに共有します。

<成績評価方法・基準>

毎回のミニレポート点、合計で70点

最終レポート30点

合計100点満点で評価します。

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方や約束事、評価方法について説明します。

第2回 創造物としての子ども

近代から現代までの子ども像の変化について考察します。

子どもが近代以降の産物であることを主張したフィリップ・アリエスの指摘を中心に『子供の誕生』を読み解いていきます。

第3回 小さな大人から子どもへ

近代の思想家の子ども観を、ルソーの「エミール」や、ジョン・ロックの「タブラ・ラサ」という概念を元に紹介します。

第4回 日本での子どもの誕生

日本で保護すべき対象としての子どもが広く受け入れられるようになった、明治期の終わりから大正期にかけての変化を考察します。

第5回 子どもの誕生の要因

第2~4回までのまとめとして、子どもが誕生した理由を考えます。背景にあった産業革命の影響や、ニール・ポストマンの活版印刷の発明節などを取り上げます。

第6回 近代日本の子ども

子ども向け雑誌から近代日本の子ども観を探っていきます。『少年倶楽部』からみる「立身・英雄主義」や、『赤い鳥』の「童心主義」、少女という表象を生み出した『少女の友』などを分析します。

第7回 子どもの貧困

現代日本の社会問題のひとつである子どもの貧困について取り上げ、次回から取り上げる子どもと学校、義務教育制度が整うまでの多くの子どもの生活状況、絶対的貧困から相対的貧困に至るまでについてを考えていきます。

第8回 子どもと学校

第8~10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを一緒に考えていきます。

第9回 子どもと学校

第8~10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを

一緒に考えていきます。

第10回 子どもと学校

第8～10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを一緒に考えていきます。

第11回 子どもと〇〇

第11～13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第12回 子どもと〇〇

第11～13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第13回 子どもと〇〇

第11～13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第14回 子どもの変化

受験勉強やゆとり教育、塾やフリースクールなど子どもの教育を取りまく変化は、子どもにどのような影響を及ぼしたのか。公園からテーマパークへ、外遊びから家遊びへ、子どもの遊びの移り変わりは地域や家族、社会にどういった変化をもたらせたのか。「子どもと教育」「子どもとあそび」を通して見えてきた日本の社会について、自らの生活に照らし合わせて考えていきます。

第15回 子どもの現在

授業全体のまとめを行います。今までの子どもの文化の変遷を踏まえて、現代社会における子どもという存在について考えます。

2022年度 前期

2単位

作品解釈

中村 健史

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される科目である。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「作品解釈2」の入門科目として位置づけられる。

また、この科目は教職科目（国語）に属する。

授業では、各時代の和歌作品を和漢比較文学的な視点から論じます。日本の文学は、古い時代から漢詩文の大きな影響のもとに発達してきました。中国の文物や思考、あるいは詩文を、古人がどのように受容し、ときに変容してきたかを明らかにすることは、日本人と異文化のかかわりを考えるうえで大きな意味を持ちます。また、漢詩文と和語、和文の接点でかたちづくられた作品は、それまでの表現や発想とは異なった、新たな魅力をたたえている場合が少なくありません。和漢比較文学という視座は、文学史の観点からもきわめて重要なものです。

授業の目的は以下の通りである。

（1）授業で取りあげた作品を正確に解釈・現代語訳する。

（2）授業で取りあげた作品の主題・表現上の特色を適切に把握する。

（3）授業で取りあげた作品の文学史的・比較文学的位置づけを学ぶ。

（4）1～3をまとめた分量の文章で説明する。

< 到達目標 >

（1）授業で取りあげた作品を正確に解釈・現代語訳できる。

（2）授業で取りあげた作品の主題・表現上の特色を適切に把握し説明できる。

（3）授業で取りあげた作品の文学史的・比較文学的位置づけを理解し説明できる。

（4）1～3をまとめた分量の文章で説明できる。

< 授業のキーワード >

和歌 漢詩 国文学 漢文学 和漢比較文学

< 授業の進め方 >

講義形式で行う。

< 履修するにあたって >

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。授業内で紹介した参考書を読むことが不可欠である。予習は必要ない。

< 提出課題など >

期末レポート。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート（2000字程度）。評価の基準は、「到達目

標」(1)～(4)が達成できているかどうかである。

<テキスト>

プリントを使用する。

<授業計画>

第1回 文学

文学の意義について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第2回 和歌

和歌の規則について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第3回 漢文

和歌における漢文の影響について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第4回 藤原定家

藤原定家の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第5回 藤原為家

藤原為家の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第6回 京極為兼

京極為兼の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第7回 伏見天皇

伏見天皇の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第8回 頼阿

頼阿の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第9回 正徹

正徹の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第10回 心敬

心敬の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第11回 三条西実隆

三条西実隆の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第12回 細川幽斎

細川幽斎の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第13回 木下長嘯子

木下長嘯子の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第14回 後水尾天皇

後水尾天皇の歌について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

第15回 比較文学

比較文学の意義について講義する。「授業の目的」(1)～(4)と対応。

2022年度 後期

2単位

作品解釈

白方 佳果

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施されます。

本科目では泉鏡花の初期短編小説を取り上げます。泉鏡花の作品は現在でも読まれています。発表からおよそ百年を経ており、現在の読者には意味や背景を理解しづらい表現があります。授業では、作品との時間的な隔たりの大きさを意識し、当時の社会・文化状況をふまえて、本文を丁寧に読み解いてゆく方法を身に付けます。またそのうえで、文学研究で用いられる方法や考え方にに基づき、文学作品を解釈できるようになることを目指します。

<到達目標>

- (1) 日本近代文学への関心を深める。
- (2) 泉鏡花、またその文学について文学史的知識を習得し、他者に説明できる。
- (3) 鏡花作品の内容を精密に読解する。
- (4) 鏡花作品の主題を読み取る。
- (5) 上記に基づき、文学研究・鑑賞の一般的な手法を見につける。
- (6) 上記に基づき、自らの考えや解釈、理解を的確に表現できるようになる。

<授業のキーワード>

泉鏡花 文学 読解 日本文学 近代文学

<授業の進め方>

講義形式を中心として授業を進めますが、場合により演習形式で授業を行う場合があります。

<履修するにあたって>

- ・積極的な授業参加を期待します。
- ・受講にあたって、指示する回までに取り上げる泉鏡花の作品を全文を読んでおくこと。
- ・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画(進度、内容等)は予定から変更される場合があります。
- ・私語などで他の受講生に迷惑がかかる場合は、退室を指示することがあります。
- ・不在時間が長い場合などは、欠席とする場合があります。

す。
<授業時間外に必要な学修>
・各回120～180分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。

<提出課題など>

ワークシート、小レポートの提出を複数回課します。学期末にはレポートを課します。

<成績評価方法・基準>

ミニツッペーパー／授業中の発言・ワークシート・小レポート等の提出課題60%、期末レポート40%として、総合的に評価します。

(1) ミニツッペーパー／授業中の発言・ワークシート・小レポート。評価基準は「到達目標」の2～4と、きちんと事前・事後学習を行い授業に取り組んでいるか、です。

(2) 期末レポート。評価基準は「到達目標」1～6です。

<テキスト>

プリント等を配布します。

<参考図書>

授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方、受講上の注意点などについて解説します。泉鏡花について解説します。

第2回 『外科室』1

泉鏡花『外科室』について概説します。また、映画『外科室』を視聴します。

第3回 『外科室』2

『外科室』を精読します。

第4回 『外科室』3

泉鏡花『愛と婚姻』を踏まえて、鏡花の婚姻観や、鏡花文学における「人妻」の問題から『外科室』を考えます。

第5回 『海城発電』1

泉鏡花『海城発電』を精読しつつ、解説します。

第6回 『海城発電』2

『海城発電』を精読しつつ、解説します。

第7回 『琵琶伝』1

『琵琶伝』を精読しつつ、解説します。

第8回 『琵琶伝』2

『琵琶伝』を精読しつつ、解説します。

第9回 『琵琶伝』3・『化鳥』1

前半の授業を振り返ります。また、泉鏡花『化鳥』について解説します。

第10回 『化鳥』2

『化鳥』を精読しつつ、解説します。

第11回 『化鳥』3

『化鳥』を精読しつつ、解説します。

第12回 『鶯花径』1

泉鏡花『鶯花径』を精読しつつ、解説します。

第13回 『鶯花径』2

『鶯花径』を精読しつつ、解説します。

第14回 『清心庵』1

泉鏡花『清心庵』を精読しつつ、解説します。

第15回 『清心庵』2

『清心庵』を精読しつつ、解説します。

2022年度 前期

2単位

作品批評

中村 健史

<授業の方法>

講義。対面。

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される科目である。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「作品批評2」の入門科目として位置づけられる。また、この科目は教職科目（国語）に属する。

授業では、江戸時代に作られた明石八景の漢詩・発句を取りあげ、「歌枕」の概念について講義を行う。

授業の目的は以下の通りである。

(1) 授業で取りあげた作品を正確に解釈・現代語訳する。

(2) 授業で取りあげた作品の主題・表現上の特色を適切に把握する。

(3) 授業で取りあげた作品の文学史的・比較文学的位置づけを学ぶ。

(4) 1～3をまとめた分量の文章で説明する。

<到達目標>

(1) 授業で取りあげた作品を正確に解釈・現代語訳できる。

(2) 授業で取りあげた作品の主題・表現上の特色を適切に把握し説明できる。

(3) 授業で取りあげた作品の文学史的・比較文学的位置づけを理解し説明できる。

(4) 1～3をまとめた分量の文章で説明できる。

<授業のキーワード>

和歌 漢詩 国文学 漢文学 和漢比較文学

<授業の進め方>

講義形式で行う。

<履修するにあたって>

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。授業内で紹介した参考書を読むことが不可欠である。予習は必要ない。

<提出課題など>

期末レポート。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

<成績評価方法・基準>

期末レポート（2000字程度）。評価の基準は、「到達目標」（1）～（4）が達成できているかどうかである。

<テキスト>

プリントを使用する。

<授業計画>

第1回 文学

文学の意義について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第2回 八景の時代

室町期から江戸初期にかけての八景の流行について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第3回 成立の事情

明石八景の成立の事情について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第4回 柿本神社碑

林鷲峰の撰した柿本神社の碑文について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第5回 仙蹤朝霧

明石八景の第一・仙蹤朝霧について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第6回 大倉暮雨

明石八景の第二・大倉暮雨について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第7回 藤江風帆

明石八景の第三・藤江風帆について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第8回 清水夕陽

明石八景の第四・清水夕陽について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第9回 印南鹿鳴

明石八景の第五・印南鹿鳴について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第10回 尾上鯨音

明石八景の第六・尾上鯨音について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第11回 絵島晴雪

明石八景の第七・絵島晴雪について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第12回 明石浦月

明石八景の第八・明石浦月について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第13回 美の規範

歌枕が当時の社会・文化においていかなる位置を占めていたかを考える。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第14回 歌枕と政道

松平信之の立場から明石八景制作の意義を考える。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

第15回 まとめ

文学と風土・地域性の関係について講義する。「授業の目的」（1）～（4）と対応。

2022年度 後期

2単位

作品批評

長谷川 弘基

<授業の方法>

講義

感染状況によってはZOOMによる授業もありえます。その際は学内システムを利用して改めてお知らせします。

<授業の目的>

この科目は人文科学専門科目の言語・文学科目群に配置され、資格に関する科目（英語・中学校一種、英語・高等学校一種）にも指定されており、英語圏文学の読解を通して、批評という営みが持つ意味について考察する。

[主題] 2017年度のノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの実質的デビュー作でもある、邦題『遠い山なみの光』（A Pale View of Hills）を読み解きながら、代表的な批評理論について学び、それぞれの批評理論の立場から『遠い山なみの光』がどのように解釈できるのかを概観することを通して、文芸批評の営みについて理解を深める。

[目的]

- 1) 批評という行為の意味を理解する。
- 2) 代表的な批評理論について知識を深める。
- 3) 批評理論の違いから解釈の違いが生じるメカニズムを理解する。

<到達目標>

- 1) 批評的態度を獲得する。
- 2) 批評理論について知識を深め、理論の必要性を理解する。

<授業のキーワード>

内在的批評、外在的批評、構造、歴史

<授業の進め方>

カズオ・イシグロの『遠い山なみの光』を各自で読んでいることを前提として、代表的な批評理論の立場からの批評的読解を講義を通して実践的に展開する。

<履修するにあたって>

3回目の講義までには各自で『遠い山なみの光』を読しておかなければならない。

<授業時間外に必要な学修>

おおむね1?2時間の予習・復習が必要である。

<提出課題など>

学期末にレポートを課す。提出したレポートは要請があれば、コメント・評価などを記した上で返却する。

<成績評価方法・基準>

学期末のレポート(60%)、折々の授業で行う簡単な確認テストの合算(40%)

<テキスト>

カズオ・イシグロ著 『遠い山なみの光』(ハヤカワepi文庫)(早川書房)

<参考図書>

多岐に渡るので授業中に提示する。

<授業計画>

第1回 カズオ・イシグロについて

現代イギリス文学界を代表する小説家であるカズオ・イシグロについて解説する。

第2回 批評とは何か

批評(criticism)の意味を、主に西洋における歴史的展開を概観しつつ、確認する。その際に、「内在的批評」と「外在的批評」の対比、「構造主義」と「歴史主義」の対比に注目する。

第3回 外在的批評：作者研究

最も古くから存在する批評の方法論としての「作者研究」を考察する。作者に関する知見を高めることが作品の読解にどのような貢献をするのか。

第4回 外在的批評：歴史主義

歴史主義的批評の方法論を紹介しつつ、この批評的立場から可能な読解の可能性について考察する。

第5回 外在的批評に対する批判

外在的批評に対する批判を確認し、その欠点を克服するために起こった「新批評」について概観する。

第6回 内在的批評＝構造主義とテキスト分析 # 1

「新批評」から構造主義的批評までの批評理論の展開を概観し、内在的批評と外在的批評の比較を試みる。

第7回 内在的批評＝構造主義とテキスト分析 # 2

引き続き「新批評」から構造主義的批評までの批評理論の展開を概観し、内在的批評と外在的批評の比較を試みる。

第8回 内在的批評＝構造主義とテキスト分析 # 3

引き続き「新批評」から構造主義的批評までの批評理論

の展開を概観し、内在的批評と外在的批評の比較を試みる。

第9回 内在的批評＝構造主義とテキスト分析 # 4

引き続き「新批評」から構造主義的批評までの批評理論の展開を概観し、内在的批評と外在的批評の比較を試みる。

第10回 読者受容理論と解釈行為 # 1

文学における読者の役割について考察し、読者受容理論とその影響について考察する。

第11回 読者受容理論と解釈行為 # 2

引き続き、文学における読者の役割について考察し、読者受容理論とその影響について考察する。

第12回 読者受容理論と解釈行為 # 3

引き続き、文学における読者の役割について考察し、読者受容理論とその影響について考察する。

第13回 読者受容理論と解釈行為 # 4

引き続き、文学における読者の役割について考察し、読者受容理論とその影響について考察する。

第14回 読者受容理論と解釈行為 # 5

引き続き、文学における読者の役割について考察し、読者受容理論とその影響について考察する。

第15回 まとめ

それぞれの批評理論、方法論によって、それぞれ異なった解釈が生じることを確認する。

2022年度 後期

2単位

仕事の文化史

森栗 茂一

<授業の方法>

対面(社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり)

<授業の目的>

本授業は、人文学科専門教育科目に属し、本学人文学部DPにもとづき、歴史学に必要な古文書調査の課題とそこからみえる課題を論じた網野善彦『古文書返却の旅』を深く学ぶ。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた、高校教職・博物館企画展示・歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史学に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

・歴史学の基礎である古文書調査を巡る課題と、そこか

ら見える農本社会とは異なる生業観、宮本常一の視点の知識を習得する。

・生活総合、歴史民俗的視点から考えるような態度を身につける。

・古文書に関する知識、歴史民俗的態度を通じて、博物館や歴史学に対する「私の視点」を主体的に持つようになる。

< 授業のキーワード >

古文書、網野善彦、衆議、山産物、漁村、離島、出稼ぎ
< 授業の進め方 >

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

使用するブログ、ZOOM、GoogledriveのURLは、{森栗メール,morikuri@human.kobegakuin.ac.jp}で連絡する。

スマホ、PCによるチャットを活用することもある。

< 履修するにあたって >

この授業、step by stepですすすめます。主体的、学ぶ経験ない人にも、歴史探求、面白い。自ずと力がついてくる。それだけに、自ら予習、発表する、主体的思考、大変です。苦しく楽しい授業です。

なお、受講者数、教室の都合によって、シラバスどおり、授業すすまぬこともあり。

< 授業時間外に必要な学修 >

参考文献や資料検索には、60分以上、そのレポート記述には30分以上が、必要となる。

< 提出課題など >

毎回、授業の予習として、参考文献、資料検索等により、下調べ・発展学習をし、引用等を明示してコメント提出する。その予習・発展学習で、次の授業を展開する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の小レポート14回（14×5点）、最後のまとまったレポート（20点）、質問等（10点）

< テキスト >

網野善彦『古文書返却の旅』中公新書、1999年

< 参考図書 >

『宮本常一著作集』全50巻、未来社

< 授業計画 >

オンデマンド 網野善彦について

Googledrive仕事の文化史の自己紹介動画、第1回動画、および、ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事、解説指示を読む

dotCampusの指示により

オンライン参考箇所を探し読み

dotCampusにレポートを提出する

オンデマンドのときは、質問、雑談、お受けします。

遠慮なく、お越してください。{<https://zoom.us/j/97894701558>} 授業ではありませんから、来なくてもOKです。

続 網野善彦について

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の指示解説、相談により

網野善彦の著書を、大学図書館、公共図書館で借りる、または書店・オンラインで購入し、読む。

dotCampusにレポートを提出する

本の読み方

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 「本の読み方」を読む

dotCampusの指示により

網野善彦の著書に付箋をつけ、データファイルを構造化して、

改めて dotCampus に構造化によって書き改めたレポートを提出する

水産庁漁業資料研究月島分室

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第1章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

対馬

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

その解説指示を読む

dotCampusの指示により

『古文書返却の旅』第2章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

霞ヶ浦・北浦の海夫

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第3章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

海の領主 二神島

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示により
『古文書返却の旅』第4章を読み
dotCampusにレポートを提出する。

奥能登 時国家

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第5章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

都市としての奥能登

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示により

『古文書返却の旅』第6章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

阪神大震災で消えた古文書

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第7章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

気仙沼の大胆那

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示により

『古文書返却の旅』第8章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

佐渡と若狭

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第10章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

ボロボロになった真鍋島文書の修復

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示により

『古文書返却の旅』第11章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

日本常民文化研究所と中央水産研究所

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事があれば、その解説指示を読む

dotCampusの指示、および、教員の解説、相談により

『古文書返却の旅』第12章を読み

dotCampusにレポートを提出する。

構造化されたレポートにまとめる

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」<https://kurimori2007.seesaa.net> 本授業本日の記事の解説指示を読む

dotCampusの指示により

データファイルを構造化して

dotCampusにレポートを提出する。

2022年度 前期

2単位

自然環境論

飯田 聡子

< 授業の方法 >

講義形式の授業を実施する。

< 授業の目的 >

講義では、生物のもつ基本的属性について理解を深めるとともに、地球上の生物多様性を理解するための概念とその適用例について学習する。さらに生物と環境との関わりについて理解を深めるために、生態学の概念（生活史、生物間相互作用、生物群集、生態系など）とその適用例、および関連する環境問題（生物資源管理、希少種の保全、都市化、外来種問題など）について学ぶ。

学習を通じて地球上の生物多様性や生態系について関心をもち、自分の考えをもつことを目標とする。

人文学部のディプロマ・ポリシーの知識、思考力、判断力と関連する。

< 到達目標 >

- ・生物の基本的属性について説明できる
- ・生物多様性や生態系の概念について説明できる
- ・生物多様性や生態系の課題に関して興味を持つ

< 授業のキーワード >

生物多様性、進化、生態

< 授業の進め方 >

・ プロジェクターを用いた表示形式で行う。

・ 配布資料はdotCampusを通じて配布する。

< 履修するにあたって >

・ 講義中は、適宜ノートを取り、講義後、その内容を整理し、学習した内容への理解を深める。

・ 身の回りの自然や新聞やテレビで取り上げられている環境問題について関心をもって生活する。

< 授業時間外に必要な学修 >

・ 講義内容についてのノート整理や、深く知りたいことについて調べる（目安1時間程度）。

< 提出課題など >

・ 講義中に毎回、講義内容に関連する課題（テストorレポート）を課す。

・ テストやレポートへのフィードバックは次回以降の講義中あるいはdotCampusを通じて行う。

< 成績評価方法・基準 >

・ 受講姿勢 50% 授業中の課題 50%

・ 実施した課題を2/3以上受験していない場合は、単位認定・評価対象としない。

・ 病気や事故などによる欠席は考慮する（確認書類提出必須）。

< 参考図書 >

・ カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書；第4巻 進化生物学

D・サダヴァ他著；石崎泰樹，斎藤成也監訳 講談社ブルーバックス 2014 ¥1,650

・ カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書；第5巻 生態学

D・サダヴァ他著；石崎泰樹，斎藤成也監訳 講談社ブルーバックス 2014 ¥1,540

・ 生態学入門 第2版

日本生態学会編：東京化学同人，2012 ¥3,080

・ 生態学 基礎から保全へ 鷲谷 いづみ（監修・編著），一ノ瀬友博，海部健三，津田智，他 2016年 培風館 ¥3,025

< 授業計画 >

第1回 初期の生命の進化

地球環境変動と初期の生命の進化の関わりを知り、初期の生物史の重要イベントを理解する。併せて生命の起源に関わる主な仮説を学ぶ。

第2回 地球上の生物多様性

生物の分類と種概念、現在の地球上の生物多様性を知り、地球上の生物多様性について理解する。また生物多様性の危機についても学ぶ。

第3回 生物の共通属性と進化

生物の共通属性を知り、特に分子・細胞レベルの共通点は生物が共通祖先から進化したことを示していることに

ついて理解する。また分子レベル（遺伝子やタンパク質レベル）の共通性をもとに、分子系統解析が行われ、生物史の推定が行われることについて学ぶ。

第4回 遺伝情報から探る生物多様化

ヒトと類人猿の関係、脊椎動物の系統、哺乳類の系統などのケースについて分子系統解析の解析例を学ぶ。

第5回 遺伝情報から探る生物多様化

病原体の起源、古代DNA、ダーウィンフィンチ類の適応放散などのケースについて分子系統解析の解析例を学ぶ。

第6回 目の前の進化

比較的最近に起きた進化の現象を知る。またこれらの進化に影響を及ぼす要因、主な進化理論を知り、生物進化のしくみについて学ぶ。

第7回 植物の繁殖生態

被子植物の花の起源、有性生殖、送粉、送粉共生（主に花と昆虫の関わり）について知り、植物の繁殖生態について理解する

第8回 特別な生殖様式

植物の自殖、動植物の無性生殖について知り、生物界にみられる特別な生殖様式を理解する。また技術の進歩により人工的に作られるようになったクローン動物についても学ぶ。

第9回 生態学とは何か

生物とその環境の相互作用に関する学問である生態学について概観し、生態学の研究対象について知る。

第10回 生活史戦略

生活史と生活史を理解するための概念（エネルギー配分、トレードオフ）、さらに動物と植物における生活史戦略のモデルを学ぶ。いくつかの生物種を例に具体的な生活史についても学ぶ。

第11回 順化と行動

環境変動に対する生物の応答として順化と行動の重要性について学ぶ。順化は動物にもみられるが、植物では順化能力が生存や繁殖にもつ重要性が大きいことも理解する。他方、動物は植物にみられない運動能力により多様な行動をおこすことを知る。

第12回 生物間相互作用

競争、捕食、寄生、共生などの生物間相互作用をさまざまな具体例にふれながら学ぶ。また生物間相互作用は変化しやすく、進化の現象につながる場合があることについてを理解する。

第13回 生物群集の成り立ち

生物間相互作用には直接効果（直接相互作用；競争、捕食、寄生、共生）だけでなくさまざまな間接効果（間接相互作用；資源消費競争、見かけの競争、間接共生、多栄養段階間の相互作用、ファシリテーション）があることを知る。さらに多種共存の機構や絶滅・侵入が群集に及ぼす効果などを知り、生物群集の成り立ちを学ぶ。

第14回 生態系の構造，機能，保全

生態系の構造とそれがどのように明らかにされているかを学ぶ。また窒素と炭素などの物質循環についても知り、富栄養化や地球温暖化との関連を理解する。

第15回 生態系の構造，機能，保全？

生態系サービス（生態系が人類に提供するさまざまなサービス）について知る。また生態系サービスを評価する試みを学び、生態系サービスの価値について考える。

2022年度 後期

2単位

自然地理学

梅田 真樹

< 授業の方法 >

・受講生が興味をもった身近な地形の写真を撮影し、その写真を使って、地形の生い立ちを解説します。

・兵庫県の地形は日本の縮図です。担当教員が撮影した兵庫県の地形の写真を使って、日本の地形がどのようにしてできたのかを学びます。

・兵庫県の砂丘、周氷河地形、火山、断層などから、地球が経験した気候変化を解説します。海外のダイナミックな地形も紹介します。

・パワーポイントで様々な地形や自然の写真を紹介し解説するだけでなく、校庭などで実際に植生の観察もとりいれ、地形が気候や自然にどのような影響を与えているかを学びます。

< 授業の目的 >

この科目では、DPIに掲げるうち、2. 専門分野に高い関心を持ち、課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている、3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる、を目指している。

神戸にはアジアを代表する良港があり、世界の船乗りが愛した水がある。灘の酒や有馬温泉もある。これらすべて神戸ならではの地形が生み出した自然の恵みである。一方、このような地形は、大きな地震を伴う地殻変動によってつくられた。まず、これらの身近な自然地理について学び、その対象を日本から世界へと広げていき、地球規模の大きな視点から地域を捉えることができるようにする。この授業を履修することで、地理学的な関心をもって自然景観に目を向け、その面白さを知ることができるようになる。地域学習の重要性が認識でき、授業に対応できる必要最低限の知識を身に付けることを目的とする。

< 到達目標 >

1 地形，地震，火山，気候についての基礎知識を持ち，説明できる。

2 身近な自然環境（六甲山など）の成り立ちと生い立ちについて，総合的に学び，興味を持って考えることがで

きる。

3 地形を見て、その場所の自然史を語るができるようになる。

< 授業のキーワード >

自然環境 地形 断層 火山 氷河

< 授業の進め方 >

パワーポイントを用いた講義と観察を組み合わせで行う。高校で地理を選択していない学生にも配慮する。

< 履修するにあたって >

積極的に授業に参加し、課題に取り組んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時にプリント教材をまとめて配布するので、予習の際に目を通し、用語について調べておいてください（60分程度）。学修は復習を中心に行い、ノートをまとめてください。また、時間中に終わられなかった課題があれば完成させ、関連する書籍を読み、理解を深めてください（120分程度）。

< 提出課題など >

授業ごとに課題を課し、提出してもらいます、提出課題は点検し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業毎提出物60%、期末レポート40%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

講義の中で適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

地球とはどんな星で、自然地理学とはどのような学問か。

第2回 身近な植生

校庭などの身近な植物を観察し、それらの植物がどの地域に起源をもち、どうしてそこに生えているのかについて解説する。

第3回 日本列島の形と中国山地：西紀アルプス

日本列島の骨格がどのようにしてできたのか、中国山地の地形と地質を例に挙げながら解説する。

第4回 白亜紀の火成活動による地形：桶居山、中山連山、有馬富士

恐竜が生きていた約1億年前、日本列島の地下では活発にマグマが活動し、地表ではたくさんの火山が噴火した。白亜紀の火成活動がつくった兵庫県の地形について解説する。

第5回 兵庫県北部のダイナミックな地形：氷ノ山、扇ノ山、日本海岸

日本海拡大とその後の火成活動によってできた兵庫県北部の高峰と但馬海岸の地形について解説する。

第6回 兵庫県の火山地形：甲山、玄武洞火山、神鍋山 兵庫県の火山の地形について紹介し、近畿地方で唯一噴

火口の有する神鍋山が、今後噴火する可能性について述べる。

第7回 六甲山の形成、断層と温泉：有馬温泉、宝塚温泉、見つけた温泉

六甲山が断層活動によってできたことを学び、有馬温泉や宝塚温泉を例に挙げ、温泉が湧くしくみと湧く地形の条件を知る。教員が六甲山地の地形を見て、山を歩き、見つけた温泉を紹介する。

第8回 六甲山の森と岩山の風景：ロックガーデン・須磨アルプス、蓬莱峡・白水峡

六甲山には多種多様の樹木が茂る深い森と、花崗岩が風化してできた荒々しい岩場がある。このような対照的な地形がどのようにしてできたのかについて、芦屋のロックガーデン・須磨アルプスと蓬莱峡・白水峡など、六甲山を代表する地形からひもとく。

第9回 盆地はどのようにしてできたのか：三田盆地、篠山盆地、豊岡盆地

兵庫県には日本を代表する盆地が3つもあるが、成因はそれぞれ異なる。三田盆地は太古の第二瀬戸内海の跡、篠山盆地は太古の湖の跡、豊岡盆地は海の跡だった。地形から大地の歴史を知る方法を述べる。

第10回 氷河期にできた地形：砥峰高原、峰山高原

数万年前、地球に氷河期が訪れた。兵庫県には、氷河期にできた数々の美しくなだらかな地形がある。兵庫県の地形から氷河期の謎を解く

第11回 扇状地はどのようにしてできたのか：三原平野、住吉川、湊川公園

兵庫県の扇状地を通して、扇状地のでき方と扇状地がつくった天井川と湧水を紹介する。扇状地がつくる不思議な地形と、日本酒に適した湧水をつくるしくみを解説する。

第12回 平野はどのようにしてできたのか：尼崎平野、播磨平野

平野の地形のでき方について述べ、平野の地形から縄文時代以降の気候変動を読み解く方法を解説する。

第13回 瀬戸内海はどのようにしてできたのか：明石海峡、鳴門海峡、紀淡海峡

瀬戸内海の流れは四国を一周しないのに、なぜ四国を取り囲んでいるのだろうか？氷河期の川が削られて瀬戸内海になったプロセスを、地形の謎から読み解いていく。

第14回 沈みゆく播磨の大地：揖保川、加古川、相生湾、はりまシーサイドロード

西播磨は沈みつつある。そのため、揖保川や加古川は西に寄りながら海へ流れ、相生では沈降によってできたりアス海岸がみられる。播磨の地下で何が起きているのだろうか。

第15回 神戸が世界一の良港である理由

隆起する六甲山と沈みゆく瀬戸内海が、世界一の良港をつくった。何ヶ月も腐らない六甲の水は、世界の船乗り

に愛された水だった。神戸が港を中心に栄えてきた秘密を、地形からひもといていく。

第16回 秋の植物地理

野外で身近な植物を観察し、地球に何が起きているのかについて考える。

第17回 自然放射線測定

放射線は自然界にも存在する。どのような地形が放射線をうみだすのか、野外で測定し、フィールドワークを通して学ぶ。

第18回 放射線と地形

兵庫の自然放射線量は比較的高い。フィールドワークの測定結果をまとめ、放射線をうみだす兵庫の地形について解説する。

第19回 雲と気候

校庭で雲を観察し、雲の成因と名前を知り、地形が生み出す雲と気候について考える。

第20回 南海トラフ地震は本当にくるのか

周期的に南海トラフ地震が起きたとされている。本当にそうだったのだろうか。地形に残された記録から、南海トラフ地震の真偽について迫る。

第21回 自然災害と地形

地図を見れば、どの場所でどのような自然災害がおきたのか、そして、将来、どのような災害が起きるのかを推定できる。その方法を、地形図を使いながら習得する。

第22回 地球温暖化の未来

約7千万年前、現在よりもはるかに深刻な地球温暖化が進んだ。そのような過去の温暖化と現在の温暖化を照らし合わせ、未来の地球の環境を予測する。

第23回 川はどのようにしてできるのか

川は陸上だけでなく、南極の氷の下にも、砂漠の地下にも、海底にも存在する。川はどこでできて、どこを流れ、どこへたどり着くのか、そして川の流れはどんな地形をつくるのかについて解説する。

第24回 砂漠の地形と気候

オーストラリアの砂漠を題材にして、なぜ砂漠ができるのか、なぜ砂漠にオアシスが湧くのかなどのエピソードを紹介しながら、砂漠の地形と気候について解説する。

第25回 海の地形

海の体積の90%は深海で、海嶺や海溝など、海は起伏に富んだ地形をしている。陸よりもはるかにダイナミックな海の地形が、どのようにしてできたのかについて解説する。

第26回 大陸の地形

大陸はどうしてあのような形をしているのだろうか。大陸の地形から、大陸の歴史を読み解く。

第27回 世界の火山と地形

イタリアやハワイ島などの火山の特徴と、火山がつくる地形と災害について学ぶ。

第28回 地形の謎

興味のある世界の地形の成因について調べる。

第29回 地形の謎

興味のある世界の地形の成因についてまとめる。

第30回 まとめ

興味のある地形の成因について発表する。

2022年度 前期

2単位

社会調査法

金 益見

< 授業の方法 >

講義形式

< 授業の目的 >

現代を生きるみなさんは、なにかを調べるときに「とりあえずインターネットでウィキペディアを見てみる」というひとが多いのではないのでしょうか？もしくは、検索サイトを開いて適当に言葉を入れてクリックし、リンクをたどって右往左往している人も少なくないと思います。同じインターネットを使うにしても、ちゃんとした情報を取捨選択するために、「信頼度を嗅ぎ分ける能力」が必要です。そのためには、まず基本的な技術を身に付けなければいけません。

社会調査法ではまず、「ちゃんと調べる」とはどういうことかを学びます。文献収集、データベースの使い方などの情報探索方法からはじめ、インタビューの方法、組織や集まりのなかに入ってデータを収集し分析する、あるいは新聞やメディアコンテンツを分析するといった、卒業研究のための社会調査法の知識を身につけます。ここでは、人文学部のディプロマ・ポリシーが示す、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」および「情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる」能力の修得を目指します。

< 到達目標 >

「資料を探す」「データを収集する」「フィールドワークに出る」「得られたデータを分析する」といった方法を学び、実践できるようになることが目的です。個々人が自分で調べる技術を身に付け、それを卒業研究に活かせるようになることを到達目標とします。

< 授業の進め方 >

基本的には講義形式で進めますが、グループワークを取り入れる回もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

模擬インタビューやトランスクリプト作成など、授業の時間内で終わらない場合、授業時間外に行っていただきます（おおよそ1～2時間）。また、13回目に「家族、もしくは知人のライフストーリーをインタビューしてくる」という宿題を出しますので、その際にはアポ取りなども含めて授業時間外に必要な学修時間が必要です（インタビュー相手によって時間は異なる）。

< 提出課題など >

毎回授業内容に関する課題を出し、出席カードに書いてもらいます。

記入された内容の一部は、受講者の理解を深めるために、次の授業のはじめに共有します。

また、14、15回目で使用するインタビューデータは、13回目に出す宿題（家族、もしくは知人のライフストーリーをインタビューしてくる）のデータを用います。

< 成績評価方法・基準 >

授業に参加する皆さんと共同で勉強していく形態をとりますから、積極的な姿勢を特に重視します。

授業時の中のコメントやレポート（50%）や課題（50%）をあわせて評価します。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 社会調査の意義と目的

「調べる」ということはどういうことなのか。まずはじめに、社会調査の役割と意義、また調査を行う時の倫理と責任について学びます。

第2回 雑誌記事・論文を探す

雑誌論文・記事の検索方法、国会図書館NDL-OPACの使い方、日外アソシエーツのMAGAZINE-PLUS、大宅壮一文庫索引目録、英語記事・論文の探し方を学びます。

第3回 本を探す

図書館、インターネット、古書店などで本を探す方法を学びます。

第4回 データベースの活用

ジャパンレッジ、新聞検索などをはじめとしたデータベースの利用、古い記事の探し方、データベース上の情報、専門誌の使い方を学びます。

第5回 統計データ、図書館にない各種資料、行政資料を探す

統計の探し方、見方を身に付け、官庁統計、行政統計などさまざまな統計を活用できるようにします。

第6回 フィールドワーク

フィールドワークとは何か、フィールドに入ってデータを収集する方法、フィールドノートのまとめ方を学びます。

第7回 フィールドワーク

フィールドで得たデータをどう分析し、理論化するのがを様々な事例、先行研究を元に学びます。

第8回 参与観察法

参与観察とは何か、その手順と実践の方法を体験中心型と観察中心型に分けて学びます。

第9回 参与観察法

参与観察のなかのアクション・リサーチという方法について学びます。アクション・リサーチの特徴と実践のポイントを小規模なアクション・リサーチの実例を紹介しながら学びます。

第10回 インタビュー

インタビューとは口述であり、「語る」ことと「書く」こと異なります。インタビューによって語られる「声」をもとに論文を書くことは、今まであらわになることのなかった新たな社会的現実を記録することを可能にすることです。先行研究のエピソードを元にインタビューの可能性を探ります。

第11回 インタビュー

インタビューの種類を学び、それによって異なる準備や方法を具体的に学びます。二人ひと組のペアになり、模擬インタビューを行います。

第12回 インタビュー

前回行ったインタビューのトランスクリプト（音声記録からの書き起こし）を作成し、語り手役はそれをチェックします。インタビュー準備から、当日、原稿確認までの流れと注意点をまとめます。

第13回 質的データの分析

ライフストーリー分析の方法を学びます。在日コリアンの調査研究を例に、対象に肉迫し、類型と仮説を模索し、まとめるまでの流れを紹介します。ここで「家族、もしくは知人のライフストーリーをインタビューしてくる」という宿題を出します。

第14回 質的データの分析

前回出した宿題を元に、データの分析を行います。データを読み込み、そこに記述された事柄を適切に言い表す単語や短い語句を考えていくオープン・コーディングを行います。

第15回 質的データの分析

前回行ったデータの断片をまとめて、いくつかのカテゴリを作り出した後、「焦点をしばったコーディング」と呼ばれる作業を行います。そこにカテゴリ間の関係の考察を加え、論文に調査結果を反映させられる形にまとめます。

2022年度 後期

2単位

社会調査法

渡辺 拓也

< 授業の方法 >

講義、ディスカッション、発表、実習

9月20日(月)～10月2日(土)までの授業形態

遠隔授業(リアルタイム授業)

10月4日(月)以降の授業形態は、感染状況や履修者数等に鑑みて決定し、改めてお知らせします。

< 授業の目的 >

社会調査の歴史や概要について学習し、そのうえで、調査設計から実施までの一連の調査プロセスを、さまざまな角度から総合的に体得することを目的とする。なお、

社会調査には大きく分けて量的調査と質的調査があるが、この授業では質的調査を中心に学習する。

< 到達目標 >

1) 科目の到達目標

- ・社会調査の歴史や技法に関する知識を獲得する。
- ・既存の調査研究の精読を通じて、社会調査の面白さや困難さを把握する。

- ・調査設計から実施までの一連のプロセスを体得する

2) ディプロマポリシーと関連した到達目標

- ・獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を身につける

- ・情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝える知識・分析力を身につける

< 授業のキーワード >

社会調査の歴史・調査法・調査設計・予備調査

< 授業の進め方 >

前半は講義を中心に、社会調査の歴史や基本的な方法について学ぶ。後半は各自の関心を掘り下げながら、グループワークを交えながら、実際の調査を行い、報告してもらう。

< 授業時間外に必要な学修 >

日常生活を送るうえで疑問に感じたことや不思議に思ったことを意識し、ノートなどに書き留める習慣をつけること。写真など、様々なメディアも活用する。(目安として合わせて1時間)

< 提出課題など >

授業中の課題、予備的な調べ物などの成果を授業の進捗に合わせて、その都度提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の課題、予備的な調べ物などの成果物の提出状況、グループワークへの参加状況など、平常の取り組み具合60%、最終的なレポート課題40%として総合的に評価する。

< 参考図書 >

渡辺拓也『飯場へ??暮らしと仕事を記録する』洛北出版、2017年

岡井崇之編『アーバンカルチャーズ??誘惑する都市文化、記憶する都市文化』晃洋書房、2019年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の目的・内容について確認する。

第2回 社会調査の歴史と概要

社会調査の意義や目的について、歴史的な観点から考える。

第3回 質的調査の考え方

質的調査の考え方について学習する。

第4回 調査技法の検討

質的調査の技法について、特にフィールドワークと参与

観察法について考える。

第5回 調査技法の検討

質的調査の技法について、特にインタビューとライフヒストリー法について考える。

第6回 調査の企画・設計・依頼

調査設計から調査実施までの一連のプロセスについて確認する。

第7回 データの収集方法

参与観察、インタビューを題材に、データ収集の具体的な方法について理解する。

第8回 テーマ設定のための企画・討議

調査のテーマを設定するために、全体で意見を出し合い、お互いの興味関心を共有する。

第9回 文献調査

調査テーマに関わる文献・論文の探し方について学習する。

第10回 テーマ設定のための企画・討議

共有された興味関心を調査のテーマとして設定するために、関連情報の収集を行う。

第11回 調査テーマの設定・調査のグランドデザインの検討

調査テーマを設定し、それに基づいて調査のグランドデザインを検討する。

第12回 予備調査の準備

調査デザインをより明確化させるために必要な予備調査の準備を行う。

第13回 予備調査の実施

個人ないしグループで実際に予備調査を実施する。

第14回 予備調査における成果報告

予備調査で得られた成果について各自報告を行う。

第15回 予備調査における成果報告

予備調査で得られた成果について各自報告を行う。

2022年度 後期

2単位

宗教学

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 宗教の基礎的な理解を築く

目的

私たちは現在、多様な諸文化が複雑に絡みあう世界を、また同時に、異なる諸文化が相互に断絶した世界を生きています。これらの多様性、異質性が生じる根には宗教の違いがあります。

本講義の中心は、三つの一神教、ユダヤ教、キリスト

教、イスラームの解説です。それを通して受講者には、とりわけ一神教と多神教との違いについて、考察を促します。次いで仏教を取り上げます。そして大乘仏教における空の思想と唯識について理解を深めます。

本講義は、緩やかな仕方でベルクソンの宗教論を下敷きにしています。彼は呪術、精霊信仰、神話などから成る静的な宗教と動的な宗教を区別します。そして動的な宗教のなかでも特にキリスト教神秘主義において、人類が開かれた社会へ至る可能性を見出します。私たちは、講義全体を通して得た知見と考察から、最後にこの宗教論を批判的に検討します。

宗教は私たちが、私たちの生の全体の意味を、人間とは何かということ、根本的に問いなおされる審級です。本講義は、受講者がこの問いなおしに触れることで、私たちの生について思索を深めるよう誘います。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

一神教と多神教の違いを理解し、説明できる。

ユダヤ教、キリスト教、イスラームの基本的な理解を持つ。

仏教の基本的な理解を持つ。

神秘主義の意義を理解し、説明できる。

静的な宗教と動的な宗教の区別を理解し、説明できる。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深めること。(目安として1時間程度)

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義への参加度と理解度(60%)、レポート課題(40%)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

宗教とは何か。

第2回 呪術 精霊信仰 トーテミズム

呪術、精霊信仰、トーテミズムについて。

第3回 神々への信仰

神話について。

第4回 多神教について

多神教の諸形態について。

第5回 ユダヤ教

モーセ、十戒、トーラーとタルムード。

第6回 ユダヤ教

ユダヤ教神秘主義、カバラ。

第7回 キリスト教

イエス、隣人愛、キリスト教の成立。

第8回 キリスト教

キリスト教神秘主義

・マイスター・エックハルト

・ニコラウス・クザヌス

第9回 イスラーム

ムハンマド、『クルアーン』。

第10回 イスラーム

イスラーム神秘主義

・イブン＝アラビー

・スフラワルディー

第11回 仏教

輪廻と解脱、ブツダ、縁起の法と慈悲。

第12回 仏教

大乘仏教

・空

第13回 仏教

大乘仏教

・唯識

第14回 静的な宗教から動的な宗教へ

ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論。

第15回 静的な宗教から動的な宗教へ

ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論に対する批判的考察。

2022年度 前期

2単位

生涯学習研究

井上 豊久

< 授業の方法 >

講義及びアクティブラーニング実施予定です。

質問等のメールアドレスはtinoue@human.kobegakuin.ac.jpです。

< 授業の目的 >

現代の生涯学習は多様な方法を取り入れつつ展開されている。この授業では、まず、生涯学習の基礎・基本の理解、実践の把握を行う。次に生涯学習支援をめぐる理論

と課題の基本的事項を理解する。また、民間教育機関、民間非営利機関、生涯学習支援者、ボランティア等の内容についてワークショップ等を行い本学DPの主体的相互学習の力量形成を図るとともに将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に学修できる力量形成を目的とする。

< 到達目標 >

1．生涯学習の基礎・基本と最新の生涯学習論概要の理解、2．具体的な生涯学習支援の実態を知り説明できること、3．ワークショップ等で主体的相互的体験学習支援の実践力形成

< 授業のキーワード >

生涯学習支援、民間営利機関、民間非営利機関、グループ・サークル、市民活動、ボランティア

< 授業の進め方 >

生涯学習支援について理解するための講義と提出レポートの説明等を行う。レポートは検討し、その次の時間の初めに共有します。

最終レポートの提出日はフィードバックのため適宜提示します。

< 履修するにあたって >

自己研究、着実に進めましょう。

基本的な理解とともに、常に考え、問題意識、根拠や理由を考えましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

関係内容の自宅研究として課題に沿って毎回180分の授業外の学修を基本とする。

< 提出課題など >

授業の最後に小テストの提出を行い、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。中間、最終レポートを提出する。

< 成績評価方法・基準 >

1．毎回のミニレポート30％、2．中間レポート20％、3．最終レポート50％で形成的・総合的に評価する

< 参考図書 >

適宜指示

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーションと生涯学習支援とは
授業のオリエンテーションと生涯学習支援の基礎理解、自己診断

第2回 生涯学習の基礎・基本の理解、多様化する学習
生涯学習の基礎・基本の理解を図る。学習者の視点からとらえた現代の学習機会と行政の役割

第3回 民間営利機関

カルチャーセンター他

第4回 民間非営利機関

NPOや団体の種類と役割、具体的事例の説明と検討

第5回 グループ

グループ・サークル支援者の現状と課題と今後の展開
第6回 委員とボランティア
行政委嘱職員とボランティアの位置づけと今後のあり方
第7回 学習方法・形態
相互学習、ネットによる学習形態他
第8回 中間総括
中間総括と中間レポートの作成
第9回 不利益者支援
社会的不利益者への支援事例
第10回 社会教育行政
社会教育行政の現状と課題
第11回 ワークショップとは
生涯学習支援に関わるワークショップの概要
第12回 アイスブレイキング
自分自身の生涯学習に関する個人作業
第13回 アクティビティ
ブレインストーミングとKJ法
第14回 シェアリング
発表と省察
第15回 最終総括
最終レポートの作成

2022年度 後期

2単位

生涯学習研究

立田 慶裕

< 授業の方法 >

講義、演習

基本対面講義の予定ですが、コロナ禍の状況によって変わります。

遠隔講義（基本 オンデマンド） で実施する場合は、moodleを利用します。

また、講義録は、one driveへアップします。

< 授業の目的 >

生涯学習活動は、1980年代より世界で大きく発展してきた。特にそれまでの生涯教育の理論だけではなく、80年代以降の生涯学習活動の特色の一つに、草の根運動の活発化、とりわけ世界のいろんな地域で、地域の住民が社会参加活動を通じて多様な学習に取り組みはじめた点がある。本講義では、学習者の社会参加活動についてまずは日本の現状を論じ、世界の活動について考えていく。本学のDPにある主体的で相互的な学習の力とともに、生涯学習の知識とスキルの習得と活用を目的とする。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用する。

< 到達目標 >

到達目標は、1)ボランティア活動の歴史を知る、2)

多様なボランティア活動の内容を知る、3)各活動の理解を通じて、今後の課題を考え、参加へのステップにつながることに置く。

< 授業のキーワード >

地域ボランティア、参加型学習、NPO、社会参加

< 授業の進め方 >

講義を基本とします。授業では、いろいろなグループワークも課しますし、パソコンやスマホを学習のツールとして活用します。Youtubeを見たり、本を読んだり、映画を見たり、できるだけ、学ぶことが楽しい授業を目指します。

学習ツールとして、LMSのmanabaを利用します。

Manabaには、みなさんのIDとパスワードを用いて入ります。

Manabaのシステムには、

大学の学内情報システムから入ることができますが、大学外部からアクセスするときは

<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp>

のアドレスを利用してください。

< 履修するにあたって >

いろんな分野の本を月4冊ペースで読むように心がけてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

時間外の学修として、学内で行えるボランティア学習には、障害学生のためのノートテイク活動や図書館ボランティアがありますし、学外のボランティア活動では、多様なNPOが行う地域学習への協力活動、公民館、図書館、博物館ボランティアがあります。こうした活動への参加を時間外で行ってください。

< 提出課題など >

(1)毎回、主題についてのミニッツレポートを作成。(2)定期的にまとめと補足を加えた情報整理の中間レポートを提出。(3)期末に総括評価のための課題達成レポートを提出。

< 成績評価方法・基準 >

成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート15回(40%)、中間課題レポート2回(40%)、最終課題レポート(20%)の総合判断。

< テキスト >

立田慶裕『生涯学習の新しい動向と課題』放送教育振興協会、2018

< 参考図書 >

各回で指示する

< 授業計画 >

第1回 生涯学習とボランティア

1980年代より広がった生涯学習の草の根的な活動を中心に、ボランティア活動の基本的概念を論じて、その基本的知識を学び、現在多様な場面で進行している生涯学習への社会参加についての学習の糸口を提供する。

第2回 参加して学ぶ時代

1980年代以降の生涯学習の動向を中心に、参画型学習と呼ばれる活動や事業計画が多数動き始めた。1990年代に入ってからNPO活動の活発化も含めて、「共に生きることを学ぶ」という生涯学習の原則が世界中に広がっていった。その理念と活動を追う。

第3回 米国のシティズンシップ学習

米国のシティズンシップ（市民性）という考え方がいかに米国の成人教育の発展を促してきたか、そして、公民権運動の歴史を踏まえて、現在米国ではどのようなシティズンシップ学習が行われているかを講義する。

第4回 新しい時代を開く公民館

日本で市民性を育む場として誕生した公民館は、生涯学習でも非常に重要な役割をはたしている。この公民館における市民活動と市民のネットワーク形成の問題を論じる。

第5回 環境リテラシー

生涯学習の課題であるSDGs、持続可能な発展を目指す学習の中でも環境リテラシーの育成は、非常に重要な課題である。その課題の学習がどのように行われているか、環境リテラシーの発展型である生態学リテラシーを含めて、その現状と課題を探る。

第6回 批判的な買い物

私たちが普段行っている買い物活動、しかし、その活動自体を通じて、私たちはいろいろな市民参加活動を行っていくことができる。その一つの方法が買い物における批判的な思考である。どんなものを買うのか、なぜ買わない方がいいものがあるのか、環境リテラシーの観点を含めながら、100マイルダイエットやロカポー、フェアトレードについて考えて行く。

第7回 サービスラーニングと体験活動

サービスラーニングとは、学校プログラムの中で社会参加を促す代表的な学習方法である。地域社会への参加を行う上で、体験学習から、学究的なサービスラーニングまでその意義と方法を探る。

第8回 生涯学習とパートナーシップ

CSR 企業の社会的貢献活動や非公益団体は、SDGsを行う組織であり、そのような組織と公共の生涯学習、そして学校がパートナーシップを育てていくことでさらに生涯学習の発展を促進していくことができる。本講では、その現状と課題を探る。

第9回 オンライン学習と市民参加

近年急速に発展するICTは、生涯学習における市民参加にも大きな影響をもたらしている。本講では、まず、インターネットの普及やソーシャルメディアの発展を通して、どのような市民参加活動が行われつつあるかを論じる。

第10回 オンライン学習と市民参加(2)

オンライン学習と市民参加の問題として、本講ではさらに、オンライン教育の発展、学校を越えていく学習システム、教育のデジタル化、ICTリテラシーの高度化につ

いて論じ、考えて行く。

第11回 テクノロジーを活用した市民参加

オンライン学習だけではなく、ICTの発展は、生涯学習における市民参加に多様な機会を提供している。本講では、市民参加のプラットフォーム構築活動、ゲーミフィケーション、Youtube、そしてAIを含む先端テクノロジーが市民参加学習の機会や内容をどう変えつつあるかを考える。

第12回 問題解決学習と市民参加

市民参加を通じた生涯学習では、問題解決を求められる場が増えつつある。本講では、SDGsを含めて、気候変動学習や防災教育のプログラムに焦点を当て、問題解決学習のプロセスを学んでいく。

第13回 経験学習

市民活動への参加は、一種の体験学習であり、経験学習でもある。その経験がもつ社会的意義や教育的意義を深く考え、社会参加について改めて問い直す。

第14回 多様化するリテラシーと市民参加

以上の講義を通じて、市民参加のために、そして問題解決学習のために、現代社会では多様なリテラシーが求められる時代になってきた。本講では、これまでに述べた多様なリテラシーやスキルについて整理する。

第15回 講義のまとめ

以上の講義をすべて振り返りながら、本講の最初にのべた「共に生きることを学ぶ」ことの重要性について論じ、講義を終える。

2022年度 前期

2単位

生涯学習論

立田 慶裕

<授業の方法>

講義

対面を基本としますが、コロナ禍の状況によって変化します。

LMSとしては、moodleを使用します。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

本講義では、生涯学習についての基礎的知識を得るとともに、生涯にわたる学習を実践する学習への動機付けを図り、生涯学習者としての生きる力を習得していくこと

を目的とする。現代においてなぜ生涯学習が必要とされるようになってきたか、生涯学習のための学習環境がどのように整備されつつあるか、学校卒業後にどのような学習が求められるようになるか、といった問題について考え、生涯学習の方法として、可能な方法の紹介を通して実践的なスキルを習得する。さらに、生涯にわたる学習の理論的背景について、意識変容の理論や市民参加、社会関係資本の理論を通じて、深い学びを行っていく。本学のDPにある主体的で相互的な学習の力とともに、生涯学習の知識とスキルの習得と活用を目的とする。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用する。

<到達目標>

本講義を通じて、生涯学習の基礎的知識を習得し、生涯学習についての基本的な説明ができるようにするとともに、主体的な学習を行うために、自発的な動機付けができるようにする。さらに、講義においては、問題を解決できる能力を習得する。また、生涯にわたる人生への視野を身につけることにより、毎日の学習の重要性を認識し、読書やノートテイキングなどの「学習の習慣づけ」が行えるようにすることを目標とする。

<授業のキーワード>

生涯学習、意識変容、自律的学習、集団学習、人間関係力、道具活用力

<授業の進め方>

授業は、講義を中心としつつ、生涯学習の現場を理解するために、各種の動画教材を活用するとともに、ICT機器を用いたポートフォリオを使用し、学生自身が生涯学習にかかる情報を収集し、整理、活用できるようなナレッジデータベースを作成していく。

本講義では、次のいずれかのレポート作成を目指す。

1. 各市町村における生涯学習システムについて

みなさんが住む地域の環境、都市計画、教育施設を調べ、生涯学習計画についてネットで調べて、レポートを作成する。

レポートテーマ「?市町の生涯学習」 A4版レポート3枚程度

2. 公民館、図書館、博物館、動物園などの社会教育施設の種類の一つを選び、その社会教育施設の役割、代表的な施設や興味深い施設のプログラムについてレポートを作成する。

テーマ 「? の特徴と教育・学習プログラム」

<履修するにあたって>

本講義を履修する学生は、学校教育の勉強というイメージから、学習や教育を判断するのではなく、「学ぶ」ことが自分にとってどのような意味を持つかを常に考えていただきたい。また、単位の修得も重要であるが、それ以上に、大学で学習することの意味をいつも考えていただきたい。学習の基本としての読書も重要なこと、読書以上に多くの人との関係づくりが自分という人間を形成していくこと、社会には多様な学習の方法や学習のスタイルがあり、そして、多くの人々が学習を通じて幸福を実現しようと日々活動していることを考えながら、毎日の学習が長い人生にわたる生涯学習の基礎となっていくことを、本講義から学んでいただきたい。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、社会の多様な学習法に目配りし、講義で論じた学習法のうち、自分に適した学習法が何かを毎回考えることを事前学習として行ってください。事後学習は、自分がまとめたレポートを友人の提出したレポートを参考にして、修正し、よりよりレポートの完成を目指してください(コピーして提出するとすぐにばれます)。また、講義内での課題とするについては、各回で論じた重要な概念については、必ず自分のノートに記述するようにしてください。

<提出課題など>

次のいずれかのレポートを一つ作成して、提出する。レポートの分量は、ワードで作成の上、A4版1200字 3枚以上。

1. 「各市町村における生涯学習システムについて」

2. 公民館、図書館、博物館、動物園などの社会教育施設の種類の一つを選び、その社会教育施設の役割、代表的な施設や興味深い施設のプログラムについてレポートを作成する。

テーマ 「? の特徴と教育・学習プログラム」

<成績評価方法・基準>

レポートにより、学習を評価を行うとともに、各講義での参加状況を見て、総合的な評価を行う。

評価にあたっては、毎回のアンケートへの回答を7割、レポート3割で評価する。

<参考図書>

立田慶裕『生涯学習の新しい動向と課題』放送大学教育振興会、2018

<授業計画>

第1回 生涯学習とは何か

生涯学習の基本的な定義と考え方を論じ、以下の講義のオリエンテーションとする。

第2回 生涯学習の歴史1

ユネスコ・OECDを中心に、生涯教育論を提唱したラングランや、ハッチンスの学習社会論、リカレント教育論を論じる。

第3回 生涯学習の歴史 2

日本の生涯学習の展開について、1980年代からの、臨教審答申や行政改革、生涯学習振興法、その後の重要な教育改革について論じる。特に、21世紀に入ってから、社会的課題であるSDGsの重要性を学び、多様な学習テーマを提示して、各自が学習テーマを選択する。

第4回 県・市町村の生涯学習支援

都道府県や市町村が展開する生涯学習の支援策について、その概要を論じる。また、日本の各自治体では、どのような生涯学習政策が行われているかの学習を、学習テーマ毎に説明し、各自のレポートに反映させる。

第5回 生涯学習と社会教育の施設 1

生涯学習施設として、社会教育3館と呼ばれる公民館、図書館、博物館についてのその成立から、現状までを論じる。公民館や図書館、博物館ではどのような事業が展開されているかに関する情報を学生自身が調べ、レポートとして提出する。

第6回 生涯学習と社会教育の施設 2

社会教育3館以外の生涯学習関連施設として、文部科学省所管の施設、他省庁が所管する施設にどのようなものがあるか、また、その教育的役割が何かを論じる。他省庁が所管する施設にどのようなものがあるかについて講義する。

第7回 生涯学習と社会教育の施設 3

生涯学習施設として、スポーツや社会体育施設の現状と課題について講義する

第8回 生涯学習時代の学校

小学校、中学校、高校が、地域とどのようなつながりがあるか、学校の教育内容や教科の学習に、生涯学習関連施設や地域の諸団体がどのように関わっているかを論じる。

第9回 大学と生涯学習

大学が学生を通じて、どのように地域社会と関わっているか、また社会人を対象とした学習機会をどのように提供しているか、日本の大学だけではなく、世界各国の大学を例にとりながら、大学が果たすべき生涯学習社会における役割を論じる。

第10回 他省庁とNPOの行う生涯学習

地域における生涯学習は、文部科学省だけでなく、多くの省庁が関わっている。各省庁が行う生涯学習政策とともに、非営利組織であるNPOも近年、多くの生涯学習活動を行っている。その多様な生涯学習事業や活動に触れていく。

第11回 生涯学習の課題1 SDGs

近年、世界中で、地球温暖化の危機に対応した持続可能な社会作りが目指されている。生涯学習活動において、実際にはどのようなSDGs活動が行われているか、ま

たその課題は何かを探っていく。

第12回 生涯学習の課題2 変化する仕事の学習

大学を卒業後、私たちは職場における活動に参加していく。その職場における仕事のための学習機会は、あらゆる場で提供されているが、勤務した企業の規模や職種によって、学習の機会や内容、方法は大きく変化する。仕事と生涯学習についてどのような現状と課題があるかを探っていく。

第13回 生涯学習の課題3 テクノロジーの進歩

21世紀に入って急速に進歩しているネットテクノロジーは、生涯学習の世界にも大きな影響を及ぼしている。この講義では、遠隔教育の発展、教育コンテンツの問題、多様なネットワークの発展、学習テクノロジーの進歩、リテラシーの高度化などの話題をとりあげる。

第14回 生涯学習の課題4 人生100年時代

生涯学習は、人生全般にわたる学習ですが、特に、近年は、長寿社会といわれるように高齢化が進んできている。そのような社会変化の中で、学習への要求がどのように年代によって変わっていくか、また幸福に生きるためにはどうすればいいか、そして、生涯にわたっての設計をどのように進めていけばよいか、について考察していきます。

第15回 まとめ

第1回?第14回にわたる講義をまとめ、今後の生涯学習の課題をまとめます。

2022年度 後期

2単位

生涯学習論

立田 慶裕

<授業の方法>

講義、演習

基本対面講義の予定ですが、コロナ禍の状況によって変わります。

遠隔講義(基本 オンデマンド) で実施する場合は、moodleを利用します。

また、講義録は、one driveへアップします。

<授業の目的>

現代の生涯学習は、多様な学習方法を取り入れつつ展開されています。しかし、そのような時代の中でも、読書という基本的な学習方法は重要な位置を占めています。特に、近年、子どもの読書活動振興法や、文字活字文化振興法が成立する中で、子どもだけではなく、大人の読書の推進も生涯学習の政策として、重視されつつあるのです。

この講義では、社会人の基礎的な力としての読書力の向上と読書習慣の習得を図ります。そのために、まず、

幼児から成人に至るまでの読書の発達について考え、大学生の調査結果から作成した推薦本リストを参考にし、次のような読書法の学習を行う予定です。

1. ライト・リーディング(軽く読む。難しい本ではなく、絵本や新書から読み始める)
2. フリー・リーディング(タダで読む。青空文庫の利用。図書館の利用)
3. ブックトーク(本の内容について、誰かと話し合う)
4. 探究型読書(テーマをつなげて読んでいく。同じ本を繰り返し読む)
5. 追っかけ型読書(一人の作家の作品を続けて読む)
6. 異分野読書(いつも読む分野とは異なる領域の本を読む)
7. マルチ読書(その作品について、活字だけではなく、新聞や漫画、映画を見る)

こうした読書を楽しみながら、8. 生涯読書の習慣(1月2冊?4冊を読む習慣を持つ。同じ本を繰り返し読む習慣を持つ)を身につけることを目指します。その過程で、本学DPの専門的知識とスキル、読書をめぐる課題解決、主体性を持って相互に学ぶ態度を生涯学習に関わって学んでいきます。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用します。

<到達目標>

学習目標は、1)生涯学習の多様な方法を身につけることができる、2)なかでも多様な読書法の修得を通じて、読書力の向上を行い、3)他の人への読書の指導ができるようになり、4)その後の成人期における読書習慣の形成(1か月に2冊?4冊)へとつなぎ、5)生涯にわたる読書の楽しみをめざす。

<授業のキーワード>

生涯学習の方法、読書力、読解力、読書教育、学校図書館、読書法、コンピテンシー

<授業の進め方>

アイスブレイク、ICT、インプロなど新たな学習方法を修得しながら、生涯学習の基礎的方法としての読書をめぐる実践的知識を身につける。また、多様な読書の方法について、授業内で学んでいく。

授業では、いろいろなグループワークも課しますし、パソコンやスマホを学習のツールとして活用します。Youtubeを見たり、本を読んだり、映画を見たり、できるだけ、学ぶことが楽しい授業を目指します。

<履修するにあたって>

履修にあたっては、ノートテイキングを基礎としながらも、いろいろな学習方法について考え、そうした学習法の中でもつ読書の重要性を学びます。みなさんが好きな漫画や活字本、ミステリー、SF、ファンタジーなど子どもから大人が楽しめる本を探してください。

<授業時間外に必要な学修>

本講義では、生涯にわたる読書をテーマとしての講義を行うため、公共図書館や大学図書館に時間外に出かけて、自分が読みたい本だけではなく、普段、読むことのない領域の分類があるコーナーにも足を運び、いろいろな領域の本に接するように心がけることが期待されます。また、絵本や科学書、ドキュメンタリーなど、小説以外の本を借りてみることも、自分の読書経験を深めるためにも必要とされます。また、自分が読んだ本について、家族や友人と話し合ってみてください。さらに、本だけではなく、新聞を読んだり、ニュースを見たり、映画や音楽、漫画を楽しんだり、旅にでかけたりして、多くの経験を積むようにしてください。そうした多様な経験が、読書の楽しみ、深まりを招いてくれます。

<提出課題など>

- (1) 毎回、主題についてのミニッツレポートを作成。
- (2) 読書に関わるレポートを提出。
- (3) 学習支援システムを用いたチームプロジェクト課題など

<成績評価方法・基準>

1) 毎回、授業でミニレポートの作成を行い(形成的評価)、15回目にまとめの総括レポート(総括評価)を提出する。2) 評価の配分は、ミニレポート60%、課題レポート20%、総括レポート20%とします。

<テキスト>

立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015

<参考図書>

各回で指示する

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

読書教育の学習について

1) 講義での学習法の説明、2) 読書の意義を考えます、3) 読書状況についてのアンケートを実施します。

第2回 発達に応じた読書

乳幼児から成人にいたるまでの発達に応じた読書教育について概観します。

読書が別の世界への秘密の扉となることを考えます。

テキスト 第1章 発達に応じた読書

第3回 読書教育の担い手

読書教育の担い手として、とりわけ、家庭の親、学校図書館を支える司書教諭、学校司書、学校図書館ボランティアの人々について、その役割を考えます。

テキスト 第2章 読書教育の担い手

第4回 学校図書館

小学校から高校にかけて、児童・生徒の読書教育を支えるのは学校図書館です。その現状と役割、課題を探ります。

第5回 乳幼児の読書

乳幼児段階で行われる多様な読書教育の方法を探ります。ブックスタートや読み聞かせに注目してください。

テキスト 第6章 乳幼児の読書教育

第6回 小学校の読書

小学校低学年、中学年、高学年における各学年の読書の特性と読書教育の目標の設定

テキスト 第9章 小学校の読書教育

第7回 中学・高校の読書と科学的思考力

中学校、高校では、学習センター、情報センターとしての学校図書館の役割が増えています。

それぞれのセンターの特徴と科学的な思考を育てる読書教育を考えます。

テキスト 第10章 中学校・高校の読書教育

第8回 大学図書館

日本の大学図書館だけではなく、世界の大学図書館も含めて、高等教育を学ぶ上で、大学図書館には、研究図書館、教育図書館としての役割があります。ラーニングコモンズ、コミュニティサービス、ネットワークサービスなど、専門的な図書館としての大学図書館がどのような社会的・教育的役割を果たし、現在どのような課題を抱えているかについて考えます。

第9回 多様な読書法1

読む本の種類や分野を変えてみたり、書店や図書館をさまよったりすることも読書法の一つです。調べる学習や、気分にかかせた選書、作家やシリーズなどの系列的な読書など、いろいろな読書法を紹介していきます。

第10回 多様な読書法2

速読法やスローリーディングも読書の形態です。どのような視点で、どのようなスタイルで本を読むかによって、読書の楽しみは変化します。多様な読書法として、この講義では、読書を深めていく方法を考えて行きます。

第11回 電子書籍

スマホやパソコン、kindleなど、電子媒体を用いた読書の世界が拡がりつつあります。電子書籍がどのように変化してきたか、人々ほどの程度電子書籍を利用しているのか、電子書籍を利用した読書のメリットは何か、などを考えていきます。

第12回 オープン教育リソース

電子書籍やwebの中には、無料で本や画像を見ることができるサービスが始まっています。本を買うのではなく、いかに安く本を読むことができるかを考えてみましょう。

第13回 ユニバーサル・デザインと読書

テクノロジーの進歩は、障害をもつ人々にも多様な読書機会を提供しつつあります。障害者のための読書環境整備の法律を踏まえながら、現在どのような読書環境が整備されつつあるかを展望します。

第14回 世界の図書館

世界の図書館をめぐりながら、今後の図書館の未来戦略を探ります。台湾、シンガポール、イギリスなどの公共図書館、大学図書館の図書館サービスや学習スキルを展

望します。

第15回 生涯にわたる読書

本講義では、読書力の向上を目標として、多様な読書法について考えてきました。最後に、生涯にわたる読書の意義について説明します、読書力には、多様な生きる力が含まれています。

読書法は、学習法の一つの方法です。本を読むことから、知識の習得、探究や活用を通じて、さらに多くのことを学び、自分の学習のマネジメントを考えて、さらに効率的で楽しく、ムリのない学習法について考えていきましょう。

2022年度 後期

2単位

食の文化史

大原 良通

<授業の方法>

遠隔授業（オンデマンド授業）

<授業の目的>

この授業では、食とあそびを通じて、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

私たちが食とあそびを通じて、社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。

人文学部のDPIに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる（思考力・判断力・表現力）。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます（知識・技能）。さらに、この授業を通して多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります（主体性・協働性）。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。（主体性・協働性）。

<到達目標>

身近なものにも歴史があることに気づくことができる。

変化には一定の法則があることを知ることができる。

遊ぶことが無駄でないことを知ることができる。

遊ばなければならないことに気づく。

一見無駄だと思うことに真剣に向き合うことが、大事だということに気づくことができる。

<授業の進め方>

dotCampusで資料を提示し、課題をこなすという方法で

す。
授業では、dotCampusの内容をふまえて、アクティブラーニングの手法を生かし、みなさんからの意見を公開しながら、議論を発展させていきたいと思ひます。
毎回、小テストもしくはレポート提出をおこなひます。

<履修するにあたって>

積極的に議論に参加してください。議論、討論がなければ授業が成り立ちません。

出席確認はdotCampusの該当授業へのアクセス記録によって確認しますので、必ず大学に登録している自分のアカウントでアクセスしてください。

dotCampusでの小テストは、電波状況の良い場所で、画面を二つ開けたり、途中で画面を切り替えたりせずに受けてください。

テストは途中で止めることはできません。始めた時点でタイマーが作動します。

<授業時間外に必要な学修>

dotCampusにある講義内容を確認します。講義資料は60分ほどで読み切れるものを用意しています。ただし、一度では理解できないかもしれないので、余裕を持って2時間ほどかかると考えてください。

授業ごとに15分程度の小テストを実施します。

第二回目の『古事類苑』「遊戯部」の読解には3時間ぐらひかかるかもしれません。

<提出課題など>

毎回、dotCampusで小試験もしくはレポート提出をしよう予定です。

レポート課題には頭に、表題、学籍番号、氏名を必ず明記してください。書いていないレポートは無効とします。

<成績評価方法・基準>

dotCampusでおこなう小テストの点数とレポートで評価します。

小試験は10点満点で10回ほど、レポートは5回から7回ほどを予定しています。

回数は授業の進捗状況やみなさんからの反応で、随時調整します。

それらを総合した点数を100点に按分して成績の点数とします。

<テキスト>

dotCampusで指示します。

<授業計画>

第1回 シラバス確認

授業計画についてシラバスから確認する。

授業内容はOneDriveにあります。

授業説明を読んでください。

なお、この授業はあそびの文化史がよみかえとなっていますので、表題は「あそびの文化史」となっています。

第2回 あそびとは

『古事類苑』の「遊戯部」から日本の遊びの文化につい

て考えてもらう。

『古事類苑』は国立国会図書館のホームページ、また、神戸学院図書館のジャパンナレッジ、にあるので、確認してください。

今回からdotCampusで授業ができるようになっていますので、dotCampusを確認してください。

第3回 あそびを調べる

『古事類苑』「遊戯部」から、日本人にとって「あそび」とは何かについて考える。

第4回 あそびを定義する

各自、あそびについて考察してもらう。

第5回 カイヨワとホイジンガ

ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』を解説しながら、遊ぶということがどのように捉えられてきたかについて考察します。

ロジェ・カイヨワの『遊びと人間』を解説しながら、なぜ遊ぶのかについて考えます。

第6回 遊戯を研究する

増川宏一の研究を紹介します。

第7回 近代におけるあそび

近代のあそびについて、柳田國男や森鷗外の著作から考える。

第8回 机上遊戯

碁、将棋、すごろく。

第9回 賭け事

すごろく、競馬、カードゲーム。

第10回 都市と遊戯1

喫茶店、軽食マクドナルドやケンタッキー、ドーナツ。

第11回 都市と遊戯2

ポロや小説、ハイキング。

第12回 飲酒とあそび

投壺・曲水の宴（負けて得するという理論）。

第13回 貴族とあそび

闘茶、聞香など。

第14回 あそびの未来

私たちはなぜあそぶのか、あそびはこれからどうなるのかを議論する。

第15回 復習とまとめ

「あそび」が社会や私たちの生活でどのような役割を果たしてきたのかをまとめる。

2022年度 前期

2単位

人文情報処理

間庭 大祐

<授業の方法>

講義&演習（実習）

< 授業の目的 >

大学で学んでいくにあたってコンピューターの活用は必要不可欠なものである。講義やゼミで出されたテーマ、あるいはみずから立てた「問い」にそって、さまざまな現実的諸問題にかんする情報（データ）をWebで集めたり、関連する文献や資料を探索することが求められることになる。もちろん、その場合、信頼するに値する情報を適切な形で利用しなければならない。また、調べた情報を整理・分析し、レジュメやレポートという形で文章にまとめたり、スライドを作成して口頭発表を行うことが求められることになるだろう。

そこで、本講義では、大学での「学び」に必要な情報リテラシー（情報を主体的に収集・分析・処理・発信する能力）の基礎を、コンピューターを使用した講義&実習形式で習得することを目指す。具体的には、インターネットを利用した情報収集のやり方、電子メールの書き方、ワープロソフト（Microsoft Word）を用いた文書作成の方法、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いたデータ分析および処理の方法、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を用いたスライド作成や口頭発表の方法などを学び、実際に使いこなせるようになることを目標とする。

< 到達目標 >

信頼性のある情報（Web、文献、研究資料）を、適切に処理・使用できるようになること。

Microsoft Office（Word, Excel, PowerPoint）およびEメールを使った課題作成ができるようになること。

分かりやすい文章作成を行うことができるようになること。

論理的かつ科学的な文章構成を行うことができるようになること。

< 授業のキーワード >

情報リテラシー、インターネット、電子メール、Microsoft Office、データ処理、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

本講義は、基本的に担当教員が配布するレジュメおよびパワーポイント（PPT資料）にそった講義形式、ならびに実習形式で行う。実習では実際に受講者にPCでの作業を行ってもらい、体験してもらいながら、大学での「学び」に必要な情報処理技能を習得してもらう。

< 履修するにあたって >

コンピューターのもっとも基本的な操作（ウィンドウの操作、ファイルの操作、アプリケーションの起動と終了など）について事前に確認し、出来るようにしておいてもらうのが望ましい。ただし、コンピューターについての中級・上級レベルのスキルは必要ない。まったくのゼロからのスタートということを想定しているので臆せず受講してもらいたい。

なお、受講の際は、ディプロマ・ポリシー（DP）における、

4. 「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」。

5. 「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章での確に表現できる」。

6. 「情報に潜む危険性を認識したうえで、情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる」。

これらの点を意識して受講していただきたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業をしっかりと復習すること。また、授業で紹介する参考文献を次回講義までに目を通しておくこと（毎回120分程度）。

< 提出課題など >

講義内で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート55点、平常点45点（毎週、講義中に指示されたミニワークの提出＝1回3点×15回）の計100点。期末レポートでは、

（A）指示された形式に則って、分かりやすい文章で表現されているか

（B）講義の内容が適切に理解されているか（Word・Excel・PowerPointの到達度確認）

（C）受講者がどのように考えたかが論理的に表現されているか

の3点を重視する。

ちなみに、ミニワークは授業時間内に実施する。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

講義中に適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス&イントロダクション

講義の進め方、大学での「学び」におけるコンピューター活用の重要性、検索エンジンの使い方、情報に関する最低限のマナーの確認、成績評価等について

第2回 インターネット（1）

電子メールの使い方、メール文面の書き方、送受信の方法ほか

第3回 インターネット（2）

情報収集の方法、研究資料・文献情報の収集と整理の方法、情報の評価と管理の方法

第4回 Word（1）

レジュメ作成のやり方（基本編）

文献の読み方、Wordによる文章入力方法

第5回 Word（2）

レジュメ作成のやり方（応用編）

文献内容のまとめ方、要約の仕方、Wordによるレイアウト調整

第6回 Word（3）

レジュメ作成のやり方（実践編）
文献へのコメントの仕方、「批判」的に読むということ、
Wordによる図表作成の方法
第7回 Excel（1）
データ分析の方法（基本編）
統計データの読み方、Excelによるデータ入力と表・グラフの見方
第8回 Excel（2）
データ分析の方法（応用編）
基礎的な統計分析の方法、Excelによる表計算の方法
第9回 Excel（3）
データ分析の方法（実践編）
統計データの研究への活用方法、Excelによる図表作成の方法
第10回 Word&Excelのまとめ
WordとExcelの併用方法
第11回 PowerPoint（1）
口頭発表のやり方（基本編）
研究発表の考え方、PowePointによるスライド作成の基礎
第12回 PowerPoint（2）
口頭発表のやり方（応用編）
ストーリーの作り方、PowePointによるアニメーション設定
第13回 PowerPoint（3）
口頭発表のやり方（実践編）
実際の研究報告のやり方、PowePointによるスライドショーの操作方法
第14回 PowerPointおよびWord・Excelのまとめ
学習・研究活動の効率化および円滑化、レポート作成、レジュメ作成、ゼミ報告を想定した実践的なテクニックについて
第15回 総まとめ
情報に対する倫理と研究のマナー、引用の作法等について

2022年度 後期

2単位

人文情報処理

水田 憲志

< 授業の方法 >

授業形態 対面授業（講義）

< 授業の目的 >

今日、ソーシャルメディアなどを通じて発信される情報やウェブ上のデジタルデータに触れる機会が多い。本講義では画像や映像、地図、地理情報システム（GIS）などのデジタルデータを取り扱う方法を学び、情報処理の基礎的な知識を修得するとともに、人文学部ディプロマ・ポリシーにある「情報に潜む危険性を認識したうえで、

情報通信技術等を用いて情報を適正につかみ、伝えることができる」ことを修得することを目的とする。

< 到達目標 >

人文学を学ぶ上で必要となる様々な情報やデジタルデータの処理に関する基礎的知識を修得するとともに、自ら情報を発信できるスキルを身につける。

< 授業の進め方 >

各回の講義で情報やデジタルデータの基礎知識について説明し、講義内容をふまえた課題を出題する。課題作成を通して、情報処理のさまざまなスキルを身につけることを期待する。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義で学んだ内容に関する課題作成を課す（60分程度）。

< 提出課題など >

各回の内容に関する課題提出を課し、受講生各自の到達度を確認する（10回前後を予定）。

< 成績評価方法・基準 >

授業時の課題提出物（100%）で評価する。

< テキスト >

なし。講義資料はPDFで配布する。

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義の概要と授業の進め方について

第2回 知識と情報

情報とは何か

第3回 情報技術の基礎

情報技術の基礎知識

第4回 デジタル画像の基礎

画像データの基礎知識と利用法

第5回 空中写真

空中写真の基礎知識と利用法

第6回 デジタルアーカイブ

デジタルアーカイブの利用法

第7回 地理写真

地理的事象を記録する写真

第8回 映像

映像の基礎知識と利用法

第9回 ウェブマップの利用(1)

ウェブマップの利用法

第10回 ウェブマップの利用(2)

ウェブマップを使った位置情報の可視化

第11回 GIS（地理情報システム）（1）

GISの基礎知識

第12回 GIS（地理情報システム）（2）

定量的データの分析と可視化

第13回 GIS（地理情報システム）（3）

カテゴリーデータの分析と可視化

第14回 GIS（地理情報システム）（4）

主題図の作成

第15回 まとめ

講義内容のまとめと提出課題の確認

2022年度 前期

2単位

人文の知1

間庭 大祐

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義では社会学、とりわけ社会意識論という分野を扱い、現代社会を生きる我われの意識・社会的態度・価値観がどのようなものかを明らかにし、それらが形づくられるメカニズム（社会構造や社会過程との結びつき）についての科学的かつ説明的な理解を目指す。

そこで、本講義では、社会のさまざまな領域におけるいくつかのトピック（元死刑囚の物語、在日コリアンの物語、水俣病患者たちの物語）をとりあげ、これまで積み重ねられてきた学説や研究事例を紹介しつつ、（一見すると実に個人的なものであるかのように考えられている）我われの意識が社会からどのような影響を受けているのか、そして、そうした意識が社会をどのように維持・改変しているのか、といった問いについて考察していく。

< 到達目標 >

当該分野における古典的な著作ならびに近年の実証研究を幅広く学び、現代社会において社会構造や社会過程と人びとの意識とがどのように関連しているかを論理的に考察し、分析・説明する力を身につけること。また、ディプロマ・ポリシー（DP）における「2. 人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけ」ること。

< 授業のキーワード >

社会学、社会意識、社会構造、社会過程、差別

< 授業の進め方 >

本講義は、基本的に担当教員が配布するレジュメおよびパワーポイント（PPT資料）にそった講義形式で行う。が、講義の進捗および受講者の理解度等を見つつ、適宜資料を配布すると同時に、映像資料等（DVD）を用い、より具体的なイメージを持ってもらうように努める。なお、本講義では15回の講義中4度受講生にリアクションペーパー（講義内容についての質問や意見または感想、ならびに分析等）を書いてもらい、そのフィードバックを行う。それによって初学者にもわかりやすい講義になるように努める。

< 履修するにあたって >

社会学、もしくは社会学理論に不案内な学生にもわかりやすい講義にするよう努めるので臆せず受講してほしい。社会学を初めて学ぶ受講者にその面白さを知っていただ

きたい。そのため、事前に修得しておくべき専門知識等は必要なし。本講義では、普段何気なく行っているみずからの行為に引きつけて考えていただきたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメならびにPPT資料、および講義中に紹介した参考書の指示された箇所に目を通しておくこと（毎回の講義ごとに120分程度）。

< 提出課題など >

講義中に4度、平常点としてミニ課題（リアクションペーパー）を提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

講義期間中に出席（リアクションペーパー）を4回とる。1回5点（平常点）。

成績評価は、期末レポート80点+平常点（1回5点×4）20点=100点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

講義中に適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス&イントロダクション

講義の進め方、この講義で何を問題とするのか、成績評価等について

第2回 社会学、もしくは社会意識論の考え方

社会意識とは何か、社会意識の捉え方、アプローチの方法

第3回 「まなざしの地獄」を生きるということ(1)

見田宗介『まなざしの地獄』について（ある元死刑囚の物語）

第4回 「まなざしの地獄」を生きるということ(2)

貧困・階層・階級と帰属意識

第5回 「まなざしの地獄」を生きるということ(3)

社会構造、社会過程、差別と社会意識

第6回 「民族」という名の壁(1)

金城一紀『GO』について（在日コリアンとして生きる高校生の物語）

第7回 「民族」という名の壁(2)

「在日」という生き方、近代国民国家とその凝集性および排他性

第8回 「民族」という名の壁(3)

「民族」による分化と差別、ナショナリズムと国民意識

第9回 水俣病事件を考える(1)

石牟礼道子『苦海浄土』について（水俣病患者とその家族たちの物語）

第10回 水俣病事件を考える(2)

近代資本制と重層的・構造的な差別、当事者意識

第11回 水俣病事件を考える(3)

都市と地方（中心と周縁）と社会意識

第12回 古典的著作を訪れる(1)

社会構造、虚偽意識、イデオロギー、存在被拘束性、マルクス、マンハイム

第13回 古典的著作を訪れる(2)

社会過程、相互行為、ドラマツルギー、文化資本、ハビトゥス、ゴフマン、ブルデュー

第14回 古典的著作を訪れる(3)

シンボリック相互作用、ラベリング理論、アウトサイダー、ベッカー

第15回 総まとめ

これまでの振り返り

2022年度 前期

2単位

人文の知5

佐伯 綾那

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマ・ポリシーに示す、「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」こと、および「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことを目指します。

この科目のテーマは「身近なモノから見る中世ヨーロッパ世界」です。私たちの現代社会で身近に存在する事物の例として、書物、色彩、祝祭の3点を取り上げます。そしてそれらが、中世ヨーロッパやビザンツ帝国ではどのようなものであったかについて考察します。その際、当時の文献や図像を提示しながら説明する予定です。この科目では、中世世界における日常生活のモノの存在が、現代世界と異なる点や変わらない点があることの理解を深めていきます。

< 到達目標 >

1. 「書物、色彩、祝祭」の歴史の変遷を学修することで、中世世界から現代世界に伝わってきた意義について体系的に身につけることができます。
2. 「書物、色彩、祝祭」焦点を当てて中世の社会や文化を見ることで、現代とは異なる社会や文化への関心を持つことができます。
3. 「書物、色彩、祝祭」に関する現代世界の事象について、歴史の変遷の知識に基づいて、考えを述べることができます。

< 授業のキーワード >

中世ヨーロッパ、ビザンツ帝国、書物、色彩、祝祭

< 授業の進め方 >

講義形式で、パワーポイントを使って授業を進めます。簡単な資料を配布して、授業で話す内容やパワーポイントに示した内容を書き込んでもらいます。

< 履修するにあたって >

高校「世界史B」の知識を前提とします。しかし、それがなくても理解できるように説明します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：シラバスに挙げている用語について基礎知識を確認してください(目安30分くらい)。

事後学習：配布した資料を再確認してください(目安40分くらい)。

< 提出課題など >

授業の最後に10~15分くらい使って、ミニレポートを書いて提出してもらいます(第5回、第10回、第14回の授業で実施予定)。提出されたレポートの一部は、授業の理解を深めるために、次の授業で紹介する予定です。

< 成績評価方法・基準 >

授業内のミニレポート(全3回)計45%、および最終レポート55%で総合的に評価します。

ミニレポートでは、各テーマの最後に実施して、学修の理解を確認します。

最終レポートでは、授業全体の理解を確認します。

< テキスト >

特にありません。

< 参考図書 >

授業中に、適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 授業の進め方

シラバスの内容に沿って、授業の全体的な流れや評価方法について説明します。

第2回 書物

第2回から第5回では、私たちの日常生活にあるものの例として、書物を取り上げます。中世ヨーロッパやビザンツ帝国で製作された装飾写本を例に挙げて、書物の材質や工房、書物の意義を考察します。

第3回 書物

第2回から第5回では、私たちの日常生活にあるものの例として、書物を取り上げます。中世ヨーロッパやビザンツ帝国で製作された装飾写本を例に挙げて、書物の材質や工房、書物の意義を考察します。

第4回 書物

第2回から第5回では、私たちの日常生活にあるものの例として、書物を取り上げます。中世ヨーロッパやビザンツ帝国で製作された装飾写本を例に挙げて、書物の材質や工房、書物の意義を考察します。

第5回 書物

第2回から第5回では、私たちの日常生活にあるものの例として、書物を取り上げます。中世ヨーロッパやビザンツ帝国で製作された装飾写本を例に挙げて、書物の材質や工房、書物の意義を考察します。

第6回 色彩

第6回から第10回では、12世紀ヨーロッパで流行したとされる「青色」について、服飾、紋章、絵画という観点からみていきます。

第7回 色彩

第6回から第10回では、12世紀ヨーロッパで流行したとされる「青色」について、服飾、紋章、絵画という観点からみていきます。

第8回 色彩

第6回から第10回では、12世紀ヨーロッパで流行したとされる「青色」について、服飾、紋章、絵画という観点からみていきます。

第9回 色彩

第6回から第10回では、12世紀ヨーロッパで流行したとされる「青色」について、服飾、紋章、絵画という観点からみていきます。

第10回 色彩

第6回から第10回では、12世紀ヨーロッパで流行したとされる「青色」について、服飾、紋章、絵画という観点からみていきます。

第11回 祝祭

第11回から第14回では、近年、日本の風物詩となっている祝祭の1つとしてハロウィンを取り上げ、その起源や内容について考察します。

第12回 祝祭

第11回から第14回では、近年、日本の風物詩となっている祝祭の1つとしてハロウィンを取り上げ、その起源や内容について考察します。

第13回 祝祭

第11回から第14回では、近年、日本の風物詩となっている祝祭の1つとしてハロウィンを取り上げ、その起源や内容について考察します。

第14回 祝祭

第11回から第14回では、近年、日本の風物詩となっている祝祭の1つとしてハロウィンを取り上げ、その起源や内容について考察します。

第15回 授業のまとめ

前半に授業全体のまとめを行います。後半に最終レポートの書き方について説明します。

2022年度 後期

2単位

人文の知7

渡辺 拓也

< 授業の方法 >

講義を中心にして進める。

< 授業の目的 >

この授業では、主にフィールドワークという方法を用いた研究事例を通して、私たちがどのように世界と向き合い、理解していくのか、基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

サブタイトルを「暮らしと仕事を記録する」としてのように、私たちが当たり前暮らし、働いている日常

の視点から世界を理解していくためには、そのための記録の取り方があり、分析の進め方がある。しかし、その実際は自分が何に関心を持ち、何を理解したいのかによって異なってくる。この授業では、2000年代から現在にかけての野宿者問題にかかわる事例を通して、このようなプロセスが、いかなる姿勢によって可能になるのか、その背景とともに理解を深めていく。

本講義はディプロマポリシー「1. 共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる」に関連している。

< 到達目標 >

フィールドワークというアプローチに必要な基本姿勢を身につける。

< 授業のキーワード >

フィールドワーク、現代の社会問題、都市下層、下層労働、野宿者運動

< 授業の進め方 >

基本的に講義を中心に進めるが、講義の合間に簡単な課題に取り組んでもらう。また、期末レポートに向けた課外の課題を出す場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外にフィールドワークと関連した簡単なデータ収集や調べ物を課題として出すので、しっかり取り組むこと。

< 提出課題など >

毎回、講義中に簡単な課題を出してもらう。また、課外にもフィールドワークに関する課題に取り組んでもらったり、期末レポート課題を提出してもらう。講義中の課題はウェブで提出してもらうので、ウェブに接続できる機器を持参すること。

< 成績評価方法・基準 >

平常課題60%、期末レポート40%の割合で総合的に評価する。

< テキスト >

事前に授業資料をアップロードするので、各自で適宜ダウンロード、プリントアウトして用意してくる。

< 参考図書 >

渡辺拓也『飯場へ 暮らしと仕事を記録する』洛北出版、2017年

青木秀男編著『ホームレス・スタディーズ 排除と包摂のリアリティ』ミネルヴァ書房、2010年

橋本治『「わからない」という方法』集英社、2001年

網野善彦『日本中世に何が起きたか 都市と宗教と「資本主義」』角川書店、2017年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の基本的な方針や課題等について確認する。

第2回 社会問題とは何か

社会問題と言われるものが、私たちにとって何がどう問題なのかを入口に、社会とかがわるとはどのようなことなのかを考える。

第3回 日常実践と社会構造

排除という視点から、私たちの日常的な行為がいかに社会の影響を受けているかを理解する。

第4回 労働世界の変容

私たちの社会の労働を取り巻く状況がどのように変化してきたのかを、下層労働の視点から学ぶ。

第5回 野宿者問題の30年

第4回と関連して、労働世界の変容が人びとの生活にどのような変化をもたらしたのかを野宿者問題を通して理解する。

第6回 路上の暮らし

野宿生活の実際について、事例をもとに学ぶ。

第7回 開かれたテント村の軌跡

若者たちと野宿者たちがテント村で築いた暮らしの持つ意味について考える。

第8回 日雇い労働者の街

大阪にある日雇い労働者の街・釜ヶ崎の成り立ちについて。

第9回 働く者の文化

日雇い労働者たちがどのような労働文化を持っているのか、それをどう理解していくのかを考える。

第10回 怠けているのは誰か

誰も怠けていないのに、怠け者が作り出されるメカニズムを理解し、そのから社会の存在に気づく。

第11回 普通とは何だろうか

私たちは何を普通と見なし、どのようにして普通を作り出すのかを考える。

第12回 コミュニティはどこにあるのか

人と人が助け合うコミュニティの実体をとらえるために、逆に助け合わない/助け合えないコミュニティについて考える。

第13回 助け合いの条件

野宿者支援の取り組みを事例に、人と人との助け合いを可能とする基礎的な条件の一つについて考える。

第14回 まちづくりは誰のものか

日雇い労働者の街で起こったまちづくりの事例をもとに、大きな社会の変化にあらがう可能性について考える。

第15回 生き方にかかわるフィールドワーク

世界を理解する時に、フィールドワーカーという立場がどのような意味を持つのかを考える。

2022年度 前期

2単位

人文の知A 科学と人文学

森栗 茂一、長谷川 弘基、水谷 勇

< 授業の方法 >

講義

3人の教員によるオムニバス形式

< 授業の目的 >

人文学部1年生を対象とした入門講義です。「人文学」という学問分野の本質、特徴について、とりわけ現代の「科学的指向」との対比を通して、歴史・都市民俗学(森栗)、教育学(水谷)、文学・言語学(長谷川)それぞれの視点から明らかにしていきます。講義を通して、人文学に対する理解を深めるとともに、学問分野の特徴やおもしろさにもふれてください。

なお、この授業は人文学部ディプロマ・ポリシーの、「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、および「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」、そして「人文学の知見にもつづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」の3項目を念頭において構成されています。

< 到達目標 >

- 1 「人文学とは何か」、「人文学部では何を学ぶのか」という問いに対して自分なりに答えられるようになる。
- 2 「人文学」と個々の専門的学問との間に関連性があることを理解する。

< 授業のキーワード >

物語、物語化、論理性、現代社会

< 授業の進め方 >

第1回目は3人の教員による全体のオリエンテーションを行う。その後、各教員がそれぞれ4回ずつ連続講義を行い、問題提起とその解説をする。第14回目と第15回目は再び3人の教員の合同授業とし、全体のまとめとする。講義主体の授業ではあるが、学生からの質問など、積極的な参加を歓迎する。

< 履修するにあたって >

人文学部生として「人文学」に接する最初の機会になるはず。この授業を通して、人文学への理解を深めてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習を含め、概ね1?2時間の自主学習を求める。

< 提出課題など >

各講義につき、短いレポートを課す。

< 成績評価方法・基準 >

授業ごとに課す課題(ミニレポート、質問への回答、小テストなど)の合計(100点満点)による。

< テキスト >

特に定めないが、以下に示す参考図書の少なくとも1冊は読んでおくことを強く求める。(参考図書は大学の図書館に複数冊用意されているが、早めに借りることをお奨めする。)

<参考図書>

村上陽一郎 『人間にとって科学とは何か』 (新潮選書 2010年)

田中耕治ほか 『教育をよみとく 教育学的探求のすすめ』 有斐閣 2017年

斎藤清二 『医療におけるナラティブとエビデンス 改訂版 対立から調和へ』 遠見書房 2016年

橋本 毅彦 『科学の発想 をたずねて 自然哲学から現代科学まで』 (放送大学叢書 12) 2010年

加藤周一 『文学とは何か』 (角川ソフィア文庫) 2014年 角川学芸出版

野家啓一 『3・11以後の科学・技術・社会』 (河合ブックレット41) 河合文化教育研究所 2021年

<授業計画>

第1回 人文学とは？

「人文学」は「科学」ではないのか？

「自然科学」だけが「科学」なのか？

「社会科学」はなぜ「科学」と言われるのか？

現代における「人文学」の立場はどうなっているのか？

以上のような問いが提起されることになるでしょう。

第2回 「人文学」という名称について

「言葉」=「概念」と思考の関わりについて

人は「科学」とか「人文学」という言葉によって、かえって惑わされている、という問題について

第3回 「人文学部」とはどんな学部なのか？

大学の「学部」とは？

「人文学部」の誕生とその弱点

「人文学部」の可能性

第4回 文学と人文学部

学問の専門性とは？

「文学部」と「人文学部」の違いは何？

「教養」とリベラル・アーツ

第5回 文学と哲学、歴史学

文学研究の目的

文学と哲学の分裂

文学と歴史の分裂

研究対象と研究手法の区別

第6回 科学の誕生と発展

村上陽一郎の研究成果に学びながら、「科学」とは何か、科学的に考えるということの歴史

的意味を考えていきます。(ルネッサンスまで)

第7回 近代科学の光と影

近代科学成立後の近代科学の光と影について考察します。

第8回 実証主義と科学

実証主義が科学の基本として尊重される中、実証主義の問題点について受講者と意見交換しながら考え、深めていきます。あわせて、数字を出すことで客観化したと思いがちな数字は何を語るのかなどについて考察します。

第9回 フェイクニュースあふれる中で

水谷の最終回として、価値相対主義、間主観、確率論、20世紀の科学・技術の急激進展の中で起きてきた反科学論や新しい科学の取り組みを紹介し、フェイクニュースとどう対峙し、真理を見極めるにはどうしたらよいか、受講生諸氏と意見交換しながら深めていきます。

第10回 安全学と物語

減災、コミュニティと物語 生きる意味 災害史

第11回 工学と物語

国土計画学、都市計画学と物語

第12回 医学と物語

ウィルス史とファクターx

EBM & NBM

第13回 ビジネスと物語

スタンフォード大学の物語教育

ファーストペンギンとセカンドフォロワー

第14回 まとめ # 1

それぞれの教員による全体の振り返り

第15回 まとめ # 2

前回までの講義の中で生じた疑問点を中心にした質疑応答

2022年度 前期

2単位

人文の知B ローカルの価値

矢嶋 巖、井上 豊久、用田 政晴

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

グローバル化が進む現代、さまざまな分野において効率化が進み、画一的なシステムが形成されてきています。日本のどこにおいても、似たような風景が広がり、同じような社会の仕組がつくられ、色濃かった各地それぞれの文化も失われてきています。かつて、多様な自然環境のうえに、地域固有の歴史を経て、多様な社会、文化をなしていたローカル(地域・地方)は、その個性を次第に失いつつあるといえます。そうした中で、ローカルの価値が見直される時代ともなり、ローカルの宝を発掘し、その価値を見直し、それらを活かしていこうとしたり、ローカルスケールで生きていくことを志向する人たちが増えつつあります。

本授業では、人文学部ディプロマポリシーに基づいて、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるため、歴史環境と人間、社会的・文化的活動に関するさまざまな

知識の相互関連について理解し、知識を活用しての問題を解決する考察力を修得するために、ローカルを活かす取り組みやまちづくりがどのように図られ、どういった情報が発信され、どのような生き方がローカルにおいて模索されるようになっているのかについて、歴史環境、教育、地域社会に関する実践的な事例から具体的に学び、それぞれの事例におけるローカルの価値と意義を学ぶとともに、次代へとつながるローカルな知を創造し開発していく視野を得ます。また、修得した人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できるようになることを求めます。そして、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得することを目的とします。

<到達目標>

- ・ローカルにおける歴史環境・地域教育・社会のあり方が有する意味について理解できる。
- ・ローカルにおける歴史環境や地域教育、社会が、現在の姿へと変化してきたメカニズムについて考察できる。
- ・ローカルを活かす取り組みやまちづくりの意義について考察できる。
- ・大学における地域に関係する専門分野での研究や、地域に関係する業務を遂行するための基礎力を得る。

<授業のキーワード>

協働型市民社会 歴史環境 博物館 地域 まちづくり
ローカルな知 学校・家庭・地域の協働

<授業の進め方>

オムニバス形式で行ないます。毎回、授業内容を踏まえた小レポートを課します。受講するみなさんは、水曜日1限の授業終了時以降、週末の日曜日18時までにはdotCampus（あるいは後日指定するMoodle）のレポート受付に、小レポートを提出してください。期日を過ぎた小レポートは受け付けません。ただし、5回目の井上担当授業では、授業時間でまとめレポートをおこないますので、指示に従ってください。第15回で、最終レポートを課しますので、決められた期日に提出してください。

<授業時間外に必要な学修>

新聞やテレビ、インターネットでの報道などで目にした、環境、教育、地域社会に関するローカルでの出来事に関心を持ち、それがどのような意味を持つのかを考えることを心がけましょう。シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。

<提出課題など>

毎回授業内容についての小レポートの提出を求めます。また、最終レポートの提出を求めます。なお、小レポートについては、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評するなどのフィー

ドバックを行なう予定です。

<成績評価方法・基準>

毎回提出を求める小レポート60パーセント、最終レポート40パーセントを基準とします。最終レポートはA4二枚です。最終レポートについては、第15回の授業で改めて説明します。

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

田中 琢『考古学で現代を見る』2015年、岩波書店（岩波現代文庫）

日本社会教育学会編『ローカルな知の可能性』2008年、東洋館出版

山浦晴男『地域再生入門 寄り合いワークショップの力』2015年、筑摩書房（ちくま新書）

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』2020年、古今書院

<授業計画>

第1回 教育とローカルな知

教育の基礎・基本をまず理解し、現代教育の特徴をふまえた上で、教育とローカルな知との関係性を問う。地域形成における住民の学習活動・ボランティア活動をローカルな知の視点から位置づけ、地域における学習成果の社会還元の意味を問う。

第2回 子どもの体験活動とローカルな知

子どもの体験活動の実態と課題をふまえて、子どもの体験活動と地域形成との関わりを検証する。特に子どもの体験活動の意味や意義について具体的・現実的に考察する。

第3回 まちづくりとローカルな知

現代のまちづくりや市民活動の視点からローカルな知の意味を問う。従前の社会教育とは異なる仕掛けであることから、ボランティアを考察し、協働型社会構成要素としての可能性を検証する。

第4回 コミュニティスクールとローカルな知

コミュニティスクールの進展の中で、我が国の学校、家庭、地域の役割を問い、学校教育への参画を通して協働型市民社会の在り方を問う。

第5回 生涯学習とローカルな知

社会変化・時代と一生涯の視点、連携や協働の視点、そして、自己決定的学習の視点からローカルな知について考える。

第6回 王と武将の水の道 - 歴史の見方 -

巨大な歴史的構築物であり政治的なモニュメントである古墳と城郭から、水域を道として活用した古代と中世の権力者の姿を読み取り、地域と歴史の関わり・評価法を学ぶ。

第7回 湧水環境保全の考古民俗学的アプローチ - 生活空間の見方 -

琵琶湖地域と沖縄・竹富島における湧水環境の記録法開発と地域による水環境保全のための実践と論理を学び、身近な生活空間記録法を知る。

第8回 歴史教科書のウソとホント - 教科書の見方 - 義務教育における歴史教科書の間違いや評価すべき点を明らかにし、時代と共に変化する史観や国の方針などを読み取り、自らの歴史観形成の一助にする。

第9回 兵庫の弥生集落と古墳 - 遺跡の見方 - 弥生時代鉄器生産集落、大量銅鐸出土地、弥生墳丘墓、古墳時代大型円墳、大型前方後円墳など日本列島の歴史を代表するを代表する兵庫県内の遺跡について学び、身近な歴史環境の在り方を知る。

第10回 兵庫の博物館 - 博物館の見方 -

橋の科学館、野島断層保存館、小磯記念美術館、竹中大工道具館など身近にある小規模博物館と中規模博物館を概観し、博物館・資料館の見方・評価の仕方を知り、自らの研究調査利用の一助にする。

第11回 水とともに生きる：福井県大野
城下町の各所で湧く「清水＝しょうず」天然記念物の魚イトヨが象徴となっている福井県大野を事例に、水とともに生きる人々の暮らしと、かつて住民自らが招いた水の危機から、受け継がれていく地域の水が持つ価値とまちのあり方について考える。

第12回 企業の社会的責任と地域：和歌山県龍神・中辺路

和歌山県龍神・中辺路では、林業が縮小し、林業地域の過疎化が深刻化する中で、環境CSR活動として企業による森づくりの取り組みが広がりつつある。取り組む企業と地域の事情を通して、その意義と課題について考える。

第13回 ものづくりの系譜：大阪府堺
ものづくりが地域の力の源となって発展した大阪府堺の自転車産業を事例に、現在も地場産業に残るものづくりの系譜と、地域の観光や生活、政策に散見されるものづくりの脈絡をたどり、それらの意味について考える。

第14回 観光によるまちづくりの光と影：大分県由布院
一寒村から日本有数の温泉観光地へと変貌した大分県由布院を事例に、観光によるまちづくりに活かされてきた地域の農村風景が持つ価値を踏まえ、まちづくりの背景や目指した方向性、バブル経済による変貌を明らかにする。

第15回 ため池に価値を：兵庫県加古川
兵庫県東播磨地域では、ため池が多い地域全体を博物館に見立てた、いなみ野ため池ミュージアムの取り組みが行われている。比較的降水量が少ない地域で大量の水を必要とする稲作を行うため、古来より築造されてきたため池が有する現代的問題と、それを活かそうとする地域づくりの課題について、兵庫県加古川での取り組みを例に考える。

2022年度 前期

2単位

人文の知C 多様性を生きる

三田 牧、出水 孝典、新居田 久美子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」、7「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」、8「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自律的に深く学修できる」に関連しています。「人文の知」と題された、人文学科で開講される多様な内容への導入科目として、1年次生が履修するものです。

現代は「多様性の時代」とよく言われます。

「みんなちがって、みんないい」という金子みすゞ『私と小鳥と鈴と』に由来することばを聞いたことがある人もいると思います。

多数派（マジョリティ）か否かが物事の優劣を決めるような時代は終わり、マイノリティも含めみんなそれぞれに素晴らしい個性・役割があると考えることがふつうになりました。

・出水（言語学）はジェンダーにおけるマジョリティ、マイノリティの問題を、MtFトランスジェンダーの当事者としての視点から、自ら経験したことも含めた話をしていきます。

・新居田（キャリア教育・社会心理学）の担当する回では、発達理論や社会学見地から、他者との関係性の中から生じる心理や行動を学びます。人×社会、遺伝×環境の影響を探りながら、自分を取り巻く社会全般を理解することを目的とします。

・三田（文化人類学）の担当する回では、文化から多様性を考えます。地球上で人間が織りなす文化をタペストリー（織物）としてみれば、私たちの文化はその壮大な模様の一部です。私たちの「普通」が、まったく「普通」ではないことを理解することを目的とします。

< 到達目標 >

1. 現代社会における多様性について理解し、それを説明することが出来る。（知識）
2. 性に関する偏見(gender bias)を認識し、どのように対処していくべきなのかを説明できる。（知識）
3. 自分のキャリアを考えていく上で、人の一生を生涯発達の視点から学び、その影響を説明できる（知識）
4. 自文化の視点から異文化（他者）を理解しようとするのではなく、世界の文化の多様性の中で、自文化を相対的に理解する姿勢を身に着けることができる。（知識）

・ものの見方)

5. 物事のあり方が多様化する社会で、自分と何らかの点で異なる他者を許容し、協調していくことができる。

(態度・習慣)

<授業のキーワード>

多数派(マジョリティ)、少数派(マイノリティ)、自分、他者、差別と区別、ジェンダー、LGBT、知覚と発達、異文化と自文化

<授業の進め方>

この講義では、そのようなテーマに沿って言語学、キャリア教育、人類学を専門とする3人の担当者が、それぞれの分野と多様性の関係についてリレー形式で講義していきます。

<履修するにあたって>

「男なら泣くんじゃない!」「女の子はそんなこと言っちゃダメ!」のように親から言われた経験はありませんか?自分と違う文化や習慣をもつ人と、何となく相容れないなあという経験をしたことはありませんか?

人間はついつい、自分とは縁のない生き方、文化、思考方法などを、意識的・無意識的に受け入れずに排除してしまいがちです。

でも自分とは異なる他者から学べることも数多くあるはずです。

多様性の時代と言われる現代は、寛容な心をもって、さまざまな自分とは縁のなかったものを目にしたりそれと接したりすることで、新たな視野が開ける機会が多くある時代であるとも言えます。

私たちと一緒に、多様性の問題について考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学んだ用語がどのような概念を表すのか復習する(60分)。講義内容に関する本、あるいはそれを題材とした小説や漫画を読んだり、アニメや映画を見たり、ニュースを読んだり観たりして、ふだんから多様性にまつわる問題を理解しようとする(60分)。

<提出課題など>

毎回の授業で、出席カードにその日の確認テストや感想を記入して提出する。3人の担当者のいずれかが講義で取り上げた問題に関してレポートを執筆し、最終課題としてdot.Campusに提出する。

<成績評価方法・基準>

授業中の質疑など30%、出席カードの記載内容40%、小レポート30%

<テキスト>

指定しません。

<参考図書>

(1) 鈴木裕之。(2015)『恋する文化人類学者』世界思

想社。

(2) プレイティみかこ。(2021)『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社。

(3) V.E. フランクル。(山田 邦男・松田美佳(訳)) (1993)『それでも人生にイエスと言う』春秋社。

(4) 神谷悠一・松岡宗嗣。(2020)『LGBTとハラスメント(集英社新書)』集英社。

(5) 石田仁。(2019)『はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで』ナツメ社。

(これらはこの授業の推薦図書として、図書館の「人文学部推薦図書コーナー」に配架しています)

<授業計画>

第1回 言語学から多様性を考える(1)出水 sexとgender

生物学的性(sex)と社会的・文化的な側面から見た性(gender)の違いを理解した後、それを踏まえて性的マイノリティであるLGBT(Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender)について見ていきます。

第2回 言語学から多様性を考える(2)出水 女ことばの特徴と2つの説

女ことばには、男ことばと比べてどのような特徴があるのかを見た後、違いが生じる理由を説明した2つの説である支配説・相違説について見ていきます。

第3回 言語学から多様性を考える(3)出水 言語に込められた価値観

言語を使って何かを記述する場合、記述対象に関して言語使用者がどのような感情を抱いているのか、それが生み出された言語表現の微妙な部分にどのように反映されるのかを考えていきます。

第4回 言語学から多様性を考える(4)出水 ジェンダーに対する固定観念を表す言葉

男性や女性に関して述べるときに用いられる言葉に、男性らしさ・女性らしさに関するジェンダー・ステレオタイプを含意する言葉があることを見ていきます。そういった言葉に基づく偏見は、ジェンダー・バイアスと呼ばれます。

第5回 言語学から多様性を考える(5)出水 映画におけるLGBTを考える

BL映画である『窮鼠はチーズの夢を見る』、およびMtFトランスジェンダーを主人公とする映画『ミッドナイトスワン』を取り上げ、映画で描かれているゲイやトランスジェンダーに関するイメージがステレオタイプであり、そのような描き方にどういう問題があるのかを考えます。

第6回 キャリア教育から多様性を考える(1)新居田 人の社会化と個性化を育む生涯発達心理学

子どもは親を選べませんが、親ガチャがどうであれ、赤ちゃんも高齢者も人は死ぬまで発達を続けます。人はどのように発達していくのかを概観します。

第7回 キャリア教育から多様性を考える(2)新居田 認知バイアスの裏と表

差別や偏見はなぜ生まれるのでしょうか。認知バイアスという思考や判断の偏りは誰にでも生じるものです。自分の中に起こった「バグ」をどう扱えばよいのか、対人関係への影響を探っていきます。

第8回 キャリア教育から多様性を考える(3)新居田 わたしたちに身近なダイバーシティ(多様性)

「定型発達」、つまり「普通の人」って何? セクシャリティに限らず、障害の有無、民族の違いをはじめ、さまざまな特徴を持つ人間・生物がいるのがこの地球です。社会経済活動では、ダイバーシティの活用がいまや主流。社会で活躍する人材の多様性を探り、産業社会の問題解決を考察します。

第9回 キャリア教育から多様性を考える(4)新居田 女性活躍推進が必要なワケ

DX:デジタルトランスフォーメーションが進展しても男女不平等社会である日本。明治憲法から守られてきた「性別役割分業」から現代の社会問題を追いながら、未来の家族のあり方や生き方の変化を考察します。

第10回 キャリア教育から多様性を考える(5)新居田 社会全体のウェルビーイング

社会と人の行動は相互作用的に影響を与えあうものです。人のまとまりである「集団」と、共通目標を持つ「組織」がありますが、働くということは組織に所属することになります。一人ひとりが高いパフォーマンスを発揮しやすい環境・社会を創り貢献していくのは、偉い大人ではなく、これからのあなたたちです。

第11回 文化人類学から多様性を考える(1)三田

日本の社会では「普通」であることが好まれるようです。しかし、この「普通」は、一步日本の外に出てみると、まったく普通ではありません。文化とは、食べること、眠ること、集うこと、信じること、着ること、など、人の生き方にかかわるすべてです。イントロダクションとして、日本の文化を外側から眺めてみましょう。

第12回 文化人類学から多様性を考える(2)三田

人類学のフィールドワークでは、異文化を学び、異文化を内側の視点から理解することを試みます。この回は、人類学のフィールドワークについて、三田の経験をもとに話します。

第13回 文化人類学から多様性を考える(3)三田

いかに生きるかは、いかに死をとらえるかと深く関係しています。この回は、日本を含む、いくつかの社会の死の観念について学びます。

第14回 文化人類学から多様性を考える(4)三田

人は超自然の存在を信じてきました。それは、精霊であったり、神であったり、さまざまです。何を信じるか、は、その社会であるべき生き方と結びついていることが多いです。この回では信仰と生き方について考えます。

第15回 文化人類学から多様性を考える(5)三田

地球上には様々な文化が存在します。異なることが原因となり、諍いや反目、時に戦争も起こります。この回で

は、そのような諍いの事例を学ぶとともに、異なる者どうしがどのように共存し得るかについて考えます。

2022年度 後期

2単位

人文の知D ヴァーチャルなものと現実性

倉持 充希、服部 亮祐、平光 哲朗

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

ヴァーチャル・リアリティ(VR)は一般に、コンピューターによって作り出された仮想的(ヴァーチャル)なものが、現実であるかのように知覚されることを言います。例えばある種の装置によって、私たちは自分の部屋に居ながらにして空を飛び、または戦場を駆け巡ることができ、遠く離れた誰かと恋に落ちることだってあり得ます。

コンピューター技術の進展は、ヴァーチャルなものの現実性を飛躍的に高めました。しかし私たちはずっと以前から、程度の差はあれ同じような経験をしてきましたし、またそれについて考えてもきたのです。

絵画は、そこに存在しないものを、そこにあるかのように見せてくれます。そもそも言葉が、私たちに現実とは別な世界を、可能なものの世界を開いてくれます。またある哲学者によれば、私たちは影絵を現実だと思って見ているに過ぎません。さてこうしたことと、現在の技術によって可能になっていることとは、何が同じで何が違うのでしょうか。

この講義では、ヴァーチャルなものとその現実性を、西洋美術史、言語学、哲学、それぞれの観点から問い直します。

西洋美術史では、絵画を仮想的な場にとらえ、表現技法の発展にともない、ひとびとの芸術に対する認識がどのように変化してきたのかを考察します。

言語学では、「言葉がわかる」とはどういうことかを、人間とAI(人工知能)の比較を通して考えます。

哲学では、私たちが現実と呼んでいるものがどのようにできているかを考察し、ヴァーチャルなものの現実性を問い直します。

本講義は、これら三つの学知からヴァーチャルなものとは何かを問い、私たちが持つその経験を明らかにします。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8に対応しています。

<到達目標>

西洋美術史：仮想性と現実性を巡る西洋美術の歴史的展開を理解し、各時代の作品の特徴を説明できる。

言語学：人間とAIを対比しつつ、「言葉が分かる」ことがどのようなことか、説明できる。

哲学：「現実」がどのように成立しているかを考察し、仮想的なものの現実性を説明できる。

< 授業の進め方 >

これはオムニバス講義です。西洋美術史、言語学、哲学それぞれの分野ごとに1名の教員が講義します。みなさんは毎回、出席カードの記述欄に講義を受けて感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことを記述します。第14回目の講義では、各分野担当者の3名が順に登壇し、それぞれの講義内容についてレビューを行います。第15回目の講義では、3名がそろって登壇し、座談会形式で講義主題について討論を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として週1時間程度）。

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述または小テストとレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

3人の教員それぞれにおよそ33点を配分し、合計100点満点で評価する。

< 参考図書 >

川添愛『ヒトの言葉 機械の言葉 「人工知能と話す」以前の言語学』角川新書、2020年。

広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』岩波書店、2017年。

高階秀爾『《受胎告知》 絵画でみるマリア信仰』PHP新書、2018年。

望月典子『タブローの「物語」：フランス近世絵画史入門』慶應義塾大学出版会、2020年。

トマス・ネーゲル著、岡本裕一朗・若松良樹訳『哲学ってどんなこと？ とっても短い哲学入門』昭和堂、1993年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要と内容の説明。

第2回 西洋美術史篇 1

古代・中世：絵画の機能と表現の関係

まず、古代ギリシャ・ローマ時代の絵画では、空間や人物はどのように表現されたのか、そして中世の宗教画では、聖なる存在はいかに造形化されたのか、絵画の機能に即して考えます。

第3回 西洋美術史篇 2

ルネサンス期：現実の再現を目指す絵画

14～16世紀には、遠近法や明暗法が発展し、目に見える現実を絵画上で再現する試みが盛んに行われました。ルネサンス期の画家が絵画をどのようなものと捉え、いかなる手法で現実を再現しようとしたのかを考えます。

第4回 西洋美術史篇 3

近代：写真技術の発明と絵画の多様化

19世紀後半に記録を得意とする写真技術が広まると、画家は現実の再現ではなく、絵画独自の描写を追求するようになりました。絵画にしかできない表現とはどのようなものか、絵画の定義や技法に注目して考えます。

第5回 西洋美術史篇 4

現代：美術やヴァーチャル・リアリティからみる仮想と現実

現代では、コンピューターによって作り出される仮想空間をあたかも現実のように体験できるVRが、ひとびとを魅了しています。こうした技術の多様化を踏まえ、わたしたちの芸術に対する期待、ひいては仮想的なものに対する認識について考えます。

第6回 哲学篇 1

夢か現実か

私たちは仮想的なものが現実のように見えていたとしても、それと現実とを区別しています。この区別は、仮想的なものが物質的、物的な実質を伴わないことによるでしょう。では、ある物体がそこに実在すると、私たちは何によって知るのでしょくか。この問いからはじめて、私たちの見ている世界が夢であることはありうるか、と考えます。

第7回 哲学篇 2

洞窟の比喻

私たちは、生まれたときから手足を縛られて、洞窟の奥に映し出された影絵を見せられている。そしてそれが現実だと思って疑わない。プラトンは私たちが感覚によって物を見ていることを、そしてそれが現実だと思っていることを、このように例えて批判します。この議論を通して私たちが物を見ていることとその現実性とを考えます。

第8回 哲学篇 3

記憶の潜在性

私たちは何かを見ているとき、感覚に与えられたものをそのまま見ていると思っています。けれどもベルクソンは、知覚における像のほとんどは記憶に由来すると言います。そして記憶の在り方を、現在の知覚に対して潜在

的な(virtuel)ものとしします。ベルクソンの知覚論、記憶論とともにヴァーチャルということをもう一つの観点から捉えます。

第9回 哲学篇 4

ヴァーチャルなもの現実性

ドゥルーズが、ベルクソンの解釈から出発して、潜在的なものはそれ自体で現実性を持つ、と考えました。その時、彼は潜在的なものとならざるものとの区別しました。このドゥルーズの議論を辿り、ヴァーチャルなもの現実性を巡る問題の理解を新たにします。

第10回 言語学篇 1

言葉の聞き取り

AIはどのように私たちの言葉を聞き取っているのでしょうか。そもそも「言葉を聞き取れる」とはどういうことなのでしょう。機械による音声認識を通して、物理的な音の波を抽象的な音の単位に変換するメカニズムについて考えてみましょう。

第11回 言語学篇 2

会話をする機械

人間と見分けがつかない会話能力を持っている機械は、知性を持っていると言えるでしょうか。「言葉がわかる」とはどういうことなのか、自然な会話ができることと言語が理解できることの違いについて考えてみましょう。

第12回 言語学篇 3

単語の意味

機械に単語の意味を教える際、私たちの使っている辞書の内容をそのまま教えてやれば良いのでしょうか。また、何ができれば、言葉の意味がわかっていると言えるのでしょうか。意味とは何なのか、考えてみましょう。

第13回 言語学篇 4

話手の意図

「文そのものが表す内容」と「話す人がこういうつもりで言った内容」にはズレが生じることがあります。機械が言語をうまく扱えるようになるために、このズレをどのように解消していく必要があるのか、考えてみましょう。

第14回 レビュー

ヴァーチャルなもの現実性

3人の教員による講義内容の振り返りと総括。

第15回 シンポジウム

ヴァーチャルなもの現実性

3人の教員による討論と質疑応答。

2022年度 後期

2単位

人文の知E 異文化にふれる

藏 蘭 和也、宇野 文夫、白方 佳果

<授業の方法>

講義

担当者

第1回～第5回 宇野文夫

第6回～第10回 藏 蘭 和也

第11回～第15回 白方 佳果

<授業の目的>

この授業では以下の3点を目的とします。

1) 統一テーマ「異文化に触れる」について、芸術音楽・言語学・文学の各視点から掘り下げます(人文学部・人文学科DPの知識・技能)。

2) それによって、異文化に触れることの影響や意味について、深く思考する基盤を形成します(人文学部・人文学科DPの思考力・判断力・表現力)。

3) 異文化をめぐる諸問題について理解を深め、視野を広げることを通して、異文化との接触経験が少ない日本においても、健全かつ自立した行動がとれる能力の基盤を形成します(人文学部・人文学科DPの主体性・協働性)。

<到達目標>

音楽芸術を通じて、様々な文化の固有の特徴を感受し理解することができる。

異文化やその抗争を理解する下地を身につけることができる。

日本との共通性や相違を学び、世界を視野に入れた思考ができる。

日本が異文化を受け入れてきた歴史について理解できる。

<授業のキーワード>

伝統音楽、民族音楽、現代音楽、電子音楽、民族抗争、文学、翻訳文学、明治時代、文明開化、言語接触、ピジン、クレオール、本来語、外来語、借用語

<授業の進め方>

芸術音楽、言語学、文学の各分野の教員によるリレー講義です。毎回ミニレポートを作成します。初回に授業全体のアウトラインを説明します。第10、11回授業では、期末レポートについて説明します。

<履修するにあたって>

芸術、言語学、文学に関心のある人はぜひ履修してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業後、授業内容を整理し、もっと知りたいところについて調べる(目安1時間)。

<提出課題など>

毎回のミニレポート、期末レポートの提出。

<成績評価方法・基準>

全15回分のミニレポート点60点(5回以上未提出は不合格になります)

期末レポート40点(未提出者は不合格になります)

<テキスト>

テキストの指定はありません

<参考図書>

授業中に参考図書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 授業のガイダンス。及び芸術を通してみる異文化とは。

授業と3人の講師の紹介と講義の進め方などを説明します。まず、文化とは何か、我々の文化とは何かを考えます。そのことによって我々にとっての「異」文化とは何か、を探っていきます。

第2回 日本の伝統と現代。伝統は異文化か。

日本の伝統音楽は、我々にとって異文化ではありません。しかし、それらを近いものとして接している人は少数でしょう。なぜそのような事態となっているのでしょうか。逆に、今日の我々に一般的な音楽文化は、ポピュラー音楽ですが、これは欧米産のものです。これは異文化でしょうか？一体「異」文化ではない「我々の」文化とは何でしょうか。こういった問題を考察していきます。

第3回 世界各地の民族音楽文化

世界中に様々な個別の文化があることは、誰でも知るところですが、そこで営まれている音楽文化も同様に多種多様なものがあります。それら多様な音楽を聴き、人間の計り知れない想像力の豊かさに触れていきます。

第4回 クラシック音楽考

クラシック音楽について改めて考えてみます。私たちにとってクラシック音楽は、明らかに異文化です。しかしなぜこれほどまでに、現代日本社会に普及しているのでしょうか。また馴染みあるクラシック音楽といっても、本当にそれを理解しているのでしょうか。クラシック音楽の深奥に迫りながら、クラシック音楽文化について考察します。。

第5回 現代音楽の表現

現代の芸術は、先ずは作家の自己表現の世界となり、様々な様式の多種多様な表現が繰り広げられています。こういった文化は、人々の日常とはかけ離れたものと捉えられるでしょう。まさに異文化そのもののようには聴かれるかもしれませんが。しかし実は、現代の人々の状況や思想を代弁しているものでもあります。現代芸術、特に音楽を通じて、異文化の問題を考えます。

第6回 言語と 異文化

言語は所属する文化や社会的集団によって異なります。イギリス英語とアメリカ英語の違いや地域方言、社会方言や男言葉女言葉などについて見ていきます。

第7回 言語と 異文化

世界では3000から5000程の言語が話されていると言われます。ある言語が他の言語と接触することで、ことばの意味や使用が変化するだけでなく、言語政策や言語紛争など、社会に対して様々な影響を与えることを見ていきます。

第8回 言語と 異文化

異なる文化が接触している状態では、異文化を理解し交流するために言語の教育が行われます。また、役所などでも外国から来た概念や物事を表現するために、外来語

が公的な文書で使用されるが、外来語がコミュニケーションの障害になることもあります。外国語教育や外来語の使用により生まれる問題について見ていきます。

第9回 言語と 異文化

日本は世界有数の貿易国で、海外の国々と商取引を行うのに共通語として英語がよく使われています。一方、共通語として英語が使われなかった時代などに異国で生活していた人々がどのような言葉を使っていたかについて見ていきます。

第10回 言語と 異文化

日本語の文を見てみると、漢字、ひらがな、カタカナなど様々な要素から成っており、外来語も少なくありません。また、英語はラテン語やギリシャ語、フランス語から語彙を借用しています。様々な文化との接触により日英語が構成されていることを見ていきます。

第11回 文学と 異文化

幕末から明治にかけて、西欧との接触が日本の社会に大きな変化をもたらしました。「文明開化」の時代に戸惑いながらも西欧の「異文化」を受け入れた日本人たちの戸惑いや期待、憧れを、文学や絵画などを通して考えます。

第12回 文学と 異文化

「翻訳」「翻訳文学」を手がかりに、明治時代の日本人がどのような文学を通して「異文化」に触れ、またそれをどのように受け止めたのかについて解説します。

第13回 文学と 異文化

前回は引き続き、「翻訳」「翻訳文学」を手がかりに、明治時代の日本人がどのような文学を通して「異文化」に触れ、またそれをどのように受け止めたのかについて解説します。

第14回 文学と 異文化

「留学生」が登場する明治時代の文学作品を鑑賞し、当時の日本人が異国でどのように「異文化」に触れ、またそれをどのように受け止めたのかについて解説します。

第15回 文学と 異文化

「異文化」は海外にのみ存在するわけではありません。日本の中にも、さまざまな「異文化」が存在するといえるでしょう。授業では関東生まれの小説家が関西という「異文化」に触れたとき、それをどのように受け止め、作品に反映したかについて解説します。

2022年度 後期

2単位

人文の知F 自然環境と人間

早木 仁成、北村 厚、鈴木 遥

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1、2で示

される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るようになってから2年が経過し、私たちのくらしは様変わりしました。常にマスクをつけ、お店に入るときは消毒を欠かさず、長距離の移動は控えるようになり、オンラインでの交流が広がりました。ウイルスという目に見えない微小な存在が、これほどまでに人間の生活に影響を与えることになるなどと、数年前の私たちには想像もできなかったはずで

す。人文学は人間について探究する学問です。人間の周辺に存在する自然については、自然科学が探究するもので、人文科学とは学問的に区別されます。しかしコロナ時代に痛感するように、自然と人間は切っても切り離せない関係にあるのです。人類が誕生して以来、自然は人間にとって恵みであり、障壁でもありました。海や森林、作物や家畜は人々のくらしをゆたかにしました。しかし、気候の寒冷化や感染症の蔓延は、しばしば人類の生存を脅かします。近代になって科学が発展すると、人類は自然を征服しコントロールできると考えましたが、そのために温暖化などの深刻な環境破壊がひろがりました。

人文の知Fでは、こうした自然環境と人間との関係について、人類学、歴史学、地域研究のそれぞれの学問分野からアプローチし、自然環境や感染症と私たちが共生するための教養を身につけていきます。

<到達目標>

- ・自然環境と人間との多様な関係について理解し、表現することができる。
- ・感染症や医療の問題について、人文学の見地から考察することができる。

<授業のキーワード>

自然環境 感染症 交易ネットワーク 東南アジア 民族医療

<授業の進め方>

この授業では、3名の教員（早木、北村、鈴木）が異なる立場から5回ずつ自然環境と人間とのかかわりについて授業を行います。第1回～第5回は人類学の視点から早木が、第6回～第10回は歴史学の視点から北村が、第11回～第15回は地域研究の視点から鈴木が担当する予定です。

授業の終わりには毎回課題アンケートを課し、5回ごとに課題レポートをDotCampusに提出してもらいます。提出期間は長めに取っていますので、都合の良い時間帯に課題に取り組んでください。

<履修するにあたって>

集中して受講してください。

<授業時間外に必要な学修>

できるだけ、いろんな本を読みましょう。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

<提出課題など>

毎回課題アンケートを書いてもらいます。課題アンケートの提出方法は教員によって異なる場合がありますので、よく説明を聞いてください。次の授業の最初にフィードバックします。5回ごとに課題レポートを課します。課題レポートの寸評をDotCampusで公開し、フィードバックします。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題アンケートと5回ごとにDotCampusに提出する課題レポート（それぞれ提出フォームを用意します）により成績を評価します。課題アンケートは1回3点満点で、15回分で45点、課題レポートは1回20点満点で、3回分で60点、合計105点満点です。なお、出席点はありませんので、白紙の課題を提出しても0点です。

<参考図書>

Dクリスチャン、CSブラウン、Cベンジャミン（2016）『ビッグヒストリー われわれはどこから来て、どこへ行くのか』明石書店。

石弘之（2018）『感染症の世界史』角川ソフィア文庫。

更科功（2016）『宇宙からいかにヒトは生まれたか 偶然と必然の138億年史』新潮社。

ヨアヒム・ラートカウ（2012）『自然と権力 環境の世界史』みすず書房。

池上俊一（2015）『森と山と川でたどるドイツ史』岩波ジュニア新書。

宮崎揚弘（2015）『ペストの歴史』山川出版社。

ジェームズ・スコット著、佐藤仁監訳（2013）『ゾミア：脱国家の世界史』みすず書房。

吉田正紀（2000）『民俗医療の人類学 東南アジアの医療システム』古今書院。

大木昌（2002）『病と癒しの文化史 東南アジアの医療と世界観』山川出版社。

<授業計画>

第1回 地球はかつて微生物だけの世界だった

46億年前に誕生した地球上に生命が生まれたのは、40億年前頃と推定されています。最初の生命は、私たちの肉眼では見るできない微生物でした。私たちは、目に見える動物や植物を見て、地球が生命にあふれた世界であることを実感しますが、その背後には目に見えない微生物の世界があります。

第2回 人類誕生の地アフリカへ

私たちヒトへとつながる最初の人類は、600～700万年前のアフリカで誕生しました。その後さまざまな進化を経て、20～30万年前に現代人ホモ・サピエンスが登場しましたが、そのサピエンスもまたアフリカで誕生したのです。

第3回 マラリアとの闘い

アフリカやアジアの熱帯地域では、今も多くの人々がマラリアに苦しんでいます。マラリアはマラリア原虫という微生物が蚊によって媒介されて感染する病気です。私もかつてマラリアに感染しました。

第4回 ウィルスからの警鐘（エイズ、エボラそしてコロナ）

エイズは、ヒト免疫不全ウイルスHIVによって引き起こされる後天性免疫不全症候群のことです。1981年にアメリカで症例報告され、その後世界中に感染が広がりました。エボラ出血熱は、1976年にアフリカのスーダンで最初に報告されたエボラウイルスによる感染症で、致死率がきわめて高いことが知られています。

第5回 自然環境とヒトの進化

人は砂漠のような乾燥地から極寒の極地に至るさまざまな環境の中で生きていくことができます。多くの生き物は自然環境に合わせて自分の姿かたちを変えることで進化してきましたが、人は自分の周辺環境を変えることで生活圏を拡大してきました。最近では、その環境を変える力があまりにも大きくなりすぎたようにも思えます。

第6回 自然環境と人類の歴史

自然環境は人類の歴史をどのように規定したのでしょうか？ 一つの例として、地域間の交易ネットワークの拡大と限界について紹介します。近代以前の人類にとって砂漠や海洋をわたって世界中と交易することは困難でした。人類はいかにしてその困難を克服しようとしたのか、その発展の歴史を学びます。

第7回 海のヨーロッパ

海は生命の源泉であると同時に人類の移動をさまたげる役割も果たしました。しかし中世ヨーロッパでは海を縦横無尽に結びつけることによって発展した民族がいました。ヴァイキングと呼ばれる北欧の民です。彼らは、東はロシアやビザンツ帝国、西はアメリカ大陸にまで進出します。ヴァイキングと自然の共生関係について考えます。

第8回 森と河川のヨーロッパ

中世ヨーロッパは大陸を森林が覆い、人々の生活を大きく規定しました。人口が増えて作物をつくらうとすると、森林は次々に切り倒されました。また河川は重要な移送手段であり、川に沿って都市が形成されます。ヨーロッパの歴史と生活にとって森と河川がどのような意味を持っていたのかを考えます。

第9回 中世のペスト・パンデミック

14世紀、交易ネットワークがはりめぐらされたヨーロッパで、突如としてペスト（黒死病）が蔓延します。全人口の3分の1を死亡させたともいわれる巨大なパンデミックはなぜ起こったのか。ペストはどこからやってきたのか。ペストは人々の生活や考え方をどのように変えたのか。感染症と人間との関係について歴史的に考察します。

第10回 感染症と帝国主義

近代ヨーロッパでは科学・医学の発展により、人間が自然を征服しコントロールできるという確信が広がりました。「文明」は自然の脅威や感染症をも克服できる、科学を知らないアジアやアフリカの人々は「野蛮」の側にあるという考え方のもと、植民地における感染症対策が

実行されます。その結果、人々のくらしがどのように変化したのかを考えます。

第11回 東南アジアからの視点

熱帯の海と森が広がり、近年は急速な人口増加と経済成長を遂げる東南アジア。また、最近独立した国や、軍と政府が衝突するなどの政治不安を抱える国もあり、東南アジアの社会は現在も大きく変動しています。東南アジアの自然環境や社会、文化について、現地での経験も踏まえて紹介します。

第12回 東南アジアの文化と民族医療

東南アジアでは、中国やインドの文化の影響を受けつつ独自の多様な文化が育まれてきました。その中で、薬、マッサージ、祈祷などの伝統的な医療も発展してきました。これらについて具体的な事例を含めて紹介し、その多様性を理解します。

第13回 東南アジアの植民地支配と民族医療

東南アジアの多くの国は植民地支配を経験しました。この経験が、東南アジアの社会や文化に大きな断絶や変容をもたらしました。医療もその一つで、伝統的な医療に、科学的な医療が持ち込まれました。医療とは何か、伝統とは何か、考えたいと思います。

第14回 国家と人々の暮らしと感染症

東南アジアでは、小さな国家や植民地国家、国民国家などが、土地を拓き、人々に労働や徴税を課して権力を維持、発展させてきました。国家が形成される中で、人々はどのような暮らしをしていたのか、そこに感染症はどのように関係していたのかを考えます。

第15回 国家に組み込まれない生き方

東南アジアの国家は、人々に農業などの労働を強いて、食料と労働力を安定的に確保することで権力を発展させてきました。国家に組み込まれる生活に耐えられなくなると、人々は、山地、海、湿地などの国家の管理が行き届かないところへ逃げ込みました。こうした人々の暮らしを紹介し、自然環境と社会の関係や国家とは何かについて考えます。

2022年度 前期

2単位

人文の知専門講義

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

人文の知の大きな特徴は、さまざまな分野の知を結合して統合することにあります。この講義では、人類学を中心に、生物学、心理学、社会学などの成果にもとづき

ながら、サルとヒトのコミュニケーションを考えます。
まず、日本各地に生息するニホンザルの行動を取り上げ、サルのコミュニケーションについて考えます。次いで、私たちの身近な日常の行動をふりかえり、たとえば、人が対面して会話するときの距離や姿勢、接触の仕方や身振り、しぐさといったものを取り上げ、そこにどのようなコミュニケーションが成立しているかを考えます。ヒトのコミュニケーションという言葉を用いたコミュニケーションが思い浮かびますが、ヒトも他の動物と同様に言葉以外のコミュニケーション手段を多く持ち、実際の日常の中で重要な役割を果たしています。

<到達目標>

- ・コミュニケーションの多様性を理解し、説明することができる。
- ・ニホンザルの社会と行動を知り、言葉を用いないコミュニケーションについて説明することができる。
- ・日常の中で「何気なく」行っている、私たちのさまざまなコミュニケーションに「気づき」、その意味について説明することができる。

<授業のキーワード>

コミュニケーション、非言語、ニホンザル、進化、行動、文化

<授業の進め方>

E-learningシステム(dotCampus)を利用して実施する予定です。

毎回の授業のまとめや質問、意見などをdotCampusのアンケートに提出してもらいます。

また、理解度確認ワークを3回予定しています。

<履修するにあたって>

授業中は私語や携帯電話の使用は厳禁です。

<授業時間外に必要な学修>

dotCampus上の配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

<提出課題など>

授業の内容に関する、意見、質問等は、dotCampusを利用してください。。意見、質問については、できるだけ次の授業時にフィードバックします。途中3回、理解度を確認するためのワークを実施します。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に示します。

<成績評価方法・基準>

理解度確認ワークおよび毎回提出するアンケートにより評価します。

- ・アンケートは1回3点、10回分30点(第3回から提出)
- ・第1回理解度確認ワークは20問20点
- ・第2回理解度確認ワークは20問20点
- ・第3回理解度確認ワークは30問30点の配点です。

アンケートは、dotCampusのアンケート機能を利用します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

- ・長谷川真理子(1983)野生ニホンザルの育児行動、海鳴社
 - ・伊谷純一郎(1954)日本動物記2 高崎山のサル、光文社
 - ・伊谷純一郎・徳田喜三郎(1958)日本動物記3 幸島のサル、光文社
 - ・伊谷純一郎編(1977)人類学講座第2巻 霊長類雄山閣出版
 - ・伊沢紘生(1982)ニホンザルの生態 どうぶつ社
 - ・川村俊蔵・伊谷純一郎編(1965)サル - 社会学的研究、中央公論社
 - ・河合雅雄(1964)ニホンザルの生態、河出書房
 - ・正高信男編著(1992)ニホンザルの心を探る、朝日新聞社
 - ・丸橋・山極・古市(1986)屋久島の野生ニホンザル、東海大学出版会
 - ・森梅代・宮藤浩子(1986)ニホンザルメスの社会的発達と社会関係、東海大学出版会
 - ・西田利貞・上原重男編(1999)霊長類学を学ぶ人のために、世界思想社
 - ・高畑由起夫(1985)ニホンザルの生態と観察、ニューサイエンス社
 - ・田中伊知郎(1999)「知恵」はどう伝わるか、京都大学学術出版会
 - ・エドワード・S・リード(2000)「アフォーダンスの心理学 - 生態心理学への道」、新曜社。
 - ・E.ゴフマン(1980)「集まりの構造」(丸木恵祐・本名信行訳)、誠信書房
 - ・E.ホール(1970)「かくれた次元」(日高敏隆・佐藤信行訳)、みすず書房
 - ・H.ハーロー(1978)「愛のなりたち」(浜田寿美男訳)、ミネルヴァ書房・橋元良明編(1997)「コミュニケーション学への招待」、大修館書店
 - ・糸魚川直祐・日高敏隆編(1989)「ヒューマン・エソロジー」、福村出版
 - ・M.ナップ(1979)「人間関係における非言語情報伝達」、東海大学出版
 - ・野村雅一(1984)「ボディランゲージを読む」、平凡社
 - ・野村雅一(1983)「しぐさの世界」、NHK出版会
 - ・D.モリス(1980)「マンウォッチング」(藤田統訳)、小学館
 - ・菅原和孝・野村雅一編(1996)「叢書身体と文化2 コミュニケーションとしての身体」、大修館書店
- #### <授業計画>
- 第1回 インTRODクション
授業の進め方を説明する。
- 第2回 ニホンザルの社会と行動

野生ニホンザルの映像を見ながら、ニホンザルの社会と行動について理解する。

第3回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルの社会と行動を律する二つの原理、血縁と順位について考える。

第4回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルの多彩なコミュニケーションを考える。

第5回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルにみられる文化的行動について考える。

第6回 第1回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第7回 サルは身体でコミュニケーションする

人間以外の霊長類のコミュニケーションについて概観する。

第8回 マンウォッチング

D・モリスの「マン・ウォッチング」を題材に、ヒトの非言語コミュニケーションについて考える。

第9回 対人距離と近接関係

E・ホールのプロクセミクス(近接学)を題材に、対人距離とコミュニケーションを考える。

第10回 第2回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第11回 儀礼的無関心と日常の行動

ゴフマンの「集まりの構造」を手がかりに、日常の中でのコミュニケーションを考える。

第12回 身体技法としての姿勢

ヒトの姿勢の多様性と文化とのかかわりについて考える。

第13回 コミュニケーションとしての姿勢

ヒトの姿勢を題材に、姿勢とコミュニケーションの関係を考える。

第14回 身体接触

人の身体接触によるコミュニケーションについて考える。

第15回 第3回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施。

2022年度 前期

2単位

人文の知専門講義

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

人文の知の大きな特徴は、さまざまな分野の知を結合して統合することにあります。この講義では、人類学を中心に、生物学、心理学、社会学などの成果にもとづきながら、サルとヒトのコミュニケーションを考えます。

まず、日本各地に生息するニホンザルの行動を取り上げ、サルのコミュニケーションについて考えます。次いで、私たちの身近な日常の行動をふりかえり、たとえば、人が対面して会話するときの距離や姿勢、接触の仕方や身振り、しぐさといったものを取り上げ、そこにどのようなコミュニケーションが成立しているかを考えます。ヒトのコミュニケーションという言葉を用いたコミュニケーションが思い浮かびますが、ヒトも他の動物と同様に言葉以外のコミュニケーション手段を多く持ち、実際の日常の中で重要な役割を果たしています。

< 到達目標 >

・コミュニケーションの多様性を理解し、説明することができる。

・ニホンザルの社会と行動を知り、言葉を用いないコミュニケーションについて説明することができる。

・日常の中で「何気なく」行っている、私たちのさまざまなコミュニケーションに「気づき」、その意味について説明することができる。

< 授業のキーワード >

コミュニケーション、非言語、ニホンザル、進化、行動、文化

< 授業の進め方 >

E-learningシステム(dotCampus)を利用して実施する予定です。

毎回の授業のまとめや質問、意見などをdotCampusのアンケートに提出してもらいます。

また、理解度確認ワークを3回予定しています。

< 履修するにあたって >

授業中は私語や携帯電話の使用は厳禁です。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampus上の配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

< 提出課題など >

授業の内容に関する、意見、質問等は、dotCampusを利用してください。。意見、質問については、できるだけ次の授業時にフィードバックします。途中3回、理解度を確認するためのワークを実施します。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に示します。

< 成績評価方法・基準 >

理解度確認ワークおよび毎回提出するアンケートにより評価します。

・アンケートは1回3点、10回分30点(第3回から提出)

・第1回理解度確認ワークは20問20点

・第2回理解度確認ワークは20問20点

・第3回理解度確認ワークは30問30点の配点です。

アンケートは、dotCampusのアンケート機能を利用します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

- ・長谷川真理子 (1983) 野生ニホンザルの育児行動、海鳴社
 - ・伊谷純一郎 (1954) 日本動物記 2 高崎山のサル、光文社
 - ・伊谷純一郎・徳田喜三郎 (1958) 日本動物記 3 幸島のサル、光文社
 - ・伊谷純一郎編 (1977) 人類学講座第2巻 霊長類雄山閣出版
 - ・伊沢紘生 (1982) ニホンザルの生態 どうぶつ社
 - ・川村俊蔵・伊谷純一郎編 (1965) サル - 社会学的研究、中央公論社
 - ・河合雅雄 (1964) ニホンザルの生態、河出書房
 - ・正高信男編著 (1992) ニホンザルの心を探る、朝日新聞社
 - ・丸橋・山極・古市 (1986) 屋久島の野生ニホンザル、東海大学出版会
 - ・森梅代・宮藤浩子 (1986) ニホンザルメスの社会的発達と社会関係、東海大学出版会
 - ・西田利貞・上原重男編 (1999) 霊長類学を学ぶ人のために、世界思想社
 - ・高畑由起夫 (1985) ニホンザルの生態と観察、ニューサイエンス社
 - ・田中伊知郎 (1999) 「知恵」はどう伝わるか、京都大学学術出版会
 - ・エドワード・S・リード (2000) 「アフォーダンスの心理学 - 生態心理学への道」、新曜社。
 - ・E.ゴフマン (1980) 「集まりの構造」(丸木恵祐・本名信行訳)、誠信書房
 - ・E.ホール (1970) 「かくれた次元」(日高敏隆・佐藤信行訳)、みすず書房
 - ・H.ハーロー (1978) 「愛のなりたち」(浜田寿美男訳)、ミネルヴァ書房・橋元良明編 (1997) 「コミュニケーション学への招待」、大修館書店
 - ・糸魚川直祐・日高敏隆編 (1989) 「ヒューマン・エソロジー」、福村出版
 - ・M. ナップ (1979) 「人間関係における非言語情報伝達」、東海大学出版
 - ・野村雅一 (1984) 「ボディランゲージを読む」、平凡社
 - ・野村雅一 (1983) 「しぐさの世界」、NHK出版会
 - ・D.モリス (1980) 「マンウォッチング」(藤田統訳)、小学館
 - ・菅原和孝・野村雅一編 (1996) 「叢書身体と文化2 コミュニケーションとしての身体」、大修館書店
- < 授業計画 >
- 第1回 イントロダクション
授業の進め方を説明する。
- 第2回 ニホンザルの社会と行動
野生ニホンザルの映像を見ながら、ニホンザルの社会と

行動について理解する。

第3回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルの社会と行動を律する二つの原理、血縁と順位について考える。

第4回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルの多彩なコミュニケーションを考える。

第5回 ニホンザルの社会と行動

ニホンザルにみられる文化的行動について考える。

第6回 第1回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第7回 サルは身体でコミュニケーションする

人間以外の霊長類のコミュニケーションについて概観する。

第8回 マンウォッチング

D・モリスの「マン・ウォッチング」を題材に、ヒトの非言語コミュニケーションについて考える。

第9回 対人距離と近接関係

E・ホールのプロクセミクス(近接学)を題材に、対人距離とコミュニケーションを考える。

第10回 第2回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第11回 儀礼的無関心と日常の行動

ゴフマンの「集まりの構造」を手がかりに、日常の中のコミュニケーションを考える。

第12回 身体技法としての姿勢

ヒトの姿勢の多様性と文化とのかかわりについて考える。

第13回 コミュニケーションとしての姿勢

ヒトの姿勢を題材に、姿勢とコミュニケーションの関係を考える。

第14回 身体接触

人の身体接触によるコミュニケーションについて考える。

第15回 第3回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施。

2022年度 後期

2単位

人文の知専門講義

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

対面講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。人文学部専門科目に属し、上位セメスターの「地域文化研究」や「文化交流論」の導入科目として位置づけられる科目である。

授業の目的は「インド映画で映像化された現代インドの

文化・社会特性を考察する」である。

<到達目標>

通常の映像学では映画を独立して完結物とみなした上でその意味性を考察するものであるが、本講義ではこうした視点から外れて、インド映画で映像化される現代インド社会や文化的特徴が、どれほど現実の社会的象徴を忠実に反映しているかを検証する。もしそこに芸術的誇張があるとすれば、必ず誇張を促した意図があるはずであり、そこにはインド社会が抱える問題点が隠されているはずである。映画の中の人物設定やストーリー展開、登場人物どうしの対話などからそれらの問題点を抽出し、考察の対象とする。

本講義は受講生が以下を理解できるようにすることを到達目標に定める。

1. カースト制が現代インドで果たしている機能。
2. それが婚姻や飲食文化に与えている影響。
3. 独自の身体表現が現代社会にも継承されていること。

<授業のキーワード>

インド映画、カースト制、婚姻制度、飲食文化、家父長制度、タミル政治、デーヴァダーシ、パラタナティヤム

<授業の進め方>

前回講義の確認小テスト(15分) + 講義(60分)

<履修するにあたって>

講義中に提示するサンプル映像は代替の利かないものが多いので欠席すると講義内容が理解できなくなる恐れがある。サンプル映像が提供される日には遅刻欠席のないようにすること。

<授業時間外に必要な学修>

講義ノートの浄書、関連トピックの検索(おおよそ1時間ほど)

<提出課題など>

講義ノート

<成績評価方法・基準>

確認のための小テスト60% + 講義ノート提出40%

<授業計画>

第1回 イントロダクション

本講義のスケジュールと評価方法を説明

第2回 インド映画概説1

インド映画の特徴とそれが生まれた歴史的経緯

第3回 インド映画概説2

インド映画と現代インド社会との相関、カースト制度の問題

第4回 サンプル映像紹介1

サンプル映像のフィルモグラフィを含めた映像学的データの説明

第5回 サンプル映像紹介2

サンプル映像紹介

第6回 サンプル映像紹介3

サンプル映像紹介

第7回 婚姻制度、食事とカースト制1

婚姻制度からカースト制を考える

第8回 婚姻制度、食事とカースト制2

飲食からカースト制を考える

第9回 社会階層と資産1

村落社会と家父長制度

第10回 社会階層と資産2

大家族制と近代社会

第11回 社会階層と資産3

政党とインド社会

第12回 舞踏と宗教儀礼1

身体表現と舞踏的所作

第13回 舞踏と宗教儀礼2

舞踏とソングシーン

第14回 サンプル映像確認1

サンプル映像確認

第15回 サンプル映像確認2

サンプル映像確認

2022年度 前期

2単位

人文の知専門講義

長谷川 弘基

<授業の方法>

講義

Covid-19の感染状況によって遠隔授業になった場合は、別途学内システムを使って連絡します。

<授業の目的>

この授業は「人文の知科目群」に設置された、人文学科専門教育科目である。

人文学科のDPIに示す専門分野(文学)に関する知識を身につけると共に、各自の思考力・判断力・表現力を高めることを目指している。

現実社会での出来事、文学作品の記述などを参照し、人間の究極的価値、特に西洋における「個人の自由」の問題を「人文学的」に考察する。

<到達目標>

- 1 近代社会における「個人の自由」の原理を理解する。
- 2 西洋と日本における「個人主義」及び「自由」の相違点を理解する。
- 3 社会問題と人文学の関係を理解する。

<授業のキーワード>

個人の自由、基本的人権、自然権、トマス・ホッブス、ジョン・ロック、J・S・ミル、社会契約

< 授業の進め方 >

毎回配付資料を元にして講義を行う。授業中に短いコメントの提出を求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中に提示した参考図書や参考資料を読むために、概ね毎回1?2時間の学習を必要とする。

< 提出課題など >

授業ごとの短いレポート(200字程度)と、期末レポート(1200字程度)を求める。場合によっては中間レポートを課すかもしれない。

< 成績評価方法・基準 >

基本的には期末レポートを中心に評価するが、授業中のコメントも20%程度の評価対象とする。中間レポートがある場合には、期末レポートと同等の扱いをする。

レポートは希望者には返却する。

< 参考図書 >

最初の授業で提示する。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション：

社会的問題に対する人文学的アプローチとその意義を確認する。

第2回 自由の意味

西洋語における「自由」と日本語における「自由」の差異を確認する。

第3回 自由と個人主義

個人主義と人間の自由について。「近代」及び「フランス革命」の意味を概観する。

第4回 ホブブスの「自由論」について # 1

トマス・ホブブスの「自然権」と「自然法」について概観する。

第5回 ホブブスの「自由論」について # 2

前回の講義に続き、ホブブスの現代的意義について確認する。

第6回 ジョン・ロックと基本的人権 # 1

ジョン・ロックの歴史的意義と西洋文化圏における個人の権利について概観する。

第7回 ジョン・ロックと基本的人権 # 2

前回の講義に続き、個人主義の本質について理解を深める。

第8回 J・S・ミルの『自由論』

ミルの『自由論』を参照して自由の問題について理解を深める。

第9回 問題点の整理

西洋における「自由」の概念：歴史的展開と実存的意義を整理して、現代日本の実状と比較する。

第10回 自由の表象について # 1

西洋の文学作品の中で自由がどのように表現され受容さ

れているのかを確認する。

第11回 自由の表象について # 2

前回の講義内容を元に、自由に対する西洋と日本の考え方の違いを確認する。

第12回 表現の自由について # 1

表現の自由、及びその他様々な自由との葛藤をいわゆるヘイトスピーチを例に考える。

第13回 表現の自由について # 2

前回の講義に続き、現実の様々な事例を取り上げ、個人と集団の関係について考察する。

第14回 自由と基本的人権

自由を抑圧する要因、自由が制限される事例について考察を加える。

第15回 まとめ

講義全体を振り返ると共に、現実社会の中での人文学の立場と役割を概観し、人文学的価値に関する理解を深める。

2022年度 後期

2単位

人文の知専門講義

鈴木 遥

< 授業の方法 >

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課題を出すので、講義時間内で取り組みます。

< 授業の目的 >

私たちの誰もがどこかの地域に暮らしていますが、この地域とは何でしょうか。地域はどのように形成されるのでしょうか。本講義では、こうしたことについて、事例の紹介を交えながら説明します。地域の見方を深めることは、世界と自分とのつながりを確認し、他者との違いや共通点を感じながら、豊かに生きていくための視点の一つとなるでしょう。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複数分野の基礎知識を教養として身につけ(知識・技能1)、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につける(知識・技能2)ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 地域の成り立ちや地域認識の多様性などについて理解を深め、文章としてまとめて表現することができるようになる。

2. 地域に関連する事柄について自分の考えを深め、文章で表現することができるようになる。

< 授業のキーワード >

地域、地域形成、国家、明石、大蔵谷、東南アジア

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みま

す。
<履修するにあたって>
地域に関する多様な考え方に興味を持ち、違いを受け入れる柔軟な姿勢を求めます。

<授業時間外に必要な学修>
復習（1時間）、予習（配布する文章を事前に読んでおく必要がある）（1時間）
<提出課題など>
毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

<成績評価方法・基準>
毎回の講義後に行う論述形式の課題（70点）、講義全体に関わる最終課題（30点）で評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

1. 坪内良博編著『地域形成の論理』京都大学学術出版会、2000年。
2. 明石民俗文化財調査団編『明石の宿場 「宿場と人々の暮らし」』明石民俗文化財調査団、2017年。
3. ジェームズ・C・スコット著、佐藤仁監訳『ゾミア 脱国家の世界史』みすず書房、2013年。

これら以外にも、必要に応じて講義内で参考図書を紹介します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 地域研究の視点

地域研究のなりたちと考え方を紹介する。

第3回 地域形成1：地形、川

東南アジアや日本国内の事例から、地域の成り立ちについて考える。

第4回 地域形成2：歴史

東南アジアや日本国内の事例から、地域の成り立ちについて考える。

第5回 地域形成3：地域性

東南アジアや日本国内の事例から、地域の成り立ちについて考える。

第6回 地域形成4：道、開発

東南アジアや日本国内の事例から、地域の成り立ちについて考える。

第7回 明石城下地域の成り立ち1

明石城下の地域のなりたちについて、街道や宿場町を中心に紹介する。

第8回 明石城下地域の成り立ち2

明石城下の地域のなりたちについて、街道や宿場町を中心に紹介する。

第9回 町と街道と川

街道や川沿いにおける町の形成に関する議論を紹介する。

第10回 地域と川1

川の流域に地域が形成されていく過程やその特性を、事例を交えて紹介する。

第11回 地域と川2

川の流域に地域が形成されていく過程やその特性を、事例を交えて紹介する。

第12回 水路と陸路

交易や人の移動などに利用された水路や陸路について紹介する。

第13回 山地に生きる人々1

山地に生きる人々の暮らしについて紹介する。

第14回 山地に生きる人々2

山地に生きる人々と国家との関係について紹介する。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 前期

2単位

人文地理学

矢嶋 巖

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

複雑多様な現代においては、地域の自然環境や歴史的变化を踏まえつつ、地域において繰り広げられてきたさまざまな人間活動を把握することにより、目にする風景や人々の営みが持つ意味をより本質的に理解したうえで、地域の特性を生かしつつ将来の発展方向を模索する必要があります。この授業は、人間活動を要素ごとに地域的視点から考え、日本や世界の諸地域のそれぞれ独自の地域的特質を目に見えるように描き出す学問分野である人文地理学について学びます。第二次大戦後に劇的な変化を遂げた、農業、工業、小売業、観光といった主要な産業分野の変化について、近畿地方を中心に日本各地の事例を示して解説します。最後に、近代以降の世界や日本の人口の変化について理解します。以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

<到達目標>

現在の姿に至るまでの日本の地域構造の変貌を理解する素養を身につける。

人文分野における地域的研究の際に求められる地域理解のための基礎力を養う。

高等学校地歴科・中学校社会科分野や地域に関係する業務を遂行する際に有用な基礎力を得る。

< 授業の進め方 >

講義形式で進める。適宜ビデオ映像の視聴を行なう。

< 履修するにあたって >

関連科目である地域フィールドワーク論、地域社会分析、人文情報処理（以上前期）、地誌学、都市村落研究、自然地理学、地域形成論、地域社会分析、人文情報処理（以上後期）も履修するようにして下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から意識して景観を観察したり、地域の産業について取り上げたテレビ番組や新聞記事などを見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

講義中に、講義内容に関する小レポートを時々実施します。なお、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験70%、授業ごとに実施する小レポート30%の割合で評価します。

< テキスト >

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖（2019）『図説京阪神の地理 地図から学ぶ』ミネルヴァ書房

< 参考図書 >

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

稲垣稜（2021）『日常生活行動からみる大阪大都市圏』ナカニシヤ出版

上野和彦・椿真智子編著（2015）『地理学概論（第2版）』朝倉書店

岡橋秀典（2020）『現代農村の地理学』古今書院

中澤高志（2019）『住まいと仕事の地理学』旬報社

平岡昭利編（2017）『読みたくなる「地図」西日本編 日本の都市はどう変わったか』海青社

平岡昭利編（2019）『読みたくなる「地図」国土編 日本の国土はどう変わったか』海青社

矢野恒太記念会編集発行（2020）『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『日本国勢図会2021/2』

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業の目的と方法、授業の進め方について説明します。

第2回 日本の農業と食料その1

日本における食料自給率の低下とその背景について説明したのち、日本の農業の特徴と課題について考えます。

第3回 日本の農業と食料その2

農業が行われなくなってしまうと、どのような影響が生

じるでしょう。農業が有する多面的機能を紹介し、日本において農業が果たす役割について考えます。

第4回 日本の農業と食料その3

近畿地方の農業の特性と農業を活かした地域振興について考えます。とくに、神戸市西区や加古川市を例に、農業の都市化への対応についても考えます。

第5回 工業と地域その1

近代に日本最大の工業地域へと発展した阪神工業地帯の形成過程について、官営工場（陸軍砲兵工廠・造幣局）と民間工場の展開から説明します。

第6回 工業と地域その2

第二次世界大戦後、特に高度経済成長期以降における日本各地における工業の発展と阪神工業地帯の凋落について説明します。

第7回 工業と地域その3

第二次世界大戦後から近年に至る阪神工業地帯の変容について説明します。とくに、日本の産業構造の変化と阪神工業地帯の苦境について、工業の衰退が京阪神地方の都市地域に及ぼした影響を中心に解説します。

第8回 小売業と地域その1

第二次大戦後における日本の小売業の変化について説明します。特に、高度経済成長期以降のスーパーマーケットチェーンの発展と大規模小売店舗法制定の影響に注目します。

第9回 小売業と地域その2

第二次大戦後における日本の小売業の変化のうち、1980年代以降の小売業の大規模化と日本人の買い物行動の変化について説明します。とくに、大規模小売店舗法の緩和・廃止、まちづくり3法の制定と小売業の変化に注目します。

第10回 小売業と地域その3

小売業の変化が社会、とくに高齢者へ及ぼした影響について、深刻化しつつある買い物難民・フードデザート問題を事例に説明します。

第11回 小売業と地域その4

近年の大規模小売店の動向について、イオンを例に検討します。また、京阪神地方の具体例を取り上げ、日本の広域型商店街の変化と近年の商店街振興の取り組みについて紹介します（神戸の元町商店街を予定）。

第12回 人口と地域その1

人口の変容メカニズム（人口転換）について概観した後、先進国と発展途上国における出生・死亡数の変動と年齢別人口構成の変化の意味するところについて説明します。

第13回 人口と地域その2

産業別人口の変化、世界における人口分布の地域的違いを引き起こした近代以降の人口移動について解説した後、日本の人口の変遷について説明します。

第14回 人口と地域その3

日本の人口の変容に関して、とくに地域別に見た場合どのような差異があるのか、都市地域がどのように人口分

布で示されるのかについて説明します。

第15回 第二次世界大戦後の日本の構造変化

授業内容を振り返り、第二次世界大戦後の日本における構造変容が、人々の暮らしとどのように結びついているのか考えます。

2022年度 前期

2単位

人類の歴史

三木 雅子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP1, 2で示される複数分野の基礎知識、および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指します。

現在を生きる私たちの背後には、膨大な年月の積み重ねがあります。「人類の歴史」では、宇宙の誕生から未来へと向かう長い時間の流れの中に人類の歴史を位置づけ、人間についての理解を深めるとともに、未来を構想する視座を獲得することを目的とします。

人類の歴史 では生命が誕生してから人類誕生までの地球環境の変化と、地球上における生物の変遷を学びます。また、どのようなデータや痕跡から過去が読み解かれてきたのかを理解することにより、思考力・判断力を身につけることを目的とします。

また、環境問題に対応する基礎力を身につけます。

< 到達目標 >

生命が誕生してから人類が誕生するまでの地球のおおまかな歴史を、生物を主体として説明できる。

氷河期・間氷期などの地球の大きな気候変化の中で、現在がどのような状態にあるのかを説明できる。

生物絶滅を引き起こした劇的な環境変化や氷河期などのできごとやその要因を知ること、自然環境と生物、ひいては自然環境と人類のかかわりについて考察することができる。

< 授業のキーワード >

生命 人類 地球環境 古生物 恐竜

< 授業の進め方 >

プレゼンテーションソフトによるスライドを用いた講義を中心に授業を進めます。

授業の終わりに簡単なレポートを書いて提出してもらい、次の時間に解説します。

スライドの一部を抜粋して、プリントとして配布します（モノクロ）。また、同様に資料として本学のe-learningシステムであるMoodleに置きます（カラー）。Moodleには参考となるホームページへのリンクも載せるので、復習・発展学習に活用すること。

< 履修するにあたって >

高校1年修了程度の理科の知識があることを前提とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の進度に合わせて、関連内容の参考図書や授業で紹介するホームページで復習及び発展的に学習すること（第2回?第15回の講義ごとに30分程度）。

授業内容に関連した一般書（参考図書にあげてあるものなど）を一冊は精読すること（授業期間中に1回5時間）

< 提出課題など >

授業の最後に短いレポートを書いてその場で提出してもらいます。

レポートの解説や講評を次週に行います。

最後の課題については後に解答・解説を公表します。

< 成績評価方法・基準 >

各授業内でのレポート70%，最終課題30%で総合的に評価します。

< テキスト >

無し

< 参考図書 >

資料集

「ニューステージ 新 地学図表」浜島書店 790円（税別）

「視覚でとらえるフォトサイエンス 地学図録」数研出版 900円（税別）

一般書

「人類と気候の10万年史」中川毅？ 講談社ブルーバックス 920円（税別）

「大人のための「恐竜学」」土屋建？ 祥伝社新書 842円（税込）

「恐竜時代I 起源から巨大化へ」小林快次？ 岩波ジュニア新書 1015円（税別）

「カラー図解 古生物たちのふしぎな世界 繁栄と絶滅の古生代3億年史」土屋 健，田中 源吾 著 講談社ブルーバックス 1296円（税込）

ホームページ

{ナショナルジオグラフィック日本版サイト, <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/>}

上記の参考図書、ホームページの内容については、1回目の授業で紹介します。

その他、授業中にも適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 はじめに

これから学ぶこと・地球史の時間スケール

第2回 地質時代の区分

地質時代の区分のされ方・示準化石

第3回 先カンブリア時代の地球（1）

生命の誕生

第4回 先カンブリア時代の地球（2）

地球大気の変化

第5回 古生代の地球（1）

古生代の生物・爆発的進化

第6回 古生代の地球（2）

生命の陸上への進出

第7回 中生代の地球（1）

中生代の地球・特に恐竜について（1）

第8回 中生代の地球（2）

中生代の生物・特に恐竜について（2）

第9回 大量絶滅と進化（1）

絶滅の要因

第10回 大量絶滅と進化（2）

古生代の絶滅事件・中生代の絶滅事件（恐竜の絶滅）

第11回 新世代の地球（1）

人類が誕生した頃の地球環境

第12回 新生代の地球（2）

氷河期と間氷期

第13回 数値年代

数値年代の決定の方法

第14回 これからの地球環境

環境問題など

第15回 理解度確認

最終課題

2022年度 後期

2単位

人類の歴史

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマ・ポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

現在を生きる私たちの背後には、膨大な年月の積み重ねがあります。「人類の歴史」では、宇宙の誕生から未来へと向かう長い時間の流れの中に人類の歴史を位置づけ、人間についての理解を深めるとともに、未来を構想する視座を獲得することを目的とします。

この授業では、霊長類の仲間として生まれた人類の祖先がどのような経過をたどって現生人類へと至ったのかという進化の道筋をたどりながら、人類が獲得したものについて考えます。

< 到達目標 >

- ・霊長類としてのヒトの特徴を説明することができる。
- ・人類進化の概略について説明することができる。
- ・現在を生きる私たちに、過去の進化がどのような影響を及ぼしているかについて、自分の考えを述べるができる。

できる。

< 授業のキーワード >

人類、進化、霊長類、猿人、ホモ属、狩猟採集、認知革命、ホモ・サピエンス

< 授業の進め方 >

授業は本学のe-learningシステム(dotCampus)を利用して実施します。

質問、意見等はdotCampusのアンケート機能を利用します。

また、途中、3回の理解度確認ワークを予定しています。

< 履修するにあたって >

授業中は私語や携帯電話の使用は厳禁です。

なお、授業に関するお知らせはdotCampusに掲載しますので、定期的にdotCampusを確認するようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampus上の配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回（2時間）の授業に対して2時間の予習復習が目安です。

< 提出課題など >

毎回、dotCampusのアンケート欄を利用して、授業の内容、意見、質問などを書いて提出する。意見、質問については、次の授業時にフィードバックする。途中3回、理解度を確認するためのワーク（小テスト）を実施する。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に示します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回dotCampusのアンケート欄に記載する内容と、3回の理解度確認ワークにより評価する。

・アンケート欄の記載内容は、第2回から第14回までの11回分について、1回3点満点（計33点）で評価。

・第1回理解度確認ワークは20問20点。

・第2回理解度確認ワークは20問20点。

・第3回理解度確認ワークは27問27点。

の配点です。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

ハラリ（2016）『サピエンス全史』（上・下）、河出書房新社

クリスチャン、ブラウン、ベンジャミン（2016）『ビッグヒストリー』、明石書店

S.ミズン（2006）『歌うネアンデルタール 音楽と言語から見る人の進化』、早川書房

バーン、ホワイトウン（2004）『マキャベリの知性と心の理論の進化論』、ナカニシヤ出版

J.ダイヤモンド（2015）「若い読者のための第3のチンパンジー」、草思社

J.ダイヤモンド（2000）「銃・病原菌・鉄」（上・下）、

草思社

G.ベッツィンガー（2016）「最古の文字なのか？氷河期の洞窟に残された32の記号の謎を解く」文芸春秋

馬場悠男監修（1997）『人類の起源』、集英社

R.ルーウィン（1993）『人類の起源と進化』、てらべいあ

片山一道他（1996）『人間史をたどる』、朝倉書店

黒田末寿他（1987）『人類の起源と進化』、有斐閣双書

埴原和郎（2000）「人類の進化 試練と淘汰の道のり」、講談社

内村直之（2005）「われら以外の人類」、朝日新聞社

海部陽介（2005）「人類がたどってきた道」日本放送出版協会。

三井誠（2005）「人類進化の700万年 書き換えられるヒトの起源」、講談社

河合信和（2010）「ヒトの進化七〇〇万年史」筑摩書房

川端裕人（2018）「我々はなぜ我々だけなのか アジアから消えた多様な人類たち」講談社

更科功（2018）「絶滅の人類史 なぜ私たちが生き延びたのか」NHK出版新書

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

授業のねらいや進め方と今後の予定について説明します。

第2回 宇宙・地球・生命

私たちが「人類」として今ここに存在していること的前提として、宇宙の誕生、地球の誕生、生命の誕生について考えます。

第3回 霊長類のなかのヒト

私たちヒトは霊長類の一員であり、霊長類の仲間として進化してきました。現在も地球上には多くの霊長類が生きています。霊長類とはどのような生き物なのかを示し、ヒトの位置について考えます。

第4回 霊長類の進化と進化の仕組み

ヒトの進化についてみる前に、霊長類の進化の過程と進化の仕組みについて簡単に解説します。

第5回 霊長類としてのヒト

ヒトとヒト以外の霊長類が、さまざまな特徴を共有していることを意味しています。霊長類の特徴から、生き物としてのヒトについて考えます。

第6回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための小テストを実施します。

第7回 猿人の出現

人類への道を歩みだした最古の祖先は、700万年前頃のアフリカから見つかっています。その後アフリカの各地で進化を続けます。猿人たちです。猿人の進化を概観し、猿人とは何者なのかを考えます。

第8回 ホモ属の進化

250万年前頃に人類は新たな段階へと進みます。ホモ

属の誕生です。ホモ属の進化について概説します。

第9回 狩猟採集仮説・社会的知能仮説

人類の進化に関する代表的な仮説に、狩猟採集仮説があります。狩猟採集生活が人類の進化にどのようにかわるのかを考えます。また、人類進化の特徴の一つに、大脳化と呼ばれる現象があります。人類がきわめて高い知能をもつことは多くの人知っています。そのような知能の進化を説明する仮説の一つ、社会的知能仮説についても考えます。

第10回 ホモ・サピエンスへの道

人類進化の最後に生まれたのが、ホモ・サピエンス、つまり私たち現生人類です。現生人類がどこで生まれ、どのように世界中に拡散したのかを概説します。

第11回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための小テストを実施します。

第12回 ホモ・サピエンスの特徴

人類進化の過程をふりかえりながら、ホモ・サピエンスの特徴について考えます。

第13回 認知革命・農業革命・人類の未来

ホモ・サピエンスが成し遂げた認知革命と農業革命について、考えます。最後に、これまでの話をふりかえりながら、人類はこの先どのように進化するのか、巨視的な視点から人類の未来を考えます。

第14回 明石原人とは何だったのか

私たちの地元でもある明石の海岸で、90年近く前に、「明石原人」と呼ばれる人骨化石が発見されています。これまでの授業内容にもとづきながら、明石原人とは何だったのかを考えます。

第15回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための最後の小テストを実施します。

2022年度 前期

2単位

人類の歴史

大原 良通

< 授業の方法 >

オンライン授業

dotCampus を中心に授業を進めます。

授業で利用する資料はdotCampusに掲示します。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの以下の場所に記載されているので、ご確認ください。URL:<https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>

尚：私へ直接連絡したい場合は以下のメールアドレスにメールをください。

おおはらアットマークhuman.kobegakuin.ac.jp

おおはらは、oharaに、アットマークは、@にかえてください。

< 授業の目的 >

人類が家族を作り社会を形成し、国家を生み出し、発展させる、前近代を巨視的に見る。

この授業では、その社会をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。

DPに依拠しながら、人類史を通して広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養し、さらに深く考察することで、専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけることを目的とする（知識・技能）。人類の歴史的背景を理解し、その獲得した知識を活用して、論理的な分析と考察を通して、社会的な場において創造性や表現力を発揮することができるようになることを目的とします（思考力・判断力・表現力）。また、複数の分野の基礎知識を教養として身につけてもらい、人間の社会的・文化的活動に関する専門知識をアジアの古代史を中心に学ぶことで、総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解してもらいます（知識・技能）。さらに、人類の来し方を知ることで、多様な他者と共存し、異なった価値観を尊重し、連携・協働を進める社会的実践能力を身につけます。（主体性・協働性）つまり、日本を外から理解するということは、人文学の知見にもとづき、自由で公正で豊かな社会の実現に貢献できるようになります（主体性・協働性）。

< 到達目標 >

私たち人類がどのように社会を築き上げ、運営してきたかについて知見を得ることが出来る。

アジア社会がどのようなものか、広い視野からの知識を得ることが出来る。

古代社会について多くの知見を得られる。

前近代とは何か、封建と何かについて具体的な知識を得ることが出来る。

< 授業の進め方 >

dotCampusを利用しておこないます。

授業時間には必ずdotCampusを確認してください。

実際にどのような状況になるのかわかりませんが、出された課題を一つずつ、こなしていくという方法を考えています。

また、Office365のOneDriveも活用します。

お互い大変だということを認識しながら、前向きに進んでいきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題をこなしていくことが授業の中心となりますので、相当な学修時間が必要になると思います。

だいたい、週に4時間ぐらいを予定していますが、皆さんの使用機器、環境によってはそれ以上の時間が必要になるかもしれません。

< 提出課題など >

ほぼ毎回、何らかの課題を提出してもらいます。

かならず、dotCampusで確認してください。

< 成績評価方法・基準 >

授業ごとの課題などで総合的に判断します。

< テキスト >

講義で紹介します。

< 授業計画 >

第1回 導入

授業の主題や目的について説明し、アジアの文化の重要性と授業計画を概観します。

第2回 人と社会

猿から人へ、ミッシングリングはどこまで明らかになったのか考察します。また、河合隼雄編『人類以前の社会学』を中心に社会と何かを考えます。

第3回 社会の誕生

レヴィ・ストロースはアジアの親族構造を中心に、社会のあり方、親族のあり方について考察しました。これら人類学からのアプローチをふまえた上で社会の発展について考察します。

第4回 母系か父系か

家系について考えます。

第5回 社会形態

エルマン・R・サーヴィス著 『民族の世界』を利用して、民族社会からその歴史的発展段階を理解します。

第6回 社会の発展

エンゲルス『家族・私有財産及び国家の起源』を利用して、人類社会がどのように発展していくと考えられてきたのかについて、考えます。

第7回 王とは何者か

フレイザー『金枝編』を紹介しながら、王の始まりと役割について考えます。

第8回 守り刀

園田香融著「守り刀考」を読んで、王権維持について考察する。

第9回 中国における王の始まり

中国が最も華やかだった時代の一つ唐代において、文化の発信地は首都長安です。そこはどのような町で、人びとはどのように暮らしていたのかを解説します。

第10回 王と儀礼

上井久義「上臈の巫女」をよんで、古代の王権について考えます。

第11回 王権を引き継ぐ1

大原良通の『王権の確立と授受』を利用して、確立した王権をいかに引き継いでいったかについて考えます。

第12回 王権を引き継ぐ2

チベットにおける王権の発展と授受について考えます。

第13回 王権を引き継ぐ3

古代日本における王権の発展と授受について考えます。

第14回 王権象徴の舞台装置

宮殿と王権について考えます。

第15回 まとめと確認プリントの作成。

皆さんの質問や疑問に答えながら半年の授業を振り返りながら、習熟度も確認します。

2022年度 後期

2単位

人類の歴史

北村 厚

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1,2で示される教養としての基礎知識及び人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

現在を生きる私たちの背後には、膨大な年月の積み重ねがあります。「人類の歴史」では、宇宙の誕生から未来へと向かう長い時間の流れの中に人類の歴史を位置づけ、人間についての理解を深めるとともに、未来を構想する視座を獲得することを目的とします。

「人類の歴史」では、20世紀の歴史を学ぶことで、人類史上最も悲惨な二度の世界大戦はなぜ起こったのか、人種主義はどうしてなくなるのか、私たちは原子力とどう付き合っていくのかといった現代的諸問題について考察し、人類が破滅へと陥らないためにどのような考え方が必要なのか、未来の世界に向けた問題解決への知識と思考力を得ることを目指します。

人種主義（レイシズム）、排外的憎悪、内戦、虐殺、難民など、現代世界は不安な時代を迎えています。21世紀のこの状況は、第二次世界大戦へと帰着した1930年代に似ているという指摘もあります。人類の破滅を招かないためにも、20世紀の歴史を学ぶことが必要です。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従ってこの授業では、教職科目として必要な、高校世界史の教科知識を身につけることができます。

< 到達目標 >

1. 20世紀の世界について知識と理解を深めることができる。
2. 世界大戦やジェノサイドがどのようなメカニズムで発生したのか、歴史を構造的に把握することができる。
3. 現代世界の諸問題について人類史的な観点から提言をすることができる。

< 授業のキーワード >

人種主義 世界大戦 移民 内戦 ジェノサイド 核兵器 市民運動 民族主義

< 授業の進め方 >

テキストと史料を用いた講義形式の授業です。テキストの該当部分は事前に読んできてもらい、授業ではその内容を史料を基に解説します。毎回、授業の最初に前回の課題に対するフィードバックを行い、最後に授業内容に関する小課題を課します。小課題は授業の復習として3日間の期限で都合の良い時間帯に取り組み、DotCampusに投稿してもらいます。

< 履修するにあたって >

私語や途中退室は厳禁です。授業を受ける最低限のマナーを守ってください。

< 授業時間外に必要な学修 >

時間外に課題に取り組み、提出してもらいます。（1時間）。

< 提出課題など >

毎回小課題を提出してもらいます。次の授業で優れた回答を講評します。さらに第15回目に最終レポートを提出してもらいます。最終レポートの評価は要求があれば個別に開示します。

< 成績評価方法・基準 >

小レポート5点×15回（75点）と、最終レポート（25点）を合計して成績を付けます。

< テキスト >

北村厚『20世紀のグローバル・ヒストリー 大人のための現代史入門』ミネルヴァ書房、2021年

< 参考図書 >

授業中に適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 20世紀のグローバル・ヒストリー

はじめに授業の受け方についてレクチャーするとともに、「人類の歴史」のテーマである20世紀のグローバル・ヒストリーについて、その概念と方法論について説明します。

第2回 20世紀の幕開け

20世紀の世界史を「帝国」の形成から解体までの歴史とみなす考え方があります。その問題について考えるために、19世紀末に欧米諸国がどのようにして世界を植民地化したのか、何のために支配をしたのかを学びます。

第3回 人種主義と民族主義の拡大：1900年代

20世紀は欧米列強によるアジア・アフリカへの抑圧から幕をあけます。その中でどのように人種主義が広まったのか、その抑圧に抵抗する民族主義はどのように拡大したのかを考えます。

第4回 革命と戦争の世界：1910年代

世界分割の最終段階で発生したのが第一次世界大戦は、ヨーロッパだけでなく、アフリカやアジアをまきこむ文字どおりの世界大戦となりました。その動乱は、ユーラ

シア大陸規模ではどのような影響をもたらしたのかを考えます。

第5回 平和と協調の模索：1920年代

第一次世界大戦が終わっても、世界各地の動乱はなおも続きます。アメリカでは人種主義が最盛期をむかえます。そんな中で一時的にもりあがった国際協調と平和主義の意義を考えます。

第6回 奈落へとおちる世界：1930年代

世界恐慌の勃発とともに、国際協調と平和は崩壊します。植民地では民族主義が高揚し、先進国ではファシズム、全体主義が台頭します。いち早く東アジアで勃発した戦争、ヨーロッパ・アフリカでの戦争など、局地的な戦争はジェノサイド化の様相を呈します。

第7回 世界の破滅：1940年代前半

第二次世界大戦は枢軸国、連合国を問わず市民を殺戮するジェノサイド戦争となりました。熾滅戦、ホロコースト、独ソ戦、戦略爆撃、そして原爆。殺戮はなぜエスカレートしたのか。人類最大の悲劇を問い直します。

第8回 終わらない戦争：1940年代後半

1917年におこった2度の革命によって、ロシア帝国が崩壊したのち史上初の社会主義政権が成立しました。しかしこの革命はロシア内戦というユーラシア規模の内戦へと発展し、第一次世界大戦が1918年に終わっても1922年まで終わりませんでした。なぜ戦争は終わらなかったのか、グローバルな視座から考えます。

第9回 核の恐怖から平和共存へ：1950年代

朝鮮戦争での核戦争危機や水爆実験の競争によって、世界は核の恐怖につつまれます。そんななか、市民による原水爆禁止運動やアジア・アフリカ諸国による平和十原則の登場によって、世界は大きく変貌していきます。核と平和の関係について考えます。

第10回 グローバルな市民の抵抗：1960年代

「アフリカの年」から始まる1960年代は、キューバ危機とベトナム戦争を経て、グローバルな市民運動に世界がつつまれる1968年にいたり、世界を変貌させました。超大国の正義が疑われ、古い権威が否定され、解放のために市民が戦う時代です。市民運動はなぜ高揚したのかを考えます。

第11回 現代世界の転換期：1970年代

ベトナム戦争が終わりをむかえる1970年代は、様々な意味で第二次世界大戦後の世界の総決算となりました。西ドイツと日本は過去を清算するべくかつての戦争相手国と和解し、中国の革命も終焉します。しかしポル・ポトのジェノサイドなど人類的悲劇はなおもなくなり、さらにイスラーム主義が登場し、現代世界につながる諸問題が現れます。

第12回 民主化の多米ノ：1980年代

東欧、韓国、フィリピン、ラテンアメリカ諸国といった世界の各地で、次々と民主化運動が高揚します。ソ連のペレストロイカとチェルノブイリ原発事故がそれを後押

しました。民主化はなぜ連鎖したのかを考えます。

第13回 内戦とジェノサイド：1990年代

冷戦が終焉をむかえ、世界は和解へと動いていきます。しかしソ連の崩壊によって再び世界に民族主義の波が押しよせます。そして激しい民族主義の要求は内戦へと発展し、アフリカやユーゴスラヴィアでジェノサイドが続発します。1990年代はなぜジェノサイドの時代になったのかを考えます。

第14回 テロの脅威から現代へ：21世紀

2001年9月11日のアメリカにおける同時多発テロを皮切りに、対テロ戦争という新しい戦争の形が登場します。21世紀は平和の時代にはなりません。「私たちの時代」の方向性について考えます。

第15回 まとめ

最後に、全体を総括するレポートを作成し、提出してもらいます。

2022年度 前期

2単位

人類学概論

三田 牧

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

文化人類学は、世界の様々な人々の文化（生き様）に触れ、自分たちの生き様もその一つにすぎないことに気づく学問です。今まで関係ないと思っていたことが、実は自分に深く関係している。そして世界の様々な他者と自分は同時代を生きている。そのような視点で世界を見ることができるようになることが、人類学の課題（目的）であり、この授業では、ジェンダーや、人と人のつながり、他者へのまなざしをテーマにこの課題に取り組みます。

この授業は、人文学部のディプロマ・ポリシーに示す、「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。」をめざします。またこの授業は基礎専門教育科目に属し、人類学系のすべての授業の基盤となります。

<到達目標>

異なる人々の文化や思考について学び、自文化や自分の考え方が世界の多様な在り方の一つにすぎないことを理解できる。

民族や宗教をめぐる対立について、世間に流布するイメージにとらわれない理解をすることができる。

<授業のキーワード>

自文化と異文化、ジェンダー、交換、他者へのまなざし、同時代性

<授業の進め方>

講義の中で、思考する時間を設けます。授業で投げかけ

られた問題を自分なりに考え、文章にします。考えることに重きを置きます。

<履修するにあたって>

この授業では、とにかく思考し、書く（あるいは議論する）ことを求めます。授業への主体的な参加を要求します。

<授業時間外に必要な学修>

授業で扱ったトピックについて文献や新聞、ネットなどで情報を収集すること（1日30分、1週あたり3時間程度）。そのうちの一つについて期末課題として小論文を書くこと（5時間程度）。授業で紹介した本やDVDを可能な範囲で読む（観る）こと（10時間程度）。

<提出課題など>

学期末に小論文の提出を求めます。また、ほぼ毎回、小レポートの提出を求めます。期末レポートに関しては、評価基準を提示します。小レポートについては、基本的に総評します。課題の提出は、dot Campusを使います。

<成績評価方法・基準>

評価方法：授業中に課す小レポート（60点）、期末課題（40点）

評価基準： 課題の理解20%、思考の深さ40%、独自性20%、記述の充実度20%

<テキスト>

指定しない

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 イントロダクション

自己と他者(1)

イントロダクション。自文化中心主義について考えます。

第2回 自己と他者(2)

捕鯨論争をもとに、文化相対主義について考える

第3回 自己と他者(3)

捕鯨論争をもとに文化相対主義について考える

第4回 ジェンダーから見る社会(1)

社会・文化的な性のありよう（ジェンダー）がどのようなかたちで身についているか、自文化について考える

第5回 ジェンダーから見る社会(2)

社会・文化的な性のありよう（ジェンダー）がどのようなかたちで身についているか、異文化について考える

第6回 ジェンダーから見る社会(3)

社会・文化的な性のありよう（ジェンダー）がどのようなかたちで身についているか、異文化について考える

第7回 ジェンダーから見る社会(4)

社会・文化的な性のありよう（ジェンダー）がどのようなかたちで身についているか、異文化について考える

第8回 文化と人権と暴力と(1)

パキスタンの少女マララさん襲撃事件をもとに、暴力とそれを批判する人権概念を文化的視点から考察する。

第9回 文化と人権と暴力と(2)

パキスタンの少女マララさん襲撃事件をもとに、暴力とそれを批判する人権概念を文化的視点から考察する。

第10回 文化と人権と暴力と(3)

パキスタンの少女マララさん襲撃事件をもとに、暴力とそれを批判する人権概念を文化的視点から考察する。

第11回 文化と人権と暴力と(4)

スカーフ論争を考える

第12回 文化と人権と暴力と(5)

テロの構造を考える

第13回 贈与交換の秘密とグローバル経済の歪(1)

なぜ飢える人々と食べ物を捨てる人々が存在するのか。

贈与交換論の延長線上に世界経済をとらえる。

第14回 贈与交換の秘密とグローバル経済の歪(2)

なぜ飢える人々と食べ物を捨てる人々が存在するのか。

贈与交換論の延長線上に世界経済をとらえる。

第15回 同時代性

様々な文化を担う人たちが同時代に同じ地球に生きていることについて考える

2022年度 後期

2単位

人類学概論

三田 牧

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

世界は、色々な文化（価値観や世界観、生き様）をもった人々が集まって生きている空間です。私たちは、他者に勝手なイメージを持っていますが、その思い込みはたいてい間違っています。この授業では、他者への思い込みを問い直しつつ、他者と自己は実はつながっており、人類として共通の課題に向き合っているということを考えます。

この授業は、人文学部のディプロマ・ポリシーに示す、「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。」をめざします。またこの授業は基礎専門教育科目に属し、人類学をはじめとする、異文化理解を目指す授業の基盤となります。

<到達目標>

世界の多様性への理解を深めつつ、世界の人々と自分たちがつながっていることを理解できること。

この時代を生きる人間として地球規模の問題にいかに取り組めるか、真摯に考える姿勢を身に着けること。

<授業のキーワード>

多様性、自文化中心主義からの脱却、グローバル問題、同時代性

<授業の進め方>

講義の中で、思考する時間を設けます。授業で投げかけられた問題を自分なりに考え、文章にします。数人で議

論をする時間を設けることもあります。

<履修するにあたって>

この授業では、とにかく思考し、書く（あるいは議論する）ことを求めます。授業への主体的な参加を要求します。

<授業時間外に必要な学修>

授業で扱ったトピックについて文献や新聞、ネットなどで情報を収集すること（1日20分、1週あたり2時間程度）。そのうちの一つについて小論文を書くことを期末課題にします。

<提出課題など>

学期末に小論文の提出を求めます。また、しばしば授業中に小レポートを書き、提出することを求めます。期末レポートに関しては、評価基準を提示します。小レポートについては、採点して返却する場合と、小レポートの中で書かれたことを総評する場合があります。

<成績評価方法・基準>

評価方法：授業中に課す小レポート（60点）、期末課題（40点）

評価基準： 課題の理解20%、思考の深さ40%、独自性20%、記述の充実度20%

<テキスト>

指定しません。

<参考図書>

授業で適宜紹介します

<授業計画>

第1回 イントロダクション 自文化中心主義について
イントロダクション。自分は世界をどのように見ている
だろう？そう問うところから始めます。

第2回 他者へのまなざし

人間は、他者（異文化の人たち）に対し、様々な想像を
めぐらしていました。日本についてはどのようなまなざ
しが向けられていたか、学びます。

第3回 フィールドワークという経験

人類学では、他者の文化を内側から学ぶため、フィール
ドワークという方法を使います。異文化を内側から眺め
るとはどのようなことか、学びます。

第4回 「太平洋は楽園」なのか？

太平洋への楽園幻想は根強くあります。まず、その考え
にどのような背景があるか、考えます

第5回 「太平洋は楽園」なのか？

太平洋の島しょ国、パラオの生活から、楽園幻想を考え
ます

第6回 「太平洋は楽園」なのか？

太平洋の島しょ国、マーシャルの事例から、「楽園」と
は言い難い実情を学び、考えます

第7回 「太平洋は楽園」なのか？

太平洋の島しょ国ナウルの事例から、労働と楽園幻想に
ついて考えます

第8回 「アフリカは貧しい」のか？

アフリカ = 貧困という先入観がありますが、それは本当
でしょうか。貧しいとすれば、どのような時に貧しいの
か、考えます。

第9回 「アフリカは貧しい」のか？

アフリカはどんな時に貧しいのか？問いを少し変えて考
えてみます。

第10回 グローバル問題としての貧困 1

ある地域の貧困が、実はグローバル（地球規模）な問題
に端を発している事例について学びます。

第11回 グローバル問題としての貧困 2

貧困とはグローバルな問題であることを学びます

第12回 ブータンで考える幸せ

ブータンは「幸せの国」と呼ばれています。ここでの幸
せとはどういうことか、考えます

第13回 人新世において技術を考える

人類が地球に巨大な影響を与えてしまうこの時代を人新
世とよびます。巨大な影響力の理由である技術の進歩は
人間を豊かにするのか？という問いについて考えます

第14回 人新世において人間はいかに生きるべきか 1

地球温暖化について学びます

第15回 人新世において人間はいかに生きるべきか 2

地球温暖化について学び、人類はどのように生きるべき
かを考えます

2022年度 前期

2単位

人類学特別講義

鈴木 遥

<授業の方法>

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課
題を出すので、講義時間内で取り組みます。

<授業の目的>

人類とそれを取り囲む環境との相互関係、環境に関わる
社会問題を考えるための視点について解説します。私た
ちの社会は今、地球温暖化や自然環境の劣化など様々な
環境問題に直面しています。私たち人類がどのように環
境と関係して社会をつくってきたか、政治や市場などの
社会状況が環境問題とどのように関係してきているかな
どは、こうした問題を紐解く上で重要な視点です。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複
数分野の基礎知識を教養として身につけ（知識・技能1
）、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的
、体系的に身につける（知識・技能2）ことを目指します。

<到達目標>

1. 人類とそれを取り囲む環境との相互関係、環境に関
わる社会問題を考えるための視点について理解を深め、
文章としてまとめて表現することができるようになる。
2. これらの点に関する自分の考えを持ち、文章で表現

することができるようになる。

< 授業のキーワード >

環境問題、人類と環境の相互関係

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みます。

< 履修するにあたって >

様々な環境問題とそれを取り巻く社会状況について興味を持ち、それらに取り組むための様々な考え方を受け入れる姿勢で受講することを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習（1時間）、予習（配布する文章を事前に読んでおく必要がある）（1時間）

< 提出課題など >

毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義後に行う論述形式の課題（70点）、講義全体に関わる最終課題（30点）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

必要に応じて講義内で参考書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 人類と環境の相互関係への理解

関連する学術的視点について説明する。

第3回 環境と文化の相互関係としての住居

アジアの高床式住居と環境の関係を紹介する。

第4回 インドネシアの住文化と環境1

沿岸域の環境と住居、そこでの暮らしについて紹介する。

第5回 インドネシアの住文化と環境2

沿岸域の環境と住居、そこでの暮らしについて紹介する。

第6回 環境保全運動の高まり

地球環境問題、環境保全運動などについて説明する。

第7回 環境人類学の紹介

環境人類学の考え方、研究事例などについて紹介する。

第8回 政治や市場の影響

環境問題と政治や市場との関連について説明する。

第9回 グローバルとローカルの関係

ローカルとグローバルのつながりについて説明する。

第10回 コモンズの問題とは

コモンズの問題について説明する。

第11回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介1

インドネシアの大規模火災問題をとり上げて説明する。

第12回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介2

インドネシアの火災被災地における暮らしについて紹介

する。

第13回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介3

インドネシアの火災被災地の復興について紹介する。

第14回 環境問題と社会の相互関係の事例紹介4

インドネシアの大規模火災と日本との関係について紹介する。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 後期

2単位

人類学特別講義

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマ・ポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

現在を生きる私たちの背後には、膨大な年月の積み重ねがあります。宇宙の誕生から未来へと向かう長い時間の流れの中に人類の歴史を位置づけ、人間についての理解を深めるとともに、未来を構想する視座を獲得することを目的とします。

この授業では、霊長類の仲間として生まれた人類の祖先がどのような経過をたどって現生人類へと至ったのかという進化の道筋をたどりながら、人類が獲得したものについて考えます。

< 到達目標 >

- ・霊長類としてのヒトの特徴を説明することができる。
- ・人類進化の概略について説明することができる。
- ・現在を生きる私たちに、過去の進化がどのような影響を及ぼしているかについて、自分の考えを述べることができる。

< 授業のキーワード >

人類、進化、霊長類、猿人、ホモ属、狩猟採集、認知革命、ホモ・サピエンス

< 授業の進め方 >

授業は本学のe-learningシステム(dotCampus)を利用して実施します。

質問、意見等はdotCampusのアンケート機能を利用します。

また、途中、3回の理解度確認ワークを予定しています。

< 履修するにあたって >

授業中は私語や携帯電話の使用は厳禁です。

なお、授業に関するお知らせはdotCampusに掲載しますので、定期的にdotCampusを確認するようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampus上の配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回（2時間）の授業に対して2時間の予習復習が目安です。

< 提出課題など >

毎回、dotCampusのアンケート欄を利用して、授業の内容、意見、質問などを書いて提出する。意見、質問については、次の授業時にフィードバックする。途中3回、理解度を確認するためのワーク（小テスト）を実施する。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に示します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回dotCampusのアンケート欄に記載する内容と、3回の理解度確認ワークにより評価する。

・アンケート欄の記載内容は、第2回から第14回までの11回分について、1回3点満点（計33点）で評価。

・第1回理解度確認ワークは20問20点。

・第2回理解度確認ワークは20問20点。

・第3回理解度確認ワークは27問27点。

の配点です。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

ハラリ（2016）『サピエンス全史』（上・下）、河出書房新社

クリスチャン、ブラウン、ベンジャミン（2016）『ビッグヒストリー』、明石書店

S.ミズン（2006）『歌うネアンデルタール 音楽と言語から見る人の進化』、早川書房

バーン、ホワイトウン（2004）『マキャベリ的知性と心の理論の進化論』、ナカニシヤ出版

J.ダイヤモンド（2015）「若い読者のための第3のチンパンジー」、草思社

J.ダイヤモンド（2000）「銃・病原菌・鉄」（上・下）、草思社

G.ベッツィンガー（2016）「最古の文字なのか？氷河期の洞窟に残された32の記号の謎を解く」文芸春秋

馬場悠男監修（1997）『人類の起源』、集英社

R.ルーウィン（1993）『人類の起源と進化』、てらべいあ

片山一道他（1996）『人間史をたどる』、朝倉書店

黒田末寿他（1987）『人類の起源と進化』、有斐閣双書

埴原和郎（2000）「人類の進化 試練と淘汰の道のり」、講談社

内村直之（2005）「われら以外の人類」、朝日新聞社

海部陽介（2005）「人類がたどってきた道」日本放送出版協会。

三井誠（2005）「人類進化の700万年 書き換えられるヒトの起源」、講談社

河合信和（2010）「ヒトの進化七〇〇万年史」筑摩書房
川端裕人（2018）「我々はなぜ我々だけなのか アジアから消えた多様な人類たち」講談社

更科功（2018）「絶滅の人類史 なぜ私たちが生き延びたのか」NHK出版新書

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

授業のねらいや進め方と今後の予定について説明します。

第2回 宇宙・地球・生命

私たちが「人類」として今ここに存在していること的前提として、宇宙の誕生、地球の誕生、生命の誕生について考えます。

第3回 霊長類のなかのヒト

私たちヒトは霊長類の一員であり、霊長類の仲間として進化してきました。現在も地球上には多くの霊長類が生きています。霊長類とはどのような生き物なのかを示し、ヒトの位置について考えます。

第4回 霊長類の進化と進化の仕組み

ヒトの進化についてみる前に、霊長類の進化の過程と進化の仕組みについて簡単に解説します。

第5回 霊長類としてのヒト

ヒトとヒト以外の霊長類が、さまざまな特徴を共有していることを意味しています。霊長類の特徴から、生き物としてのヒトについて考えます。

第6回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための小テストを実施します。

第7回 猿人の出現

人類への道を歩みだした最古の祖先は、700万年前頃のアフリカから見つかっています。その後アフリカの各地で進化を続けます。猿人たちです。猿人の進化を概観し、猿人とは何者なのかを考えます。

第8回 ホモ属の進化

250万年前頃に人類は新たな段階へと進化します。ホモ属の誕生です。ホモ属の進化について概説します。

第9回 狩猟採集仮説・社会的知能仮説

人類の進化に関する代表的な仮説に、狩猟採集仮説があります。狩猟採集生活が人類の進化にどのようにかわるのかを考えます。また、人類進化の特徴の一つに、大脳化と呼ばれる現象があります。人類がきわめて高い知能をもつことは多くの人が知っています。そのような知能の進化を説明する仮説の一つ、社会的知能仮説についても考えます。

第10回 ホモ・サピエンスへの道

人類進化の最後に生まれたのが、ホモ・サピエンス、つまり私たち現生人類です。現生人類がどこで生まれ、どのように世界中に拡散したのかを概説します。

第11回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための小テストを実施します。

第12回 ホモ・サピエンスの特徴

人類進化の過程をふりかえりながら、ホモ・サピエンスの特徴について考えます。

第13回 認知革命・農業革命・人類の未来

ホモ・サピエンスが成し遂げた認知革命と農業革命について、考えます。最後に、これまでの話をふりかえりながら、人類はこの先どのように進化するのか、巨視的な視点から人類の未来を考えます。

第14回 明石原人とは何だったのか

私たちの地元でもある明石の海岸で、90年近く前に、「明石原人」と呼ばれる人骨化石が発見されています。これまでの授業内容にもとづきながら、明石原人とは何だったのかを考えます。

第15回 理解度確認ワーク

これまでの授業についての理解度を確認するための最後の小テストを実施します。

2022年度 前期

2単位

人類自然誌

鈴木 遥

< 授業の方法 >

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課題を出すので、講義時間内で取り組みます。

< 授業の目的 >

人類と自然との関係を理解するための視点を、人類学や自然科学などの事例を通して多角的に解説します。自然は、ある時には大規模な災害などとして私たちの生活を脅かし、またある時には豊かな文化をもたらしてくれるものでもあります。私たち人類は自然の一部であるが、自然をどのように捉え、どのように関係をつくってきたのでしょうか。本講義はこうした点への理解を深めるものです。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複数分野の基礎知識を教養として身につけ（知識・技能1）、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につける（知識・技能2）ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 人類と自然との関係について、複数の学問分野の視点から総合的に理解を深め、これを文章としてまとめて表現することができるようになる。
2. 人類と自然との関係について、自分の考えを文章で表現することができるようになる。

< 授業のキーワード >

人類、自然、文化、人類学、自然科学

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の

最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みます。

< 履修するにあたって >

人類と自然との関係を柔軟に理解しようとする姿勢、異なる学問分野の考え方に興味を持つことを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習（1時間）、予習（配布する文章を事前に読んでおく必要がある）（1時間）

< 提出課題など >

毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義後に行う論述形式の課題（70点）、講義全体に関わる最終課題（30点）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

必要に応じて講義内で参考書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 人類と自然の関係への理解

人類学における議論について概説する。

第3回 生態学を取り込んだ視点

生態学の視点などについて概説する。

第4回 環境保全運動と学問

地球環境問題、環境保全運動などについて説明する。

第5回 複雑な環境問題を紐解くには1

環境人類学の視点から、環境問題について考える。

第6回 複雑な環境問題を紐解くには2

環境人類学の視点から、環境問題について考える。

第7回 複雑な環境問題を紐解くには3

環境人類学の視点から、環境問題について考える。

第8回 複雑な環境問題を紐解くには4

環境人類学の視点から、環境問題について考える。

第9回 人類と森林の関係の歴史への視点1

自然科学の視点を紹介する。

第10回 人類と森林の関係の歴史への視点2

自然科学の視点で行われる研究事例を紹介する。

第11回 人類と森林の関係の歴史への視点3

自然科学の視点で行われる研究事例を紹介する。

第12回 人類と森林の関係の歴史への視点4

自然科学の視点で行われる研究事例を紹介する。

第13回 人類と森林の関係の歴史への視点5

自然科学の視点で行われる研究事例を紹介する。

第14回 人類と自然の関係のこれから

社会的課題などについて説明する。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 後期

2単位

人類自然誌

鈴木 遥

< 授業の方法 >

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課題を出すので、講義時間内で取り組みます。

< 授業の目的 >

人類と自然との関係を理解するための視点を、東南アジアを対象とした地域研究の事例を通して多角的に解説します。自然は、ある時には大規模な災害などとして私たちの生活を脅かし、またある時には豊かな文化をもたらしてくれるものでもあります。私たち人類は自然をどのように感じ、どのように関係をつくってきたのでしょうか。本講義はこうした点への理解を深めます。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複数分野の基礎知識を教養として身につけ（知識・技能1）、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につける（知識・技能2）ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 人類と自然との関係について、地域研究の視点から総合的に理解を深め、これを文章としてまとめて表現することができるようになる。
2. 人類と自然との関係について、自分の考えを文章で表現することができるようになる。

< 授業のキーワード >

人類、自然、文化、地域研究、環境倫理、東南アジア

< 授業の進め方 >

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みます。

< 履修するにあたって >

人類と自然との関係を柔軟に理解しようとする姿勢、異なる学問分野の考え方に興味を持つことを求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習（1時間）、予習（配布する文章を事前に読んでおく必要がある）（1時間）

< 提出課題など >

毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義後に行う論述形式の課題（50点）、グループワークへの積極的参加（20点）、講義全体に関わる最終課題（30点）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

1. 山本信人監修、井上真編著『東南アジア地域研究入門1 環境』慶應義塾大学出版会、2017年。
2. 坪内良博編著『地域形成の論理』京都大学学術出版会、2000年。
3. 鬼頭秀一、福永真弓編『環境倫理学』東京大学出版会、2009年。

これ以外の参考図書は、必要に応じて講義内で紹介しません。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 東南アジアの環境をとらえる視点

東南アジアの環境をとらえる地域研究の視点を紹介する。

第3回 東南アジアの社会の特性

東南アジアの社会の特性を、「小人口」、「フロンティア」、「複合」などのキーワードから紹介する。

第4回 東南アジアの環境と実践

東南アジアの環境に関する問題と学問との関わり方について、実践の側面を中心に解説する。

第5回 東南アジア島嶼部の生態史

東南アジア島嶼部の環境の特性を概説する。

第6回 東南アジア大陸部の生態史

東南アジア大陸部の環境の特性を概説する。

第7回 狩猟採集

狩猟採集について紹介する。

第8回 焼畑

焼畑について紹介する。

第9回 水田稲作

水田稲作について紹介する。

第10回 森林保全1

森林保全のための新しいメカニズムであるREDDプラスを紹介する。

第11回 森林保全2

市場を介して生産者と消費者をつなぐ認証制度について紹介する。

第12回 グループ討論

グループに分かれて講義内で取り上げてきた事例について議論し、発表し、意見交換を行う。

第13回 災害への対応

自然災害への対応を、支援、実践などをキーワードにしながら紹介する。

第14回 自然を守るとは

自然を守るとは何を意味するのかについて、講義内で学んできた東南アジアの事例を振り返りながら解説する。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 前期

2単位

人類社会文化誌

三田 牧

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

大航海時代は、ヨーロッパ人が世界を「発見」した出来事として、教わってきたことと思います。しかしヨーロッパに支配された先住民の経験について学ぶ機会は少なかつたのではないのでしょうか。この授業ではハワイを主な事例としてとりあげ、多角的な視点から植民地経験を考えます。また、植民地支配は近代日本も行ってきたことです。この授業では、日本による支配を受けた沖縄の経験についても多角的に取り上げ、植民地支配とは何か、考えることを目指します。

この授業は人文学部ディプロマポリシーの「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。」「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる。」をめざします。なお、この授業は人類学系の授業の中で、基礎から一歩踏み込んだ応用という位置づけであり、また、実践的な研究トレーニングの場でもあります。

< 到達目標 >

植民地主義について学ぶことで、世界に張り巡らされた権力関係や、それへの抵抗に気づくことができるようになる。

< 授業のキーワード >

植民地主義、ハワイ、沖縄、文化復興

< 授業の進め方 >

本授業は、「自分の力で考えること」を重視します。ほぼ毎回のように、授業内容に関連する課題について小レポートを書く時間を設けます。考えることに重きをおきます。

< 履修するにあたって >

この授業では、とにかく思考し、書く（あるいは議論すること）を求めます、授業への主体的参加を要求します。

< 授業時間外に必要な学修 >

世界の植民地経験について自分で研究をすすめてもらいます。この研究は、授業時間外にすすめてもらいます（計5時間程度）。また、授業内で学んだテーマに関し、新聞やネットで知見を広げてください（1日30分、1週間あたり3時間程度）。授業内に紹介した本やDVDをできる範囲で読んで（観て）下さい（計10時間程度）。

< 提出課題など >

学期末に小論文を課します。また、ほぼ毎回、小レポートを課します。期末レポートに関しては、評価基準を提示します。小レポートについては、基本的に総評します。

課題はdot Campusを通じて提出します。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：授業中に課す小レポート（60点）、期末課題（40点）

評価基準： 課題の理解20%、思考の深さ40%、独自性20%、記述の充実度20%

< テキスト >

指定しません

< 参考図書 >

池澤夏樹『ハワイ紀行』新潮社、1996年。

< 授業計画 >

第1回 植民地主義とは何か

第1回は植民地主義について解説します。ハワイと沖縄、二つの地域に共通した「楽園イメージ」について考えます。

第2回 ヨーロッパ人の大航海時代ー「野蛮な」他者
ヨーロッパ人が世界に進出した時、その前線にいたのは武器を持った征服者とキリスト教の宣教師でした。彼らは先住民を「野蛮人」とみなし、征服者は武力制圧しようとし、宣教師は布教しようとしてきました。授業ではヨーロッパ人の「野蛮人」認識を、人喰いへのまなざしから探ります。

第3回 キャプテン・クックに何が起こったか
イギリス人とハワイ人の出会いについて、学びます。

第4回 ハワイ王朝の終焉

西洋との接触後、ハワイの社会は大きく変動していきました。授業ではハワイ王朝に注目し、とくに王朝が崩壊する過程で何が起き、ハワイ人のどのような意思決定があったかを学びます。

第5回 ハワイの神々のたどった道

西洋による支配はハワイ文化にどのような影響をおよぼしたか。神話やフラをもとに考えます。

第6回 「楽園幻想」と観光

ハワイの楽園幻想と観光業の結びつきについて、具体的に考えます。

第7回 ハワイをとりもどす

近年のハワイでは、言語、謡、踊りなど、自文化をとりもどそうとする動きが顕著です。そのような動きから、ハワイ人にとって植民地経験はどのようなものであったかを考えます。

第8回 言葉と文化

言葉の持つ意味について、自文化から考えます。

第9回 琉球（レキオス）

記録に残る琉球と、その植民地経験について考えます。

第10回 方言札と共通語

沖縄の言葉が禁じられた経験について考えます。

第11回 海外移民と戦世

日本人に組み込まれた沖縄の人たちにとって、海外移民や戦の記憶はいかに語られるか、考えます。

第12回 アメリカ世

アメリカ支配下での経験と抵抗運動について学びます

第13回 大和世

日本復帰とそれ以降の沖縄の経験について学びます

第14回 沖縄ルネサンス

沖縄における自文化のとりもどしについて考えます。

第15回 歴史を記憶する

歴史を記憶することが、沖縄やハワイの人にとって持つ意味を考えます。

2022年度 後期

2単位

人類社会文化誌

三田 牧

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この世界には、異質と判断した人々を社会から排斥しようとする事例が数多く存在します。マジョリティ、マイノリティとよくいいますが、少数者の権利を擁護しているつもりで、自分がマジョリティだと思い込み、そこに安住していることもあります。また、知らず知らずのうちに、自分とは異なる属性をもつ人とのコミュニケーションをあきらめていることもあります。文化人類学は、人間の多様な生き方を認める志向性をもつ学問です。この授業では、「コミュニケーション」や「排斥」をキーワードとし、多様な人間の共存がいかに可能かを探ります。

この授業は、人文学部ディプロマポリシーの「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる。」「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる。」を目指します。

なお、この授業は人類学系の授業の中で、基礎から一歩踏み込んだ応用という位置づけであり、また実践的な研究トレーニングの場でもあります。

< 到達目標 >

多様な生き方を排除することの暴力性に気づくセンスを身につけることができる。

人間の生き方、在り方の多様性について、自分なりの意見を持ち、他者と共存する志向性を持つことができる。

< 授業のキーワード >

多様性、排斥、コミュニケーションの可能性、自己と他者

< 授業の進め方 >

本授業では自分の力で考えることを重視します。小レポ

ートやディスカッションを頻繁に求めます。また、本授業に関連するテーマについて小研究をしてもらいます。

< 履修するにあたって >

この授業では、とにかく思考し、書く、あるいは議論することを求めます。授業への主体的参加を求めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でとりあげたトピックについて、ニュースを集めてもらいます。それらをもとに、期末課題を作成してもらいます（1日20分、1週間あたり2時間程度）。

< 提出課題など >

学期末に小論文の提出を求めます。また、しばしば授業中に小レポートを書き、提出することを求めます。期末レポートに関しては、評価基準を提示します。小レポートについては、採点して返却する場合と、小レポートの中で書かれたことを総評する場合があります。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：授業中に課す小レポート（60点）、期末課題（40点）

評価基準： 課題の理解20%、思考の深さ40%、独自性20%、記述の充実度20%

< テキスト >

指定しません

< 参考図書 >

授業の中で適宜紹介します

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション、

誰かを排斥するということ

この授業のテーマと授業の概要について解説します。また、日本社会における排斥のメカニズムがどういったものかを考えます。

第2回 村はちぶという民俗

日本の民俗社会の排斥の文化について考えます

第3回 セクシャリティを考える（1）

セクシャリティについて、メッセージをもとに考えます

第4回 セクシャリティを考える（2）

セクシャリティについて、信仰という視点から考えます

第5回 セクシャリティを考える（3）

「ありのままの私」をキーワードに、セクシャリティの多様性を考えます

第6回 セクシャリティを考える（4）

セクシャリティの多元性から、性をめぐる二元論を見直します

第7回 多文化共生について（1）

レイシズムについて具体的事例から考えます

第8回 多文化共生について（2）

多文化共生について具体的事例から考えます

第9回 多文化共生について（3）

異なる文化への批判がはらむ暴力性について考えます

第10回 多文化共生について（4）

世界の様々な人と付き合うにあたり、国家と個人の問題について考えます

第11回 コミュニケーションから考える障害(1)

障害を通して、コミュニケーションとは何かを考えます

第12回 コミュニケーションから考える障害(2)

あるメッセージをもとにコミュニケーションが拓く可能性について考えます

第13回 コミュニケーションから考える障害(3)

認知症の人が書いた手記をもとに、コミュニケーションについて考えます

第14回 コミュニケーションから考える障害(4)

様々な状況にある人とコミュニケーションをとる方法について考えます

第15回 この広い世界の中の「私」

多様性の意味について、この授業の総括として考えます

2022年度 前期

2単位

人類進化誌

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマ・ポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

< 主題 > 人間性の起源を探る

皆さんは、「人間性」という言葉からどのようなことをイメージしますか。広辞苑によれば、人間性とは人間としての本性や人間らしさを示す言葉ですが、その人間の本性とは何なのでしょう。人間性という言葉には、人間以外の動物にはない、人間だけが持つ性質という含意があるように思えます。本当にそのようなものがあるのでしょうか。もしあるのだとすれば、それはどのようにして獲得したのでしょうか。この講義では、主に人類ともっとも近縁な現生動物種であるチンパンジーと私たち人間を比較することを通して、人間性の起源について考えてみたいと思います。

< 到達目標 >

- ・チンパンジーとヒトの系統関係について説明することができる。
- ・野生チンパンジーの社会や行動について説明することができる。
- ・感情、理性、知性や文化などがどのようにチンパンジーに見られるかを説明することができる。
- ・人類の普遍的な特徴について、説明することができる。

< 授業のキーワード >

人間性、チンパンジー、ユニバーサルピープル、言語、文化、感情、理性、知性、社会性

< 授業の進め方 >

授業はE-learningシステム(dotCampus)を利用して実施する予定です。

遠隔授業に変更になった場合には、OneDriveも利用します。

理解度確認ワークを3回予定しています。

< 履修するにあたって >

人文の知専門講義を受講していることが望ましい。

授業中は私語厳禁、携帯禁止。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampus上の配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

< 提出課題など >

授業の内容に関する、意見、質問等は、dotCampusを利用してください。意見、質問については、できるだけ次の授業時にフィードバックします。途中3回、理解度を確保するためのワークを実施する。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に示します。

< 成績評価方法・基準 >

理解度確認ワークおよび毎回提出するアンケートにより評価する。

・アンケートは1回3点、11回分33点

・第1回理解度確認ワークは20問20点

・第2回理解度確認ワークは20問20点

・第3回理解度確認ワークは27問27点の配点です。

遠隔授業となった場合には、dotCampusのテスト機能とアンケート機能を利用します。

< テキスト >

ありません。

< 参考図書 >

ドーキンス、R.(1991)「利己的な遺伝子」、日高敏隆他訳、紀伊国屋書店

ドゥヴァール、F.(1982)「政治をするサル」、西田利貞訳、平凡社

ドゥヴァール、F.(1989)「仲直り戦略」、西田・榎本訳、どうぶつ社

ドゥヴァール、F.(2010)「共感の時代へ」、柴田裕之訳、紀伊国屋書店

フロム、E.(1975)「破壊?人間性の解剖」、作田・佐野共訳、紀伊国屋書店

グドール、J.(1966)「森の隣人」、河合雅雄訳、朝日新聞社

グドール、J.(1986)「野生チンパンジーの世界」、杉山・松沢監訳、ミネルヴァ書房

長谷川真理子(1992)「霊長類の子殺しをめぐる諸問題、動物社会における共同と攻撃」(伊藤嘉昭編)、東海大学出版会

フルディ、S.B.(1982)「女性は進化しなかったか」、加藤・松本訳、思索社

アイブル=アイベスフェルト、E. (1986) 「愛と憎しみ」、日高・久保訳、みすず書房
アイブル=アイベスフェルト、E. (1975) 「戦争と平和」、三島・鈴木訳、思索社
西田利貞 (1981) 「野生チンパンジー観察記」、中央公論社
西田利貞 (1999) 「人間性はどこから来たか」、京都大学学術出版会
ローレンツ、K. (1970) 「攻撃?悪の自然史1、2」、日高・久保訳、みすず書房
杉山幸丸 (1980) 「子殺しの行動学?霊長類社会の維持機構を探る」、北斗出版
杉山幸丸 (1981) 「野生チンパンジーの社会?人類進化への道すじ」、講談社
ウィルソン、E.O. (1983?85) 「社会生物学1~5」、伊藤嘉昭監修、思索社
ランガム&ピーターソン (1998) 「男の凶暴性はどこからきたか」山下篤子訳、三田出版会
リドレー、M. (2000) 「徳の起源」古川奈々子訳、翔泳社
藤田和生 (1998) 「比較認知学への招待?こころの進化学」、ナカニシヤ出版
R. バーリング (2007) 「言葉を使うサル?言語の起源と進化」(松浦俊輔訳)、青土社
S. ミズン (2006) 「歌うネアンデルタール?音楽と言語から見る人の進化」(熊谷淳子訳)、早川書房
R. ダンバー (1998) 「ことばの起源?猿の毛づくろい、人のゴシップ」(松浦・服部訳)、青土社
中村美知夫 (2009) 「チンパンジー ことばのない彼らが語ること」中公新書

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション
授業の進め方の紹介
第2回 チンパンジーの奇妙な社会
チンパンジーの社会の特徴について概説する。
第3回 コミュニケーション
チンパンジーのコミュニケーションを紹介し、人類のコミュニケーションとの関連を考える。
第4回 狩猟と協力
野生チンパンジーに見られる狩猟と肉食について概説し、人類の特徴を再考する。
第5回 道具と文化
チンパンジーの道具使用や文化的な行動を紹介し、人類との関連を考える。
第6回 第1回理解度確認ワーク
これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施
野生チンパンジーの発達過程について解説。
第7回 性
チンパンジーの性行動と性関係を紹介し、人類との関連

を考える。
第8回 集団内の闘争1
チンパンジーの社会的連合関係について紹介し、社会的知性の進化について考える。
第9回 集団内の闘争2
チンパンジー社会に見られる集団内の闘争を紹介し、政治的行動について考える。
第10回 集団間関係と子殺し
チンパンジーの集団間関係から、人類集団について考える。
第11回 第2回理解度確認ワーク
これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施
第12回 ユニバーサルピープル
私たちヒトに普遍的な特徴について考える。
第13回 言語1
人類の特徴としての言語について考える。
第14回 言語2
類人猿の言語能力について紹介する。
第15回 第3回理解度確認ワーク
これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

2022年度 後期

2単位

人類進化誌

早木 仁成

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部ディプロマ・ポリシー1、2で示される教養としての基礎知識および人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

家族、村や町などの地域社会、そして部族、国家などは、人類だけがもつ固有の社会構造です。人類は霊長類の一員ですが、現生霊長類のそれぞれの種は、種ごとに多様な社会をもっています。それらを系統的に比較することによって、社会構造の進化のあとをたどることができます。このような、現生霊長類各種の自然社会を対象とした、人類学的視点に立った研究は、20世紀半ばになって始まり、世界各国の研究者によって精力的に進められてきましたが、わが国の霊長類学はとくにその社会学的な領域において独自の理論を展開してきました。「家族の起源を探る」というテーマに集約されるこの理論は、今西錦司に主導され、伊谷純一郎らによって展開されてきました。この講義では、その理論展開をたどりながら、最新の資料をもとに、人類に固有の社会構造について考えます。

< 到達目標 >

・今西錦司による「家族の条件」を説明することができる。

- ・霊長類の社会の多様性を説明することができる。
- ・ヒトの社会とヒト以外の霊長類の社会の類似と相違について説明することができる。

<授業のキーワード>

家族、類人猿、社会、インセスト、外婚、コミュニティ、分業

<授業の進め方>

授業は原則としてパワーポイントを使用して、講義形式で行います。

Eラーニングシステム(dotCampus)に授業内容のプレゼンテーションを登録します。

<履修するにあたって>

この授業は、霊長類社会に関する専門的な内容を含みます。人類の歴史 および人類進化誌 を履修していることが望ましいと思います。

また、当然ながら、授業中は私語や携帯電話の使用は厳禁です。

なお、授業に関するお知らせはdotCampusに掲載しますので、定期的にdotCampusを確認するようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

ドットキャンパスに登録される配布資料および参考書欄の書籍を予習、復習に活用してください。

1回の授業に対して1時間程度の予習と復習が目安です。

<提出課題など>

毎回、出席カードまたはdotCampus上でのアンケートに授業の内容、意見、質問などを書いて提出する。意見、質問については、次の授業時にフィードバックする。途中3回、理解度を確認するためのワークを実施する。なお、理解度確認ワークの正答については、ワーク終了後に解説をします。

<成績評価方法・基準>

出席カードまたはdotCampus上でのアンケートの記載内容(33%)、理解度確認ワーク(67%)により評価する。なお、出席カードは3点×11回分で33点、理解度確認ワークは20点×2回(第1回と第2回)+27点(第3回)分で67点の配点です。出席点はありませので、白紙の出席カードを提出しても0点です。

<テキスト>

なし

<参考図書>

- ・今西錦司(1961)「人間家族の起原?プライマトロジーの立場から」、民俗学研究25:1?20。
- ・今西錦司(1966)『人間社会の形成』、日本放送出版協会
- ・伊谷純一郎(1972)「霊長類の社会構造」『生態学講座』第20巻、共立出版
- ・伊谷純一郎(1973)「生物社会学・人類学から見た家族の起原」、青山道夫他編『講座家族第1巻 家族の歴

史』、弘文堂

・伊谷純一郎(1983)「家族起原論の行方」家族史研究会編『家族史研究7』、大月書店

・伊谷純一郎(1986)「人間平等起原論」伊谷・田中編『自然社会の人類学?アフリカに生きる』、アカデミア出版会

・伊谷純一郎(1987)『霊長類社会の進化』、平凡社・河合雅雄編(1990)『人類以前の社会学?アフリカに霊長類を探る』、教育社

・河合雅雄(1992)『人間の由来』(上、下)、小学館
・加納隆至(1986)「最後の類人猿 - ピグミーチンパンジーの行動と生態」、どうぶつ社

・黒田末寿(1982)「ピグミーチンパンジー - 未知の類人猿」、筑摩書房

・高畑由起夫(1993)「インセストをめぐる迷宮」、須藤・杉島編『性の民俗誌』人文書院

・上原重男(1991)「性的分業の起源?チンパンジーの狩猟行動の性差を中心に」、西田・伊澤・加納編『サル文化誌』、平凡社

・山際寿一(1994)『家族の起源?父性の登場』、東京大学出版会

・チャルマース、N.(1983)「霊長類の社会行動」、小山直樹訳、培風館

・河合香史編(2009)「集団 人間社会の進化」京都大学学術出版会

<授業計画>

第1回 イントロダクション

本講義のテーマ(家族の起原を探る)、授業のスケジュールなどを紹介する。

第2回 家族とは

私たち人間の家族についての基礎的な解説をする。

第3回 今西錦司と家族起源論

日本の霊長類学のパイオニアである今西錦司の「家族起源論」について、歴史的な背景を踏まえながら概説する。

第4回 霊長類研究の進展と伊谷純一郎

今西錦司に主導されて展開した日本の霊長類研究の進展を追い、その中で独自の理論を展開した伊谷純一郎の考えを概説する。

第5回 理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第6回 テナガザル

テナガザルの社会について概説する。

第7回 オランウータン

オランウータンの社会について概説する。

第8回 ゴリラ

ゴリラの社会について概説する。

第9回 チンパンジーとボノボ

チンパンジーとボノボの社会について概説する。

第10回 第2回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

第11回 インセスト回避とエクソガミー

今西錦司が提出した家族という人類に独特の社会類型がもつ特徴としての、インセストの回避、エクソガミーの成立、コミュニティの成立、配偶者間の分業の成立という4条件について、まずインセスト回避とエクソガミーに関して霊長類社会との関連性を探る。

第12回 コミュニティ

コミュニティの成立について検討する。

第13回 分業

配偶者間の分業について検討する。

第14回 人間家族の起源

これまでの議論をもとに、人類家族の起源と進化について再考する。

第15回 第3回理解度確認ワーク

これまでの補足説明と、理解度確認ワークの実施

2022年度 前期

2単位

すまいの文化

北村 厚

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、ヨーロッパの住宅とくらしに関する歴史を学習することを通じて、歴史学の専門知識と技能を総合的・体系的に身につけ、活用することを目的とします（人文学部DP2・4）。

私たちが何気なく過ごしている普通の生活は、実は世界の大多数の人々にとって当たり前ではありません。玄関で靴を脱ぐのも、浴室に必ず湯舟があるのも、畳も座卓も、日本では当たり前ですが世界の多くの国ではあてはまりません。このように、すまいの形そのものにそれぞれの国の文化があるのです。この授業では、日常生活からも世界の歴史をとらえることができるという観点から、近代ヨーロッパの「すまいの文化」を取り上げます。

しかしただ住宅の変遷を追っただけでは歴史を見ることにはなりません。その住宅がどのような歴史的・文化的・社会的背景を持って誕生したのかを探求することによって、より深くヨーロッパの歴史の特質をつかむことができます。この授業で取り上げるイギリスのカントリーハウス、イギリスやフランスの労働者住宅、ドイツの労働者の住宅などには、それぞれ地域や時代ごとの階級文化・思想・政策目標が存在しました。それらを理解することでヨーロッパ近代における住宅政策の文化と政治のあり方そのものについて考えることが、この授業の目的です。

< 到達目標 >

1. ヨーロッパの住宅の歴史について概要を説明することができる。（知識）

2. 日常生活からヨーロッパの歴史を語るとい社会史的手法を身につける。（知識・技能）

3. 社会経済史的手法により住宅の歴史と現在の社会問題を結びつけて考えることができる。（思考力・判断力）

< 授業のキーワード >

カントリーハウス 労働者住宅 コレラ 都市衛生 住宅政策

< 授業の進め方 >

最初にプリントを配布し、スライドで授業をします。毎回課題を課し、終了後にオンラインで提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

教室内では席を離し、マスクを着用し、会話は必要な時以外は行わないようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業内容について1時間程度復習し、課題に取り組んでください。

< 提出課題など >

毎回授業の最後に課題を設定し、Google Formで提出してもらいます。毎回の課題は、必ず授業日の3日後までに提出してください。遅延は認めません。提出された課題のいくつかについて次回の冒頭でコメントし、フィードバックとします。

< 成績評価方法・基準 >

小レポート75点満点（5点満点×15回）+住宅レポート15点、最終レポート10点満点で計算します。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 すまいから見る歴史

「すまい」から文化や歴史を読み解くというのは、歴史学の分野では社会史や日常史というジャンルに当たります。それらの歴史学がどのような背景から登場し、どのような学問的意義を持ちえたのかを解説して導入とします。

第2回 イギリス貴族のカントリーハウス 1

今もイギリス各地の郊外に残る広大な貴族の邸宅、カントリーハウス。なぜ彼らは都会の喧騒を離れて自然と共に暮らすことを望んだのでしょうか。カントリーハウスの歴史を通じて、大英帝国の発展を支えたイギリス流田舎生活の実態に迫ります。

第3回 イギリス貴族のカントリーハウス 2

引き続き、カントリーハウスの歴史について考えます。

第4回 イギリス労働者の住環境 1

優雅なカントリーハウスの生活とは裏腹に、産業革命期のイギリス労働者は狭くて汚い長屋生活を余儀なくされていました。社会の最底辺に置かれた彼らの生活は、大

きな環境問題を引き起こし、政府は「住宅政策」の展開を余儀なくされます。

第5回 イギリス労働者の住環境 2

住環境の悪化は都市衛生環境の悪化につながり、コレラ流行の原因にもなります。この問題に立ち向かったチャドウィックの改革などについて見ていきます。

第6回 イギリス労働者の住環境 3

引き続き、19世紀イギリスの住宅と環境の問題についてみていきます。

第7回 フランスの都市改造 1

イギリスに遅れて産業革命が推進されたフランスでも、住環境の悪化が社会問題になりました。これに対してナポレオン3世とセーヌ知事オスマンは、パリの大改造に着手します。

第8回 フランスの都市改造 2

引き続き、パリ大改造の経緯と結果を見ていきます。

第9回 近代ドイツの住宅問題 1

ブルジョワ階級の理想的な生活とは全く異なる生活空間を作り出していたのが労働者階級です。19世紀後半のベルリンでは巨大な労働者向け集合住宅が数多く作られました。マイアースホーフなどを事例に、ベルリン集合住宅での労働者家族の生活を見てみましょう。

第10回 近代ドイツの住宅問題 2

引き続き、近代ドイツの労働者の集合住宅について考えます。

第11回 近代ドイツの住宅問題 3

引き続き、近代ドイツの労働者の集合住宅について考えます。

第12回 兵庫県の建築物

インターバルとして、兵庫県の建築物レポートの優秀作品発表を行います。

第13回 ドイツ住宅政策その後 1

ドイツ帝国期に社会問題となった労働者住宅は、社会政策をかかげるヴァイマル共和国期になると、国家政策として整備拡充が計画されます。しかし予算不足により中途半端になり、ナチ期に入るとこれらの労働者住宅は左翼の温床として弾圧されました。第二次世界大戦期にいたる住宅政策の変遷を追います。

第14回 ドイツ住宅政策その後 2

引き続き、戦間期以降のドイツ住宅政策について見ていきます。

第15回 まとめ

本講義で学んだイギリス・フランス・ドイツの住宅政策を、公衆衛生と階級という観点から比較分析します。また、最終レポートについての説明を行います。

2022年度 後期

2単位

すまいの文化史

金 益見

< 授業の方法 >

講義形式

< 授業の目的 >

現代社会においては少子化は諸課題のひとつです。本講義では、子どもを通して、現代の私たちが関わる社会問題の望ましい解決のあり方について考察を深めていきます。

子どもという考え方は、近代以前には存在しませんでした。子どもは近代になって社会によって産み出された創造物といっても過言ではありません。

本講義では、まず「社会的存在としての子ども」について考えます。次に、子どもが誕生した後で、子どものために作り出された文化に着目します。それらを通して、「子どもの文化」からみえてくる、社会の諸相について考えていきます。

また、講義を通して、人文学部ディプロマポリシーに掲げられた、「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」および「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことが可能になります。

< 到達目標 >

子どもという概念が生まれた歴史的経緯とその後の社会変化を体系的に理解することができる。

「子どもの文化」の成立と発展の背景を学ぶことで、家族や福祉などにおける倫理的課題を明確にすることができる。

現代の諸課題を自己の課題とつなげて、これから社会を担っていく人間としてのあり方について自覚を深めることができる。

< 授業の進め方 >

講義形式を中心にして進めます。

毎回、授業に関する内容をミニレポートにまとめてもらいます。

15回のうちの14回目に、最終レポートを授業中に作成してもらいます。

< 履修するにあたって >

私語厳禁です。授業に関係のないもの（スマートフォンや雑誌など）を机の上に出すことも禁じます。

これらを含めた受講上の約束事は1回目の授業で説明します（受講上の約束事が守れない場合は即退出、場合によっては即不合格とします）。

履修登録の際には、このことを十分に理解してください。また小テストは、「授業内容を把握しかつ試験準備が十分されていないと合格できない」レベルのものを課しま

す。
履修登録の際には、このことも十分に理解してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業ノートを作り、毎回授業後に1~2時間程度の復習を行ってください。また授業中に出てきたキーワードを、自分で調べたりしながら、興味の幅を広げていただけると嬉しいです。

< 提出課題など >

毎回授業内容に関するミニレポートの課題を出し、出席カードに書いてもらいます。

記入された内容の一部は、受講者の理解を深めるために、次の授業のはじめに共有します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポート点、合計で70点

最終レポート30点

合計100点満点で評価します。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や約束事、評価方法について説明します。

第2回 創造物としての子ども

近代から現代までの子ども像の変化について考察します。

子ども が近代以降の産物であることを主張したフィリップ・アリエスの指摘を中心に『子供の 誕生 』を読み解いていきます。

第3回 小さな大人から 子ども へ

近代の思想家の子ども観を、ルソーの「エミール」や、ジョン・ロックの「タブラ・ラサ」という概念を元に紹介します。

第4回 日本での 子ども の誕生

日本で保護すべき対象としての 子ども が広く受け入れられるようになった、明治期の終わりから大正期にかけての変化を考察します。

第5回 子ども の誕生の要因

第2~4回までのまとめとして、子ども が誕生した理由を考えます。背景にあった産業革命の影響や、ニール・ポストマンの活版印刷の発明節などを取り上げます。

第6回 近代日本の子ども

子ども向け雑誌から近代日本の子ども観を探っていきます。『少年倶楽部』からみる「立身・英雄主義」や、『赤い鳥』の「童心主義」、少女という表象を生み出した『少女の友』などを分析します。

第7回 子どもの貧困

現代日本の社会問題のひとつである子どもの貧困について取り上げ、次回から取り上げる子どもと学校、義務教育制度が整うまでの多くの子どもの生活状況、絶対的貧困から相対的貧困に至るまでについてを考えていきます。

第8回 子どもと学校

第8~10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を

学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを一緒に考えていきます。

第9回 子どもと学校

第8~10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを一緒に考えていきます。

第10回 子どもと学校

第8~10回にかけて、義務教育のはじまりとその背景を学び、そこから生まれた子どもの文化について考察します。また、夜間中学という、戦後自主的に生まれた教育活動を紹介し、学ぶということはどういうことなのかを一緒に考えていきます。

第11回 子どもと〇〇

第11~13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第12回 子どもと〇〇

第11~13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第13回 子どもと〇〇

第11~13回にかけて、受講生の関心に合わせて子どもに関するテーマを自由に取り上げます。

立候補していただいた何人かに発表をしていただきます。

第14回 子どもの変化

受験勉強やゆとり教育、塾やフリースクールなど子どもの教育を取りまく変化は、子どもにどのような影響を及ぼしたのか。公園からテーマパークへ、外遊びから家遊びへ、子どもの遊びの移り変わりは地域や家族、社会にどういった変化をもたらせたのか。「子どもと教育」「子どもとあそび」を通して見えてきた日本の社会について、自らの生活に照らし合わせて考えていきます。

第15回 子どもの現在

授業全体のまとめを行います。今までの子どもの文化の変遷を踏まえて、現代社会における子どもという存在について考えます。

2022年度 後期

2単位

生命環境論

飯田 聡子

< 授業の方法 >

講義（学内での野外実習を含む）

< 授業の目的 >

講義では、有瀬キャンパスの敷地内に生育する植物の調

査を行い、得られたデータを解析し考察する。身近に存在する植物の多様性を把握し理解を深めるとともに、生物多様性が直面している課題について考える。

人文学部のディプロマ・ポリシーの知識・技能、表現力と関連する。

<到達目標>

有瀬キャンパス内に生育する植物を観察し、結果を記録し、考察する方法を身につける。

- ・屋外で安全に配慮して植物観察ができる。
- ・植物観察の基本技術を身につけることができる。
- ・観察結果を客観的な資料としてまとめることができる。
- ・植物に関連する文献を収集することができる。
- ・協動的かつ建設的な議論ができる。

<授業のキーワード>

生物多様性・植物生態・野外調査

<授業の進め方>

・学内での植物観察、種同定、分布調査
・得られたデータを整理し各自レポートにまとめる。レポートの内容をパワーポイントにまとめ発表し、全員で議論する。データの整理や記録、発表はエクセル・パワーポイントを使用する。

- ・配布資料や提出は全てdotCampus

<履修するにあたって>

・授業計画は毎回出席することを前提に作られているので、体調およびスケジュール管理を心掛け、欠席がないように努める。

・野外調査の日は虫刺されやケガの防止のため、帽子、長袖、長ズボンを着用、飲物持参、汚れても良い服装がよい。黒い衣服は昆虫（蜂）を惹きつけるため、着用しないこと。

・天候等の理由により相談の上、野外調査の日程を変更する場合がある。

<授業時間外に必要な学修>

・観察の準備や得られた結果の整理、発表準備など、授業時間内以外に、各回につき1-2時間程度の学修が必要。

<提出課題など>

- ・レポート課題の提出。提出先はdotCampus。

<成績評価方法・基準>

- ・受講姿勢60%、レポート40%

受講姿勢では観察や種同定などの調査、発表準備、プレゼンテーションおよび質疑応答への積極参加を重視する。

・他の学生に迷惑がかかったりモラル低下につながると判断された場合は減点する。

・2/3以上の出席がない場合は、単位認定・評価対象としない。

・病気や事故、教育実習、就活など特別の事情がある場合の欠席は考慮するので、確認書類を提出する。

<テキスト>

なし

<参考図書>

・山溪ハンディ図鑑 野に咲く花 増補改訂新版 門田裕一（監修）、畔上能力（編集）、平野隆久（写真）2013年 山と溪谷社 ¥4,620

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 離弁花1 茂木透、勝山輝男、太田和夫、他 2000年 山と溪谷社 ¥3,960

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 離弁花2 茂木透、勝山輝男、太田和夫、他 2000年 山と溪谷社 ¥3,960

・山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物 茂木透、勝山輝男、太田和夫、他 2001年 山と溪谷社 ¥3,960

・ネイチャーガイド日本の水草 角野康郎著 2014年 ¥4,180

・レスキュー・ハンドブック 増補改訂新版 藤原尚雄著 羽根田治著 2020年 ¥1,320

<授業計画>

第1回 はじめに

授業の概要説明

第2回 現地見学

大学構内の調査地の見学

第3回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第4回 結果のまとめ

調査で観察した植物の形態観察，調査内容のまとめ

第5回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第6回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第7回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第8回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第9回 野外調査

屋外での植物の形態や生育状況の観察

第10回 結果のまとめ

調査で採集した植物の形態観察と調査内容のまとめ

第11回 レポートの作成

調査から調査の内容をもとに各自レポートを作成する

第12回 文献調査とレポートの推敲

関連する文献を収集し，その情報を整理するとともにレポートの内容を推敲

第13回 発表用原稿の作成

作成したレポートを基に発表用の原稿を作成

第14回 発表用ファイルの作成

発表用の原稿をベースにパワーポイントファイルを作成

第15回 発表会

プレゼンテーションおよび質疑応答

2022年度 前期

2単位

旅の文化史

大原 良通

< 授業の方法 >

遠隔授業（オンデマンド授業）

初回と2回目の授業は講義内容をOneDriveに挙げます。

その後はdotCampusでおこないます。

< 授業の目的 >

旅する人は様々な物質や文化を運びます。それらを学ぶことは、複数の分野の基礎知識を身につけ、人間の行動や文化に関する専門知識をも身につけることができます。（知識・技能）。また、多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる（主体性・協働性）のです。

< 到達目標 >

旅は観光だけでなく、文化や物質を運ぶ媒体であることを知ることができる。

旅には様々な役割を知ること、異文化理解を深めることができるようになる。

異なる言語や文化を移動する効能について知ることができる。

多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになる。

< 授業の進め方 >

dotCampusを中心に授業をおこないます。

授業時間までには必ずdotCampusで講義内容を確認してください。

授業では、dotCampusのレポート機能などを利用し、遠隔授業におけるアクティブラーニング的な方法を模索したいと思います。

また、授業毎にテストやレポートの提出を求め、出席確認としますので、それらの提出は期限をしっかりと守ってください。

< 履修するにあたって >

ノートをとるようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

dotCampusで、講義資料を読むのに90分と、復習に60分ほど、テスト回答もしくはレポート作成に30分から60分ほど必要かと思えます。合わせて、3時間から3時間半ほどになります。

< 提出課題など >

dotCampusで毎回テストもしくはレポートを提出してもらいます。

私への質問はレポート提出機能を活用する方法を考えています。

かならず、dotCampusで確認してください。

< 成績評価方法・基準 >

dotCampusを利用するテスト機能やレポートで評価します。

この授業で指示されたもの以外の、インターネットの引用、剽窃などはすべてカンニングとみなし、この授業の単位自体が出なくなりますので、気をつけてください。

< 授業計画 >

第1回 シラバス確認

この、シラバスを読んでください。

下にいるOneDriveに授業の説明(4月5日ごろ公開予定)がありますので、そちらもしっかり読んでください。

第2回 旅とはなんでしょう

旅について考えましょう。

授業内容はDotCampusの以下の住所にあります。

第3回 なぜ旅をするのか？

国立国会図書館デジタルライブラリーより『十一国無銭旅行記』をよみ、なぜ旅をするのか考えます。

第4回 旅の意味

国立国会図書館デジタルライブラリーにある『満州旅行記』を読み、旅の意味について考えます。

第5回 旅で得るもの

どんな人が旅をしたのか。

第6回 旅に求めるもの

外交官の役割と旅。

第7回 旅の期待

外交官の資質と任務。

第8回 通訳

通訳の役割。

第9回 貿易

商人の旅がどんなものだったのかについて講義します。

第10回 商人

商人がもたらしたもの、商人が動かしたものについて考察します。

第11回 和蕃公主

唐からチベットに嫁いだ公主について考察します。

第12回 戦争捕虜

タラス河畔の戦いで捕虜になった杜環について考察します。

第13回 求法

玄奘三蔵をはじめとする求法僧について考察します。

第14回 巡礼

巡礼のたびについて考察します。

第15回 振り返り

授業を振り返り、振り返りレポートを提出してもらいます。

2022年度 前期

2単位

地域フィールドワーク論

矢嶋 巖

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

地理学などの野外研究分野では、フィールドワークはもっとも大切な研究手法の一つです。それは、現地へ足を運び、見て、聞いて、感じて、考える研究方法です。その場所を訪れること自体は、まるで旅のようでもあります。旅先の自然の景観や人々の営みの姿について理解し、自分の住んでいる地域や以前の旅先で目にした風景と比べて、違うな、似ているなど感じ、その理由について考えてみる点において、一歩先へと踏み込もうとしているといえます。

この授業は、日本や世界における自然環境と人間生活における相違性や共通性について考える地理学の視点に基づき、授業で取り上げる地域を、授業を通じてみなさんがフィールドワーク（FW）することを通して、みなさんが足を運んだ現場で、見て、聞いて、感じた、風景や人々の営みが持つ意味について読み解き、考えていく力、いわば「フィールドワーク力（FW力）」をつけることを目的とします。

以上を通じて、以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。

< 到達目標 >

・地域における自然環境と人々の関係性、社会の成り立ちについて、総合的に理解する視点を得る。

・フィールドワーク（FW）を通じて、現在の姿に至るまでの地域の変貌を理解し、現代社会について考えていくための基礎力を得る。

・身近な近隣の地域を歩き回ることをも旅として楽しむ視野を持つ。

< 授業の進め方 >

講義形式で進める。適宜ビデオ映像の視聴を行なう。

< 履修するにあたって >

関係科目である都市・村落研究、地誌学、人文地理学、自然地理学、地域形成論も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から意識して街並みを見たり、旅をしたり、テレビの旅番組や地域を取り上げた新聞記事などを見ることを

心がけて下さい。その際、その場所の自然環境や歴史、人々の暮らし、社会を意識してみましよう。

< 提出課題など >

講義中に、講義内容に関する小レポートを時々実施します。なお、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験70%、授業ごとに実施する小レポート30%の割合で評価します。

< テキスト >

指定しません。

< 参考図書 >

荒木一視・林紀代美（2019）『食と農のフィールドワーク入門』昭和堂

遠藤英樹（2021）『アフターコロナの観光学—COVID19以後の「新しい観光様式」』新曜社

岡本健（2018）『巡礼ビジネス ポップカルチャーが観光資産になる時代』KADOKAWA

高坂晶子（2020）『オーバーツーリズム 観光に消費されないまちのつくり方』学芸出版社

経済産業省商務情報政策局監修（2021）『デジタルコンテンツ白書2021』デジタルコンテンツ協会

須藤廣・遠藤 英樹（2018）『観光社会学 2.0 拡がりゆくツーリズム研究』福村出版

神田孝治・森本 泉・山本理佳編（2022）『現代観光地理学への誘い?観光地を読み解く視座と実践』ナカニシヤ出版

平岡昭利編（2017）『読みたくなる「地図」西日本編：日本の都市はどう変わったか』海青社

増田研・椎野若菜編（2021）『現場で育むフィールドワーク教育（FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ4）』古今書院

安福恵美子・天野景太（2020）『都市・地域観光の新たな展開』古今書院

矢野恒太記念会編集発行（2020）『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『日本国勢図会2021/22』

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖（2019）『図説京阪神の地理 地図から学ぶ』ミネルヴァ書房

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業の目的と方法、授業の進め方について説明します。

第2回 世界遺産をFWする その1

岐阜県白川郷の合掌造り民家集落を事例に、自然環境と合掌造りの成り立ちとの関連について考えます。

第3回 世界遺産をFWする その2

岐阜県の世界遺産白川郷の合掌造り民家集落を事例に、合掌造り民家と白川郷の生業の変化との関連について考

えます。

第4回 世界遺産をFWする その3

世界遺産白川郷の合掌造り民家集落を事例に、合掌造り民家を活かした観光の発展と世界遺産登録が地域にもたらした影響と課題について考えます。

第5回 コンテンツ観光地域をFWする その1

鳥取県境港市はアニメを活かした地域づくりで日本有数の観光地域に発展しました。境港の歴史を振り返り、この取り組みを行なうこととなった背景について、境港の歴史と地域性から迫ります。

第6回 コンテンツ観光地域をFWする その2

境港がアニメを活かして日本有数の観光地域に発展するまでの困難な道のりについて迫ります。

第7回 コンテンツ観光地域をFWする その3

アニメなどのコンテンツ作品を対象とする観光はコンテンツツーリズムと呼ばれます。これまでの日本におけるコンテンツツーリズムの流れと、コンテンツツーリズムの持続可能性について、境港の取り組みを通じて考えます。

第8回 阪神間をFWする その1

阪神間と呼ばれた西宮市南部、芦屋市、神戸市東灘区、灘区付近は、近代以降に著しい都市化が進む前は、六甲山地の山麓や海岸に農漁村が見られる地域でした。阪神間の自然環境と人々の暮らしの関係について、フィールドワークで得た映像も使用して説明します。

第9回 阪神間をFWする その2

近代以降の関西では、鉄道、とくに私鉄の発達が一因となって著しい都市化が進みました。阪神間の都市化を念頭に、近代における関西における私鉄の発展について説明します。

第10回 阪神間をFWする その3

近代以降の阪神間では、鉄道、とくに私鉄の発達により、著しい都市化が進みました。近代における私鉄の発展がもたらした阪神間の都市化について説明します。

第11回 阪神間をFWする その4

作家谷崎潤一郎は、昭和戦前期に阪神間を襲い甚大な被害をもたらした阪神大水害を、小説『細雪』の題材に取り込みました。『細雪』の該当部分も用いつつ水害の惨状を紹介し、自然環境と人間活動の面から災害発生の要因に迫ります。

第12回 ハワイをFWする その1

毎年多くの観光客が日本からも訪れ、トップクラスの海外ウェディング先にもなっている太平洋のハワイ諸島について理解するシリーズ。ハワイの自然環境と先住民について、フィールドワークで得た映像やビデオ映像を使用して説明します。

第13回 ハワイをFWする その2

現在はアメリカ合衆国の一州であるハワイには、かつてハワイ王国とよばれる近代国家が成立していました。あまり知られていないハワイの政治と経済の歴史に、フィ

ールドワークで得た映像やビデオ映像を使用して迫りません。

第14回 ハワイをFWする その3

ハワイが現在のような観光地域になった背景には、その自然環境と歴史があります。その1・2を踏まえ、観光地域ハワイの成立について理解します。

第15回 FW力の可能性

授業を通した「フィールドワーク」を振り返り、地域の風景や人々の営みを、現場で、見て、聞いて、感じることが持つ意味について考え、「フィールドワーク力(FW力)」の可能性について自ら問い直しましょう。

2022年度 後期

2単位

地域フィールドワーク論

鈴木 遥

<授業の方法>

講義形式で行います。毎回、講義の最後に論述形式の課題を出すので、講義時間内で取り組みます。

<授業の目的>

地域は、環境、文化が歴史的に相互関係し、多様な背景を持った年代の異なる人々が生きる重層的な空間であり、私たちの認識でもあります。本講義では、こうした地域を理解するためのフィールドワークの意義や方法を解説し、フィールドワークに基づく研究の面白さを伝えます。

本講義は、人文学部ディプロマポリシーに掲げる、複数分野の基礎知識を教養として身につけ(知識・技能1)、多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる(主体性・協働性7)ことを目指します。

<到達目標>

1. 地域を理解することの意義や、複雑な地域の成り立ちや変容を理解するための方法を身につける。
2. 地域は様々な背景を持った年代の異なる人々によって成り立っており、それらすべてを尊重した地域発展の方向を目指すことの重要性が理解できる。

<授業のキーワード>

地域、地域形成、フィールドワーク、地域発展

<授業の進め方>

講義を中心として授業を進めます。講義内では意見交換や質疑の機会を設け、対話も重視します。毎回の講義の最後に、講義内容に関わる論述形式の課題に取り組みます。

<履修するにあたって>

異なる学問分野や地域について興味を持ち、様々な考え方を受け入れる姿勢で受講することを求めます。

<授業時間外に必要な学修>

復習(1時間)、予習(配布する文章を事前に読んでお

〈必要がある〉(1時間)

〈提出課題など〉

毎回の講義終了時に短い論述テストを、第15回講義終了時にまとめの論述テストを実施します。

〈成績評価方法・基準〉

毎回の講義後に行う論述形式の課題(50点)、グループワークへの積極的参加(20点)、講義全体に関わる最終課題(30点)で評価します。

〈テキスト〉

なし

〈参考図書〉

1. 神戸学院大学人文学部編『メイキングオブ卒論』神戸学院大学人文学部、2014年。

2. 菅原和孝編『フィールドワークへの挑戦 実践人類学入門』世界思想社、2006年。

他にも、必要に応じて講義内で参考図書を紹介します。

〈授業計画〉

第1回 オリエンテーション

講義内容の概要や目標、評価方法の説明する。

第2回 地域研究の視点

固有性、共通性、地域形成などをキーワードにしながら、地域研究の視点を紹介する。

第3回 フィールドワークの視点と方法

フィールドワークの意義や特性について紹介する。

第4回 調査する側、される側

フィールドワークされる側への配慮について概説する。

第5回 文献調査

文献調査の方法と特性について紹介する。

第6回 参与観察

参与観察の方法と特性について説明する。

第7回 聞き取り調査

聞き取り調査の方法と特性について説明する。

第8回 フィールドノートの意義

フィールドノートとは何か、どのように活用できるかなどについて紹介する。

第9回 映像の可能性

映像の特性、映像を活用することの可能性について紹介する。

第10回 フィールドワークに基づく研究1

文献調査に基づく研究を紹介する。

第11回 フィールドワークに基づく研究2

自分事から広げる研究を紹介する。

第12回 フィールドワークに基づく研究3

当事者としてフィールドワークをする研究を紹介する。

第13回 フィールドワークに基づく研究4

参与観察に基づく研究を紹介する。

第14回 討論

第10回から第13回の授業で紹介した研究について、グループに分かれて批判的に議論をし、グループごとに発表し、意見交換を行う。

第15回 講義全体のまとめ

講義全体の総括を行う。

2022年度 後期

2単位

地域形成論

矢嶋 巖

〈授業の方法〉

講義

〈授業の目的〉

人文科学における卒業論文研究においては、さまざまな地域を扱う研究が少なくありません。地域は、自然、人文、社会の要素がさまざまに関係し合っており成り立っています。特定の地域そのものを研究対象とした研究はもちろんのこと、文学や歴史、芸術、環境など、地域的背景が重要な要素となる人文分野の研究を行なう場合、その地域をいかに理解できるかが、研究を成功させる鍵の一つとなることでしょう。また、地域理解のために、さまざまなメディアコンテンツを資料として活用することにより、より好奇心を持って地域を理解することができるでしょう。この授業では、異なる特徴を有する地域を取り上げ、地域の成り立ちについて考えます。環境がどのように利用され改変されて人々の生活の舞台とされ、特徴的な地域が形成されてきたのかについて、具体的な事例を取り上げて論じ、地域の成り立ちに影響を及ぼした要因について考えます。その際、演芸、絵画、新聞報道、映画、文芸など、さまざまなメディアコンテンツによる作品・資料を活用し、理解に役立てます。

以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

〈到達目標〉

- ・地域の特徴をなす自然、人文、社会の各要素間の関係性について理解し、地域を総合的に考察する力を養う。
- ・人文分野における地域研究の際に求められる地域理解のための応用力を養う。
- ・高等学校地歴科・中学校社会科分野や地域に関する業務を遂行する際に有用な基礎力を得る。
- ・地域で賢く生きていくための総合力を得る。

〈授業の進め方〉

講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオなどの映像資料も活用する。

〈履修するにあたって〉

関係科目である地域フィールドワーク論、地誌学、人文地理学、地域社会分析、自然地理学、都市・村落研究も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から意識して景観を観察したり、地域の産業について取り上げたテレビ番組や新聞記事などを見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

講義中に、講義内容に関する小レポートを時々実施します。なお、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験70%、毎回の授業時に実施する小課題30%の割合で評価します。

緊急事態宣言発出により登学できない状態が続く場合には、定期試験をレポート試験に変更することもあります。

< テキスト >

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖(2019)『図説 京阪神の地理 地図から学ぶ』ミネルヴァ書房

< 参考図書 >

赤井正二(2016)『旅行のモダニズム 大正昭和前期の社会文化変動』ナカニシヤ出版

石田光規編著(2018)『郊外社会の分断と再編 つくられたまち・多摩ニュータウンのその後』晃洋書房

遠藤邦彦(2017)『日本の沖積層 改訂版』富山房インターナショナル

老川慶喜(2017)『鉄道と観光の近現代史』河出書房新社

北後明彦・大石哲・小川まり子編(2019)『災害から一人ひとりを守る』神戸大学出版会

スタジオジブリ編(1997)『スタジオジブリ作品関連資料集 5』徳間書店

平岡昭利編(2019)『読みたくなる「地図」国土編 日本の国土はどう変わったか』海青社

平山昇(2015)『初詣の社会史 鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』東京大学出版会

三木理史(2010)『都市交通の成立』日本経済評論社

矢野恒太記念会編集発行(2020)『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行(2021)『日本国勢図会2021/2』

若林高子・北原なつ子(2017)『水の土木遺産』鹿島出版会

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業の目的と方法、授業の進め方について説明します。

第2回 日本の河川と地域(1)

日本の河川と人々の関わりについて交通から考えます。近世に発達し近代に衰退した淀川舟運の背景としての、近畿地方中央部の自然環境について説明します。

第3回 日本の河川と地域(2)

日本の河川と人々の関わりについて交通から考えます。近世に発達し近代に衰退した淀川舟運について、浪曲や浮世絵も参考資料にして説明します。

第4回 日本の災害と地域(1)

日本の災害と人々の関わりについて大阪平野の水害から考えます。新聞記事を資料に用いて、淀川を中心に発生してきた大阪平野の水害の歴史と対策について概観します。

第5回 日本の災害と地域(2)

日本の災害と人々の関わりについて大阪平野の水害から考えます。第二次世界大戦後に大阪平野の各地で発生した都市水害について説明します。また、東京の水害についても考えます。

第6回 日本の交通と地域(1)

日本の交通発達と人々の関わりについて、阪神電鉄による甲子園開発の歴史から考えます。近代の関西における私鉄ビジネスを取り上げたビデオ映像も活用し、阪神電鉄の創業と沿線開発について説明します。

第7回 日本の交通と地域(2)

日本の交通発達と人々の関わりについて、阪神電鉄による甲子園開発の歴史から考えます。阪神電鉄による甲子園開発の背景、事業の概要、もたらした影響について説明します。

第8回 日本の交通と地域(3)

日本の交通発達と人々の関わりについて、阪神電鉄による甲子園開発の歴史を踏まえ、近代における京阪神地方の都市化と鉄道との関わりについて考えます。

第9回 日本の都市化と地域(1)

日本の都市化と人々の関わりについて、団地から考えます。多摩ニュータウンの団地に暮らす少女を主人公とした映画『耳をすませば』も活用し、団地という存在について考えます。

第10回 日本の都市化と地域(2)

日本の都市化と人々の関わりについて、団地から考えます。ニュータウンへと変貌した丘陵に住んでいた狸たちを主人公とする映画『平成狸合戦ぽんぽこ』も活用し、大規模住宅団地開発としてのニュータウン開発について説明します。神戸におけるニュータウン開発についても紹介します。

第11回 日本の都市化と地域(3)

日本の都市化と人々の関わりについて、団地から考えます。団地・ニュータウン開発を引き起こした第二次世界大戦後の住宅難、その背景としてのイギリスにおける田園都市構想について説明します。

第12回 日本の観光と地域(1)

日本の観光と人々の関わりについて、関西の観光地から考えます。まず日本の観光の歴史について説明します。

第13回 日本の観光と地域(2)

日本の観光と人々の関わりについて、関西の観光地から考えます。大阪天保山を事例に、近世後期の大阪において有数の観光地となった経緯、1990年代以降ウォーターフロント開発の潮流を受けて再び脚光を浴び、海遊館などが立地する観光地として発展した状況について説明します。

第14回 日本の観光と地域(3)

日本の観光と人々の関わりについて、関西の観光地から考えます。神戸市北区の有馬温泉を取り上げ、近世における温泉地の形成と、近代以降の鉄道敷設による発展、高度経済成長期以降のマスツーリズムの影響について説明します。

第15回 まとめ

地域を総合的に把握する意味は何なのか、将来地域はどうあるべきなのか、さまざまなメディアコンテンツによって描かれる地域をどう考えたらよいのか、考察します。

2022年度 前期

2単位

地域社会の歴史

森栗 茂一

< 授業の方法 >

対面講義、

授業概要は ブログ{神戸学院大学臨床歴史研究室, <http://kurimori2007.seesaa.net/>}

< 授業の目的 >

"本講義科目は人文学部の専門教育科目に属し、環境人類地域歴史領域に資する力をつけるための科目と位置付けられます。学科のDPに示されている、地域の特色ある歴史にもとづく問題解決に向け、総合的理解と主体的に理解し、問題解決する能力を体得し、社会的実践能力をつけることを目指す。

・具体的には、阪神大震災の復興過程で発見した、多様な神戸の歴史文化、生活文化を対話しつつ協働で総合的に感得し、自己の身近な地域の多面性に関心を持ち、その多面的地域理解をもとに、自らの故郷とその歴史を改めて主体的に探求する。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた高校教育と博物館展示企画、歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史

学に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。"

< 到達目標 >

・多面的な神戸の価値、および多様な神戸の総合的な歴史知識を得る。

・地域価値を対話と協働で感得する体験を持つ。

・自己の故郷の多面的な価値と、それをささえる多様な歴史を探求しようという態度を身につけ、身近な地域の多面的価値発見の経験を持つ。"

< 授業のキーワード >

神戸 震災復興 故郷 多様な歴史 探求

< 授業の進め方 >

基本対面、社会的状況、個人的状況により、遠隔(ZOOM、ブログ、Googledriveで実施する。使用するブログ、ZOOM、GoogledriveのURLは、morikuri@human.kobegakuin.ac.jp で連絡する。

< 履修するにあたって >

この授業、step by stepですすめます。主体的、学ぶ経験ない人にも、歴史探求、面白い。自ずと力がついてくる。それだけに、自ら予習、発表する、主体的思考、大変です。苦しく楽しい授業です。

なお、受講者数、教室の都合によって、シラバスどおり、授業すすまぬこともあり。

< 授業時間外に必要な学修 >

参考文献や資料検索には、60分以上、そのレポート記述には30分以上が、必要となる。

< 提出課題など >

毎回、授業の予習として、参考文献、資料検索等により、A4 1枚程度の下調べをし、引用等を明示してレポート提出する。その予習で、次回の授業を展開する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の宿題にもとづくKP(13回×5点=65点)、質問・意見表明、受容参加度(35点)

< 参考図書 >

徳仁親王「『兵庫北関入船納帳』の一考察—問丸を中心に—」『交通史研究』8、1982年

大阪に関しては、新之助「十三のいま昔を歩こう」 <http://atamatote.blog119.fc2.com/page-1.html>

「見えない都市遺産?神戸の震災復興現地体験型修学旅行の試みから?」『国立民族学博物館調査報告 第51集 文化遺産マネジメントとツーリズムの現状と課題』

< 授業計画 >

1 故郷、神戸・ひょうごの歴史

?視聴 {「20200511「地域の歴史」 震災から考える新

長田、神戸、兵庫」, <https://youtu.be/89ATY71b40Q>
ファイル名20200511「地域の歴史」地域の歴史はなぜ大切か

宿題資料 「見えない都市遺産」

・素材 {神戸学院大学臨床歴史研究室, <https://kurimori2007.seesaa.net/>}

参考 {森栗茂一のコミュニティコミュニケーション, <http://morikuri.cocolog-nifty.com/>}

2 新長田の価値

ブログ記事「「新長田の見えない都市遺産」解説
意見交換

?宿題資料 『神戸ー震災を越えてきた街ガイド』

3 歩き、見る、聞く予習

神戸、明石からon-line活用、各自で発見

4 歩き、見る、聞く実践

神戸、明石からon-line活用、各自グループで明石、または神戸を探索しなさい。

授業です。交通法規等を守り安全に留意して、回ってください。事後、不要な交流により事故を発生させることのないよう対処ください。

実施日の午前中は明石、午後は神戸のどこかを森栗は歩いています。緊急時、連絡ください。連絡先等は、授業中に連絡します。

質問があれば、必要に応じて現地、対面で指導します。

5 神戸はどんな町か

参考：「ミナト神戸、コレラ、ペスト、スラムー社会的差別形成史の研究」

?宿題資料 徳仁親王殿下「兵庫北関入舟帖」

6 兵庫はどんな町か

兵庫県神戸市兵庫区
神奈川県横浜市神奈川区
と

大阪府大阪市浪速区

京都府京都市中京区

なぜ日本海まで兵庫県 なぜ富士山が望める箱根まで
神奈川県なのか？

7 続兵庫はどんな町か

?宿題 摂泉12郷、灘5郷、酒造業を考える

8 走水村、二ツ茶屋村、神戸村

9 地図で考える神戸、明石、西宮、伊丹、尼崎、大坂、大物、池田

今昔マップを活用する

10 灘五郷

11 灘目・御影・住吉・魚崎

12 マル八と明石と林崎

生け船の歴史から考える

13 もうひとつの林

長田区駒ヶ林

14 『大阪雑喉場魚市場史ー大阪の生魚流通』

7/27 ブログ「学生が発見した地域のリスクに関する歴史」をUPする。

15 神戸に関する研究書の地図から考える

藤岡ひろ子『神戸の中心市街地』

2022年度 前期

2単位

地域社会学

内海 寧子

<授業の方法>

講義・発表

<授業の目的>

私たちが普段から口にしてしている砂糖、身につけている木綿のシャツ、車窓から見える風景にも歴史があります。このように身近な事象であっても、地域に大きな影響や変化をもたらし、また、私たちの社会の基盤にもなっています。この授業では、こうした身近な事象や地域に目を向け、学術的な知見に基づいて深く掘り下げる方法を学び、地域社会の在り方と動向を理解していきます。前半では、衣料や食文化、観光名所の歴史の変遷を題材にし、地域社会の成熟と変動をたどります。また江戸時代の都市大坂をはじめ、摂津・河内・和泉・播磨地域の歴史資料を紹介し、地域調査の方法と史料を読み解く技能を養います。

後半の発表では、講義で学んだ知識・方法論を用いて地域の文化遺産や産業、特産物等について発表する形式をとります。

講義や発表をつうじ、人文学部のDPである、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけることができるようになり、さらに、獲得した知識と体験・技能を活用し、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察によって解決・解明へと導くことが

できるようになります。すなわち、人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できるようになります。

なお、この授業の担当者は地域の文化遺産を調査・研究する機関に3年間勤務し、自治体史の編さん事業に10数年間携わっている実務経験のある教員です。したがって地域調査の方法について実例をあげながら、より分かりやすく解説していきます。

<到達目標>

自分の身近にあるモノや地域の歴史を学ぶことで、自分の存立基盤や、現代社会を考える力を養うことができる。

自ら問いを発見し、学術的な知見に基づいて考察し、その解明に取り組むことができる。

歴史的な調査の方法を身につけて、課題の解決をすることができる。

授業で学んだ知識や方法を活用して自分の意見を発表し、文章で表現することができる。

<授業の進め方>

前半は地域史と地域調査の方法論を学ぶ講義。後半は学生の発表。発表では、発表内容をまとめたレジュメとパワーポイントを作成し、発表します。

また、適宜、図書館の辞書類や書籍を使って調べてくるという課題を出します。

<授業時間外に必要な学修>

授業内で分からない言葉・事項があった場合は、各自で辞書類を用いて調べるようにしてください。書籍やWEBを使って調べる課題を出すので、図書館を活用して調べる作業をして下さい。(目安として1時間程度)

<提出課題など>

・毎回の授業時に、講義内容に関する課題、もしくは感想等を記述・提出してもらいます。

・提出された課題や感想については、次の授業で内容を紹介・解説し、受講者の理解を深めていきます。

・講義終了時にレポートを提出してもらいます。内容は、グループ発表の内容をまとめたものを予定。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題50%、発表25%、レポート25%、で総合的に評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

『江戸時代人づくり風土記28 ふるさとの人と知恵 兵庫』農山漁村文化協会、1998年。『江戸時代人づくり風土記27・49 大阪の歴史力』農山漁村文化協会、2000年。若尾俊平編『図録 古文書入門事典 新装版』柏書房、2013年。その他、授業中に適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の目的と方法、授業の進め方について説明する。

第2回 衣料と地域社会1

衣料を題材に社会の在り方考える。日本における木綿の歴史、地域との関係について説明する。また、史料の解読方法について説明する。

第3回 衣料と地域社会2

木綿産業と地域の関係について考える。江戸時代の木綿産業の展開について、畿内地域の事例をもとに説明。また、地域の産業に関する歴史史料の調査方法を説明する。

第4回 衣料と地域社会3

木綿産業と地域の関係について考える。明治期の木綿産業の変動について、畿内地域の事例をもとに説明する。

第5回 砂糖と地域社会1

食文化を題材に社会の在り方を考える。「世界商品」である砂糖がもたらした国際社会における地域関係を説明する。

第6回 砂糖と地域社会2

食文化を題材に社会の在り方を考える。日本における砂糖生産の歴史について、江戸時代を中心に説明する。

第7回 名所と地域社会1

江戸時代の旅と名所の関係について説明。地域社会のなかで、名所はどのように機能していたのかを考える。また、地域の歴史を探るための史資料の調査方法を説明する。

第8回 名所と地域社会2

江戸時代に創られた名所の事例を説明。風景にも地域社会の動向が影響していることについて考える。浮世絵など絵画資料から地域の歴史を読み解く方法を説明する。

第9回 地域調査・研究の動向

地域調査・地域史研究の動向を説明する。

第10回 グループ発表準備

次回からの発表の準備をします。

第11回 地域史の調査報告

地域社会を支えた産業についての発表

第12回 地域史の調査報告

食文化と地域社会の関係についての発表

第13回 地域史の調査報告

名所と地域社会との関係についての発表

第14回 地域史の調査報告

文化遺産と地域の人びとの関係についての発表

第15回 全体のまとめ

授業を振り返り、地域を歴史的にみる意義について考える。

2022年度 後期

2単位

地域社会学

金 益見

<授業の方法>

講義、ディスカッション、発表

< 授業の目的 >

地域社会は、人が生活を営む場所のことです。社会学は、人間が作り出す関係性やそれらによって発生するものごとを研究する学問です。

地域社会学に関心を持った人の中には、「社会学」を知りたいという人もいれば、「地域」に興味がある人もいます。

本講義では、前半は社会学の歴史と代表的な理論を紹介し、社会学の基本的な考え方を学びます。

後半では、前半で学んだ社会学理論を参考にしながら現代の地域社会の特性や問題点を明らかにし、その解決方法を模索します。

講義を通して、人文学部ディプロマポリシーに掲げられた、「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」および「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学習できる。」ことが可能になります。

< 到達目標 >

社会学的視点を養う

学んだ理論を現代社会に当てはめ、構造や問題点を明らかにする力を養う

社会学の理論や概念を各自の興味に関連づけ、卒業研究に発展させる

< 授業の進め方 >

授業は、前半は講義とディスカッションが中心です。後半は、履修学生のグループ発表を中心に行います。発表する際は、発表用パワーポイント、発表の流れと関連資料等を整理したレジュメを作成してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習に必要な時間は1時間ですが、発表前はグループ内での役割分担、ディスカッションなど、3?4時間を要することもあると思います。

< 提出課題など >

毎回授業内容に関する課題を出し、出席カードに書いてもらいます。

記入された内容の一部は、受講者の理解を深めるために、次の授業のはじめに共有します。

< 成績評価方法・基準 >

出席20点、毎回のディスカッションレポート30点、発表50点、合計100点満点で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

出口剛司 『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』 KADOKAWA (2019)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

これからの授業のやり方や評価方法について説明します。

第2回 社会学とは

「社会学は何をしているのか」ということを具体例を挙

げながら説明し、その役割を考えます。

第3回 社会は何からできている?

社会名目論、資本主義の成立、創発特性、社会システム論について学びます。

第4回 社会に翻弄される個人

社会実在論を説明し、E・デュルケームの自殺論について学びます。

第5回 社会と社会学が抱える二重性

実在論と構築主義について説明します。

第6回 社会を知るには集団を見よ

時代と共に変化する個人・関係・社会について説明します。

第7回 社会を知るには集団を見よ

時代と共に変化する個人・関係・社会について説明します。

第8回 地域社会学の課題

社会学の中での地域社会学の課題について考えていきます。

第9回 発表準備

次回からの発表にむけての準備

第10回 地域社会の現代的課題

少子化・子育てと地域社会についての発表

第11回 地域社会の現代的課題

高齢化・介護と地域社会についての発表

第12回 地域社会の現代的課題?

防災・災害復興と地域社会についての発表

第13回 地域社会の現代的課題

エスニック集団と地域社会についての発表

第14回 地域社会の現代的課題

コロナと地域社会についての発表

第15回 全体ディスカッション

「地域社会の未来について」

大学と地域についてのディスカッションを行います。

今、みなさんが学んでいる大学という場所が地域とどのように結びついていくことが理想的なのか。地域社会の未来について、その展望を見出します。

2022年度 前期

2単位

地域社会調査法

内海 寧子

< 授業の方法 >

講義・発表

< 授業の目的 >

私たちが普段から口にしてしている砂糖、身につけている木綿のシャツ、車窓から見える風景にも歴史があります。このように身近な事象であっても、地域に大きな影響や変化をもたらし、また、私たちの社会の基盤にもなって

います。この授業では、こうした身近な事象や地域に目を向け、学術的な知見に基づいて深く掘り下げる方法を学び、地域社会の在り方と動向を理解していきます。

前半では、衣料や食文化、観光名所の歴史の変遷を題材にし、地域社会の成熟と変動をたどります。また江戸時代の都市大坂をはじめ、摂津・河内・和泉・播磨地域の歴史資料を紹介し、地域調査の方法と史料を読み解く技能を養います。

後半の発表では、講義で学んだ知識・方法論を用いて地域の文化遺産や産業、特産物等について発表する形式をとります。

講義や発表をつうじ、人文学部のDPである、人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけることができるようになり、さらに、獲得した知識と体験・技能を活用し、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察によって解決・解明へと導くことができるようになります。すなわち、人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できるようになります。

なお、この授業の担当者は地域の文化遺産を調査・研究する機関に3年間勤務し、自治体史の編さん事業に10数年間携わっている実務経験のある教員です。したがって地域調査の方法について実例をあげながら、より分かりやすく解説していきます。

<到達目標>

自分の身近にあるモノや地域の歴史を学ぶことで、自分の存立基盤や、現代社会を考える力を養うことができる。

自ら問いを発見し、学術的な知見に基づいて考察し、その解明に取り組むことができる。

歴史的な調査の方法を身につけて、課題の解決をすることができる。

授業で学んだ知識や方法を活用して自分の意見を発表し、文章で表現することができる。

<授業の進め方>

前半は地域史と地域調査の方法論を学ぶ講義。後半は学生の発表。発表では、発表内容をまとめたレジュメとパワーポイントを作成し、発表します。

また、適宜、図書館の辞書類や書籍を使って調べてくるという課題を出します。

<授業時間外に必要な学修>

授業内で分からない言葉・事項があった場合は、各自で辞書類を用いて調べるようにしてください。書籍やWEBを使って調べる課題を出すので、図書館を活用して調べる作業をして下さい。(目安として1時間程度)

<提出課題など>

・毎回の授業時に、講義内容に関する課題、もしくは感想等を記述・提出してもらいます。

・提出された課題や感想については、次の授業で内容を紹介・解説し、受講者の理解を深めていきます。

・講義終了時にレポートを提出してもらいます。内容は、グループ発表の内容をまとめたものを予定。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題50%、発表25%、レポート25%、で総合的に評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

『江戸時代人づくり風土記28 ふるさとの人と知恵 兵庫』農山漁村文化協会、1998年。『江戸時代人づくり風土記27・49 大阪の歴史力』農山漁村文化協会、2000年。若尾俊平編『図録 古文書入門事典 新装版』柏書房、2013年。その他、授業中に適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の目的と方法、授業の進め方について説明する。

第2回 衣料と地域社会1

衣料を題材に社会の在り方考える。日本における木綿の歴史、地域との関係について説明する。また、史料の解読方法について説明する。

第3回 衣料と地域社会2

木綿産業と地域の関係について考える。江戸時代の木綿産業の展開について、畿内地域の事例をもとに説明。また、地域の産業に関する歴史史料の調査方法を説明する。

第4回 衣料と地域社会3

木綿産業と地域の関係について考える。明治期の木綿産業の変動について、畿内地域の事例をもとに説明する。

第5回 砂糖と地域社会1

食文化を題材に社会の在り方を考える。「世界商品」である砂糖がもたらした国際社会における地域関係を説明する。

第6回 砂糖と地域社会2

食文化を題材に社会の在り方を考える。日本における砂糖生産の歴史について、江戸時代を中心に説明する。

第7回 名所と地域社会1

江戸時代の旅と名所の関係について説明。地域社会のなかで、名所はどのように機能していたのかを考える。また、地域の歴史を探るための史料の調査方法を説明する。

第8回 名所と地域社会2

江戸時代に創られた名所の事例を説明。風景にも地域社会の動向が影響していることについて考える。浮世絵など絵画資料から地域の歴史を読み解く方法を説明する。

第9回 地域調査・研究の動向

地域調査・地域史研究の動向を説明する。

第10回 グループ発表準備

次回からの発表の準備をします。

第11回 地域史の調査報告

地域社会を支えた産業についての発表

第12回 地域史の調査報告

食文化と地域社会の関係についての発表

第13回 地域史の調査報告

名所と地域社会との関係についての発表

第14回 地域史の調査報告

文化遺産と地域の人びとの関係についての発表

第15回 全体のまとめ

授業を振り返り、地域を歴史的にみる意義について考える。

2022年度 後期

2単位

地域社会特別講義

矢嶋 巖

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業では、現代社会を理解するための一研究手法として、地誌学を講じます。地誌学は、ある地域について、自然、人文、社会の点から総合的に説明し、その地域性について考察する分野です。地域を総合的に捉える視点を持つことは、地域を取り上げるさまざまな研究において有用ですし、実社会において地域と関わる業務に携わる際においても役立つことでしょう。世界と日本の地域性についての視野を得るために、授業の前半では、近代以降に農村から観光都市として発展し、近年ではさまざまな地域づくりの動きも見られる兵庫県宝塚市を取り上げ、自然環境、歴史、人々の暮らしの変化について取り上げます。また、後半では、多民族社会であるアメリカ合衆国の成り立ちについて考えます。国あるいは地方というスケール（縮尺）が異なる地域を対象に、地域を特徴づけるテーマに向かいつつ地域のさまざまな要素を述べることにより、スケールが異なっても、地域を総合的に捉える視点を持つことが有する意味について理解することを狙います。なお、本授業では、受講学生自身が、地誌理解を深めるために自ら地域を研究し、各自が現地を訪れることを課題に含む地誌研究レポートを授業期間中に課します。

以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

< 到達目標 >

取り上げた地域の特徴をなす自然、人文、社会の諸要素の展開について理解するとともに、要素間の関係性について認識する。

人文分野における地域的研究の際に求められる地域理解のための基礎力を養う。

地図や統計資料を活用するための基礎力を修得する。

< 授業の進め方 >

講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオなどの映像資料も活用する。

< 履修するにあたって >

関係科目である地域フィールドワーク論、都市・村落研究、地域社会分析、人文地理学、地域形成論、自然地理学も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から地誌的視点でさまざまな地域の景観を観察したり、テレビ番組を見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

一つの市町村区を取り上げて地誌研究を行う中間レポートを、授業期間中（11月出題、1月初旬提出期限の予定）に必修で課します。このレポートでは、各自が取り上げた地域を自らが実際に訪れて、関係する写真を撮影して掲載することを求めます。ただし、緊急事態宣言発令状況によっては、中間レポートの出題内容がインターネットを活用した題材に変更される可能性があります。また、講義中に、講義内容に関する小課題を毎回実施します。フィードバックとして、受講者の理解を深めるために、前回の小課題をいくつかを選んで、匿名にて論評することがあります。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験40%、中間（地誌研究）レポート30%、毎回の授業における小課題30%で評価します。コロナ禍で定期試験実施が困難となった場合には、最終レポート40%、中間（地誌研究）レポート30%、毎回の授業における小課題30%、あるいは、最終レポート70%と毎回の授業における小課題30%で評価します。

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

菊地俊夫編（2011）『世界地誌シリーズ1日本』朝倉書店
定藤繁樹編著（2017）『たからづか学 まちの姿と歴史文化が語る宝塚』関西学院大学出版会
田辺真人監修、宝塚市文化財団編（2015）『宝塚まちかど学【新版】』神戸新聞総合出版センター
田中義岳（2019）『地域のガバナンスと自治 平等参加・伝統主義をめぐる宝塚市民活動の葛藤』東信堂
デイヴィッド・マイケリス著、古屋美登里訳（2019）『スヌーピーの父チャールズ・シュルツ伝』亜紀書房
和田 光弘（2014）『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房
梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著（2021）『よくわかるアメリカの歴史』ミネルヴァ書房

矢ヶ崎典隆編（2011）『世界地誌シリーズ4アメリカ』朝倉書店

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣 雄矢（2020）『地誌学概論第2版』朝倉書店

矢野恒太記念会編集発行（2020）『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『日本国勢図会2021/2』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『世界国勢図会2021/2』

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスと地誌学の意義、世界の地域区分

この授業の進め方について説明したのち、地誌学の目的と方法について説明します。

第2回 宝塚の自然環境

平野に都市が発達した南部と、山間で村落が位置する中部・北部といった地形、市域の大部分が流域に含まれる武庫川の特性と水害史、阪神・淡路大震災による甚大な被害を引き起こした断層帯の分布など、宝塚市の自然環境を概観します。

第3回 近世・近代前期の宝塚

近世から近代前期の宝塚の歴史について、戦国時代には豊臣秀吉も立ち寄った寺内町、江戸時代には酒造も盛んな宿場町と、都市として成立していた宝塚市小浜地区と、植木産業が発展した山本地区などの村落の様子を中心に紹介します。

第4回 近代後期における宝塚の観光地域化

近代後期における温泉開発と失敗、鉄道（現福知山線）の敷設と温泉の再興、小林一三による電鉄敷設と電鉄会社（現阪急）を中心とする観光地域化の経緯について紹介します。

第5回 現代の宝塚の構造：都市宝塚の発展

現在の宝塚市は、第二次世界大戦後に、小濱村と良元村、次いで長尾村、西谷村が合併して成立しました。高度経済成長期以降は、大阪市の衛星都市として人口が著しく増加し、深刻な都市問題に悩まされました。急激な都市化の弊害について考えます。

第6回 現代の宝塚の構造：宝塚の農業と村落地域の今後

日本の農業と同様に宝塚の農業も縮小しつつあります。山本地区の植木産業の現状を把握した後、縮小しつつ農業が継続し魅力的な取り組みも見られる北部の西谷地区における農業と今後について、小学生向け地域教材における紹介をもとに把握し、将来について考えます。

第7回 現代の宝塚の構造：宝塚の工業と商業

宝塚市の武庫川沿いには、近代における武庫川の治水工事の進展と第二次世界大戦の影響で工業が立地し、高度経済成長期には工場集中地区が形成されましたが、現代では衰退しつつあります。また、日本の小売業の変化と同様に、宝塚の小売業も大きな変化を遂げています。小

学生向け地域教材における紹介をもとに、宝塚の工業と商業の現状を把握し、将来について考えます。

第8回 北アメリカ大陸への人類の到達

約2万年前の最終氷河期に厚い大陸氷河に覆われ、人類の到達を阻んでいた北アメリカ大陸の北半部では、温暖化が進むと大陸氷河が溶け、人類が大陸中部に進出し、短期間のうちに南米大陸最南端にまで到達しました。その過程では、北アメリカで繁栄を誇っていた多様な巨大生物が絶滅に追い込まれました。その要因と北アメリカ大陸における人類のその後について解説します。

第9回 アメリカ合衆国の自然環境

西部に比較的新しい大山脈、東部に比較的古い山脈、中央部に大平原と大河川を擁する地形と、湿潤な東部、乾燥した内陸部、温暖な南半部、冷涼な北半部といった、アメリカ合衆国本土の気候は、都市や農業のあり方に大きな影響を及ぼしました。地形と気候を中心にアメリカ合衆国の自然環境を把握し、その後の理解に役立てます。

第10回 アメリカ合衆国の人口・民族

現代のアメリカ合衆国が有する人種・民族的多様性は、どのようにしてなったのかについて、移民の歴史を踏まえて説明します。その際、C. Schultzによる新聞連載マンガ『Peanuts』を紹介し資料として活用します。

第11回 アメリカ合衆国における農業の発達

巨大食料生産国として世界的に影響を持つアメリカ合衆国の農業はどのようにして成立したのか、その発達史を、自然環境と移民の歴史を踏まえて説明します。

第12回 アメリカ合衆国の農産物輸出

第二次世界大戦後の東西冷戦下で、アメリカ合衆国にとって穀物は「武器」となり、戦略的に重要性を増していきます。旧ソビエト連邦、日本の食料調達を巡る出来事から、アメリカ合衆国の食料輸出が持つ意味を、よく知られる報道番組作品を資料にして読み解きます。

第13回 アメリカ合衆国における工業の発達その1

アメリカ合衆国では、産業革命期から世界恐慌までに、工業が著しく発展しました。この時期のアメリカ合衆国における工業の発展について、鉱業、鉄道、通信との関係も踏まえて解説します。

第14回 アメリカ合衆国における工業の発達その2

世界恐慌、第二次世界大戦の時期を経て、アメリカ合衆国では第二次世界大戦後に工業が著しく発展したものの、1970年代には著しい衰退を見ました。1990年代以降は、アメリカの工業はインターネットによって大きな変貌を遂げました。世界恐慌後のアメリカ合衆国の工業について概観します。

第15回 地誌理解の意義

これまでの講義を振り返り、地誌を理解することが持つ意義について考えます。

2022年度 前期

2単位

地域社会特別講義

矢嶋 巖

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

人々はさまざまな環境の場所に暮らし、社会を形成してきました。そこで、本講義では、さまざまな研究手法に基づいて、各地のさまざまな地域環境や地域社会の仕組みや問題について明らかにした研究を紹介することにより、地域環境や地域社会の仕組みや諸問題について学ぶとともに、多様な研究手法を知り、みなさんが現代の地域社会を研究するためのツールとする力を得ることを目的とします。なお、事例として、企業による森づくり、河川氾濫と治水、播州の綿栽培と消滅、まちづくり組織の未来、山村の観光発展と環境を取り上げます。以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

< 到達目標 >

地域社会とその成り立ちを理解する。

地域環境の仕組みと諸問題のメカニズムを理解する。

各種の内容分析の手法を知る。

< 授業のキーワード >

まちづくり・都市・村落・近代化・環境

< 授業の進め方 >

講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオなどの映像資料も活用する。

< 履修するにあたって >

関係科目である地域フィールドワーク論、地誌学、人文地理学、地域形成論、自然地理学、都市・村落研究も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から意識して景観を観察したり、地域の産業について取り上げたテレビ番組や新聞記事などを見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

講義中に、講義内容に関する小レポートを時々実施します。なお、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験70%、授業ごとに実施する小レポート30%の割合で評価します。

< テキスト >

使用しない

< 参考図書 >

岩井吉彌（2021）『山村に住む、ある森林学者が考えたこと』大垣書店

大杉 覚（2021）『コミュニティ自治の未来図』ぎょうせい

関東学院大学地域創生実践研究所（2021）『地域創生入門 地域創生を実現するために押さえておくべき基本事項』第一法規

佐々木雅幸総監修・編（2019）『創造社会の都市と農村 SDGsへの文化政策』水曜社

田中治彦ほか編著（2019）『SDGsとまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』学文社

松本 茂章編著（2021）『文化で地域をデザインする 社会の課題と文化をつなぐ現場から』学芸出版社

村尾行一（2019）『森と人間と林業 生産林を再定義する』築地書館

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖（2019）『図説京阪神の地理 地図から学ぶ』ミネルヴァ書房

山崎 義人・清野 隆・柏崎 梢・野田満（2021）『はじめてのまちづくり学』学芸出版社

矢野恒太記念会編集発行（2020）『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『日本国勢図会2021/22』

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業の目的と方法、授業の進め方について説明します。

第2回 企業による森づくり(1)

企業によるCSR活動や近年対応が活発化しているSDGsへの取り組みについて考えます。

第3回 企業による森づくり(2)

日本における森林の変容について、林業と里山利用の変化から考えます。

第4回 企業による森づくり(3)

企業による森づくりの事例として、大手企業がCSR活動として取り組む森林保全活動の事例を紹介し、和歌山県の熊野古道周辺地域を取り上げる予定です。

第5回 水害への備え(1)

高度経済成長期以降の大都市域での都市化の進展と水害の発生の関係性について説明します。

第6回 水害への備え(2)

都市河川の水害対策について概観します。

第7回 水害への備え(3)

都市河川の水害と対策の歴史に関する事例を紹介し、兵庫県南部と神奈川県東部を取り上げる予定です。

第8回 但馬地方のスキー観光(1)

兵庫県北部の但馬地方におけるスキー観光の発展を取り上げます。但馬地方の自然環境と伝統的な人々の暮らしについて説明します。

第9回 但馬地方のスキー観光(2)

兵庫県北部の但馬地方におけるスキー観光の発展を取り上げます。第二次世界大戦後のスキー観光の発展とそれが及ぼした環境への影響について説明します。

第10回 播州の綿栽培と消滅(1)

近年の播州では、かつて盛んに栽培されていた綿に注目した地域振興が散見されます。綿栽培について概略的に紹介した後、兵庫県加古川市の農村を事例に、東播磨の自然環境と村落の暮らしについて説明します。

第11回 播州の綿栽培と消滅(2)

兵庫県加古川市の農村を事例に、近世における綿栽培の発展と暮らしの変化について説明します。

第12回 播州の綿栽培と消滅(3)

兵庫県加古川市の農村を事例に、近代における綿栽培の衰退と暮らしの変化について説明します。

第13回 まちづくりの未来(1)

地域の暮らしを支えてきた地方自治体の機能が低下するなかで、住民自身の「自助」を支える「共助」のための担い手として、地域運営組織「まちづくり協議会」の役割が大きくなりつつあります。まちづくりの未来について考えるため、現代のまちづくりが抱えている問題について概観します。

第14回 まちづくりの未来(2)

まちづくりの未来について考えるため、現代のまちづくりで役割が大きくなりつつある地域運営組織「まちづくり協議会」の取り組みを紹介し、課題について考えます。兵庫県明石市での取り組みを事例とする予定です。

第15回 地域社会について考える

これまでの授業を振り返り、地域社会の将来を考えるために我々が果たすべきことについて考えます。

2022年度 前期

2単位

地域社会分析

矢嶋 巖

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

人々はさまざまな環境の場所に暮らし、社会を形成してきました。そこで、本講義では、さまざまな研究手法に基づいて、各地のさまざまな地域環境や地域社会の仕組みや問題について明らかにした研究を紹介することにより、地域環境や地域社会の仕組みや諸問題について学ぶとともに、多様な研究手法を知り、みなさんが現代の地域社会を研究するためのツールとする力を得ることを目

的とします。なお、事例として、企業による森づくり、河川氾濫と治水、播州の綿栽培と消滅、まちづくり組織の未来、山村の観光発展と環境を取り上げます。以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

< 到達目標 >

地域社会とその成り立ちを理解する。

地域環境の仕組みと諸問題のメカニズムを理解する。

各種の内容分析の手法を知る。

< 授業のキーワード >

まちづくり・都市・村落・近代化・環境

< 授業の進め方 >

講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオなどの映像資料も活用する。

< 履修するにあたって >

関係科目である地域フィールドワーク論、地誌学、人文地理学、地域形成論、自然地理学、都市・村落研究も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から意識して景観を観察したり、地域の産業について取り上げたテレビ番組や新聞記事などを見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

講義中に、講義内容に関する小レポートを時々実施します。なお、受講者の理解を深めるために、いくつかを選んで、次回の授業で匿名にて論評します。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験70%、授業ごとに実施する小レポート30%の割合で評価します。

< テキスト >

使用しない

< 参考図書 >

岩井吉彌(2021)『山村に住む、ある森林学者が考えたこと』大垣書店

大杉 覚(2021)『コミュニティ自治の未来図』ぎょうせい

関東学院大学地域創生実践研究所(2021)『地域創生入門 地域創生を実現するために押さえておくべき基本事項』第一法規

佐々木雅幸総監修・編(2019)『創造社会の都市と農村 SDGsへの文化政策』水曜社

田中治彦ほか編著(2019)『SDGsとまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』学文社

松本 茂章編著 (2021) 『文化で地域をデザインする
社会の課題と文化をつなぐ現場から』学芸出版社
村尾行一 (2019) 『森と人間と林業 生産林を再定義す
る』築地書館

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・
矢嶋 巖 (2019) 『図説京阪神の地理 地図から学ぶ
』ミネルヴァ書房

山崎 義人・清野 隆・柏崎 梢・野田満 (2021) 『はじ
めてのまちづくり学』学芸出版社

矢野恒太記念会編集発行 (2020) 『数字で見る日本の百
年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行 (2021) 『日本国勢図会2021/2
2』

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

本授業の目的と方法、授業の進め方について説明します。

第2回 企業による森づくり(1)

企業によるCSR活動や近年対応が活発化しているSDGsへ
の取り組みについて考えます。

第3回 企業による森づくり(2)

日本における森林の変容について、林業と里山利用の変
化から考えます。

第4回 企業による森づくり(3)

企業による森づくりの事例として、大手企業がCSR活動
として取り組む森林保全活動の事例を紹介し、和歌
山県の熊野古道周辺地域を取り上げる予定です。

第5回 水害への備え(1)

高度経済成長期以降の大都市域での都市化の進展と水害
の発生の関係性について説明します。

第6回 水害への備え(2)

都市河川の水害対策について概観します。

第7回 水害への備え(3)

都市河川の水害と対策の歴史に関する事例を紹介し、
兵庫県南部と神奈川県東部を取り上げる予定です。

第8回 但馬地方のスキー観光(1)

兵庫県北部の但馬地方におけるスキー観光の発展を取り
上げます。但馬地方の自然環境と伝統的な人々の暮らし
について説明します。

第9回 但馬地方のスキー観光(2)

兵庫県北部の但馬地方におけるスキー観光の発展を取り
上げます。第二次世界大戦後のスキー観光の発展とそれ
が及ぼした環境への影響について説明します。

第10回 播州の綿栽培と消滅(1)

近年の播州では、かつて盛んに栽培されていた綿に注目
した地域振興が散見されます。綿栽培について概略的に
紹介した後、兵庫県加古川市の農村を事例に、東播磨の
自然環境と村落の暮らしについて説明します。

第11回 播州の綿栽培と消滅(2)

兵庫県加古川市の農村を事例に、近世における綿栽培の
発展と暮らしの変化について説明します。

第12回 播州の綿栽培と消滅(3)

兵庫県加古川市の農村を事例に、近代における綿栽培の
衰退と暮らしの変化について説明します。

第13回 まちづくりの未来(1)

地域の暮らしを支えてきた地方自治体の機能が低下する
なかで、住民自身の「自助」を支える「共助」のための
担い手として、地域運営組織「まちづくり協議会」の役
割が大きくなりつつあります。まちづくりの未来につい
て考えるため、現代のまちづくりが抱えている問題につ
いて概観します。

第14回 まちづくりの未来(2)

まちづくりの未来について考えるため、現代のまちづく
りで役割が大きくなりつつある地域運営組織「まちづく
り協議会」の取り組みを紹介し、課題について考えます。
兵庫県明石市での取り組みを事例とする予定です。

第15回 地域社会について考える

これまでの授業を振り返り、地域社会の将来を考えるた
めに我々が果たすべきことについて考えます。

2022年度 後期

2単位

地域社会分析

水田 憲志

< 授業の方法 >

授業形態 対面授業 (講義)

< 授業の目的 >

本講義は、地図、GIS (地理情報システム)、空中写真、
統計データなどを利用したさまざまな地域調査の方法を
学ぶとともに、受講生各自が調査対象地域を選定し、自
ら立てた研究テーマについての調査研究を進めることを
通して、人文学科ディプロマ・ポリシーにある「獲得し
た知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や
問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと
導くことができる」ための技能と知識を習得することを
目的とする。

< 到達目標 >

さまざまな地域調査の手法を習得し、地域の状態を把握
して問題を解決に導く能力を身につける。

< 授業の進め方 >

第1回～第10回は各自が調査対象地域を選定し、統計デ
ータやGIS (地理情報システム) を使って地域の状態や
基本的な情報を把握したうえで、各自の研究テーマにつ
いて調査研究を進める。第11回～第14回は、沖縄や台湾
などの事例研究を通して実際の地域調査の方法を学ぶ。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自が選定した調査対象地域と研究テーマについての調
査研究をすすめ、レポートを作成する。

< 提出課題など >

各回の講義内容の到達度を確認する小課題 (10回程度)

の提出を課す。学期末には各自の調査研究の成果（レポート）提出を課す。

<成績評価方法・基準>

授業時の課題や小レポート（50%）と学期末のレポート（50%）をもとに総合的に評価する。

<テキスト>

なし。講義資料はPDFで配布する。

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 地域調査の方法

テーマ設定と研究対象地域の選定方法

第2回 地図・空中写真の利用(1)

ウェブマップを利用した地域の把握

第3回 地図・空中写真の利用(2)

空中写真の利用法

第4回 統計資料の収集と分析(1)

統計データの検索・取得法

第5回 統計資料の収集と分析(2)

統計データの整理と分析

第6回 GISの基礎

GISの基礎知識と基本的な操作方法

第7回 GISを使った地図作成(1)

基図（ベースマップ）の作成

第8回 GISを使った地図作成(2)

位置情報の取得と可視化

第9回 GISを使った地図作成(3)

地形の表現（陰影図と段彩図）

第10回 GISを使った地図作成(4)

統計地図の作成

第11回 地域研究の事例(1)

ライフヒストリーの聴き取り調査（沖縄・八重山諸島）

第12回 地域研究の事例(2)

海外の「日本語」史資料（台湾での資料調査）

第13回 地域研究の事例(3)

観察と記録の方法（台湾・蘭嶼でのフィールド調査）

第14回 地域研究の事例(4)

地図と空中写真を使った景観復原（千里丘陵の変遷）

第15回 まとめ

各自の調査結果のまとめ

2022年度 前期

2単位

地球環境論

香西 克俊

<授業の方法>

原則として対面形式での講義を行う。

<授業の目的>

衛星リモートセンシングとその陸域応用について学ぶ講義である。

前半は衛星リモートセンシングの基礎となる電磁波の性質や大気、地表面とのエネルギー相互作用、センサーシステムなどを学ぶ。同時に現在運用中の衛星画像データシステムにアクセスし、土地利用や植生分布など様々な陸域分野への応用を試みることを目的とする。

（Diploma Policy 知識、技能、表現力）

後半は衛星画像の水域、土地利用、農業、林業、自然環境、災害などへの応用を学ぶ。同時に衛星画像の陸域への応用をとらして衛星画像の特徴とその限界を学ぶ。

（Diploma Policy 知識、技能、表現力）

<到達目標>

- ・衛星リモートセンシングの特徴について説明できる。
- ・様々な陸域応用分野の衛星画像について説明できる。

<授業のキーワード>

衛星リモートセンシング、陸域応用

<授業の進め方>

通常の対面授業を予定。

レポート類はdotCampusに提出。

すべての特別警報または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）も授業を実施します。ただし避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先し、自治体の指示に従って行動してください。

<履修するにあたって>

大学は「学びの場」であることを自覚した上での受講が要求される。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容についての整理

<提出課題など>

授業中の小レポート、中間と期末レポート

<成績評価方法・基準>

・授業への参加状況50%、中間レポート20%、期末レポート30%

・2/3以上の出席が必要

・冠婚葬祭、急病、部活、就活、教育実習、事故などによる欠席は出席扱い（確認書類提出必須）

<参考図書>

初回授業で紹介

<授業計画>

第1回 はじめに

自己紹介と授業の注意点、衛星画像データシステムの紹介

第2回 電磁波の性質

電磁波の原理とその性質を学ぶ。

第3回 大気と電磁波の相互作用

吸収など大気と電磁波の相互作用について学ぶ。

第4回 大気と電磁波の相互作用

散乱など大気と電磁波の相互作用について学ぶ。

第5回 地表面と電磁波の相互作用

反射、吸収、透過など地表面と電磁波の相互作用について学ぶ。

第6回 地表面と電磁波の相互作用

放射伝達と衛星画像の特徴を学ぶ。

第7回 センサーについて

衛星リモートセンシングで用いられるセンサーについて学ぶ。

第8回 中間まとめ

中間レポートの説明

第9回 水域への応用

衛星リモートセンシングの植物プランクトンへの応用について学ぶ。

第10回 陸域への応用-土地利用

衛星リモートセンシングの土地利用への応用について学ぶ。

第11回 陸域への応用-都市の熱環境

衛星リモートセンシングの都市の熱環境への応用について学ぶ。

第12回 陸域への応用-災害

衛星リモートセンシングの災害への応用について学ぶ。

第13回 陸域への応用-農業

衛星リモートセンシングの農業への応用について学ぶ。

第14回 陸域への応用-自然環境

衛星リモートセンシングの自然環境への応用について学ぶ。

第15回 まとめ

まとめと期末レポートの説明

2022年度 後期

2単位

地誌学

矢嶋 巖

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業では、現代社会を理解するための一研究手法として、地誌学を講じます。地誌学は、ある地域について、自然、人文、社会の点から総合的に説明し、その地域性について考察する分野です。地域を総合的に捉える視点を持つことは、地域を取り上げるさまざまな研究において有用ですし、実社会において地域と関わる業務に携わる際においても役立つことでしょう。世界と日本の地域性についての視野を得るために、授業の前半では、近代以降に農村から観光都市として発展し、近年ではさまざまな地域づくりの動きも見られる兵庫県宝塚市を取り上げ、自然環境、歴史、人々の暮らしの変化について取り上げます。また、後半では、多民族社会であるアメリカ

合衆国の成り立ちについて考えます。国あるいは地方というスケール（縮尺）が異なる地域を対象に、地域を特徴づけるテーマに向かいつつ地域のさまざまな要素を述べることにより、スケールが異なっても、地域を総合的に捉える視点を持つことが有する意味について理解することを狙います。なお、本授業では、受講学生自身が、地誌理解を深めるために自ら地域を研究し、各自が現地を訪れることを課題に含む地誌研究レポートを授業期間中に課します。

以上を通して、人文学部ディプロマポリシーにある、複数の分野の基礎知識を教養として身につけるとともに、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導く力を修得します。また、教職課程履修者は、地域社会の課題を理解する力を修得します。

< 到達目標 >

取り上げた地域の特徴をなす自然、人文、社会の諸要素の展開について理解するとともに、要素間の関係性について認識する。

人文分野における地域的研究の際に求められる地域理解のための基礎力を養う。

地図や統計資料を活用するための基礎力を修得する。

< 授業の進め方 >

講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオなどの映像資料も活用する。

< 履修するにあたって >

関係科目である地域フィールドワーク論、都市・村落研究、地域社会分析、人文地理学、地域形成論、自然地理学も履修することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

シラバスを参考にして、講義前に関係する事項について1時間程度の予習を、また、講義後には授業内容について1時間程度の復習をすることを心がけて下さい。また、日頃から地誌的視点でさまざまな地域の景観を観察したり、テレビ番組を見ることを心がけて下さい。

< 提出課題など >

一つの市町村区を取り上げて地誌研究を行う中間レポートを、授業期間中（11月出題、1月初旬提出期限の予定）に必修で課します。このレポートでは、各自が取り上げた地域を自らが実際に訪れて、関係する写真を撮影して掲載することを求めます。ただし、緊急事態宣言発令状況によっては、中間レポートの出題内容がインターネットを活用した題材に変更される可能性があります。また、講義中に、講義内容に関する小課題を毎回実施します。フィードバックとして、受講者の理解を深めるために、前回の小課題をいくつかを選んで、匿名にて論評することがあります。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験40%、中間（地誌研究）レポート30%、毎回の授業における小課題30%で評価します。コロナ禍で定期

試験実施が困難となった場合には、最終レポート40%、中間（地誌研究）レポート30%、毎回の授業における小課題30%、あるいは、最終レポート70%と毎回の授業における小課題30%で評価します。

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

菊地俊夫編（2011）『世界地誌シリーズ1日本』朝倉書店

定藤繁樹編著（2017）『たからづか学 まちの姿と歴史文化が語る宝塚』関西学院大学出版会

田辺真人監修、宝塚市文化財団編（2015）『宝塚まちかど学【新版】』神戸新聞総合出版センター

田中義岳（2019）『地域のガバナンスと自治 平等参加・伝統主義をめぐる宝塚市民活動の葛藤』東信堂

デイヴィッド・マイケリス著、古屋美登里訳（2019）『スヌーピーの父チャールズ・シュルツ伝』亜紀書房

和田 光弘（2014）『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房

梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著（2021）『よくわかるアメリカの歴史』ミネルヴァ書房

矢ヶ崎典隆編（2011）『世界地誌シリーズ4アメリカ』朝倉書店

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣 雄矢（2020）『地誌学概論第2版』朝倉書店

矢野恒太記念会編集発行（2020）『数字で見る日本の百年 改訂第七版』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『日本国勢図会2021/22』

矢野恒太記念会編集発行（2021）『世界国勢図会2021/22』

<授業計画>

第1回 ガイダンスと地誌学の意義、世界の地域区分

この授業の進め方について説明したのち、地誌学の目的と方法について説明します。

第2回 宝塚の自然環境

平野に都市が発達した南部と、山間で村落が位置する中部・北部といった地形、市域の大部分が流域に含まれる武庫川の特性と水害史、阪神・淡路大震災による甚大な被害を引き起こした断層帯の分布など、宝塚市の自然環境を概観します。

第3回 近世・近代前期の宝塚

近世から近代前期の宝塚の歴史について、戦国時代には豊臣秀吉も立ち寄った寺内町、江戸時代には酒造も盛んな宿場町と、都市として成立していた宝塚市小浜地区と、植木産業が発展した山本地区などの村落の様子を中心に紹介します。

第4回 近代後期における宝塚の観光地域化

近代後期における温泉開発と失敗、鉄道（現福知山線）の敷設と温泉の再興、小林一三による電鉄敷設と電鉄会

社（現阪急）を中心とする観光地域化の経緯について紹介します。

第5回 現代の宝塚の構造：都市宝塚の発展

現在の宝塚市は、第二次世界大戦後に、小濱村と良元村、次いで長尾村、西谷村が合併して成立しました。高度経済成長期以降は、大阪市の衛星都市として人口が著しく増加し、深刻な都市問題に悩まされました。急激な都市化の弊害について考えます。

第6回 現代の宝塚の構造：宝塚の農業と村落地域の今後

日本の農業と同様に宝塚の農業も縮小しつつあります。山本地区の植木産業の現状を把握した後、縮小しつつ農業が継続し魅力的な取り組みも見られる北部の西谷地区における農業と今後について、小学生向け地域教材における紹介をもとに把握し、将来について考えます。

第7回 現代の宝塚の構造：宝塚の工業と商業

宝塚市の武庫川沿いには、近代における武庫川の治水工事の進展と第二次世界大戦の影響で工業が立地し、高度経済成長期には工場集中地区が形成されましたが、現代では衰退しつつあります。また、日本の小売業の変化と同様に、宝塚の小売業も大きな変化を遂げています。小学生向け地域教材における紹介をもとに、宝塚の工業と商業の現状を把握し、将来について考えます。

第8回 北アメリカ大陸への人類の到達

約2万年前の最終氷河期に厚い大陸氷河に覆われ、人類の到達を阻んでいた北アメリカ大陸の北半部では、温暖化が進むと大陸氷河が溶け、人類が大陸中部に進出し、短期間のうちに南米大陸最南端にまで到達しました。その過程では、北アメリカで繁栄を誇っていた多様な巨大生物が絶滅に追い込まれました。その要因と北アメリカ大陸における人類のその後について解説します。

第9回 アメリカ合衆国の自然環境

西部に比較的新しい大山脈、東部に比較的古い山脈、中央部に大平原と大河川を擁する地形と、湿潤な東部、乾燥した内陸部、温暖な南半部、冷涼な北半部といった、アメリカ合衆国本土の気候は、都市や農業のあり方に大きな影響を及ぼしました。地形と気候を中心にアメリカ合衆国の自然環境を把握し、その後の理解に役立てます。

第10回 アメリカ合衆国の人口・民族

現代のアメリカ合衆国が有する人種・民族的多様性は、どのようにしてなったのかについて、移民の歴史を踏まえて説明します。その際、C. Schultzによる新聞連載マンガ『Peanuts』を紹介し資料として活用します。

第11回 アメリカ合衆国における農業の発達

巨大食料生産国として世界的に影響を持つアメリカ合衆国の農業はどのようにして成立したのか、その発達史を、自然環境と移民の歴史を踏まえて説明します。

第12回 アメリカ合衆国の農産物輸出

第二次世界大戦後の東西冷戦下で、アメリカ合衆国にとって穀物は「武器」となり、戦略的に重要性を増してい

きます。旧ソビエト連邦、日本の食料調達を巡る出来事から、アメリカ合衆国の食料輸出が持つ意味を、よく知られる報道番組作品を資料にして読み解きます。

第13回 アメリカ合衆国における工業の発達その1
アメリカ合衆国では、産業革命期から世界恐慌までに、工業が著しく発展しました。この時期のアメリカ合衆国における工業の発展について、鉱業、鉄道、通信との関係も踏まえて解説します。

第14回 アメリカ合衆国における工業の発達その2
世界恐慌、第二次世界大戦の時期を経て、アメリカ合衆国では第二次世界大戦後に工業が著しく発展したものの、1970年代には著しい衰退を見ました。1990年代以降は、アメリカの工業はインターネットによって大きな変貌を遂げました。世界恐慌後のアメリカ合衆国の工業について概観します。

第15回 地誌理解の意義

これまでの講義を振り返り、地誌を理解することが持つ意義について考えます。

2022年度 前期

2単位

哲学

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 問いからはじめる哲学

目的

本講義では、哲学的な疑問から出発して、著名な哲学者たちの考察のなかへ入っていきます。それにより受講者は考える力を養い、哲学の基礎的な考え方を獲得します。

私たちは、日常に訪れるふとした隙間のなかで、哲学的な疑問を持つことがあります。この講義では、そうした疑問のいくつかを受講者と一緒に考えます。

例えば夜寝る前、こんな風に考えたことはないでしょうか。「...このまま眠って、もし目覚めることがないなら、それが死ぬということだろうか。明かりが消えるように私の意識も消える...」。こうしたぼんやりとした疑問を、さらに著名な哲学者たちの考察のなかに置き直して考えます。

また例えば、夢と現実の区別についての疑問では、デカルトの省察を導きの糸にします。そうすることで受講者は、おそらく極端と思われるような結論に行き当たる

ことでしょう。

本講義で取り上げる哲学者たちは、それぞれに考察を極限まで推し進めたことで、私たちの足元に大きな穴がぽっかりと開いていることに、気づかせてくれます。

この講義全体を通して、小さな哲学者が受講者一人ひとりのなかに生まれることを期待しています。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

問いを持つ。

問いについての自分の考えを展開できる。

哲学者たちの議論を適切に理解できる。

哲学者たちの議論のなかに自分の問いを位置づけることができる。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介しします。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

私はいま夢を見ているのではない、と知ることはできるか

デカルトによる省察。方法的懐疑における夢の懐疑について。

第2回 私はいま夢を見ているのではない、と知ることはできるか

ベルクソンにおける現実と夢の違い。身体と夢。

第3回 私たちは自由か

決定論について。スピノザにおける必然主義。

第4回 私たちは自由か

ライプニッツにおける可能世界論。

第5回 これまでの問いのレビューと討議

受講者による第1回から第4回の問いへの考察と討論。
第6回 心と体の関係について、または魂は存在するか
デカルトにおける精神と身体の二元論、スピノザの平行説。

第7回 心と体の関係について、または魂は存在するか
現代の脳科学における諸前提について。ベルクソンの心身関係論。

第8回 死とは何か
ソクラテスと死。

第9回 死とは何か
ハイデガーによる死の考察。

第10回 これまでの問いのレビューと討議
受講者による第6回から第8回の問いへの考察と討論。

第11回 私はなんのために生きているのか
アリストテレスにおける最高善について。

第12回 私はなんのために生きているのか
ニーチェにおけるニヒリズムについて。

第13回 神は存在するか
世界を創造する神と世界に内在する神。

第14回 神は存在するか
神の死について。

第15回 これまでの問いのレビューと討議
受講者による第11回から第14回の問いへの考察と討論。

2022年度 後期
2単位
哲学
平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 西洋哲学の歴史を辿る

目的

本講義では、古代ギリシヤに端を発した西洋哲学の流れを、現代の手前まで辿ります。それにより受講者は、理性を中心においたものの考え方の始まりからひとつの終わりまでを、さまざまな哲学者たちとともに、自ら辿り直すこととなります。受講者は、哲学者たちが生み出してきた、それぞれに独創的な思考の体系のなかに身を置き、自分でも彼らと同じ問いを考え、議論の展開につき従います。そうすることで、受講者が自分で問いを立て、問題の前提を考察し、議論を展開するときに必要なものの考えかたの、最も徹底された諸形態を学びます。

講義では、各回のテーマについて、最も肝心な問いに焦点を絞って論じます。参加者が、その問いを引き継い

で思索を深め、自ら探究をはじめめることを期待します。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

哲学者たちの思考を体系的に理解し、説明できる。

西洋哲学の基礎知識を獲得する。

哲学者たちの問いと考察を受けて、自らの問いを立てることができる。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介し、それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）

< 授業計画 >

第1回 哲学とは何か

ギリシヤにおける哲学の始まり。ソクラテス以前の哲学者たちについて。

第2回 ソクラテス

無知の知、問答、ソクラテスの死。

第3回 プラトン

イデア、想起説、哲人王。

第4回 アリストテレス

形相と質料、自然学、形而上学。

第5回 中世哲学

神学、普遍論争、トマス・アクィナス。

第6回 ルネサンス期の哲学

ルネサンス、宗教改革、科学革命。

第7回 デカルト

理性、方法的懐疑、「我思う故に我在り」。

第8回 スピノザ ライブニッツ

実体、神即自然、モナド。

第9回 ロック バークリ ヒューム

ロックの認識論、バークリの観念論、ヒュームの批判。

第10回 カント

理性批判、コペルニクス的転回、二律背反。

第11回 ヘーゲル

弁証法、歴史、絶対知。

第12回 キルケゴール

実存の三段階、単独者、信仰。

第13回 マルクス

物象化、史的唯物論、革命。

第14回 ニーチェ

「神は死んだ」、力への意志、永遠回帰。

第15回 総括

講義全体のレビューと総括。

2022年度 前期

2単位

道德教育の指導法

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 「いかに生きるべきか」を問い、共に考えます。

目的

道德は、いかに生きるべきかという問いとともにあります。その道德の教育においては、まず教える側が、その問いを持っているのかが問われます。

例えばある子どもたちに、「なぜ～しちゃダメなのか」と問われたとき、その答えを子どもたちに語り、あるいは子どもたちと共に考えるためには、受講者が自分でもその問いを引き受けたことがなければなりません。学校における道德教育を教師として担うためには、受講者一人ひとりが主体的に「いかに生きるべきか」と問い、道德についての知見と理解を深めることが求められます。

本講義では、私たちはいかに生きるべきかを問い、受講者と共に考えます。その議論を通して、道德教育の指導にあたる力を養います。

本講義は、人文学部DP1、2、4、5、7、8、9に対応します。

< 到達目標 >

目標

- ・「いかに生きるべきか」を問う。
- ・道德についての知見と理解を持つ。
- ・道德について考え、議論する。
- ・道德教育の指導にあたる力を養う。

< 授業の進め方 >

これは講義である。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述する。その内容を教員が次回講

義の冒頭に紹介し、受講者全体と共有する。それにより受講者間での相互的な啓発を図る。この双方向のかつ相互的な授業過程を通して問題の理解を深め、受講者の更なる考察を促す。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深めること。(目安として1時間)

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述、「道德の内容」についての小レポート、学習指導案。

「授業の進め方」に記載した仕方でフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察(50%)、小レポート(25%)、学習指導案(25%)の割合で、総合的に評価します。

< 参考図書 >

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編(平成27年7月)

下記URLよりダウンロード可能。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm

< 授業計画 >

第1回 道德とは何か

道德とは何か。

共同体と慣習、法と道德、「内なる声」。

第2回 道德を教えることについて

教育基本法における「人格の完成」の意味。

人格とは何か。カントにおける人格の尊重。

学校における道德教育について。

第3回 「よく生きる」ことへの問い

ソクラテスの問い。

アテナイ市民との対話と問答の意義。

「徳は教えられるか」という問い。

「ただ生きる」のではなく「よく生きる」ために。

第4回 世界の道德教育

ドイツの道德教育、フランスの道德教育、アメリカの道德教育、など。

第5回 日本における道德教育

日本における道德教育の歴史。

明治期、大正期、昭和戦前～戦中期、戦後期～現代へ。

第6回 学校における道德教育

学習指導要領における道德教育の位置づけとその目標。

学校の教育活動全体を通じて行う道德教育と要としての特別の教科 道德。

学習指導要領における道德教育の目標。

第7回 「道德の内容」について(1)

学習指導要領における「道德の内容」A、Bについて論じ、考察する。

また受講生が各自で内容を解釈し、解釈した内容につい

て小レポートを作成する。

第8回 「道徳の内容」について(2)

学習指導要領における「道徳の内容」C、Dについて論じ、考察する。

また受講生が各自で内容を解釈し、解釈した内容について小レポートを作成する。

第9回 道徳授業の理論と実践(1)

道徳授業におけるさまざまな理論と実践を考察し検討する。

コールバーグとモラルジレンマ授業。

構造化方式の道徳授業。

第10回 道徳授業の理論と実践(2)

道徳授業におけるさまざまな理論と実践を考察し検討する。

プロセス主義と価値の明確化による道徳授業

エンカウンター方式による道徳授業

第11回 考える場としての「道徳」

教育の前提としての教師と生徒。

教師が探求者であることの意味。

子どもとともに考える場としての「道徳」。

第12回 道徳授業の学習指導案作成

受講生が道徳授業の学習指導案を作成するために。

第13回 道徳の模擬授業(1)

受講生が「道徳」の模擬授業を行う。「道徳の内容 A」と「道徳の内容 B」とに分類される主題を選んだ学生が教師の役割を担う。受講生は小グループに分かれ、グループごとに教師役の受講生が生徒に見立てた受講生に対して学習指導過程を実際に展開する。受講生は、模擬授業を行うことによって得られる発見や理解をもとに、自らの学習指導を振りかえる。

第14回 道徳の模擬授業(2)

受講生が「道徳」の模擬授業を行う。「道徳の内容 C」と「道徳の内容 D」とに分類される主題を選んだ学生が教師の役割を担う。受講生は小グループに分かれ、グループごとに教師役の受講生が生徒に見立てた受講生に対して学習指導過程を実際に展開する。受講生は、模擬授業を行うことによって得られる発見や理解をもとに、自らの学習指導を振りかえる。

第15回 総括

講義全体のレビューと総括。

2022年度 前期

2単位

日英対照研究

藏 蘭 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学部人文学科のDPIに示す1. 「複数の

分野の基礎知識を教養として身につけている」、5. 「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7. 「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係しています。

日本語と英語とでは、ものごとの捉え方が異なるため、単に日本語を英語に直訳するだけでは不自然な英語になってしまいます。英語を聴いたり英語の文献を読み進めていく際だけでなく、英語を書いたり話したりする際にも役に立つ、日本語にはない英語話者の感覚から生みだされる「英語らしさ」に気付くことが目的です。日本語らしさやことばの面白さを発見する機会にもなるはずで

< 到達目標 >

1. 英語と日本語の言語的な特徴を理解し、その違いを説明することができる。
2. 英語の類義語を学ぶ際の注意点を理解し、説明することができる。
3. 日本語と英語を母語とする人々の文化的な背景を理解し、説明することができる。

< 授業のキーワード >

meaning、word order、synonyms、comparative study、linguistic typology

< 授業の進め方 >

グループで比較的簡単な英語を日本語に、日本語を英語に訳してもらいながら授業を進めていきます。

< 履修するにあたって >

授業では英語の辞典を使いますので、英和辞典または英英辞典(電子辞書可)を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画を参考に、授業で学ぶ内容について概要を把握できるように調べてから授業に臨んでください(30分)。配布したプリントをみて講義で学んだ内容を復習し、分からない所は言語学、英語学、日英対照関係の書物を読んだり教員に質問して理解できるようにしてください(30分)。

< 提出課題など >

各授業の終わりに小テストを行い、授業の理解度および質問・コメントを書いてもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

各授業の課題(65%)、確認プリント(30%)、質問・コメント等による授業への積極的な参加(5%)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

池上嘉彦。(2006). 『英語の感覚・日本語の感覚』東京：日本放送出版協会。

木村哲也。(1993). 『英語らしさに迫る』東京：研究社。

友繁義典。(2016). 『英語の意味を極める II ? 動詞・

前置詞編 ?』東京：開拓社。

三原健一・高見健一。(2013).『日英対照 英語学の基礎』東京：くろしお出版。

吉川洋、友繁義典。(2008).『英語の意味とニュアンス』東京：開拓社。

< 授業計画 >

第1回 導入

第1回目は授業の進め方や成績の付け方等について説明した後、英語の語順のもつ特徴や言語類型について日本語と比較しながら考えます。

第2回 動詞の意味 1

ほぼ同じ意味とされる類義表現 (a) John showed Mary a photo. と (b) John showed a photo to Mary. や、(c) I stuck Bill on the head. と (d) I stuck Bill's head. などの日本語の意味の違いについて考えます。

第3回 動詞の意味 2

John sprayed paint on the wall. と John sprayed the wall with paint. という文はほぼ同じ意味だと言われていますが、これらの日本語の意味の違いについて考えます。

第4回 動詞の意味 3

thinkやsuppose、It seems that SVとS seems to be... の違いなど、日本語にすると意味が非常に似通っている語や表現についてみていきます。

第5回 動詞の意味 4

John is no fool.とJohn isn't a fool.のような否定構文の意味について考えてみます。

第6回 名詞的 vs. 動詞的

英語 I have a headache. を日本語にすると「頭が痛い」となります。このことからみえてくる日英語の特徴の違いについて考えます。

第7回 Have言語 vs. Be言語

英語 He has two sons. を日本語にすることで見えてくる、日英語の言語的な特徴の違いについて考えます。

第8回 する言語 vs. なる言語

「来月、転居することになりました」という日本語に対応する英語表現について考えます。

第9回 人間中心 vs. 状況中心

「営業中」を英語ではどのように表せばよいのでしょうか。日英語を比較しながら両言語観にみられる特徴の違いについて考えます。

第10回 無生物主語 vs. 副詞句

英語の What makes you think so? という特徴的な英語表現を中心に、対応する日本語と対象しながら日英語の特徴の違いについて考えます。

第11回 肯定 vs. 否定

「大阪に用があるんだけど、今日でなくても差支へない」という小説の一節をネイティブはどのように英語に翻訳したのかについて考えてみましょう。

第12回 具体動詞 vs. 様態動詞

日本語の「くすくす笑う」は英語でどのように表現するのかについて考えてみます。

第13回 視点固定 vs. 視点移動

日本語では間接話法がよく使われるが、英語では直接話法が中心だとされている理由について考えてみます。

第14回 分解的表現

「彼女は私の頬にキスをした」とような表現を英語にするのとどのように表現するのかについて考えます。

第15回 まとめ

総復習として今までの学修内容に関する確認プリントを解いてもらいます。

2022年度 後期

2単位

日英対照研究

藏園 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学部人文学科のDPに示す1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7.「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係しています。

日本語と英語とでは、ものごとの捉え方が異なるため、単に日本語を英語に直訳するだけでは不自然な英語になってしまいます。英語を聴いたり英語の文献を読み進めていく際だけでなく、英語を書いたり話したりする際にも役に立つ、日本語にはない英語話者の感覚から生みだされる「英語らしさ」に気付くことが目的です。日本語らしさやことばの面白さを発見する機会にもなるはずで

< 到達目標 >

1. 英語と日本語の違いについて理解することができる。
2. 英語らしさ、日本語らしさについて分かりやすく説明することができる。
3. 英語だけでなく、日本語をより深く理解し、周囲の仲間と知識を共有することができる。

< 授業のキーワード >

tense、aspect、translation、voice、resultative

< 授業の進め方 >

補助資料を確認しながら課題に取り組んでみてください。毎回の課題はdotCampusに提出してもらいます。

分からない単語等は調べながら、比較的簡単な英語を日本語に、日本語を英語に訳してもらいます。

< 履修するにあたって >

授業では英語の辞典を使いますので、英和辞典または英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題は締め切り日までに必ず完成させて提出し、課題提出後は復習に努める（1時間）。講義で学んだ内容に関して言語学、英語学、日英対照関係の書物を参考に積極的に学習する（1時間）。

< 提出課題など >

レポート課題を出します。

< 成績評価方法・基準 >

確認プリント50%、小テスト39%、コメント等授業への積極的な参加11%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

柏野健次. (1999). 『テンスとアスペクト』東京：開拓社.

友繁義典. (2016). 『英語の意味を極める II ? 動詞・前置詞編 ?』東京：開拓社.

中右実, 西村義樹. (1998). 『構文と事象構造』研究社.
巻下吉夫, 瀬戸賢一. (1997). 『文化と発想とレトリック』研究社.

鷲尾龍一, 三原健一. (1997). 『ヴォイスとアスペクト：日英語比較選書』研究社.

< 授業計画 >

第1回目 はじめに

まず、自己紹介し、授業をどのように進めるのか、評価をどの様に行うのか等について説明します。

第2回目 動詞の分類

英語の動詞はどのような基準で「動作動詞」と「状態動詞」に分類されるのか。動詞の分類について日英対照的にみていきます。

第3回目 完了の意味とテイル

完了相 (have + 過去分詞) が表す意味について、日本語の「テイル」と対照させながら観察します。

第4回目 進行の意味とテイル

進行相 (be + 動詞の進行形) が表す意味について、日本語の「テイル」と対照させながら観察します。

第5回目 wh-語とその訳語

小説などの翻訳の際には That's why we're here. を「そのためにここに来たのだ」と訳すように、訳語が現れないwh-語やbe動詞について考えます。

第6回目 前置詞onの多義性

小説などの翻訳の際には特別「あなた」とは訳されない総称人称のyouが使われる文章がどのように解釈されているのかについて考えます。

第7回目 総称人称のyouと不定詞

つい「あなた」と訳してしまいそうだが、特別訳されることのない総称人称のyouはどのような場合に使われるのか。また、「?するために」や「結果?する」と訳すと時々不自然に感じることのある不定詞について考えます。

第8回目 相互動詞

相互動詞は動詞の中でも受動態をとらない動詞として知られています。相互動詞の特徴や受動態の特徴について考えます。

第9回目 受動態の形

日本語で「先生が学生たちに論文を批判された」とは言うが、英語でThe teacher was criticized his article by the students. とは言わないのはなぜでしょうか。日英語の受動態のもつ性質の違いについて考えます。

第10回目 HAVE 受動文

BEを使った表現 John's front teeth were knocked out. があるにも関わらず、HAVEを使った表現 John had his front teeth knocked out. が存在する理由を考えます。

第11回目 受動と使役の間

She had a book stolen from her library. は日本語で2通りの意味を表します。このような例をみながら日英語の受動表現と使役表現を対照的に観察します。

第12回目 自動詞と他動詞

The window broke. と He broke the window. のように自動詞と他動詞の両方で言える場合と、John laughed は言えても *Mary laughed John. とは言えない場合があります。どのような場合に可能なのかについて考えます。

第13回目 他動詞への交替

「行進する」を表す自動詞 march は他動詞として使う場合 (The general marched the soldiers to the tents.)、方向句 (to the tents) が必ず必要です。このような動詞の特徴についてみていきます。

第14回目 道具使役と結果表現

道具を使った道具使役と結果表現について観察するとともに、「する」的言語 (日本語) と「なる」的言語 (英語) の特徴を表す例を使役構文を通じて観察します。

第15回目 まとめ

これまでの講義で扱った内容に関する確認プリントを解いてもらいます。

2022年度 後期

2単位

日英対照表現法

藏菌 和也

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学部人文学科のDPに示す1. 「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5. 「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7. 「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係しています。

英語を使って自分の考えを表現するためには、単語や構文、定型表現が表す意味について考え、日本語と英語との間に存在する言語感覚の異同について理解する必要があります。この授業では、意味とはどのようなものかについて考えることで、日英語を使って自分の考えを表現する際の言語能力の向上に繋げることを目的とします。さらに、英語が苦手な人にとっても婉曲や皮肉、差別などの表現はどのようなメカニズムで生み出されているのかについて考えることで、ことばの面白さに気付く機会になるのではないのでしょうか。

<到達目標>

1. 日英語の特徴を理解し、その違いを説明することができる。
2. 日英語に共通する特徴について、説明することができる。
3. ある表現が成立する背景について理解し、説明することができる。

<授業のキーワード>

semantics、cognitive linguistics、euphemism、irony、political correctness、grammaticalization、polysemy

<授業の進め方>

配布資料の内容を理解するために、日英語の単語や表現の意味について調べたり、教員が質問や問題を出しますので、それについて考えてもらいながら授業を進めていきます。

<履修するにあたって>

授業では英語の辞典を使いますので、英和辞典または英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学んだ単語や文法、表現を復習する（1時間）。また、関連する事項に関して色々な言語学の参考書を読んで知識を深める（1時間）

<提出課題など>

授業内容の理解度確認のために、毎回授業の終わりに小テストをします。

<成績評価方法・基準>

確認プリント50%、小テスト39%、コメント等授業への積極的な参加11%

<テキスト>

なし

<参考図書>

池上嘉彦 編。(1996).『英語の意味』東京：大修館。
池上嘉彦 編。(2006).『英語の感覚・日本語の感覚』東京：日本放送出版協会。
友繁義典。(2016)『英語の意味を極める I? 名詞・形容詞・副詞編?』東京：開拓社。
友繁義典。(2016)『英語の意味を極める II? 動詞・前置詞編?』東京：開拓社。

<授業計画>

第1回目 導入

授業をどのように進めていくのか、どのように成績を付けるかについて説明します。

第2回目 意味とは

意味とはどのようなものかについて、さらに、例えば「死ぬ(die)」を遠回しに示す婉曲表現「去る(pass awayなど)」や皮肉表現、差別表現が生まれるメカニズムについて考えてみます。

第3回目 ことばの意味と辞書

辞書の記述などを観察しながら、同義語、類義語とはどのようなものかについて考えます。

第4回目 同義語とは

語と語の関係性にはどのようなものがあるかについて考えます。

第5回目 多義語とは

多義語とはなにか、さらにメタファーとはどのようなものかについて考えます。

第6回目 メトニミー

メトニミーとはどのようなものかについて考えます。

第7回目 語の意味変化

語の意味は時代と共に変化していきます。言葉の意味が変化するその経緯についてみていきます。

第8回目 文法化

メタファーとメトニミーが関係して起きるとされる文法化とはどのようなものかについて考えます。

第9回目 シネクドキ

シネクドキとはどのようなものかについて考えます。

第10回目 意味の違い1

John struck Bill.とBill was struck by John.のような能動態と受動態という表現の違いはただの機械的な書き換えではなく、意味の違いを反映していることをみていきます。

第11回目 意味の違い2

前置詞の意味に着目しながら、Meg arrived at/in New York on February 10th. のような選択の違いにも意味の違いが反映されていることについてみていきます。

第12回目 意味の違い3

前置詞の意味に着目しながら、Marsha was surprised with/by what he said. のような違いにも意味の違いが反映されていることについてみていきます。

第13回目 言語によって好まれる表現

イディオム、コロケーションとはどのようなものかについて考えます。

第14回目 言語の違いと発想の違い

自然な英語とは、自然な日本語とはどのようなものかについて考えます。

第15回目 まとめ

これまでの講義で扱った内容に関する確認プリントを解いてもらいます。

2022年度 後期

2単位

日本語と文化

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目は人文学科専門教育科目の言語・文学科目群に属し、「日本語学」「日本語学」といった科目の基礎となる科目として位置づけられます。学科のDPに示されている、「人間の行動や文化に関する専門知識」を身につけること、獲得した知識を活用して「論理的な分析と考察」ができるようになること、「知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ようになるための基盤を作ることを目指します。具体的には、現代日本語のバラエティ（地域差，世代差，男女差，個人差など），言語行動，言語変化，言語使用意識といった身近な問題についての知識を修得するとともに，多様な観点を知り，文化や社会の中での日本語について考える力をつけます。

< 到達目標 >

- ・現代日本語のバラエティについて基本的なことが説明できる。（知識）
- ・現代日本語の言語行動，変化，使用意識について基本的なことが説明できる。（知識）
- ・言葉に関心をもつ。（態度・習慣）
- ・言葉に関する現象について，すぐに「正しいか間違っているか」を判断したり感情的になったりするのではなく，多角的・客観的に観察できる。（態度・習慣）
- ・日本語について文化や社会と関連づけて考え，考えたことを表現できる。（技能）

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが，講義中，受講者に?発的な発?を求め，双方向性の授業を重視します。

< 履修するにあたって >

- 1.卒業研究で日本語をテーマにしたい人，3年次以降に「日本語学」を受講する予定の人には，ぜひ受講してほしい科目です。
- 2.出席カードは内容に応じて点数をつけます。筆跡が明らかに本人と異なる場合や課題に答える内容が書かれていない場合は，採点の対象としません。
- 3.優秀なレポートについては，授業で内容を発表してもらいます。
- 4.レポートに，インターネット上のサイトや本などからの不正な引用があった場合は，評価の対象としません。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・事前に，「授業計画」を参考に，どのようなことが問題になるのかを考え，必要に応じて調べてから授業に臨んでください。（30分程度）

・授業終了後に，内容が理解できているかどうかを確認し，必要に応じて?語や現象について調べ直してください。（30分程度）

< 提出課題など >

- 1.毎回，授業の最後に，その回か次回の授業内容に関する課題を出し，出席カードに書いてもらいます。その内容の?部は，次の授業のはじめに共有します。
- 2.レポートを課します。?本語のバラエティに関するテーマを?分で設定し，?語データを集めて考察してもらいます。優秀なレポートについては，授業内で発表してもらいます。
- 3.授業内のテストについては，テスト後に正答を示し解説します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の出席カードの記入内容35%，レポート35%，テスト（2回）30%で評価します。

< テキスト >

テキストは使用しません。プリントを配布します。

< 参考図書 >

上野智子・定延利之・佐藤和之・野田春美(編)(2005)『日本語のバラエティ』おうふう

< 授業計画 >

第1回 言葉のバラエティとは

敬語1：入門編

「正しい日本語」などとは，簡単に言えることではありません。日本語にどのようなバラエティがあるかを概観します。敬語の基礎知識も確認します。

第2回 敬語2：基本編

尊敬語や謙譲語をめぐる問題を考えます。

第3回 敬語3：応用編

接客敬語、敬語の誤用などについて、原因と実態を学びます。

第4回 活用のゆれ

「ら抜き言葉」や「さつき言葉」、動詞の活用のゆれについて、原因と実態を学びます。

第5回 方言1：基本編

方言の歴史、分布の種類などを学びます。

第6回 方言2：気づかれにくい方言など・前半のテスト

気づかれにくい方言、標準語よりも規則的な場合などについて学びます。

第6回までの授業内容についてのテストを行います。

第7回 文字・表記のゆれ1

漢字を中心に、表記のゆれについて学びます。

第8回 文字・表記のゆれ2

仮名を中心に、表記のゆれについて学びます。

第9回 外来語

外来語と和語・漢語の共存に関する問題を考えます。

第10回 言葉の男女差

言葉の男女差の歴史と現状について学びます。

第11回 役割語

「わしじゃ（博士）」「よろしくってよ（お嬢様）」のような役割語について学びます。

第12回 若者言葉

曖昧などと言われる若者言葉について考えます。

第13回 アクセント1

アクセントの基礎を知り、地域差、世代差についても学びます。

第14回 アクセント2

後半のテスト

アクセントの地域差などについて理解を深めます。

後半の授業内容についてのテストを行います。

第15回 優秀レポートの発表

優秀レポート（数本）の内容を発表してもらいます。

2022年度 前期

2単位

日本語学

野田 春美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目は人文学科専門教育科目の言語・文学科目群に属し、「基礎日本語学」「日本語と文化」といった科目の上級科目として位置づけられます。学科のDPに示されている、「人間の行動や文化に関する専門知識を総合的、体系的に身につけること、獲得した知識を活用して「論理的な分析と考察」ができること、「知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことを目指します。

「文法」と言うと固く決められたルールだと思われがちですが、実は曖昧なところや微妙なところがたくさんあります。人や場面による違いもあります。そこで、この授業では、文法形式の微妙な使い分け、話し手や場面による違いなどを取り上げます。

< 到達目標 >

1. 現代日本語の文法の基礎と、表現や用法の広がりの説明できる。（知識）
2. 言葉に敏感になる（態度）
3. 自分の言葉や回りの言葉を多角的な視点から柔軟に考察できるようになる。（態度・技術）
4. 人間の感じ方・考え方がどのように言語に反映されているのかを説明できる。（知識）
5. 自分の考えを口頭で的確に表現できる。（技能）
6. 言葉の分析について、文章で的確に表現できる。（技能）

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、講義中、受講者に自発的な発言を求め、双方向性の授業を重視します。

第2回以降、各自、本や雑誌を持参してもらい、毎回の授業の最後には、それをういて課題に取り組んでもらう予定です。

< 履修するにあたって >

卒業研究で日本語を研究対象とする人は、受講が望ましい科目です。

新型コロナウイルス感染症の感染がおさまった場合には、グループワークを取り入れる可能性があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

・授業終了後に、内容が理解できているかどうかを確認し、必要に応じて?語や現象について調べ直してください。（30分程度）

・用例収集の宿題、レポートのための資料探しも必要です。（30分程度）

< 提出課題など >

1. 毎回、授業内容に関する課題を出し、出席カードに書いてもらいます。各自が持参した本等から例を探して考察する形を基本とします。記?された内容の?部は、次の授業のはじめに共有します。カードは授業開始時に配布します。遅刻者には授業開始後30分ごろに別カードを配布し、配点は通常カードの1/2とします。

2. レポートを課します。優秀なレポートについては、授業で内容を発表してもらいます。

3. 用例収集の宿題を3回出します。?部を、提出の次の授業の資料として共有します。

4. 授業内のテストについては、テスト後に解説します。

< 成績評価方法・基準 >

出席カードの記入内容35%、宿題15%、レポート30%、テスト20%で評価します。

出席回数が全授業数の2/3に満たない場合は、評価の対象としません。遅刻の場合は、出席回数もカードの記入内容の得点も1/2で計算する予定です。

< テキスト >

テキストは使用しません。プリントを配布します。

< 参考図書 >

日本語記述文法研究会(編)『現代日本語文法1~7』くろしお出版 2003~2010年

< 授業計画 >

第1回 現代日本語における文法的バラエティの概観

第1回は、授業の説明の後、現代日本語において、品詞、助詞、否定、モダリティ、複文、配慮表現にどのようなバラエティが見られるのかを概観します。

第2回 品詞をめぐるバラエティ

「特別な日」と「特別の日」のような、品詞と品詞の境界線の曖昧さなどについて考えます。

第3回 助詞をめぐるバラエティ

「果物だけ食べる」と「果物しか食べない」のような、助詞の使い分けなどについて考えます。

第4回 否定をめぐるバラエティ

「会わなかった」と「会いしなかった」のような、否

定の使い分けなどについて考えます。

第5回 否定をめぐるバラエティ

「行かないです」と「行きません」の使われ方や、「疲れてない？」のような否定疑問文について考えます。

第6回 モダリティをめぐるバラエティ

「行かなくゃいけない」と「行ったほうがいい」のような、評価のモダリティ形式の使い分けなどについて考えます。

第7回 モダリティをめぐるバラエティ

「だろう」「かもしれない」「みたいだ」など、認識のモダリティについて考えます。

第8回 モダリティをめぐるバラエティ

説明を表す「のだ」「わけだ」や、終助詞のバラエティについて考えます。

第9回 複文をめぐるバラエティ

「～から」「～ので」などの原因・理由節や、「～けれど」「～が」のバラエティについて考えます。

第10回 複文をめぐるバラエティ

条件節，連体修飾節などについて考えます。

第11回 配慮表現をめぐるバラエティ

「～してもらっていいですか？」のような、配慮表現のバラエティなどについて考えます。

第12回 配慮表現をめぐるバラエティ

談話における配慮表現のバラエティについて考えます。

第13回 テストとその解説

学んできたことを確認するテストと、その解説を行います。

第14回 優秀レポートの発表と補足説明

優秀レポートを発表してもらい、必要に応じて補足説明をします。

第15回 優秀レポートの発表と補足説明

優秀レポートを発表してもらい、必要に応じて補足説明をします。

2022年度 後期

2単位

日本語学

建石 始

< 授業の方法 >

講義形式

毎回、身近で具体的な例を取り上げ、それについて考えることによって授業を進めていきます。普段何気なく使っている日本語の中にも、さまざまな規則があり、それを発見することで日本語について考えます。

< 授業の目的 >

本科目は、人文学科専門教育科目の言語・文化科目群に属し、「基礎日本語学」「日本語と文化」といった科目の上級科目として位置づけられます。人文学部のDPに示されている「人間の行動や文化に関する専門知識と技

能を総合的、体系的に身につける」こと、および「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くこと」を目指します。

< 到達目標 >

1. 日本語に関するさまざまな問題について客観的に説明することができる。(知識)

2. 普段使っている日本語や日本語学に興味を持つことができる。(態度)

3. 日本語と外国語を対照することができる。(技術)

< 授業の進め方 >

授業中に配布するプリントなどをもとに、身近で具体的な例を取り上げながら、それについて考えることで授業を進めていきます。また、授業時にグループワークやディスカッションを行うこともあるので、他の学生と協調して学習することが求められます。板書も多い授業なので、受講する学生は覚悟をもって受講してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に主題と内容をよく読んで、そのテーマについて理解を深めるようにしてください。(30分程度) 授業後は、授業の内容を復習して、他の科目との関連も含めて整理しておくようにしてください。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業時に出席カードを提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の質疑・発表30%，小テスト50%，レポート20% ただし、欠席が5回以上の場合、評価の対象とはしません。また、授業中に私語をした場合や携帯電話・スマートフォンを使った場合はその後の受講を認めません。

< テキスト >

テキストは使用せず、授業中にプリントを配布します。

< 参考図書 >

講義の時に、適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 母語と外国語の違い

(授業の概要説明)

母語と外国語の違いを考えながら、授業の概要を説明します。

第2回 コーパスとは

近年、日本語を分析する際に、コーパスが使用されることが増えつつあります。そこで、コーパスとはどのようなものかを解説します。

第3回 コーパスを使った日本語研究(その1)

コーパスを使った日本語研究にはどのようなものがあるのかについて解説します。具体的には、コーパスを使った日本語研究のメリットについて解説します。

第4回 コーパスを使った日本語研究(その2)

コーパスを使った日本語研究にはどのようなものがあるのかについて解説します。具体的には、コロケーションに注目する意義について解説します。

第5回 コーパスを使った日本語研究(その3)

コーパスを使った日本語研究にはどのようなものがあるのかについて解説します。具体的には、日本語でよく使われる単語について解説します。

第6回 これまでのまとめと小テスト(その1)

これまでのまとめを行い、確認テストを実施します。

第7回 対照言語学とは

対照言語学とはどのような学問なのかを解説します。その際、比較言語学と対照言語学の違いについても解説します。

第8回 日本語と中国語の対照研究(その1)

日本語と中国語の対照研究について解説します。具体的には、日本語と中国語の音声について扱います。

第9回 日本語と中国語の対照研究(その2)

日本語と中国語の対照研究について解説します。具体的には、日本語と中国語の語彙について扱います。

第10回 日本語と中国語の対照研究(その3)

日本語と中国語の対照研究について解説します。具体的には、日本語と中国語の文法について扱います。

第11回 これまでのまとめと小テスト(その2)

これまでのまとめを行い、確認テストを実施します。

第12回 類義語分析の方法

類義語分析の方法について解説します。具体的には、類義語分析を行う際に注目すべき観点について解説します。

第13回 類義語分析の実践(その1)

第12回で解説した観点をもとに、実際に類義語分析を行ってもらいます。

第14回 類義語分析の実践(その2)

第12回で解説した観点をもとに、実際に類義語分析を行ってもらいます。

第15回 これまでのまとめ

これまでのまとめとしてレポートを作成してもらいます。

2022年度 後期

2単位

日本文学概説

中村 健史

<授業の方法>

講義。対面。

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であ

り、同時に教職科目(国語)に属する。

この科目ではもっぱら国文学の成立と展開をたどりながら、形態、理念、文学史の流れ、構想と表現、文学研究および教材研究の方法論・視点・知識などを講義する。授業の目的は以下の通りである。

(1) 国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などを理解する。

(2) 文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得する。

この科目は、実務経験(高等学校を中心とする国語科教員)のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

<到達目標>

(1) 国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などが理解できている。

(2) 文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得している。

<授業のキーワード>

国文学、形態、理念、構想、表現

<授業の進め方>

講義形式で行うが、受講生には積極的な発言・討議を求める。

<履修するにあたって>

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目(国語)を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

予習なしに出席することは認めない。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

受講生は積極的な発言・討議が求められる。

提出物はフィードバックに利用する場合がある(全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する)。

<授業時間外に必要な学修>

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。あらかじめ指定されたテキストを読み、その作品の文学史的知識を調査しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

<提出課題など>

学期末に期末レポートを課す。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

<成績評価方法・基準>

期末レポートによって評価する。平常点は加味しない。

評価の基準は、「到達目標」(1)~(2)が達成できているかどうかである。

<テキスト>

プリントを使用する。

<参考図書>

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

購入を強く推奨する。

<授業計画>

第1回 序説

授業の内容を案内し、あわせて国文学における文学形式（ジャンル）、時代区分、研究方法および研究史について概説する。「授業の目的」（１）（２）に対応（以下すべて同じ）。なお、以下の授業内容については講義の都合上、順序が前後する場合がある。

第2回 神話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第3回 和歌

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第4回 物語

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第5回 日記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第6回 説話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第7回 歌論

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第8回 軍記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第9回 能

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第10回 俳諧

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第11回 戯作

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第12回 浄瑠璃

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第13回 小説（19世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第14回 小説（20世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第15回 原論

文学の本質について講義する。

2022年度 前期

2単位

日本文学史

中村 健史

<授業の方法>

講義。対面。

<授業の目的>

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「日本文学史2」への導入科目として位置づけられる。この科目は教職科目（国語）に属する。

この科目では国文学史を通史的に学ぶ。授業で取り扱う範囲は、奈良時代にはじまりおおむね江戸時代を下限とする。文学史的見地から個々の作品の特色を知り、主に日本語による文学表現の生成・発展を探求する。

授業の目的は以下の通りである。

（１）各時代・各分野の代表的な作品について、作者・成立・概要を知る。

（２）文学史全体の流れのなかで作品が占める位置や影響関係を知る。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

<到達目標>

（１）「授業の目的」（１）について、授業1回あたり20項目程度列挙できる。

（２）「授業の目的」（２）について、特に代表的な作品であれば、参考書等を利用することなく、暗記した知識を基に短い文章で説明できる。

<授業のキーワード>

国文学、文学史、文学

<授業の進め方>

講義

<履修するにあたって>

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職

履修者に照準を据えた進捗・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進捗に応じて順序を変更する場合がある。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。第7回に中間試験を予定しており、また期末にも試験があるので、それに向けて、授業の内容を整理し、よく理解した上で、主要な情報については暗記しておいてほしい。また、授業内で紹介した作品・参考書を読むことが不可欠である。予習は必要ない。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

中間試験（40%）と期末試験（60%）で評価する。平常点は加味しない。

評価の基準は、「到達目標」（1）（2）が達成できているかどうかである。

中間試験・期末試験については、原則として教育実習、介護等体験（以上の理由による欠席は事前の申し出を必須とする）、指定感染症（含新型コロナウイルス感染症疑い）による欠席（公認欠席の証明もしくは診断書必須）、忌引き、災害等によってやむを得ず出席できなかった場合にかぎり、代替試験の受験を認める。

授業欠席回数が3分の1を超過する受講生は単位取得の資格を失うものとする。その際、公欠およびやむをえない欠席の取り扱いは大学の規定に拠る。受講生は欠席の事由が消滅し次第、速やかに手続きを行うこと。手続きが遅れた場合、取り扱いに不利が生ずることがある。なお、課外活動を理由とする欠席については一切配慮しない。

< テキスト >

資料配付

< 参考図書 >

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

乾安代他『日本古典文学史』暁印書館 2016年 1870円 ISBN:9784870155152

いずれかを購入することが望ましい。

< 授業計画 >

第1回 序説

「日本」文学史の範囲・定義について講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第2回 奈良時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響

関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第3回 平安時代（1）

詩歌に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第4回 平安時代（2）

物語に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第5回 平安時代（3）

日記等に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第6回 和歌知識

和歌に関する技巧、知識、概要、文学史上の位置、影響関係について講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第7回 まとめ

奈良・平安時代文学の主題・特色を考察し、全体をまとめた上で、中間試験を行う。

第8回 鎌倉時代（1）

和歌・物語等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第9回 鎌倉時代（2）

軍記等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第10回 室町時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第11回 江戸時代（1）

俳諧に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第12回 江戸時代（2）

浮世草子等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第13回 江戸時代（3）

洒落本等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第14回 江戸時代（4）

浄瑠璃等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」（1）（2）に対応。

第15回 江戸時代（5）

和歌・漢詩等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」

(1)(2)に対応。

2022年度 後期

2単位

日本文学史

白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」ことを目指して実施します。言語・文学科目群の科目に属する専門教育科目であり、教職課程の教科(国語)に関する科目を兼ねます。

本科目は、「日本文学史1」の延長上に位置づけられます。

本科目では、近代以降の日本文学史を通史的に学びます。対象とする範囲は、明治初期から戦後までです。文学史的な見地から、各時期を代表する作品の特色を知り、日本の近現代文学史についての知識・理解を深め、関心を高めることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 日本文学に対する知識や理解、関心を高める。
2. 各時代の代表的な作者・作品について知る。
3. 日本近現代文学の主要な作者・作品・文学思潮等について知識を獲得する。
4. 授業で得た知識や自らの理解・感想を適切な形で他者に伝えることができる。

< 授業のキーワード >

文学史 近代文学 日本文学

< 授業の進め方 >

講義を中心とする。

< 履修するにあたって >

・講義形式で授業を進めますが、受講者の授業参加・発言を求める場合があります。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画(進度、内容等)は予定から変更される場合があります。

・私語などで他の受講生に迷惑がかかる場合は、退室を指示することがあります。

・不在時間が長い場合などは、欠席とする場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回120分程度の事前・事後学習が必要となります。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。また事後学習として、授業内容を再

確認すること。

< 提出課題など >

テスト、期末レポートを課します。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート30%、テスト70%として、総合的に評価します。

(1) 期末レポート。評価基準は「到達目標」の1~4。

(2) テスト。一部の問題については解答例を提示しません。評価基準は「到達目標」の2~4。

< テキスト >

授業中にプリントを配布します。

< 参考図書 >

『日本文学史』(久保田淳ほか編、おうふう、1997年、1900円〔税抜〕) 購入することを推奨する。また高校生向けの国語便覧や日本文学史の参考書を用意しておくことが望ましい。ほか、授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、受講上の注意点などについて解説する。

第2回 移行期の文学 1

明治初期の文学をめぐる状況

第3回 移行期の文学 2

言文一致運動と近代文学

第4回 明治20年代の文学 1

森?外の文学、日本の文学における「浪漫主義」の展開

第5回 明治20年代の文学 2

硯友社と「紅露の時代」・樋口一葉の文学

第6回 明治30年代の文学

日清戦争前後の文学とルポルタージュ

第7回 明治末期の文学 1

自然主義の文学

第8回 明治末期の文学 2

夏目漱石の文明論と文学

第9回 近代以降の韻文 1

俳句・短歌・近代詩の発展

第10回 近代以降の韻文 2

俳句・短歌・近代詩の発展 2

第11回 大正期の文学 1

大正期の文学の展開 1

第12回 大正期の文学 1

大正期の文学の展開 2

第13回 昭和期の文学 1

昭和初期の文学

第14回 昭和期の文学 2

戦時下の文学・戦後文学の展開 1

第15回 昭和期の文学 3

戦後文学の展開 2

2022年度 前期

2単位

日本文学読解

白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は人文学部専門教育科目と、教職課程の「教科に関する科目」（国語）を兼ねます。人文学部のディプロマ・ポリシーに掲げられた「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」ことを目指しています。

本授業では、「日本文学」を的確に読み解き、自らの理解・解釈を適切に表現する能力を向上させることを目標とします。おもに日本近現代の短編・中編小説を扱い、小説を精読する方法や、「語り」「作者」「典拠・翻案」という視点をふまえて作品を読むことができるようになることを目標とします。

< 到達目標 >

(1) 文学に対する関心を高める。

(2) 文学に関する基礎的な知識を身に付け、それを説明できる。

(3) 文学研究・鑑賞の一般的な手法を理解し、応用できる。

(4) 文学作品を的確に理解し、そこから得た自分なりの問題意識や考え、感想などを適切に表現することができる。

< 授業のキーワード >

文学 読解 日本文学

< 授業の進め方 >

講義を基本としますが、参加者に発言を求める場合があります。積極的な授業参加を期待します。

< 履修するにあたって >

・講義形式で授業を進めますが、受講者の授業参加・発言を求める場合があります。

・文学作品を中心に扱います。文学作品を読むことや感想を述べること、グループワークに抵抗がある人の受講はおすすめしません。

・予習状況・理解度などを確認するミニッツペーパー・ワークシートの提出を求める場合があります。きちんと予習したうえで授業に参加して下さい。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回120分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

< 提出課題など >

毎回ミニッツペーパーを提出してもらいます。また授業の予習状況や理解度を問うワークシートを数回課します。レポートと、それに基づいたグループワークを課します。

< 成績評価方法・基準 >

ミニッツペーパー / 授業についてのコメント・ワークシート・小テスト等70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

1) ミニッツペーパー / 授業についてのコメント、ワークシート・小テスト等の評価基準は「到達目標」を達成できているか、適切に予習を行うなど、授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、の2点です。

2) レポートの評価基準は授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、「到達目標」です。

< テキスト >

プリントを配布、もしくはファイルをweb上に掲示します。図書館での閲覧、またはインターネット上のテキストの閲覧を指示する場合があります。

< 参考図書 >

授業中に指示します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業のねらいや、受講上の注意について説明します。

第2回 『坊っちゃん』

夏目漱石『坊っちゃん』を例に、「語り」について考えます。

第3回 『地獄変』1

芥川龍之介『地獄変』について概説します。また本作を例に、「語り」について考えます。

第4回 『地獄変』2

引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第5回 『地獄変』3

引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第6回 『地獄変』4

『地獄変』の「語り」についてまとめます。また、谷崎潤一郎について概説を行います。

第7回 『春琴抄』1

谷崎潤一郎『春琴抄』の映像を鑑賞します。

第8回 『春琴抄』2

谷崎潤一郎『春琴抄』を、「語り」に注目して読み解き

ます。

第9回 『春琴抄』3

前回に引き続き、『春琴抄』を「語り」に注目して読み解きます。

第10回 『お伽草紙』1

太宰治『お伽草紙』を精読します。

第11回 『お伽草紙』2

前回に引き続き、太宰治『お伽草紙』を精読します。

第12回 『お伽草紙』3

太宰治『お伽草紙』などを例に、文学作品の典拠や翻案について学びます。

第13回 『新釈 走れメロス』1

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第14回 『新釈 走れメロス』2

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第15回 グループワーク

レポートの内容に基づき、グループワークを実施します。

2022年度 後期

2単位

日本文学読解

中村 健史

< 授業の方法 >

演習。対面。

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「国語講読2」の発展科目として位置づけられる。

この科目は古文の講読を行う。今期取りあげるのは石川雅望『しみのすみか物語』である。

授業の目的は以下の通りである。

(1) まとまった分量の古文を正しく現代語訳し、解釈することができる。

(2) まとまった分量の古文を読み、話の展開や因果関係、行動の動機、全体の主題・結構・論理構成・表現技巧、作者の意図等を正しく把握できる。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での事例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

(1) まとまった分量の古文を正しく現代語訳し、解釈することができる。

(2) まとまった分量の古文を読み、話の展開や因果関係、行動の動機、全体の主題・結構・論理構成・表現技巧、作者の意図等を正しく把握できる。

ここでいう「古文」とは中古文法に則ってしるされ、おおむね平安時代～鎌倉時代の一般的語彙を踏襲した文章を指す。

< 授業のキーワード >

古文講読、石川雅望、しみのすみか物語

< 授業の進め方 >

演習形式で行うが、担当者をあらかじめ決めることはしないので、全員が毎回予習してくる必要がある。その場で指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

なお、授業の性質上、授業計画（進度、内容）に変更を加える場合がある。

< 履修するにあたって >

履修要件は以下の通りである。特に(1)の要件を満たしていない受講生に対しては、この授業の履修を見直すを強く勧めることがある。

(1) 古語辞典を引く、文法用語を正しく使用できる、品詞の判別がつく、自立語と助動詞の文法について理解している、文法事項に関し不明な点は適切な工具書を用いて正しい結論に至ることができる等、古典国文法に関する基礎的知識・技能が身につけている。

(2) 古文における敬語法を習得している。

(3) まとまった分量の古文を正しく品詞分解し、それに則った現代語訳を作ることができる。

(4) 正しい解釈に基づき、まとまった分量の古文を適切な音量・速度で音読することができる。

(5) 解釈の上で必要となる文法事項について、高校生もしくは中学生を対象とする授業を想定し、適切な説明や解説を行うことができる。

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

予習をせずに出席することは認めない。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。次の授業に向けて講読箇所を現代語訳し、必要に応じて文法的な分析を加えて予習しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

< 提出課題など >

学期末に期末レポートを課す。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

<成績評価方法・基準>

授業内で指名されて講読・解釈したときの回答内容を80%として評価する。評価基準は、「到達目標」(1)(2)及び「積極的に授業に参加する意欲」である。

期末レポートを20%として評価する。評価基準は、「到達目標」(1)(2)である。

<テキスト>

古語辞典(電子辞書不可)

新たに購入する場合は下記を推奨するが、手もとにすでに古語辞典があるのであればそれを授業時に持参すること。

松村明ほか『旺文社古語辞典 第10版 増補版』(旺文社、2015年)

ISBN: 978-4010721209 2780円

<授業計画>

第1回 はじめに

古文の基本的な読解・現代語訳の方法について説明する。この回は予習不要。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第2回 『しみのすみか物語』319-320頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。「授業の目的」(1)~(3)に対応(以下すべて同じ)。

第3回 『しみのすみか物語』321-322頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第4回 『しみのすみか物語』323-324頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第5回 『しみのすみか物語』325-326頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第6回 『しみのすみか物語』327-328頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第7回 『しみのすみか物語』329-330頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第8回 『しみのすみか物語』331-332頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第9回 『しみのすみか物語』333-334頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第10回 『しみのすみか物語』335-336頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第11回 『しみのすみか物語』337-338頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第12回 『しみのすみか物語』339-340頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第13回 『しみのすみか物語』341-342頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第14回 『しみのすみか物語』343-345頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

第15回 『しみのすみか物語』346-347頁講読

指名された担当者が本文を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては古典知識や文法に関する説明を追加で求めることもある。

2022年度 前期

2単位

人間環境概論

堀江 好文

<授業の方法>

大学の基本方針どおり、原則として対面形式での講義を行う。

<授業の目的>

現代社会で起こっている様々な環境問題について学ぶ講義である。

科学技術の発展は人類に物質的に豊かで便利な生活をもたらしてきた。しかし、その反面で化学物質の流出汚染やプラスチックゴミ問題、富栄養化など、自然環境や生態系の破壊をもたらしてきたのも事実である。本授業では、多様な人間活動によって問題となってきた様々な環境問題について学ぶ。現代社会では、SDGsが採択されたことにより、「持続可能な社会(開発)」と言われるような豊かな人間活動の発展(開発)と自然環境保全(保全)を両立させる必要があるという矛盾を我々は抱えている。持続可能な社会(開発)とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開

発（が行われた社会）」を指している。そこで、持続可能な社会を実現するには、地球が抱えるさまざまな問題を理解し、改善に向けた方法を考えていく。

<到達目標>

- ・現代社会の環境問題について説明できる
- ・プラスチックゴミ問題について説明できる
- ・バイオアッセイについて説明できる

<授業のキーワード>

環境問題、生物影響

<授業の進め方>

通常の対面講義形式。特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<履修するにあたって>

受講姿勢・クラスの雰囲気と全体の成績は比例する。当然ながら、大学は「学びの場」であることを自覚した上での受講が要求される。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容についての整理(目安1時間程度)

<提出課題など>

ときおり行う授業中の小課題と期末レポート

<成績評価方法・基準>

- ・授業への参加状況40%、小テスト30%、期末レポート30%
- ・2/3以上の出席が必要
- ・冠婚葬祭、急病、部活、就活、教育実習、事故などによる欠席は出席扱い(確認書類提出必須)

<参考図書>

初回授業で紹介

<授業計画>

第1回 はじめに

自己紹介と授業の注意点、また、環境問題とは何かを学ぶ。

第2回 現代社会の環境問題

現代社会の環境問題について学ぶ。

第3回 プラスチックゴミ・

マイクロプラスチック問題

プラスチックゴミ・マイクロプラスチック問題の現状を知る。

第4回 環境ホルモン問題

環境ホルモン問題の原因について学ぶ。

第5回 化学物質汚染問題

世界中で起こった化学物質汚染の現状を知る。

第6回 まとめと小テスト

これまでの授業のまとめと小テスト。

第7回 生態系保全

生態系保全について学ぶ。

第8回 海と環境

海と環境について学ぶ。

第9回 河川・湖沼と環境

河川・湖沼と環境について学ぶ。

第10回 まとめと小テスト

これまでの授業のまとめと小テスト。

第11回 生物の不思議

生物の基本構造について学ぶ。

第12回 バイオアッセイ

バイオアッセイとは何かについて学ぶ。

第13回 バイオアッセイ

バイオアッセイの活用方法について学ぶ。

第14回 まとめと小テスト

これまでの授業のまとめと小テスト。

第15回 期末レポート

期末レポートの実施。

2022年度 前期

2単位

人間形成実践

水谷 勇

<授業の方法>

講義と実践的演習

<授業の目的>

子どもにとっての学校教育(特に小学校)の意義を理解し、実際の学校現場に補助員として入ることをとおして、学校教育の現実(教師の有り様、子どもの有り様、子ども集団の実態など)の一端を知り、子どもへの支援的関わりをとおして、子ども理解や子どもへの支援の在り方について実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、近隣の小学校である有瀬小学校に参画し、特定の学年・学級に支援員として配置されて12回ほど参加体験し、その体験を反省的に文章化することで深めることを目的とする。こうして学部DP、全学DP達成の一助を形成する。ただし、今年度は昨年度、一昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で小学校での実習が不可能となった。(再開が可能になれば、小学校の授業支援に行きます)文献学習によって、子どもの発達の特徴と教育指導について学習する。

本授業の目的に関わって留意すべきことは以下の諸点である。

教育指導というのは、他者を指導するという意味で「教育」の最も基本的な態度であり、生涯学習社会という「学習」機能が尊重される時代においては、なお一層重要な機能として活用されるべきものである。また、教育指導は実践的な学習活動でもある。その意味で、学生が教育指導を行うことは極めて重要な学びの場を持つことになる。実際の教育指導においては、さまざまな困

難な面が生じることが多い。そこで、教育指導者になる
うとする者は、「指導する」ということの意味を体験的
・実践的に理解する必要がある。学校にはそれぞれに教育
課程があり、地域性があることも留意する必要がある。
そのことをふまえての実習となることを理解して欲しい。
<到達目標>

- ・学校現場での取組についての理解を深める。
- ・教育指導者としての立場から、学校における教育課題
が見えるようになる。
- ・教育指導の意義と方法について実践的に分かる。
- ・児童や教員との人間関係を構築することができる。

<授業のキーワード>

学校現場の理解、学校現場への教育支援、児童理解、

<授業の進め方>

本来は、直接小学校の学校現場委に赴き、授業補助や児童
への指導（言葉かけ）をとおして学校教育の現場と子ども
の状況を知るのであるが、今年度は、昨年度同様、
文献やビデオを通して、学校教育の現実と教育指導のあり
方・技法を学ぶ。授業は対面で行うので、毎回、学習
照明の小レポートを作成する。遠隔の学生のみ、dotCam
pusにレジュメをpdfでアップした上で、その講義内容の
原稿もWord文書でアップします。それを読んで、指示さ
れた形でコメントやレポートを、dotCampusを通して提
出します。

<履修するにあたって>

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、
授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令
されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示
に従って行動してください。

今年度も昨年に引き続き、小学校での教育支援が不可と
なったので、学内での文献学習と討論を通じた演習授業
となる。

<授業時間外に必要な学修>

学校での実習を充実した内容に高めるため、授業での子
どもとのふれあいや働きかけについての反省的省察、さら
にはこれを充実したものとするための、子どもの発達
についての文献学習など、3時間程度の予復習をして臨
んでほしい。

<提出課題など>

毎回、小レポート(学びの成果や疑問など)を提出し、最
最終的に総括レポートを提出する。提出された課題に対し
ては、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーション
を図る。

<成績評価方法・基準>

授業に参加し、レポートを提出することで、レポートを
もとに評価する。15回の小レポート(4点×15回=60%)、
総括レポート(40%)の総合評価。

評価の視点は、講義内容を正確にまとめ、どれだけ省察
的に深められているか、事実の記述、それへの意見・感

想、どうすべきであったか(反省点)の記述具合を測定す
る。

<テキスト>

なし

<参考図書>

伊藤一雄他『新・教育的指導の理論と実践』サンライズ
出版(本体価格¥1800)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本授業の授業計画と内容について説明します。その後、
質疑応答して終わります。

第2回 教育指導とは

教育指導の考え方と技法について講義する。具体例につ
いて考え、実践的教育指導の技法を講義する。

第3回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルス
の流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネット
や書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議
して決定します。

「学校現場での実習に参加する。学校現場をよく観察し、
そこにおける人間関係について理解する。あわせて、関
係者との人間関係作りに努める。」

第4回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルス
の流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネット
や書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議
して決定します。

「学校現場での実習に参加する。学校現場をよく観察し、
そこにおける人間関係について理解する。あわせて、関
係者との人間関係作りに努める。」

第5回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルス
の流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネット
や書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議
して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で
実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶこと
に努める。」

第6回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルス
の流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネット
や書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議
して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で
実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶこと

に努める。」

第7回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第8回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第9回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第10回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第11回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第12回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議

して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第13回 学校現場での教育指導

本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)を行います。詳細は、受講生と協議して決定します。

「学校現場での実習に参加する。グループごとに学校で実習し、自分たちが考えた教育課題を体験的に学ぶことに努める。」

第14回 教育課題の分析とその体験的理解の成果発表
本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)でのまとめと総括を行います。

「学校実習での自らの教育指導体験を振り返り、個人が考察レポートを作成し、各グループの教育課題をふまえて、模擬授業を試みる。参加者各自が講評し合うことを通して学びを深めるとともに、全体まとめとして、教員が講評をしてまとめる。」

第15回 教育課題の分析とその体験的理解の成果発表
本来であれば、下記の内容ですが、新型コロナウイルスの流行で学校での実習が出来ません。机上学習(ネットや書籍による学習)でのまとめと総括を行います。

「学校実習での自らの教育指導体験を振り返り、個人が考察レポートを作成し、各グループの教育課題をふまえて、模擬授業を試みる。参加者各自が講評し合うことを通して学びを深めるとともに、全体まとめとして、教員が講評をしてまとめる。」

2022年度 前期

2単位

人間形成特別講義

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 他者からはじまる倫理

目的

私たちはふだん、「自己」、「意識」、「主体性」、「理性」、そして「人間」といった概念を深く問い直すことなく用いています。しかしこれらの概念は、20世紀を通して根本的に問い直されてきました。「自己」に対

して「他者」が、「意識」に対して「無意識」が、「主体的決定」に対して「構造的決定」が、「理性」に対して「欲望」が、それぞれ徹底的な仕方に対置されたのです。それによって私たちが近代以降前提にしてきた思考の形式が、「自我中心」、「自民族中心」、「理性中心」、「人間中心」として批判されました。またそれとともに「人類の進歩」という言葉を、私たちはもはや素朴な仕方では信じることができなくなりました。

この講義ではまず、第二次世界大戦後の実存主義という思想潮流が「自己」、「意識」、「主体性」、そして「人間」に強い信頼を保持していたことを確認します。そして、その次にあらわれた構造主義という思想潮流が、どのようにこれらの諸概念を批判し、「他者」、「無意識」、「構造」という概念に基づいて思考を展開したかを、ひとつずつ辿っていきます。

こうした講義の展開を通して、本講義では、現代に生きる私たちの倫理を考えるための前提を受講者と共有します。そしてそのうえで、「他者」から出発する倫理の可能性を探究します。それは、ますます多様化し複雑化すると同時に、また断絶をも深める世界に生きる私たちが、「異なること」を受け入れて生きる仕方を模索する試みです。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

<到達目標>

サルトルの実存主義について理解し、説明できる。
構造主義者たちの諸理論について理解し、説明できる。
レヴィナスの他者論について理解し、説明できる。
他者から出発する倫理を理解し、自らの見解を述べることができる。

<授業の進め方>

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

<成績評価方法・基準>

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（4

0%）

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の全体像を理解する。

第2回 実存主義

サルトルの実存主義

- ・「主体性から出発しなければならない」
- ・「神なき人間の在り方について」

第3回 構造主義

レヴィストロースの文化人類学

- ・『親族の基本構造』
- ・文化相対主義

第4回 構造主義の二つの源泉

フロイトによる無意識の発見

第5回 構造主義の二つの源泉

ソシュールの構造言語学

第6回 構造主義

ラカンの精神分析

- ・「無意識は言語によって構造化されている」
- ・主体を成立させる三つの次元

第7回 構造主義

フーコー、知の考古学

- ・『狂気の歴史』
- ・『言葉と物』、エピステーメー

第8回 ポスト構造主義

フーコー、権力批判

- ・『監獄の誕生』
- ・『性の歴史』

第9回 他者からはじまる倫理

サルトルにおける他者

- ・まなざしとしての他者

第10回 他者からはじまる倫理

レヴィナスにおける他者

- ・顔における他者

第11回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・フッサール現象学とその批判

第12回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・ハイデガーの存在論とその批判

第13回 他者からはじまる倫理

デリダ、脱構築としての正義

- ・デリダによるレヴィナス批判

第14回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの応答

- ・『存在するとは別の仕方、あるいは存在の彼方へ』

第15回 総括

講義の全体を振り返る

2022年度 前期

2単位

人間形成論

水谷 勇

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

人間形成領域における入門を除く最も基礎的・基本的な専門の講義として、この分野の専門用語と、研究法、発想法に触れ、その基礎を習得することを目的とする。

人間は生まれながらにして人間ではない。生物学的に「ヒト」として誕生するが、「ヒト」が「人間」になるプロセスが必要なのである。「ヒト」は環境に働きかけ「学習」することによって「人間」へと形成されていくのである。この人間形成のプロセスの中で果たす「文化」の役割はきわめて重要である。子どもは一つの歴史・社会の中で、子どもなりにさまざまな人々との関わり合いや、また一つの文化の中でいろいろの相互作用をもちながら自己形成していくものである。こうした視点に立って現代の文化と子どもの発達、人間形成について考察する。とりわけ急激な高齢化、少子化、情報化を迎えた今日の社会ではさまざまな人間形成のゆがみが指摘されている。こうした高度情報社会における人間形成、子どもの発達に付いての基本的な理解を形成し、教育学的な見方・発想法を身につけることを目的とする。

こうして学部DP(ディプロマポリシー)7~9を中心しつつ、全学DPの全般的達成の一步をなすことを目的とする。

< 到達目標 >

- 1, 教育・人間形成に関わる基本概念についての常識を越えて、学術的な理解ができる。
- 2, 教育・人間形成について学術的な関心・意欲を高め、専門家的視点と知識・技術をもって積極的に関与しようとする態度を形成する。
- 3, 教育・人間形成について関心を持ち、今後さらに研究しようとする意欲と態度、並びにそのための基礎的な知識と技術を涵養・形成する。
- 4, 教育・人間形成について真実を極めようとする研究的態度とは、観賞的・傍観者の態度ではなく、実践的・変革的に関わるのが肝要であることを十分理解した上で、かかる実践的・変革的な研究態度(及びそのための知識・理解・経験)を醸成する。

< 授業のキーワード >

教育学の基礎知識

教育学的発想法

人間形成を巡る諸問題

< 授業の進め方 >

事前に配布した資料・レジメを熟読し、学習成果(質問

・疑問を含む)を毎回小レポートで提出する。受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進める(一種の反転学習)。基本用語の解説、人間形成の諸問題の解説を中心として、データや資料を駆使した講義と、ビデオなどの視聴を通して学習していくという形式で進める。

< 履修するにあたって >

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

配布されたレジメ・資料を事前に熟読すること。

それに加え、関連する資料を自分で見つけて読む(視聴する)などの事前および事後の学習が求められる。ただ目を通すだけでなく、わからない用語があれば、専門辞書やネット検索などで事前学習して深めておくことが望まれる。概ね、1~3時間程度。

< 提出課題など >

毎時間の講義の後でミニレポート(毎回最大1点×15)を作成・提出してもらうほか、授業中 and / or 終了時までに、2千字以上のレポート(40点)を作成・提出してもらい、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

< 成績評価方法・基準 >

ミニレポート(15%)、中レポート(40%)、最終回に行う筆記試験(45%)。

毎回の小レポートの提出が3分の2にあたる合計9未満の場合、評価なしになります。

レポートは、講義を踏まえて、各自でどれだけ学習して深めたかを評価の尺度とします。しっかり、講義資料を読み込むとともに、図書館利用や文献読破による事前・事後の深め学習に精励してください。

< テキスト >

特になし。

< 参考図書 >

講義の時に適宜紹介します。

< 授業計画 >

1回 「ヒト」から「人間」への成長

授業の概要の説明を聞き理解を深める。また、初回の内容として、生物としての「ヒト」の特徴と人間としての発達の独自性について理解を深める。

2回 「ヒト」から「人間」への成長 2

前時の講義内容を踏まえ、生物としての「ヒト」の特徴と人間としての発達の独自性について理解をいっそう深める。

3回 子ども研究・発達研究の前進と発達保障思想の成立

発達、子どもについての理解の深まりの歴史的経緯を振り返り、発達保障思想が障害者福祉・教育のなかから生

まれてきたことを知る。

4回 子どもの権利条約をめくって

子どもの権利条約成立の歴史的背景を知り、子どもの権利条約の条文、日本におけるその履行上の問題点などを知る。

5回 子どもの社会と文化をどう捉えるか

子どもをめぐる、社会や文化という「外にあらわれた姿」を手がかりに子どもの本質を探る。

6回 子ども問題の原点としての幼児期

人間関係がうまくいくか、いかないかがいじめや不登校など子どもの問題に大きく関わっている。その基礎は幼児期に培われるものである。今の子どもに欠けている対人関係能力はどこでどうやって育つのかを、家庭・遊び仲間・電子メディア遊びを通して探る。

7回 子どもは遊び集団によって育つ

子どもが社会的に発達していく過程において仲間集団がいかに重要であるか、仲間集団の中で子どもはどのようにして社会的に発達するかを考察する。

8回 ジェンダー形成と子どもの社会

ジェンダーという観点から子どもを考えた時、どのような問題があるかを探る。

9回 子どもにとってあるべき姿の学校とは

いま、学校は多くの問題を抱えている。社会の急激な変動のなかで学校自体の機能が崩れてきてはいないか。新しい教育のあり方はどのように考えなければならないか。

10回 少子化と福祉社会のなかの子ども

少子化が深刻な社会問題として論議されている。少子化が子どもの成長、発達にとってどのような問題が生じているのかを検討する。

11回 マス・メディアと子どもたち

マス・メディアは、こどもの生活時間のなかで占める割合の多いものといわれているが、接触時間だけでなく、内容の有害性や子どもの反応について探る。

12回 異文化のなかの子ども

国際化、グローバルゼーションに向けての教育とは、子どもにとって異文化の影響はどのようなものがあるかを考える。

13回 高等教育政策・大学教育論

大学の歴史・変遷、高等教育政策の動向について考察し、高等教育無償化の論拠と問題点を検討する。

14回 人権と教育、発達保障

教育(人間形成)にとって人権保障の大事さを体験的、感性的、及び論理的に理解し、人間形成についての基礎的な知識・理解・態度を形成する

15回 まとめ

本講義全体のまとめをした上で、筆記試験を行う。

2022年度 後期

2単位

人間形成論

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 省察的实践における暗黙性と創造性を、ベルクソンの哲学から再考する。

目的

省察的实践というD.A. ショーンによる実践知の認識論を、そのベルクソン哲学との類縁性を基盤として批判し、再構想します。

ショーンは「専門家は行為の中でいかに思考するか」と問い、専門家の専門性の実質を明らかにしようとした。その試みは、従来、理論的にも制度的にも従属的に扱われてきた専門家たちの実践的な知を、実践の中に埋め込まれた暗黙の理論として取り上げ、再評価するものです。ショーンのこの研究は、日本では教育学において紹介され、教育現場における教師たちのわざartistryの秘密を明らかにし、正当に評価するものとして受容されました。

本講義は、ショーンの研究をベルクソンの哲学から捉え直すことで、省察的实践が持つ暗黙性と創造性を、ショーン自身の理解を超えて問い直し、明らかにします

そうすることで、受講者の目を、混沌と錯綜のただなかで行われる新たな理解と行為の方向の模索へと、そしてそれを可能にするわざないしは方法へと、開きます。そして、将来的に、受講者が省察的实践を行いうる知的土壌を培います。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

目標

- ・D.A. ショーンにおける省察的实践を理解し、説明できる。
- ・M. ポランニーにおける暗黙知を理解し、説明できる。
- ・ベルクソンの哲学の骨子を理解し、説明できる。
- ・省察的实践をベルクソンの哲学から批判的に検討できる。
- ・受講者が将来的に省察的实践を行う土台を築く。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎

回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深めること。(目安として1時間)

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察(60%)、レポート課題(40%)

< 参考図書 >

D.A. ショーン、柳沢昌一、三輪健二監訳『省察的实践とは何か プロフェッショナルの行為と思考』鳳書房、2007年。

マイケル・ポランニー、高橋勇夫訳『暗黙知の次元』ちくま学芸文庫、2003年。

アンリ・ベルクソン、原章二訳『精神のエネルギー』平凡社、2012年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の全体像について。

第2回 省察的实践とは何か

D.A. ショーン「省察的实践」の概要を理解し、日本の教育学におけるその導入と受容を概観する。

第3回 「行為の中の知の生成」

「行為の中の知の生成」knowing-in-actionの概念を検討する。

- ・「非論理的なプロセス」、言語化できない知
- ・「否定する声」
- ・M. ポランニー「暗黙知」

第4回 「行為の中の省察」

「行為の中の省察」reflection-in-actionの概念を検討する。

- ・行為のプロセスに内在する省察
- ・ジャズミュージシャンたちによるインプロビゼーションの例
- ・子どもたちによるブロックのバランス実験の例

第5回 「実践の中の省察」

「実践の中の省察」reflection-in-practiceの概念を検討する。

- ・専門家の専門性、わざartistryの構成要件
- ・「自分の実践の中で(in)省察する」
- ・四つの事例、トルストイの教員養成論

第6回 省察的实践と

ベルクソンの哲学

D.A. ショーン「省察的实践」とベルクソンの哲学との類型性を検討する。

- ・パルメニデスの思考とヘラクレイトスの思考
- ・「行為内省察」とベルクソン哲学の直観論

第7回 ベルクソンの哲学

ベルクソン哲学の骨子を理解する。

- ・持続とは何か。
- ・記憶の潜在性
- ・生成の「予見不可能性」と知性の批判
- ・直観、生成に内的な反省

第8回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(1)

ショーン、「行為内知」における「質的理解」と「非論理性」

ベルクソン、持続の「質的多様性」と「言表不可能性」

第9回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(2)

「行為内知」とベルクソン哲学における直観の「否定の力」

第10回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(3)

「行為内知」の暗黙性と記憶の潜在性

- ・ベルクソン『物質と記憶』の記憶論
- ・現在における過去の潜在的存続

第11回 省察的实践の認識論と

ベルクソンにおける直観(4)

「行為内省察」と生成に内的な「反省」

- ・ベルクソン哲学における「反省」としての直観
- ・「出来上がったもの」から「出来上がりつつあるもの」へ

第12回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(1)

「行為内知」の暗黙性と、「行為内省察」における「フレーム実験」解釈との問題を、ベルクソン哲学における記憶の潜在性という観点から批判し、再検討する。

第13回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(2)

「行為内省察」における「状況との対話」と「問題の枠組み転換」

- ・ショーンによるデザイナーと学生のプロトコル分析
- ・「予期しない変化」の発生と「問題の枠組みの変容」
- ・専門家における「絶え間なく進化する意味の体系」

第14回 「行為内省察」を

ベルクソン哲学から批判、再構想する(3)

ベルクソンの哲学からショーンにおける「問題の枠組み転換」の可能性の条件を問う。

- ・「行為内省察」の根底にあるプロセス
- ・記憶の潜在性から「行為内知」の暗黙性を捉え直す。
- ・全体と部分とのあいだ、包括的なものと局所的なもの

とのあいだ

・「行為内省察」が持つ創造性の秘密

第15回 総括

講義全体のレビューと総括

2022年度 前期

2単位

人間形成論

水谷 勇

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

子どもの発見を初めとして、歴史のなかで子どもたちがどう扱われ、見なされてきたのかを概観することを通して、教育の歴史と研究について、内容的、方法論的に深めていきます。あわせて、大前提となる教育的なものの見方を下記の作業を通して、鍛え高めていきます。

子どもの発達とつまずきについての理解を形成し、深めることをめざします。「はえば立て、立てば歩めの親心」は、子どもの成長を願う親の気持ちを表しています。それは、同時に子どもが日々成長していることを示していることでもあります。身長や体重などはもちろんのこと、動作やしぐさの身体活動の上でも、また、ことばや感情表現などこころの面でもその変化に目を見張らせられます。こうした子どもの成長の歩みを科学的に理解していくことは、子育てや、幼児教育にあっては大変重要なことであり、基本的なことといえます。この講義では、まず教育に関する歴史的な見方を形成し、子どもの発達の原理や一般的な傾向についての知識を豊かにし、その上で今日の子育てや教育の問題について考えるベースになる見方・考え方の形成・陶冶を目的とします。これらの目的を達成することをおして、学部DP7~9を中心としつつ、全学DP全般の達成の大きな一歩を形成することを目的としています。

< 到達目標 >

1. 教育に関する歴史事実を知ることを通して、教育・人間形成についての理解を深め、常識やマスコミ論調によって形成された誤った認識形成を正して、教育・人間形成についての正しい認識形成ができる。

2. 子どもの発達のメカニズムについての知識を得ることを通して、ある程度を理解をし、子ども理解や、発達を引き出す教育・子育ての方法・原理について理解し、他人に説明できる。

3. 今日の子育てや教育をめぐるさまざまな問題について知ることを通して、関心を深め、文献研究やフィールドワーク、自己の経験の省察等により、自ら考え、その成果をレポートにまとめることができる。

< 授業のキーワード >

こどもの教育の歴史

子どもの発達のメカニズム

教育・子育ての方法・原理についての理解

< 授業の進め方 >

初回を除く各回の授業で事前に配布(非登学学生向けにはdotCampusにレジメをpdfでアップ)した上で、配付資料を補則解説する形で授業をしていきます。配付資料によく目を通し、事前に質問意見をまとめてきて授業に参加してください。ドットキャンパスは履修登録した全ての学生が利用出来ます。なくした場合や欠席したときの補充に活用ください。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます(一種の反転学習)。

< 履修するにあたって >

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示に従って行動してください。

問い合わせ先: mizutani@human.kobegakuin.ac.jp

< 授業時間外に必要な学修 >

レジメ・配付資料の熟読と関連した学習(辞書・辞典での調べ学習を含む)、概ね1~3時間程度

< 提出課題など >

毎回の講義の後にミニレポート(学びの記録)提出。講義終了時まで、最終レポート提出(上記目標参照)。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

< 成績評価方法・基準 >

ミニレポート13本(20%)、最終回に行う自由記述式筆記試験と大レポート、もしくは、大レポート2本(80%、40×2)。

毎回の小レポートの提出が3分の2にあたる合計9未満の場合、評価なしになります。

レポートは、講義を踏まえて、各自でどれだけ学習して深めたかを評価の尺度とします。しっかり、講義資料を読み込むとともに、図書館利用や文献読破による事前・事後の深め学習に精励してください。

< テキスト >

前半部分は、森良和『歴史のなかの子どもたち』学文社後半部分は、高野清純編『子どもの発達とつまずき』教育出版

を種本としたうえで、他の書籍や最近の学会動向なども踏まえて講義します。

良書ですが、少し古いため、現在絶版になっており、皆さんが入手しなければならないものではありません。

< 参考図書 >

教育史学会『教育史研究の最前線』日本図書センター他、授業中に適宜紹介

< 授業計画 >

1 子ども観と新しい教育史

講義内容の概要説明に加えて、子どもとは 発達の様相をとらえるための観点と子どもの理解 新しい教育史と研究方法論を説明しますので、以上の内容について理解することが第1回の主な内容となります。

2 歴史のなかの子どもたち 1

アテネとスパルタ、古代ローマの社会の特徴とそこでの子どもたちの様子を丹念に追うことで、古代社会における子育て、教育の特徴を理解する

3 歴史のなかの子どもたち 2

中世とルネサンスにおける社会の特徴とそこでの子どもたちの様子を丹念に追うことで、当時の社会における子育て、教育の特徴を理解する。

4 歴史のなかの子どもたち 3

神権政治、絶対主義時代における社会の特徴とそこでの子どもたちの様子を丹念に追うことで、当時の社会における子育て、教育の特徴を理解する。

5 歴史のなかの子どもたち 4

産業革命における社会の特徴とそこでの子どもたちの様子を丹念に追うことで、当時の社会における子育て、教育の特徴を理解する。また、その少し後になるが、ボーイスカウトを始めたベーデン・パウエルの生涯とボーイスカウトの特徴、他の類似組織との異同を見ることで19世紀末から20世紀初頭にかけての教育・子育ての課題を明らかにする。

6 歴史のなかの子どもたち 5

ヒトラー・ユーゲントと紅衛兵が活躍した20世紀半ばや後半における社会の特徴とそこでの子どもたちの様子を丹念に追うことで、当時の社会における子育て、教育の特徴・問題点を理解する。

7 歴史のなかの子どもたち 6

中間まとめ。中間まとめとして、これまで、歴史的に見てきた、それぞれの時代的特徴(流行)と、不易(変わらない部分)を抽出し、人間形成の時代、社会制約性と、超越的な根本問題とをえぐり出し、中間まとめとしたい。

8 子どもの健康、ことばの働きとつまずき

身体の発育、運動能力の発達、身体発育の障害、運動能力の障害、チンパンジーもヒトのことばを話す? ことばの獲得のしくみ、ことばの働きとその発達、話しことばの発達、つまずきとその対応、について解説する。

9 子どもの認知のメカニズム、感情の発達とつまずき

子どもは世界をどのように知っていくか、認知の発達、認知の障害とつまずき、障害、つまずきへの対応、感情とは、感情の発達、感情にもとづく障害、等について解説する。

10 子どもの欲求とストレス、がまんのメカニズム

欲求は行動のエネルギー、欲求の発達、欲求不満にどう立ち向かうか、探索への欲求と知的好奇心、がまん、よい・悪いがあるのか? がま

んの過程、セルフコントロールはどのように発達するのか、セルフコントロールができないとどうなるか、等について解説する。

11 他人を愛する行動、家庭のなかの子ども

思いやりのある子どもたち、幼い子どもたちの向社会的行動、向社会的な子どもの特徴、幼児の残忍さ・攻撃行動と向社会的行動、親と子どもの心のきずな、揺らく家族、等について解説する。

12 学校のなかの子ども、授業と子どもの問題

学級内のグループダイナミクス 社会化と仲間関係 非社会的問題行動とその指導 いじめ、不登校の特質とその指導 知識の獲得、学習習慣とスキル 学習障害、などについて解説する。

13 遊び・塾と子どもの問題、メディアと子ども

子どもの遊び、塾通い、けいこごと、遊び・塾通いの子どもへの影響、マスメディアとニューメディア、ニューメディアの影響と情報教育、ニューメディアと教育、テレビ、テレビゲームの発達への影響、等について解説する。

14 その他の子ども・青年をめぐる問題

食育、生活リズム等、現代の子どもの抱える問題点、さらには引きこもり、自殺、怠業など、現代青年をめぐる問題点とその対応策について解説し、マイナスと思われることを発想の転換でプラスに切り替えて生かしていくことについて具体的事例を挙げて講義する。

15 総まとめ

本講義全体のまとめとして筆記試験を行うとともに、最終レポートの課題提示と解説をおこなう。

2022年度 後期

2単位

人間形成論

水谷 勇

<授業の方法>

講義(前半)と演習(後半)

<授業の目的>

人間形成に関するこれまでの学習の成果を踏まえ、いっそう飛躍する機会を作りだし、人間形成に関わる諸問題についての探求に向けて明確な方法論と実践的手法についての理解と習得をめざします。とりわけ、カウンセリングと教育指導に関する理論的な整理と実践の力量の端緒を形成していくことを目的としています。こうして学部DP7~9を中心としつつも、全学DP全般の形成に関わる授業です。

人間形成は、何も学校、そしてそこでの授業(教科指導)に限って行われているわけではない。むしろ、授業外、学校外での生活時間の方が長く、より多くの影響を受けて私たちは自己を形成してきている。さまざまな生

活・体験の中で、ものとの関係、人との関係の中で自らの力量を高め、あるいは減退させ、その性格を形成し、また諸能力を蓄積(あるいは減退)させているのである。その中で、自分自身のこと、人間関係などに悩みながら挫折したり成長したりしている。

本講義では、この事実に着目し、物にあふれた先進国で、むしろ大人になることの今日的困難が進行していること、とりわけ我が国において困難の特異性を解明し、生活指導として蓄積されてきた教育指導の諸原則に学びつつ、カウンセリングとの違いや共通性を検証しつつ、教育指導の理論的基礎と実践的技術の一端を修得・形成することをめざす。

とりわけ後半においては、現在社会における人間形成のゆがみ、困難状況に目を向け、その問題点と解決方向を受講生諸君とともに探っていきたい。そこでは、現代学校を巡る問題点やあり方など、最新の学校を巡る状況についても議論し解決策を模索していく。

<到達目標>

1. 上記授業の目的を理解し、講義内容を理解するとともに、その成果を最終講義に実施する試験の答案に書き上げる。
2. 講義を踏まえ、かつ講義で示された研究上の留意点を踏まえて、人間形成・教育について自らテーマを決めて研究し、2000字以上のレポートにまとめ上げて、定期試験時までに提出する。
3. 大前提となる教育的なものを見方を下記の作業を通して、鍛え高める。
4. 子どもの発達とつまずきについての理解を形成し、深める。
5. カウンセリングと教育指導のそれぞれの特徴と違いを理解する。(知識)

<授業のキーワード>

カウンセリング、コーチング、教育指導
危機への介入・援助とその方法
子どもの発達とつまずき

<授業の進め方>

授業は前半は、講義が中心で、一部演習的な形で進めます。

事前に配付した資料に目を通してきた受講生の質問や疑問に答え、学習成果を深める形で、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めていきます(一種の反転学習)。講義はできるだけ最小限にして、演習形式で、グループ討論、その発表・交流を中心として、それに対する教員のコメントで、学習内容を深化せせるという形で進めます。後半は、学生の発表、実践的演習中心で、その都度教員による、コメント補足をしていくという形で進めます。

<履修するにあたって>

アクティブラーニング車体の授業となるので、得意な学生は大歓迎である。が、苦手の学生も、チャレンジして

みようという、気概と意欲さえあれば大歓迎である。一緒に成長していこう。

<授業時間外に必要な学修>

授業の予復習として、1~3時間ほどの家庭学習を必要とする。とりわけ後半は演習形式で行うため、これまでの授業を振り返るとともに、文献学集をとおして充実した発表となるよう、しっかり準備して臨むこと。

<提出課題など>

毎回の講義の後にミニレポート(学びの記録)提出。講義終了時まで、最終レポート提出(上記目標参照)。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

ミニレポート(15%)、大レポート(35%)、14回講義時に行う自由記述(授業のまとめを各自が行う)の筆記試験(50%)。

毎回の小レポートの提出が3分の2にあたる合計10未満の場合、評価なしになります。

レポートは、講義を踏まえて、各自でどれだけ学習して深めたかを評価の尺度とします。しっかり、講義資料を読み込むとともに、図書館利用や文献読破による事前・事後の深め学習に精励してください。

<テキスト>

なし

毎回講義時にレジメ・資料を配付する。

<参考図書>

竹内常一著作集第1巻

中内敏夫著作集第1巻

中谷彪・浪本勝年『新2版 現代の教育を考える』北樹出版 ほか

講義中に適宜紹介する。

<授業計画>

1 講義のガイダンス

授業は講義科目であるが、演習形式で、教育指導に関する実践的力形成を目指しています。

本講義の特徴・概要を解説するとともに、人間形成についての諸問題を教員と受講生同士とともに、確認し合います。

非登学の学生は、zoomで授業します。また、授業ビデオを授業終了後速やかにアップしていきます。(次回も同様)

2 教育的指導とは何か

教育的指導について、様々な場面における事例などを挙げながら検討し、探求と実践のための基本的なフレームワークの形成をめざす。

3 教育・指導・養生・ケアなど基本用語の探求

人間形成の技と種類について分類し、それぞれの基本用語を確認・整理する。

4 教育指導の諸原則

人間形成の諸次元における区別的認識の形成を踏まえ、

再度、教育的指導の諸側面について検討し、その諸原則を批判的・発展的に吟味・検討する。

5 生活指導論の系譜

生活指導実践および概念の変遷について、アメリカと日本それぞれについて解説する。19世紀末から第二次世界大戦まで、第二次世界大戦後の理論的発展・深化、実践的な広がり・多様化について解説する。

6 カウンセリングとガイダンスと教育指導

カウンセリングの特徴、諸流派について学び、理解する。学校教育場面におけるカウンセリング、およびその教育指導との関連についてビデオ視聴を踏まえ、理解し、修得する。

7 現代学校教育の問題点（校則・体罰）

ビデオを視聴と受講生諸君の体験の省察をとおして、校則・体罰といった学校教育の管理に関わる生活指導上の問題について探求し、討論・意見交換を通じて深化させる。

8 現代学校教育の問題点（いじめ、不登校）

ビデオ視聴と講師による先行研究のまとめの理解をとおして、いじめ、不登校、引きこもり、といった子ども・青年の内面の問題に関わる生活指導・援助上の問題について探求する。

9 乳幼児の発達の特徴と保育・教育的働きかけの課題
家庭教育・幼児教育の課題について、乳幼児の発達に対する深い理解の形成をする(ビデオ視聴を含む)とともに、それに基づく教育指導・保育の課題、留意点について考察する。

10 おとなになることのむつかしさ、高齢社会における人生設計と教育

現代における大人になることの難しさを歴史的(文明論的)、社会学的に考察して明らかにするとともに、その負(-)の要素と正(+)の要素を腑分けし、マイナスをプラスに変える術を探求する。併せて、今日における成人教育、高齢者教育の課題を探求する。

11 人間の矯正可能性について(少年司法と矯正教育をめぐる問題)

「バカは死ななきゃ直らない」のか、「悪人は社会から抹殺・隔離するしかない」のか、昨今のマスコミ論調に隠されたきわめて人間的ではあるが、非人道的であるばかりでなく、非教育的でもある教育・少年司法をめぐる論調・施策について教育・人権の視点から徹底的に見直す。

12 補足・深化(1)

これまでの学習を振り返りながら、受講生各自が興味を持ったことについて深め発表する。それへの受講生同士による質疑や講師によるコメントをとおして認識の齟齬を克服しより深い理解へと導く。

13 補足・深化(2)

前時に引き続き、これまでの学習を振り返りながら、受講生各自が興味を持ったことについて深め発表する。そ

れへの受講生同士による質疑や講師によるコメントをとおして認識の齟齬を克服しより深い理解へと導く。

14 まとめ・総括

授業のまとめをした後、受講生が、筆記試験として授業での学びをまとめ、整理する。

15 総まとめ

前回実施したテストの答案を返却し、間違いや不十分点を正しながら授業のまとめ・補足を行う。あわせて、最終レポート課題を提示し、本講義全体のまとめとする。

2022年度 前期

2単位

人間文化実践

赤井 敏夫

<授業の方法>

対面講義

<授業の目的>

・本授業は、人文学科のDPが示すとおり、専門的な「知識・技能」を身につけ、自立的な「思考力・判断力・表現力」と、他者への公正な「主体性・協働性」を養うための実習科目である。

・私たちの周囲にある映像文化、とりわけ映画が、身近な地域とどのように関わり合いながら、歴史的に形成されてきたのかを学ぶことで、映像文化への関心を高め、その知識を修得する。

・各自の関心にあわせて、適切なテーマを設定し、情報の収集と分析をおこない、それを自らプレゼンテーションや文章としての確に表現できるようにする。

<到達目標>

1. 人文学の基礎となる調査・分析、およびプレゼンテーションを、受講生自らがこなすための手段を身につける。

2. 身近な地域に関わる映像文化の歴史と現状について、具体的な表現・事例への関心をもつ。

3. 映像資料を、どのように保存活用することができるかどうかについての知識を修得する。

<授業の進め方>

2回のフィールドワークとその準備のための講義

<履修するにあたって>

感染症拡大の防止のためキャンパスが封鎖されたため本授業はアプリケーションのZoomを用いて行う。受講生は必ずこのアプリケーションを受講するとき用いる端末にインストールしておくこと。配布物は各自で印刷することになるのでプリンターが使える環境を用意する必要がある。またネットワーク環境の悪化したときのために代替処置を用意する必要があるため、担当教員によるメールまたはdotCampusにおける指示に注意すること。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習：プレゼンテーションを作成するための準備は、各自で授業時間外に進めること。

事後学習：授業で配布するプリントを復習に活用すること（一回の授業につき目安として60分）。受講生のプレゼンテーションは講評するので、レポートに向けた準備の参考とすること。

< 提出課題など >

期末レポート、プレゼンテーション

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーション・質疑応答25%、フィールドワーク・プレゼンテーション準備25%、期末レポート50%で評価する。

< テキスト >

特に定めない。適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

特に定めない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

受講生各自の自己紹介と、グループおよびプレゼンテーションの日程を確定する。また授業の方針を説明し、あわせて映像文化における映画の位置づけを解説する。

第2回 関西の映画史を学ぶ1 神戸

日本映画史の始まりの地について、かつて存在した近隣の撮影所等も含め、映画との関係を学習する。

第3回 身近な映像文化を知る1 テーマ選択

新開地の映画館街に関する講義後、受講生はグループに分かれ、特定の映画館跡をテーマに選択する。

第4回 身近な映像文化を知る2 フィールドワークの準備

フィールドワークの予備調査の方法を学び、グループで選択した映画館跡を対象に実践する。

第5回 身近な映像文化を知る3 新開地のフィールドワーク

新開地において、グループごとに、選択した映画館跡についてのフィールドワークを実施する。（第6回と連続）

第6回 身近な映像文化を知る3 新開地のフィールドワーク

新開地において、グループごとに、選択した映画館跡についてのフィールドワークを実施する。（第5回と連続）

第7回 身近な映像文化を知る4 収集データの整理・分析

予備調査およびフィールドワークで収集したデータを整理・分析し、プレゼンテーションを準備する。

第8回 プレゼンテーションと質疑応答1

グループ・ワークで調査した内容をプレゼンテーションし、質疑応答する。

第9回 プレゼンテーションと質疑応答2

グループ・ワークで調査した内容をプレゼンテーション

し、質疑応答する。

第10回 関西の映画史を学ぶ2 京都

現在も撮影所を抱える、代表的な映画都市について、時代劇というジャンルを中心に学習する。

第11回 身近な映像文化を知る5 京都の映画史跡とテーマ選択

京都の映画史跡に関する講義後、受講生はグループに分かれ、特定の史跡をテーマに選択する。

第12回 身近な映像文化を知る6 フィールドワークの準備

京都の映画史跡に関する予備調査のグループ・ワークをおこなう。

第13回 身近な映像文化を知る7 京都のフィールドワーク

京都において、グループごとに選択した映画史跡、およびフィルム・アーカイブについてのフィールドワークを実施する。（第14回と連続）

第14回 身近な映像文化を知る7 京都のフィールドワーク

京都において、グループごとに選択した映画史跡、およびフィルム・アーカイブについてのフィールドワークを実施する。（第13回と連続）

第15回 まとめ

授業のまとめ、講評をおこない、映画をとりまく課題と可能性について解説する。

2022年度 後期

2単位

人間文化実践

橋本 貴

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

また、この科目の担当者は、文書情報管理士、公認デジタルアーキビストの資格を持ち、企業において資料保存、文書情報管理、デジタルアーカイブ構築などの実務に携わっている実務経験のある教員である。

実務経験から得た情報検索における知見や専門的技術についても積極的に講義内容に取り入れて、受講者がより実践的な知識と技術を修得できるようわかりやすく伝えていきたい。

< 到達目標 >

(1)インターネットを使った情報検索において目的にあった適切な方法を取り、効率のよい調査ができる知識と

スキルを身につけること。

(2)インターネット上のさまざまなデータサービスを利用することを通して、ネット上で触れることのできる様々な文化の多様性を理解し、自分から積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

<授業のキーワード>

情報検索 データベース 論理演算子 データ加工 メディアリテラシー

<授業の進め方>

講義・演習形式で進める。

講義内容に応じて適宜演習課題を課すので、受講者には自分でPCなどの機材を操作して課題に取り組んでもらいます。

実技演習課題の作成を通して、テキストやその他のデータの整形や加工といったデータ処理の基本的な操作法を習得してもらう予定です。

<履修するにあたって>

1.インターネットとPCを利用した講義ですので学内情報システムのアカウントを毎時間必ず持つてくること。

2.学内学習支援システム(dotCampus)を使用して授業内で利用するデータ、サイトなどを指示します。また課題もdotCampusより提出してもらいます。重要な連絡などもdotCampusより行いますので毎回の授業当日までに必ずdotCampusを確認するとともにdotCampusからの通知にも注意するようにしてください。

3.急な予定変更や重要な連絡に関しては大学のメールアドレス宛に連絡する場合がありますので、大学のメールを使用できるようにしておいてください。

4.授業では実際にPCを操作して演習や課題作成を行ってもらいます。履修者のスキルに合わせて丁寧に操作方を指導する予定ですが、Windows10、Office系ソフトの基本的な操作に慣れておくようにしてください。

5.授業は情報処理実習室で行う予定ですが、予習・復習などのために各自で最低限インターネットとWord、Excelが使用できる環境を整えておいてください(Word、Excelは本学のMicrosoft 365アカウントで無料でインストールできます)。

6.履修者のPC操作の習熟度、授業内容の理解度に応じて授業の進行や課題内容を見直す場合があります。

7.授業内容に関する質問や連絡事項はdotCampusもしくはメールでも受け付けます。

わからないことなどは遠慮なく質問してください。

<授業時間外に必要な学修>

講義主体の回ではテキストの指定箇所を予習しておくこと。予習範囲は授業時間内に指示します。

また授業終了後は学習内容の復習をおこなうこと。

演習主体の回では授業内で学習した操作方法などを復習として各自で繰り返し練習しておくように。

課題は講義内容、指示内容を踏まえできるだけ完成度の高いものを提出できるようにすること。

それぞれの予習復習の時間は1時間程度を目安とします。

<提出課題など>

授業内容に応じて適宜実技演習を行う。演習課題はWordでのレポート形式やExcel データなどでdotCampusへ提出する。

各課題の提出期限は授業内で指示する。期限を厳守すること。

提出された課題に対するフィードバックとして各課題ごとに完成見本、模範解答例などを提示し、特に注意すべき点などを次回以降の授業内で解説を行います。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度(授業への取り組み、課題作成への取り組み、課題の完成度)40%

各回におこなう実技演習課題に対する評価(課題作成への取り組み、課題の完成度、操作法の習得度合いなど)60%

以上を基準に総合的に判断する。

定期試験は行わない。

<テキスト>

中島玲子, 安形輝, 宮田洋輔. スキルアップ! 情報検索 基本と実践 新訂第2版. 日外アソシエーツ, 2021年1月, 200p.

神戸学院大学情報支援センター編. 情報活用の基礎 :

- これだけは知っておきたいコンピューターの使い方 - . 2022年度版, 神戸学院大学情報支援センター, 2022年. <https://www.kobegakuin.ac.jp/~ipc/top/textbook/index.html>, (PDF版).

<参考図書>

吉井隆明, 森美由紀. 原田智子編. 検索スキルをみがく 検索技術者検定3級 公式テキスト. 第2版, 樹村房, 2018, 147p. 監修 一般社団法人情報科学技術協会.

<授業計画>

第1回 イントロダクション

後期授業の進め方について説明をします。

またこの講義の主題の一つである情報検索とはどういうことなのかについての簡単な説明をおこないます。

第2回 データベースと検索の仕組み

この講義で扱う情報検索とはどういうことなのかを解説し、情報検索を行う上で必須となるデータベースの基本的な知識を身につけてもらいます。

第3回 論理演算子について

複雑な検索を実行する場合に使用する論理演算子と検索式（クエリ）について学習します。

第4回 自由語と統制語、情報検索の種類

情報検索に用いる検索語と情報検索の種類について学習します。

第5回 サーチエンジンについて

サーチエンジンの仕組みと問題点について学習します。

第6回 インターネットの基礎知識

Web ページが表示される仕組み、URLやドメインといったインターネットの基本的事項を学習します。

第7回 詳細検索オプションについて

サーチエンジンやデータベースの詳細検索オプションについて学習します。

第8回 情報検索で得られた情報の利用

情報検索の結果を利用するために必要な知識として参考文献（参照文献、引用文献）について、その意味と注意事項を学習します。

第9回 情報検索で得られた情報の利用

書籍を対象とした文献検索の方法を演習を通して学習します。

第10回 情報検索で得られた情報の利用

論文、ジャーナルなどの雑誌記事を対象とした文献検索の方法を演習を通して学習します。

第11回 情報検索で得られた情報の利用

神戸学院大学で利用できるオンラインデータベースを使った演習を行います。

第12回 情報検索で得られた情報の利用

Web上の様々なデジタルコンテンツの利用法について演習を通して学習します。

第13回 情報検索で得られた情報の利用

データベースから出力されるテキストデータなどの応用的な利用法について演習を通して学習します。

第14回 Web アーカイブについて

Webの情報（サイト等）を「資料」として収集して保存、公開している「デジタルアーカイブ（Webアーカイブ）」について学習します。

第15回 よりよい情報検索とはどういうことなのか

これまで学んできた内容を整理し、情報検索にどのように活かしてゆくのかを考えます。

2022年度 前期

2単位

東と西の文化史

北村 厚

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、歴史学における文化史という学問領域を、「感染症」というテーマで学習することにより、人文学部DP2に示す、人間の心理・行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけることを目的とする。

文化史とは何でしょうか。日本史なら仏教美術や夏目漱石などの文学、西洋史なら教会建築やルノワールなどの西洋美術を思い浮かべるかもしれませんが。しかし歴史学における文化史は、そういったいわゆる芸術作品のみを取り上げるものではありません。それは過去に生きた人々の生活様式や生き方そのものについて考える学問なのです。

昨年来、世界中を新型コロナウイルスの流行が襲い、人々の生活を脅かしています。こうしたパンデミック（世界的大流行）を、人類は過去に何度も経験してきました。その時、人々はどのように感染症に向かい合い、どのような態度を示したのか。時としてそれは異なる集団に対する差別や疑心暗鬼、魔女狩りといった狂気にまで発展することもありました。そして感染症は人々の生活と思考様式にどのような影響を与えたのか。この講義ではこうした問題について考えていきます。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従って、教職科目として必要な学科知識の習得ができます。

< 到達目標 >

1. 歴史学における文化史の意味について説明できる。（知識・技能）
2. 人類を襲った過去の感染症について、人々の生活や思考様式、社会構造にどのような影響を与えたのか想像し、現代世界の問題につなげて考えることができる。（思考力・判断力）
3. ヨーロッパと日本の感染症への対応の歴史について比較することができる。（思考力・判断力）

< 授業のキーワード >

文化史 感染症の歴史 ペスト 魔女 帝国主義 スペイン・インフルエンザ

< 授業の進め方 >

プリントを配布して講義をします。積極的にノートをとってください。毎回の小課題を出し、オンラインで提出してもらいます。

<履修するにあたって>

教室内では席を離し、マスクを着用し、会話は必要な時以外は行わないようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の小課題とそのための復習に、1時間程度かかります。

<提出課題など>

毎回の授業に小課題を設定し、オンラインで提出します。毎回の課題は、必ず授業日の3日後までに提出してください。遅延は認めません。提出された課題のいくつかについて次回の冒頭でコメントし、フィードバックとします。

<成績評価方法・基準>

小レポート84点満点(6点満点×14回)+最終レポート20点の104点満点で計算します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

マクニール、W・H『疫病と世界史』新潮社1985年

村上陽一郎『ペスト大流行 ヨーロッパ中世の崩壊』

岩波新書1983年

宮崎揚弘『ペストの歴史』山川出版社2015年

黒川正剛『図説 魔女狩り』河出書房新社2011年

山本紀夫『コロンブスの不平等交換 作物・奴隷・疫病の世界史』角川選書2017年

磯部裕幸『アフリカ眠り病とドイツ植民地主義 熱帯医学による感染症制圧の夢と現実』みすず書房、2018年

速水融『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ 人類とウイルスの第一次世界戦争』藤原書店、2006年

<授業計画>

第1回 文化史とは何か

この授業のテーマと「文化史」という概念について説明します。

第2回 感染症の歴史

感染症とは何か、人類は過去にどのような感染症にみまわれてきたのか。その歴史を概観します。

第3回 ヨーロッパのペスト禍1

ヨーロッパ中世～近世におけるペスト禍について学びます。ペストとは何か、人々の生活にどのような影響を与えたのかを学びます。特に激しい被害を与えた14世紀のペストはどこからやってきたのか、グローバル・ヒストリーの観点から最新の研究を紹介します。

第4回 ヨーロッパのペスト禍2

ペストはどのようにして全ヨーロッパへと拡大していったのか、その経路と各都市での感染拡大、そしてそれに対する対処とその帰結を詳細に追っていきます。

第5回 ヨーロッパのペスト禍3

ペストによって中世社会は崩壊し、ルネサンスへと移行します。その文化的な意味を、ボッカチオの『デカメロン』を素材にして考えます。

第6回 ヨーロッパのペスト禍4

ペストは中世で終わったわけではなく、近世にも続きました。いくつかの事例についてその特徴を考え、ロンドンのペスト禍については、半世紀後のデフォーによる記録からアプローチします。

第7回 「魔女狩り」とは何か

ヨーロッパでペストが猛威をふるっていたのと同時期に起こっていたのが、いわゆる「魔女狩り」(魔女迫害)です。魔女とは何なのか、魔女裁判はどのようなもので、どの程度の被害者が出たのか。まずは多くの事例を見ることで学びます。

第8回 「魔女狩り」はなぜ起こったのか?

なぜ近世に起こったのか? なぜ誰もが魔女を信じたのか? なぜ熱狂的な魔女迫害が行われた地域とそうでない地域があるのか? なぜ犠牲者のほとんどが女性だったのか? 「魔女狩り」をめぐる様々な謎に対する学術的な解答を示します。

第9回 インディオに襲いかかった感染症1

いわゆる「大航海時代」によって、ヨーロッパは新大陸を「発見」しましたが、それは新大陸の人々にとって破滅を意味しました。まず、どのような経緯で感染症が新大陸に上陸したのかを考えます。

第10回 インディオに襲いかかった感染症2

ヨーロッパからもたらされた感染症は、アステカ王国とインカ帝国という高度に発展した文明を滅亡させたと言われています。その経緯について資料から検証します。その上で、インディオ社会にどのような破滅的な結果をもたらしたのか、総合的に考えます。

第11回 感染症と帝国主義1

世界が一体化し、欧米列強がアジアやアフリカに植民地を築いていった19世紀、各地の感染症が世界中にパンデミックをひき起こします。インド由来のコレラは典型です。イギリスはインドの感染症にどのように対処したのか、植民地の衛生行政の観点から考えます。

第12回 感染症と帝国主義2

19世紀、ヨーロッパ列強はアフリカ進出を試みますが、免疫耐性の無い白人たちにアフリカの土着病が襲い掛かりました。特に白人たちを恐怖に陥れたのが、「アフリカ眠り病」です。感染症とアフリカの植民地化との関係を探ります。

第13回 スペイン・インフルエンザの猛威1

第一次世界大戦末期の1918年、新型のインフルエンザがヨーロッパの戦場を襲い、さらに世界中にひろがりました。感染者6億人、死亡5000万人ともいわれる最悪のパンデミックについて考えます。

第14回 スペイン・インフルエンザの猛威2

スペイン・インフルエンザは大正時代の日本にも上陸し、

約2500万人が感染し、38万人以上が亡くなった。この異常事態に人々はどのように対応したのか。各地の新聞記事などから考えます。

第15回 まとめ

感染症の歴史を総覧し、あらためて現代社会を生きる私たちの問題として捉えなおします。その上で、最終レポートについて説明します。

2022年度 前期

2単位

比較文化研究

石塚 洋史

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は人間探究科目群の科目であり、映画を題材にした比較文化の講義です。本講義は人文学部のDPに示す「文化に関する専門知識」を習得すること、「人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことを目指しています。本講義では主題に掲げられたテーマに即した複数の国の映画作品を鑑賞し、教員が作品解説、作品比較を行ないます。本講義は受講者が作品の考察、比較を通して、映画そして芸術、文化に対する理解を深め、意見や解説を述べるようになることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 映画に関する知識を拡大できる。
2. 映画に関する意見や解説を述べるができる。
3. 映画を考察する力を向上させることができる。
4. 複数の映画に対して視点を設定し、その視点で比較することができる。
4. 映画について考える喜びを実感できる。

< 授業のキーワード >

映画、比較、画面、物語

< 授業の進め方 >

授業内で映画作品を鑑賞していただき、教員が解説をします。受講者の皆さんには毎回の授業で小レポートを提出していただきますので、作品に対する意見、感想、質問などを記述して提出して下さい。

< 履修するにあたって >

授業内で取り上げた作品についてしっかりと考察して下さい。深読みでも構いません。また、授業内で取り上げた作品同士の類似点、相違点を探すことを心がけて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習

第1回および主題に「その1」とある回の前はどのような作品が取り上げられるかを予想して下さい。主題に「そ

の2」とある回の前は構成や展開を予想して下さい（10分程度）。

事後学習

気になった点や疑問点などを自分なりにまとめるようにして下さい。なお、事後学習では授業で取り上げた作品同士を比較し、類似点、相違点を自分なりにまとめることを意識して下さい（50分程度）。

< 提出課題など >

小レポートには、作品に対する意見、感想、質問などを記述して提出して下さい。小レポートに関する教員のコメントを紙もしくはdotCampusにてお返しします。小レポートに書かれた内容のいくつかは、次の時間に匿名で紹介し、教員が答えられるものは答えます。ただし匿名であっても紹介されたくない場合は、その旨を記述して下さい。第15回の授業で提出された小レポートに関してはdotCampusを利用します。

また学期末には期末レポートを提出していただきます。期末レポートに関しては、記述のポイントについての解説を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

小レポート45%、期末レポート55%。

< テキスト >

特に使用しません。

< 参考図書 >

授業中、適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 アクション

アクションについての考察のための作品を取り上げ、教員が解説します。

第2回 アクション その1

第1回とは別の作品を取り上げます。

第3回 アクション その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説と、本テーマで取り上げた二作品の比較をします。

第4回 戦うこと、そして他者への理解 その1

私たちは他者を理解しようとしながら、そして他者に理解されようとしながら生きています。そうしたことを「戦うこと」ということを通して考察します。この考察のための作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第5回 戦うこと、そして他者への理解 その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説をします。

第6回 戦うこと、そして他者への理解 その1

第4回、第5回とは別の作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第7回 戦うこと、そして他者への理解 その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説と本テーマで取り上げた二作品の比較をします。

第8回 家族 その1

映画は多くの家族を描いてきましたが、描き方は様々です。この考察のための作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第9回 家族 その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説をします。

第10回 家族 その1

第9回、第10回とは別の作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第11回 家族 その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説と本テーマで取り上げた二作品の比較をします。

第12回 笑い その1

映画を観て笑うということについて考察するための作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第13回 笑い その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説をします。

第14回 笑い その1

第13回、第14回とは別の作品を取り上げ、教員が作品解説をします。

第15回 笑い その2

前回取り上げた作品の続きを鑑賞します。そして教員が作品解説と、本テーマで取り上げた二作品の比較、講義全体のまとめを行います。

2022年度 後期

2単位

比較文化研究

上田 学

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学部のDPが示す、「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」ことを目指すものである。具体的には、多様な地域文化に根ざした映画作品を通じて、自らの拠って立つ文化を相対化し、異なった価値観の存在を尊重するための専門知識を身につけることを目的とする。

・本授業は、人文学科の専門教育科目（2年次配当）に位置づけられる。欧米とアジアを中心に映画作品を分析し、各作品の表現形式および歴史的・社会的背景を考慮することで、それぞれの地域文化への理解を深める。

< 到達目標 >

1. 地域文化と結びついた映画作品の表現が、どのような歴史的・社会的背景に根ざしたものであるのかを、具体的に自ら説明することができる。
2. 映像を分析し、自ら解釈するための知識を身につけ、それにもとづく自分の考えを文章として表現することが

できる。

< 授業のキーワード >

映画史

< 授業の進め方 >

・基本的にPower Pointを使った講義形式で授業を進める。適宜、必要な映画作品の抜粋を提示する。

・授業の理解度を把握するために、毎回の授業で前回授業に関する小課題を、第5・10回の授業で小レポートを提出してもらう。

・毎回配布する資料について、予習、復習に活用すること。

・出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< 履修するにあたって >

本授業は、特に専門知識を必要としないが、日本映画と外国映画の影響関係を講義する「比較文化研究IV」（3年次配当科目）と関連している。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：授業の時間は限られているため、事前に映画作品の視聴を指示することがある。（90?120分）

事後学習：毎回の授業で配布する資料を復習に活用すること（一回の授業につき目安として60分）。小課題・小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 提出課題など >

小課題（毎回）、小レポート（第5回・第10回）、期末レポート（第15回、2800字以上、規定字数に到達しないレポートは受領しない）。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 成績評価方法・基準 >

小課題（前回授業の内容・キーワードについて、2点×15回）30%、小レポート（10点×2回）20%、期末レポート50%で評価する。

毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< テキスト >

特に定めない。毎回の授業で資料を配布する。

< 参考図書 >

四方田犬彦『映画史への招待』岩波書店、2000年
ジャン=ミシェル・フロドン著、野崎歓訳『映画と国民国家』岩波書店、2002年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全体的な概要、進行方法と成績評価の基準について説明する。

第2回 フランス初期映画と演劇文化

映画が発明されたフランスで発達した芸術映画と、演劇文化との関係について考える。

第3回 古典的ハリウッド映画
世界の映像文化を一変させたアメリカ合衆国の古典的ハリウッド映画について考える。

第4回 ロシア・アヴァンギャルドとソヴィエト映画
ロシア革命で出現したソヴィエト映画の試みと、アヴァンギャルドとの関係を考える。

第5回 イギリスのドキュメンタリー映画
イギリスで発生したドキュメンタリー運動と、その国際的な広がりについて考える。

第6回 ドイツ映画の表現主義
戦間期のドイツ映画にみられた表現主義の形式と背景について考える。

第7回 イタリア映画のネオレアリズモ
第二次世界大戦後のイタリアの現実が生み出したネオレアリズモについて考える。

第8回 ニューヴェル・ヴァーグ1
批評にもとづく作家主義の出現が、映像文化にもたらした意義について考える。

第9回 ニューヴェル・ヴァーグ2
前回に続き、批評にもとづく作家主義の出現が、映像文化にもたらした意義について考える。

第10回 チェコのアニメーション
独自の発達を遂げたチェコのアニメーション映画の特質について考える。

第11回 フェリーニとヴィスコンティ
ネオレアリズモから出発した二人の監督が開拓した、新たなイタリア映画の到達点について考える。

第12回 台湾ニュー・ウェーブ
多文化が交錯するなかで生み出された台湾ニュー・ウェーブについて考える。

第13回 第五世代の中国映画
中国映画・香港映画の歴史と、第五世代映画人の活躍について考える。

第14回 ニュー・ジャーマン・シネマ
ドイツのニュー・シネマなどを紹介しつつ、映画史の展開について考える。

第15回 まとめ
地域文化に根ざした映画作品の表現と、その歴史的・社会的背景についてまとめる。

2022年度 前期

2単位

比較文化研究

上田 学

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学部のDPが示す、「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に

身につけている」ことを目指すものである。具体的には、過去の映像文化の多様な試みについて知見を深めることで、現在の映像文化を捉え直す「メディア考古学」の考え方を身につける。

・本授業は、人文学科の専門教育科目（3年次配当）に位置づけられる。過去の映像は、現在の私たちにとって、決して無関係ではなく、むしろ将来の様々な映像の可能性を示唆している。19世紀後半から20世紀前半までの日本の映像文化を学びながら、現在の映像文化を再考する。
< 到達目標 >

1. 現代に生きる私たちにとって「他者」である、過去の映像文化を理解することで、現在の映像文化を捉え直し、未来の映像文化と向き合うための知識を身につける。
2. 過去の映像を分析し、解釈するための方法を理解し、自らの考えを文章として表現することができる。

< 授業のキーワード >

映画史

< 授業の進め方 >

基本的にPower Pointを使った講義形式で授業を進める。適宜、必要な映画作品の抜粋を提示する。

・授業の理解度を把握するために、毎回の授業で前回授業に関する小課題を、第5・10回の授業で小レポートを提出してもらう。

・毎回配布する資料について、予習、復習に活用すること。

・出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：授業の時間は限られているため、事前に映画作品の視聴を指示することがある。（90?120分）

事後学習：毎回の授業で配布する資料を復習に活用すること（一回の授業につき目安として60分）。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 提出課題など >

小課題（毎回）、小レポート（第5回・第10回）、期末レポート（第15回、2800字以上、規定字数に到達しないレポートは受領しない）。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 成績評価方法・基準 >

小課題（前回授業の内容・キーワードについて、2点×15回）30%、小レポート（10点×2回）20%、期末レポート（2800字以上）50%で評価する。

出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小テスト、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< テキスト >

特に定めない。毎回の授業でプリントを配布する。

< 参考図書 >

長谷正人編『映像文化の社会学』有斐閣、2016年
光岡寿郎・大久保遼編『スクリーン・スタディーズ デジタル時代の映像 / メディア経験』東京大学出版会、2019年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的、到達目標、進め方および成績評価の基準について説明する。

第2回 絵であること / 写真であること

写真油絵など、19世紀に出現した絵画と写真の中間的な表現から、映像文化の定義を考える。

第3回 映像のフィクション / ノンフィクション

私たちが常識としている映像のフィクション / ノンフィクションの区分について再考する。

第4回 江戸時代の映像文化

写真や映画といった複製技術以前から存在した、多様な映像文化の魅力について学ぶ。

第5回 映像のオリエンタリズム

映画が発明されてから、なぜそれがすぐに日本に伝来したのか、その政治性を考える。

第6回 地域が生み出す映像文化

東京と京都という日本映画の製作拠点が、地域とどのように結びついて成立したのかを学ぶ。

第7回 無声映画の音

無声映画という映像表現の特徴と、その時代にみられた、多様な音の実践について考える。

第8回 政治のなかの文化映画

亀井文夫と三木茂の「ルーペ論争」が、どのような映像の問題を提示しているのかを考える。

第9回 ドキュメンタリー映画1

ドキュメンタリー映画という新たな概念が出現した歴史的経緯を考える。

第10回 ドキュメンタリー映画2

前回到引き続き、ドキュメンタリー映画という新たな概念が出現した歴史的経緯を考える。

第11回 神戸や京都の映画史跡

映画が初輸入された神戸や、現在も撮影所を抱える京都と映画史の関係を考える。

第12回 フィルム・アーカイブ

映画を収集・保存・公開する、フィルム・アーカイブという施設の意義と役割を考える。

第13回 スクリーンの多様性

スクリーンという概念が、いかに変化し、現代社会に結びついているのかを通時的に考える。

第14回 デジタル時代の記録映画

デジタル配信が進む現代の映像文化に、記録映画がどのような可能性をもっているのかを考える。

第15回 まとめ

授業全体のまとめをし、今後の研究に向けた関連文献の

紹介をおこなう。

2022年度 後期

2単位

比較文化研究

上田 学

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学部のDPが示す、「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」ことを目指すものである。具体的には、過去の映像文化の多様な試みについて知見を深めることで、現在の映像文化を捉え直す「メディア考古学」の考え方を身につける。

・本授業は、人文学部の専門教育科目（3年次配当）に位置づけられる。日本映画は、いかに外国映画の影響を受け、また影響を与えたのか。身近な映像文化である日本映画の表現が、どのような文化的複合性において形成されたのかを学ぶことで、文化の越境性を理解する。

< 到達目標 >

1. 文化の固有性を疑い、それがメディアやナショナリティを超えた、様々な影響関係のなかで歴史的に形成されたものであることを、具体的な日本映画の表現から説明することができる。
2. 映像を分析し、自ら解釈するための知識を身につけ、その知識を文章として表現することができる。

< 授業のキーワード >

映画史

< 授業の進め方 >

- ・基本的にPower Pointを使った講義形式で授業を進める。適宜、必要な映画作品の抜粋を提示する。
- ・授業の理解度を把握するために、毎回の授業で前回授業に関する小課題を、第5・10回の授業で小レポートを提出してもらう。
- ・毎回配布する資料について、予習、復習に活用すること。
- ・出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< 履修するにあたって >

本授業は、特に専門知識を必要としないが、地域文化に結びついた映画作品を講義する「比較文化研究II」（2年次配当科目）と関連している。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：授業の時間は限られているため、事前に映画作品の視聴を指示することがある。（90分120分）

事後学習：毎回の授業で配布する資料を復習に活用する

こと（一回の授業につき目安として60分）。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 提出課題など >

小課題（毎回）、小レポート（第5回・第10回）、期末レポート（第15回、2800字以上、規定字数に到達しないレポートは受領しない）。小レポートは講評するので、期末レポート作成の参考とすること。

< 成績評価方法・基準 >

小課題（前回授業の内容・キーワードについて、2点×15回）30%、小レポート（10点×2回）20%、期末レポート（2800字以上）50%で評価する。

出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席しても、毎回の小テスト、二回の小レポート、一回の期末レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得できない。

< テキスト >

特に定めない。毎回の授業でプリントを配布する。

< 参考図書 >

山本喜久男『日本映画における外国映画の影響 比較映画史研究』早稲田大学出版部、1983年

デイヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンブソン著、藤木秀朗監訳『フィルム・アート』名古屋大学出版会、2007年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全体的な概要、進行方法と成績評価の基準について説明する。

第2回 日本映画の誕生 1 神戸と映画

日本で最初に映画が輸入された神戸と、映画史との関係について考える。

第3回 日本映画の誕生 2 初期映画

映画が、どのような文化的土壌のなかで、日本に定着していったのかを考える。

第4回 日本映画への影響 1 新派映画

新派映画というジャンルと、東アジアの演劇文化との関係について考える。

第5回 日本映画への影響 2 活弁

活弁という芸能が、日本映画の形式に与えた影響を考える。

第6回 日本映画への影響 3 時代劇映画

時代劇映画というジャンルが、いかなる外国映画の影響において成立したのかを考える。

第7回 日本映画への影響 4 衣笠貞之助

サイレント時代の衣笠貞之助の監督作品と、ドイツ表現主義の影響について考える。

第8回 日本映画への影響 5 映画館

映画館という受容空間の形態が、日本映画に与えた影響について考える。

第9回 日本映画からの影響 1 溝口健二

戦後の今井正の監督作品と、イタリアのネオレアリズモ

の影響について考える。

第10回 日本映画からの影響 2 小津安二郎

溝口健二の監督作品にみられる「ワン・シーン＝ワン・ショット」の形式について考える。

第11回 日本映画からの影響 3 黒澤明

小津安二郎の監督作品の特徴的な諸形式（ロー・ポジション等）について考える。

第12回 日本映画からの影響 4 特撮映画

黒澤明の監督作品にみられる映画的リアリティとヒューマニズムについて考える。

第13回 日本映画からの影響 5 押井守

東宝を中心とした日本の特撮映画について、その系譜と影響を考える。

第14回 デジタル・シネマ

DCPへの上映方式の変化など、デジタル・シネマが日本の映像文化をいかに変えたのかを考える。

第15回 まとめ

映像文化の越境性について、講義のまとめをおこなう。

2022年度 前期

2単位

比較文化特別講義

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

対面講義

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学科のDPが示すとおり、専門的な「知識・技能」を身につけ、自立的な「思考力・判断力・表現力」と、他者への公正な「主体性・協働性」を養うための実習科目である。

・私たちの周囲にある映像文化、とりわけ映画が、身近な地域とどのように関わり合いながら、歴史的に形成されてきたのかを学ぶことで、映像文化への関心を高め、その知識を修得する。

・各自の関心にあわせて、適切なテーマを設定し、情報の収集と分析をおこない、それを自らプレゼンテーションや文章としての確に表現できるようにする。

< 到達目標 >

1. 人文学の基礎となる調査・分析、およびプレゼンテーションを、受講生自らがおこなうための手段を身につける。

2. 身近な地域に関わる映像文化の歴史と現状について、具体的な表現・事例への関心をもつ。

3. 映像資料を、どのように保存活用することができるかどうかについての知識を修得する。

< 授業の進め方 >

2回のフィールドワークとその準備のための講義

< 履修するにあたって >

感染症拡大の防止のためキャンパスが封鎖されたため本

授業はアプリケーションのZoomを用いて行う。受講生は必ずこのアプリケーションを受講するとき用いる端末にインストールしておくこと。配布物は各自で印刷することになるのでプリンターが使える環境を用意する必要がある。またネットワーク環境の悪化したときのために代替処置を用意する必要があるため、担当教員によるメールまたはdotCampusにおける指示に注意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：プレゼンテーションを作成するための準備は、各自で授業時間外に進めること。

事後学習：授業で配布するプリントを復習に活用すること（一回の授業につき目安として60分）。受講生のプレゼンテーションは講評するので、レポートに向けた準備の参考とすること。

< 提出課題など >

期末レポート、プレゼンテーション

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーション・質疑応答25%、フィールドワーク・プレゼンテーション準備25%、期末レポート50%で評価する。

< テキスト >

特に定めない。適宜プリントを配布する。

< 参考図書 >

特に定めない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

受講生各自の自己紹介と、グループおよびプレゼンテーションの日程を確定する。また授業の方針を説明し、あわせて映像文化における映画の位置づけを解説する。

第2回 関西の映画史を学ぶ1 神戸

日本映画史の始まりの地について、かつて存在した近隣の撮影所等も含め、映画との関係を学習する。

第3回 身近な映像文化を知る1 テーマ選択

新開地の映画館街に関する講義後、受講生はグループに分かれ、特定の映画館跡をテーマに選択する。

第4回 身近な映像文化を知る2 フィールドワークの準備

フィールドワークの予備調査の方法を学び、グループで選択した映画館跡を対象に実践する。

第5回 身近な映像文化を知る3 新開地のフィールドワーク

新開地において、グループごとに、選択した映画館跡についてのフィールドワークを実施する。（第6回と連続）

第6回 身近な映像文化を知る3 新開地のフィールドワーク

新開地において、グループごとに、選択した映画館跡についてのフィールドワークを実施する。（第5回と連続）

第7回 身近な映像文化を知る4 収集データの整理・分析

予備調査およびフィールドワークで収集したデータを整理・分析し、プレゼンテーションを準備する。

第8回 プレゼンテーションと質疑応答1

グループ・ワークで調査した内容をプレゼンテーションし、質疑応答する。

第9回 プレゼンテーションと質疑応答2

グループ・ワークで調査した内容をプレゼンテーションし、質疑応答する。

第10回 関西の映画史を学ぶ2 京都

現在も撮影所を抱える、代表的な映画都市について、時代劇というジャンルを中心に学習する。

第11回 身近な映像文化を知る5 京都の映画史跡とテーマ選択

京都の映画史跡に関する講義後、受講生はグループに分かれ、特定の史跡をテーマに選択する。

第12回 身近な映像文化を知る6 フィールドワークの準備

京都の映画史跡に関する予備調査のグループ・ワークをおこなう。

第13回 身近な映像文化を知る7 京都のフィールドワーク

京都において、グループごとに選択した映画史跡、およびフィルム・アーカイブについてのフィールドワークを実施する。（第14回と連続）

第14回 身近な映像文化を知る7 京都のフィールドワーク

京都において、グループごとに選択した映画史跡、およびフィルム・アーカイブについてのフィールドワークを実施する。（第13回と連続）

第15回 まとめ

授業のまとめ、講評をおこない、映画をとりまく課題と可能性について解説する。

2022年度 後期

2単位

比較文化特別講義

橋本 貴

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

また、この科目の担当者は、文書情報管理士、公認デジタルアーキビストの資格を持ち、企業において資料保存、

文書情報管理、デジタルアーカイブ構築などの実務に携わっている実務経験のある教員である。

実務経験から得た情報検索における知見や専門的技術についても積極的に講義内容に取り入れて、受講者がより実践的な知識と技術を修得できるようわかりやすく伝えていきたい。

<到達目標>

(1)インターネットを使った情報検索において目的にあった適切な方法を取り、効率のよい調査ができる知識とスキルを身につけること。

(2)インターネット上のさまざまなデータサービスを利用することを通して、ネット上で触れることのできる様々な文化の多様性を理解し、自分から積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

<授業のキーワード>

情報検索 データベース 論理演算子 データ加工 メディアリテラシー

<授業の進め方>

講義・演習形式で進める。

講義内容に応じて適宜演習課題を課すので、受講者には自分でPCなどの機材を操作して課題に取り組んでもらいます。

実技演習課題の作成を通して、テキストやその他のデータの整形や加工といったデータ処理の基本的な操作法を習得してもらう予定です。

<履修するにあたって>

1. インターネットとPCを利用した講義ですので学内情報システムのアカウントを毎時間必ず持つてくること。

2. 学内学習支援システム (dotCampus) を使用して授業内で利用するデータ、サイトなどを指示します。また課題もdotCampusより提出してもらいます。重要な連絡などもdotCampusより行いますので毎回の授業当日までに必ずdotCampusを確認するとともにdotCampusからの通知にも注意するようにしてください。

3. 急な予定変更や重要な連絡に関しては大学のメールアドレス宛に連絡する場合がありますので、大学のメールを使用できるようにしておいてください。

4. 授業では実際にPCを操作して演習や課題作成を行ってもらいます。履修者のスキルに合わせて丁寧に操作法を指導する予定ですが、Windows10、Office系ソフトの基本的な操作に慣れておくようにしてください。

5. 授業は情報処理実習室で行う予定ですが、予習・復習などのために各自で最低限インターネットとWord、Excelが使用できる環境を整えておいてください (Word、Excelは本学のMicrosoft 365アカウントで無料でインス

トールできます)。

6. 履修者のPC操作の習熟度、授業内容の理解度に応じて授業の進行や課題内容を見直す場合があります。

7. 授業内容に関する質問や連絡事項はdotCampusもしくはメールでも受け付けます。

わからないことなどは遠慮なく質問してください。

<授業時間外に必要な学修>

講義主体の回ではテキストの指定箇所を予習しておくこと。予習範囲は授業時間内に指示します。

また授業終了後は学習内容の復習をおこなうこと。

演習主体の回では授業内で学習した操作方法などを復習として各自で繰り返し練習しておくように。

課題は講義内容、指示内容を踏まえできるだけ完成度の高いものを提出できるようにすること。

それぞれの予習復習の時間は1時間程度を目安とします。

<提出課題など>

授業内容に応じて適宜実技演習を行う。演習課題はWordでのレポート形式やExcel データなどでdotCampusへ提出する。

各課題の提出期限は授業内で指示する。期限を厳守すること。

提出された課題に対するフィードバックとして各課題ごとに完成見本、模範解答例などを提示し、特に注意すべき点などを次回以降の授業内で解説を行います。

<成績評価方法・基準>

授業への参加度 (授業への取り組み、課題作成への取り組み、課題の完成度) 40%

各回におこなう実技演習課題に対する評価 (課題作成への取り組み、課題の完成度、操作法の習得度合いなど) 60%

以上を基準に総合的に判断する。

定期試験は行わない。

<テキスト>

中島玲子, 安形輝, 宮田洋輔. スキルアップ! 情報検索 基本と実践 新訂第2版. 日外アソシエーツ, 2021年1月, 200p.

神戸学院大学情報支援センター編. 情報活用の基礎 :

- これだけは知っておきたいコンピューターの使い方 -

. 2022年度版, 神戸学院大学情報支援センター, 2022年. <https://www.kobegakuin.ac.jp/~ipc/top/textbook/index.html>, (PDF版).

<参考図書>

吉井隆明, 森美由紀, 原田智子編. 検索スキルをみがく
検索技術者検定3級 公式テキスト. 第2版, 樹村房,
2018, 147p. 監修 一般社団法人情報科学技術協会.

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨ

後期授業の進め方について説明をします。

またこの講義の主題の一つである情報検索とはどういうことなのかについての簡単な説明をおこないます。

第2回 データベースと検索の仕組み

この講義で扱う情報検索とはどういうことなのかを解説し、情報検索を行う上で必須となるデータベースの基本的な知識を身につけてもらいます。

第3回 論理演算子について

複雑な検索を実行する場合に使用する論理演算子と検索式(クエリ)について学習します。

第4回 自由語と統制語、情報検索の種類

情報検索に用いる検索語と情報検索の種類について学習します。

第5回 サーチエンジンについて

サーチエンジンの仕組みと問題点について学習します。

第6回 インターネットの基礎知識

Web ページが表示される仕組み、URLやドメインといったインターネットの基本的事項を学習します。

第7回 詳細検索オプションについて

サーチエンジンやデータベースの詳細検索オプションについて学習します。

第8回 情報検索で得られた情報の利用

情報検索の結果を利用するために必要な知識として参考文献(参考文献、引用文献)について、その意味と注意事項を学習します。

第9回 情報検索で得られた情報の利用

書籍を対象とした文献検索の方法を演習を通して学習します。

第10回 情報検索で得られた情報の利用

論文、ジャーナルなどの雑誌記事を対象とした文献検索の方法を演習を通して学習します。

第11回 情報検索で得られた情報の利用

神戸学院大学で利用できるオンラインデータベースを使った演習を行います。

第12回 情報検索で得られた情報の利用

Web上の様々なデジタルコンテンツの利用法について演習を通して学習します。

第13回 情報検索で得られた情報の利用

データベースから出力されるテキストデータなどの応用的な利用法について演習を通して学習します。

第14回 Web アーカイブについて

Webの情報(サイト等)を「資料」として収集して保存、公開している「デジタルアーカイブ(Webアーカイブ)

」について学習します。

第15回 よりよい情報検索とはどういうことなのか
これまで学んできた内容を整理し、情報検索にどのように活かしてゆくのかを考えます。

2022年度 前期

2単位

比較文化論

田中 晋平

< 授業の方法 >

対面授業(講義)で実施する。

授業の内容にかんする質問などは、下記のメールアドレスにて問い合わせること(課題・コメントシート、レポートなどの提出は、dotCampusで行うこと)

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 遠隔授業を実施。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動すること。

学期開始前や授業期間内でコロナウイルスの状況が悪化した場合は、ハイブリッド授業あるいは遠隔授業へ移行する。

< 授業の目的 >

・本授業は、人文学部のDPが示す、「人間の行動や文化を学際的に研究し教育することにより、現代社会の大きな変化に対応しうる人材の育成をめざし」、その目標を達成するための能力の修得を目指すものである。

・授業ではドキュメンタリー映画の歴史を紐解いていく。19世紀末に誕生した映画は、大衆の娯楽として世界中で親しまれるとともに、異なる文化圏との接触や他者との出会いの記録を提供してきた。文化に対する「窓」でもあるドキュメンタリーの役割を考え、さまざまな視点を含めた映像作品の紹介・分析を通して、多様な文化についての感性や認識を広げていくことを目指す。

< 到達目標 >

ドキュメンタリー映画が歴史的にどのような展開をみせ、多様な文化的事象を記録し、優れた映像作品を生み出したのかを学び、異なる文化への理解を深める基礎的な視座を身に付ける。

< 授業の進め方 >

・パワーポイントでスライドを提示する形式で進める。

・ドキュメンタリーの歴史上重要な映画作品のショット、場面なども適宜提示し、解説を行う。

・授業の理解度を把握するため、学生に課題とコメントカードを記入し、提出してもらう。

<履修するにあたって>

事前に専門とする知識などは必要ない。映画を観ることへの興味だけでなく、その経験を豊かにする言葉のあり方について、関心を寄せていることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

指定した映画や資料に予め目を通しておいてもらう場合がある(90?120分)

<提出課題など>

課題・コメントシート(毎回)、学期末レポート

学生から提出されたコメントに対しては、次回の授業開始時にフィードバックを行い、理解度を高める

<成績評価方法・基準>

課題・コメントシートの内容40%、学期末レポート60%

<テキスト>

特に定めない。オンラインストレージを活用して資料配布を行う場合がある。

<参考図書>

エリック・バーナウ『ドキュメンタリー映画史』安原和見訳、筑摩書房、2015年。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義全体の内容の紹介、評価方法についての詳しい解説を行う。

第2回 初期映画の記録性

リュミエール兄弟が生み出したシネマトグラフに記録された世界各国のイメージを通して、初期映画に求められた役割を考える

第3回 ロバート・フラハティの映画

『極北のナヌーク』と『モアナ』の2作品を中心に、のちの記録映画の歴史に連なる第一歩となった、フラハティの映画を読み解く。

第4回 イギリス・ドキュメンタリー運動

「ドキュメンタリー」という用語を活用しはじめたジョン・グリアソンやポール・ローサーの手掛けた映画とその理論を検討する

第5回 文化映画

戦前の日本で「文化映画」という呼称の下に生まれた科学映画、教育映画などの役割について考えていく

第6回 文化映画

日本の「文化映画」から、映画と戦争プロパガンダの関係について考える

第7回 シネマ・ヴェリテ/ダイレクトシネマ

映画カメラの存在を前景化するシネマ・ヴェリテの方法を中心に、第二次大戦後の新たなドキュメンタリーの潮流を紹介

第8回 映像人類学の発展

ジャン・ルーシュらが発展させてきた「映像人類学」という学問とその映像を検討する

第9回 映像人類学の発展

日本における民俗学と映像記録との関係、その歴史的な

展開について考える

第10回 テレビと記録

テレビ放送の初期から試みられてきたドキュメンタリー映像の特徴について、映画との比較も含めて検討する

第11回 社会運動とドキュメンタリー

日本のドキュメンタリー作家である土本典昭や小川プロダクションの活動を中心に、ドキュメンタリー映画の自主製作とその上映運動の展開をみていく

第12回 パーソナル・ドキュメンタリー

映像制作に必要な機材が簡易化され、日常やパーソナルな主題を掲げたドキュメンタリーが追求されていく傾向と時代状況について考える

第13回 アート・ドキュメンタリー

さまざまな表現領域を紹介し、なおかつそれ自体が映像作品としての評価を得てきた、アート・ドキュメンタリーの歴史と可能性について学ぶ

第14回 ドキュメンタリー映画の祭典

国際的なドキュメンタリーの祭典というイベントに焦点を合わせ、その空間で生じる異文化交流のかたちをみる

第15回 全体のまとめ

授業内容の確認とまとめ

2022年度 後期

2単位

比較文化論

大野 藍梨

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本授業は、人文学部のDPが示す「複数の分野の基礎知識を教養として身につけ」、「獲得した知識を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析をとおして解決・解明へと導く」ことを目的とする。

<到達目標>

比較文学の考え方を説明できる。 比較文学的視点から文学批評のレポートを作成できる。

<授業のキーワード>

比較文学、黒人文学、クレオール文学、病の文学。

<授業の進め方>

講義を中心に進める。毎回100字程度で答えられる課題を課す(作品の感想、用語の説明、ミニ創作など)。次の授業の冒頭で、課題のフィードバックを行った後、授業を進めていく。

<履修するにあたって>

第1回~第3回は、ウィーダ『フランダースの犬』A Dog of Flanders(1872年)を事例に、比較文学研究の基礎となる、「受容・影響」「翻案」について学ぶ。第4回以降は文学研究の様々なテーマについて、実際にテキストを読み解きながら学んでいく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習：積極的に文学作品を読むこと。期末レポート作成のためにも、扱いたい文学作品を読んで準備してほしい。

< 提出課題など >

【毎回】100字程度で答えられる課題を課す（作品の感想、用語の説明、ミニ創作など）。【期末レポート】比較文学的視点から文学批評のレポート（2,000字以上）を課す。

< 成績評価方法・基準 >

各回の課題：3点×15回＝45点 / 期末レポート：55点満点。

< テキスト >

特に定めない。毎回授業で配布する。

< 参考図書 >

渡邊洋『比較文学研究入門』世界思想社、1997年。小倉孝誠編『世界文学へのいざない 危機の時代に何を、どう読むか』新曜社、2020年。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業のねらい、進め方、成績評価について確認。

第2回 比較文学とは 受容と影響

『フランダースの犬』は、日本においてどのように受容されたかについて学ぶ。

第3回 比較文学とは 翻案

『フランダースの犬』の翻案についてどのようなものがあるか学び、各自の創作した翻案（課題）を互いに読む。

第4回 ピカレスク小説

ピカレスク小説（悪漢小説）とはどのようなものか学ぶ。

第5回 私小説

私小説（自伝的小説）とはどのようなものか学ぶ。

第6回 スレイブ・ナラティブ

スレイブ・ナラティブ（奴隷体験記）とはどのようなものか学ぶ。

第7回 黒人文学

黒人文学に登場する「祖母と孫」の関係について学ぶ。

第8回 女中文学

女中を描いた文学作品について学ぶ。

第9回 クレオール文学

カリブ海（マルチニック）の黒人作家による文学作品について学ぶ。

第10回 クレオール文学

カリブ海（グアドループ）の黒人作家による文学作品について学ぶ。

第11回 クイア文学

クイアを描いた文学作品について学ぶ。

第12回 ホロコースト文学

ホロコーストを描いた文学作品について学ぶ。

第13回 沖縄文学

沖縄を描いた文学作品について学ぶ。

第14回 病の文学

病を描いた文学作品について学ぶ。

第15回 病の文学 / 総括

病を描いた文学作品について学ぶ。 / これまでのまとめを行う。

2022年度 前期

2単位

比較文化論

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

対面講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

人文学部専門科目に属し、内容はさらに発展して後期の文化交流論IVへと連結する。喫茶文化を比較文化論的に理解し、異文化の衝突とハイブリッド化を理解することが目的である。

< 到達目標 >

日常的なコモデティに学術的な関心を抱き、その文化的成立の過程を学際的に分析する能力を獲得する。

文化の構成が決して一面的なものではなく、その大半がハイブリッド化によって成立することを学習する。

グローバル化を促す要因と、それがもたらす否定的な側面に自覚できる視点を備える。

< 授業の進め方 >

受講者は講義動画（60分）を視聴して内容を理解する。その後に確認設問＋質問用サイト（30分に該当）へ行き、各自内容確認し質問を行う。

講義動画と確認設問＋質問用サイトは木曜・土曜の3日間公開。

< 履修するにあたって >

配信される講義動画を視聴可能なネット環境が必要。

< 授業時間外に必要な学修 >

内容確認に約1時間

< 提出課題など >

レポート

< 成績評価方法・基準 >

レポートのみ100%。レポートは学期末に10,000字以上（脚注、文献目録を含む）の提出が求められる。毎週行う確認設問はあくまで参考に留める。従って理論的には確認設問に一度も答えてなくても合格する可能性はある。しかしかなり綿密な内容で大量のレポートを求められるので、確認設問や質問で理解度の自己確認を重ねていかないと及第は難しい。

< 授業計画 >

- 第1回 講義全体のスケジュールリング
講義全体のスケジュールと評価方法を詳細に説明
- 第2回 オンライン教材の稼働の確認
講義に使用するオンライン教材の使用方法を説明し、それらの稼働を確認する。またチーム学習のためのチームを編成。
- 第3回 問題点の提起と討議
講義で問うべき問題点を教員側から提起し、チームごとに討議して結果を予想する。
- 第4回 茶の効用とその起源
食中飲料とは何か / 中華文明起源ではないこと
- 第5回 仏教の伝播と飲茶
仏教との関係 / カフェインの効果
- 第6回 ヨーロッパに入った茶#1
イギリスでの定着と需要の拡大
- 第7回 ヨーロッパに入った茶#2
オランダ式飲茶 / 大英帝国圏内での栽培の試みと失敗
- 第8回 インドにおける茶栽培#1
アッサムで最初の茶園が開かれるまでの試行錯誤 / アッサムの地理的環境
- 第9回 インドにおける茶栽培#2
茶栽培の拡大と南インドの茶栽培 / コーヒー栽培との関係、複合農法
- 第10回 インドにおける茶栽培#3
薬種、ブランデー、穀物由来蒸留酒 / 植民地の拡大と蒸留酒
- 第11回 茶以前にヨーロッパ人は何を飲んでいたか
いかにしてチャイはインドの国民的飲料となったか
- 第12回 蒸留酒の発明
薬種、ブランデー、穀物由来蒸留酒 / 植民地の拡大と蒸留酒
- 第13回 ジンとその変遷
ジェニヴァーとジンのイギリスにおける定着
- 第14回 英国喫茶文化
アパーミドルの喫茶習慣と文化
- 第15回 最終確認テスト
- 12回内容確認テスト

2022年度 後期

2単位

比較文化論

松川 雅信

< 授業の方法 >

講義形式で行う。

< 授業の目的 >

人文学部のディプロマ・ポリシーにある「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重」という目標を達成するため、儒教を素材にして、日本の近世～近代にお

ける思想・文化を、東アジアとの関わりを視野に入れてついで見ていく。儒教は古代中国で発生した思想・文化であるが、その影響は反発も含め、東アジア全域、ひいては西洋世界にまで及んでいる。儒教を素材にすることで、比較史的な視座から日本の思想・文化に迫っていきたい。

< 到達目標 >

儒教についての基本的理解を得ることができる。日本の思想・文化を東アジアという観点から捉えることができる。

< 授業の進め方 >

講義形式で行い、授業後には毎回ミニレポートの提出を課す。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習は特に必要ないが、授業中に講義内容に関連する参考資料を示す場合がある。それらを読んで復習し、講義内容への理解を深めておくことが望ましい。

< 成績評価方法・基準 >

ミニレポート30%、期末レポート70%。いずれも、講義内容を正しく理解できているかを評価基準とする。ただし、ミニレポートの提出回数が3分の2以下の場合は、単位を与えない。

< 授業計画 >

- 第1回 儒教とは何か
儒教に対する誤った固定観念を払拭したうえで、その発生と展開について概観する。
- 第2回 朱子学とは何か
宋代中国で成立し、以後、近世東アジアにおける知の基盤となっていった朱子学について概観する。
- 第3回 朱子学は江戸幕府の体制教学だったのか
近世日本の政治・社会体制の本質を「武国」と見ることににより、「朱子学 = 体制教学」論を批判的に検討する。
- 第4回 近世初期における朱子学の受容と展開
「武国」だった近世日本においても朱子学の受容が可能だった要因について、当該期東アジアの国際環境と国内の文化状況から考える。
- 第5回 朱子学と仏教・神道
近世日本で受容された朱子学が、それまで存在していた仏教・神道とどのような関係性を築いていったのかについて、三者が競合する場としての葬礼を素材に考える。
- 第6回 朱子学批判と「復古」
伊藤仁斎の朱子学批判と「復古」の主張について、学問都市としての京都の地域性を踏まえつつ考える。
- 第7回 朱子学批判と「復古」
荻生徂徠の朱子学批判と「復古」の主張について、政治都市としての江戸の地域性を踏まえつつ考える。
- 第8回 国学の成立
儒教を批判して「日本の固有性」を主張した国学が、実は徂徠学の思考法を継承しつつも、それを反転することによって成立していたことについて見る。
- 第9回 朱子学の復活と「政治化」

伊藤仁斎や荻生徂徠や国学によって否定された朱子学の、近世後期における復活という問題を、その「政治化」という観点から考える。

第10回 幕末にとっての儒教

「対外危機」が自覚されるなか、幕末へと至る思想・政治潮流がどのように形成されていったのかについて見る。

第11回 幕末にとっての儒教

ペリー来航以降の幕末日本において儒教が果たした役割につき、諸潮流に即しながら検討する。

第12回 東アジアにおける儒教の諸相と、それを見た西洋人

ここまでの近世日本を対象とした授業内容を、同時代の東アジア諸地域（中国・韓国・ベトナム・琉球）の場合と比較するとともに、それを当時の西洋人がどう見ていたのかについて紹介する。

第13回 儒教用語の近代

儒教に由来する「封建」と「郡県」という二つの用語が、近世～近代の諸状況のもと、読み替えられつつ再生産されていった過程について見る。

第14回 十五年戦争下の儒教

十五年戦争期と呼ばれる1930年代～1945年の日本が、アジアへと侵出していく際に儒教をどのように利用したのかについて考える。

第15回 総括

これまでの授業内容を総括しつつ、儒教を軸にどのような日本思想・文化像を示し得るのかについて考える。

2022年度 前期

2単位

比較文学

中山 文

< 授業の方法 >

対面授業。

特別警報又は暴風警報発令の場合、本科目は通常授業時同様に休講とします。

時間や地域など取扱いの詳細は大学HPを確認してください。

連絡は fumi@human.kobegakuin.ac.jp

< 急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について >
4月29日（木）から5月27日（木）までの間、授業形態をオンデマンド授業に変更します。

受講方法につきましては、「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

この科目は人文学部の専門教育科目に属する科目であり、

人文学部のディプロマポリシーに掲げられた「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」ことを目指します。

いつの時代も名作は人の心を打ちます。それは人間にとって普遍的なテーマを扱っているからでしょう。この授業は、日本近代作品の名作を読み直し、それが次代に人々にどのように影響を与えて二次創作化されたのかをたどります。時には映像化され、時には新たな小説化され、時にはアニメ化されたりもします。二次創作化される上で、何が変化し、何が変化しないのか。また、同じテーマが時代によってどのような描かれ方の変化をみせるのか。そこに人間の普遍と社会の変化を読み取ることができましょう。大正時代や昭和時代はもうずいぶん遠くなりました。しかし今も国語の教科書で取り上げられ、日本人の文学教養とされています。令和時代になっても古びない作品を味わい、そこに共感できる誰かと出会しましょう。

目的 ひとつの作品が、異なる時代と社会の中で、異なるメディアによってどのように変貌するのか。そのどちらが現代人の心をつかむのか。古いものが必ずしも時代遅れではないことを、古い作品の中に自分を投影できる人物を発見してみましょ。作品を理解し、自分なりの読みがきちんと文章にできるようになることを目的とします。

< 到達目標 >

大学生としての文学的素養を身につけ、文学作品の魅力を文章で表現できる。

幅広い芸術鑑賞能力を養い、文学芸術領域において幅広い知識を得ることができる。

授業で学んだヒントから、新しい視点を発見することができる。

高校までの国語授業を越えた、自分なりの作品の読みを文章にできる。

< 授業のキーワード >

近現代文学、自我・階級・貧困・恋愛・病・死・戦争

< 授業の進め方 >

第1, 2回目の授業内容は以下に置く。第3回以後はドットキャンパスを通じて、資料を配布する。

授業当日までにドットキャンパスに資料を上げるので、確認のこと。

アジアに急激な変化がもたらされた1910年代から50年代の社会背景を理解しながら、作品を理解し、鑑賞する。

- 1 当日の課題作品のあらすじを述べる。
- 2 作家について理解する。
- 3 作品の読解について、先行研究を知る。
- 4 作品について、自分の意見をまとめる。
- 5 映像化された作品を鑑賞する。
- 6 文学作品と映像化された作品を比較し、自分の意見を文章化する。

授業方法は履修人数によって変更する。

初回授業で明示する。

<履修するにあたって>

授業前に課題作品を読み、自分で人物関係図を書いて手元に置く。

作品の解説PPTを読み、指示に従い、理解に資する映像を鑑賞する。

毎回の授業について、感想を書いた小レポートをドットキャンパスに送る。

<授業時間外に必要な学修>

授業前に指定された作品を必ず読んでくること。授業後に、もう一度読む。そのために、2時間以上の予習復習が必要になる。

<提出課題など>

(1) 毎回、課題に沿って講義内容に関する小レポートを書く。(2) 期末レポート提出。同じテーマが時代と社会によってどのような作品の違いに発展するかに注目し、各自で作品を探し出してきて紹介する。

<成績評価方法・基準>

授業前に、ドットキャンパスに上げられた資料を印刷し、読んでおく。また、3日以内に指定された課題にそって200字以内で小レポートを書き、ドットキャンパスに送る。それをもって出席とする。75%

期末レポートとして、自分で比較文学の材料になるものを探してきて、どこがどのように変化して新しい作品になっているのかを考察する 25%

<テキスト>

とくに指定なし。だが当日読むことになっている作品を必ず読んでくること。作品は「青空文庫」で読めるものを選んでいく。

<参考図書>

「比較文学的読書のすすめ」(SEKAISHISO SEMINAR) (日本語) 単行本 ? 2000/4
渡辺 洋 (著)

「比較文学研究入門」(SEKAISHISO SEMINAR) (日本語) 単行本 ? 1997/3

渡辺 洋 (著)

<授業計画>

第1回 導入

導入。文学創作とテーマについて考える。

授業の進め方について説明する。

第2回 自我

芥川龍之介「羅生門」(1915年)と黒沢映画「羅生門」

第3回 恋

台湾演劇『リスボンの恋人』

第4回 恋

川端康成『伊豆の踊子』と恋

第5回 階級

チャーホフ『桜の園』と革命

第6回 貧困

小林多喜二「蟹工船」(1929年)を読む

第7回 貧困

映画「蟹工船」と比較する

第8回 病と死

堀辰雄「風立ちぬ」(1936)を読む

第9回 病と死

平田オリザ演出「S高原から」と比較する

第10回 病と死

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」とアニメ化

第11回 結婚

高村光太郎「智恵子抄」を読む

第12回 結婚

演劇「売り言葉」と比較する

第13回 戦争

井上ひさし「父と暮らせば」を読む

第14回 戦争

アニメ「この世界の片隅に」と比較する

第15回 振り返りとワーク

確認ワークを行う。

2022年度 前期

2単位

美術研究

倉持 充希

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、学部のDPに掲げられる「人間の行動や文化に関する専門知識と技能」、特に西洋美術史に関する知識の習得と活用を目指す。

人文学科専門教育科目の人間探求科目群に属する本科目では、古代から16世紀にかけて、主にヨーロッパで生み出された絵画、彫刻、建築を取り上げる。具体的には、時代ごとの文化や様式、主要作例の造形的特徴を把握したうえで、作品の意味内容や機能、当時の社会との関わ

り、思想的背景といった多様な観点から作品にアプローチする。芸術という文化的所産の分析を通じて、人間の営みを考察する思考や方法論に慣れ親しむことを目的とする。

<到達目標>

1. 歴史文化や美術の様式に関する基礎知識を習得する。(知識・技能)

2. 主要作例を、自らの言葉で説明できる。(思考力・判断力・表現力)

3. 作品を鑑賞し、分析するための学術的態度を修得する。(主体性・協働性)

<授業のキーワード>

西洋美術史 美術史学 絵画 彫刻 建築

<授業の進め方>

・プロジェクターで図版を見せながら、内容を解説する。
・毎回の授業内レポートで、作品記述や歴史文化に関する論述に取り組む。

<履修するにあたって>

・後期開講の「美術研究II」を継続して受講するとよい。
・3回生以上は、前期開講の「文化交流論III」(図像学の授業)と並行して受講するとよい。

・3回生以上は、後期開講の「美術研究IV」(作家研究)を継続して受講するとよい。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画に記された予習・復習の課題を行う。(各60分)

<提出課題など>

・毎回、授業内レポートに取り組む。当日あるいは後日、フィードバックを行う。

・学期中に、授業内応用問題を3回実施する。後日、解答例を示す。

・期末レポート(3000字)を提出する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、dotCampusあるいはTeamsでフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

・授業内レポート 30%(到達目標1・2の達成度合い)

・授業内応用問題(3回) 30%(到達目標1・2の達成度合い)

・期末レポート(3000字) 40%(到達目標1・3の達成度合い)

・応用問題1回以上と期末レポートの提出がない場合は、単位取得はできない。

<テキスト>

レジュメや参考資料を配布する。

<参考図書>

適宜、紹介する。

・高階秀爾・三浦篤[編]『西洋美術史ハンドブック』新書館 1997年

・『西洋美術館』小学館 1999年

・『西洋美術の歴史』(第1~5巻)中央公論新社 2016~17年

<授業計画>

第1回 西洋美術史の概要

西洋美術の歴史と美術史学の方法論を概観する。

・ヨーロッパ史の大きな流れを予習する。
・古代から16世紀までの美術史を復習する。

第2回 古代ギリシャ美術

クラシック期とヘレニズム期の彫刻を考察する。

・古代ギリシャの歴史を予習する。
・クラシック美術とヘレニズム美術の様式の相違を復習する。

第3回 古代ローマ美術

ポンペイ遺跡の壁画、ローマ帝政期の美術を考察する。

・古代ローマの歴史を予習する。
・ポンペイの壁画の様式を復習する。

第4回 初期キリスト教美術

キリスト教の公認と教会建築を考察する。

・初期キリスト教時代について予習する。
・ローマ時代の建築から引き継がれた要素を復習する。

第5回 ビザンティン美術

ビザンティン美術とイコノクラスムを考察する。

・ビザンツ帝国の歴史を予習する。
・プロトタイプ論争とイコンの造形的特徴を復習する。

第6回 ロマネスク美術

ロマネスク様式の聖堂建築を学ぶ。

・10~12世紀のヨーロッパの状況を予習する。
・ロマネスク建築の様式的特徴を復習する。

第7回 ゴシック美術(1)

ゴシック様式の聖堂建築を学ぶ。

・12~13世紀のヨーロッパの状況を予習する。
・ゴシック建築の様式的特徴を復習する。

第8回 ゴシック美術(2)

後期ゴシックの宗教画、写本を考察する。

・13~15世紀のヨーロッパの状況を予習する。
・ジョットの革新性を復習する。

第9回 初期ルネサンス(1)

古代彫刻に基づく人体描写、遠近法を考察する。

・14~15世紀のヨーロッパの状況を予習する。
・中世とルネサンスの人体描写の違いを復習する。

第10回 初期ルネサンス(2)

古代ギリシャ・ローマ神話に基づく神話画の復権について学ぶ。

・古代神話の概要を予習する。
・ルネサンスの芸術家の社会的地位を復習する。

第11回 盛期ルネサンス(1)

レオナルド、ミケランジェロ、ラファエッロの芸術を考察する。

・15~16世紀のヨーロッパの状況を予習する。
・三巨匠の様式上の相違点を復習する。

第12回 盛期ルネサンス(2)

ヴェネツィア派の特徴を検討する。

- ・海洋貿易都市ヴェネツィアの繁栄について予習する。
- ・ヴェネツィア派の風景表現を復習する。

第13回 初期ネーデルラント絵画(1)

ファン・エイクの代表作や、北方とイタリアとの芸術交流を学ぶ。

- ・14～15世紀のネーデルラントの状況を予習する。
- ・北方美術の油彩技法と細密描写の特徴を復習する。

第14回 初期ネーデルラント絵画(2)

ボス、ピーテル・ブリューゲル(父)の代表作を学ぶ。

- ・15～16世紀のネーデルラントの状況を予習する。
- ・教訓が織り込まれた風俗画を復習する。

第15回 ドイツ・ルネサンス

デューラー、クラナハ(父)の代表作からドイツ美術を考察する。

- ・16世紀の宗教改革の経緯を予習する。
- ・デューラーのイタリア旅行の意義を復習する。

2022年度 後期

2単位

美術研究

倉持 充希

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに掲げられる「人間の行動や文化に関する専門知識と技能」、特に西洋美術史に関する知識の習得と活用を目指す。

人文学科専門教育科目の人間探求科目群に属する本科目では、16世紀から20世紀にかけて西洋で生み出された絵画、彫刻、建築を取り上げる。具体的には、時代ごとの文化や様式、主要作例の造形的特徴を把握したうえで、作品の意味内容や機能、当時の社会との関わり、思想的背景といった多様な観点から作品にアプローチする。芸術という文化的所産の分析を通じて、人間の営みを考察する思考や方法論に慣れ親しむことを目的とする。本科目は、博物館学芸員課程科目(選択科目)も兼ねる。

< 到達目標 >

1. 歴史文化や美術の様式に関する基礎知識を習得する。(知識・技能)
2. 主要作例を、自らの言葉で説明できる。(思考力・判断力・表現力)
3. 作品を鑑賞し、分析するための学術的態度を修得する。(主体性・協働性)

< 授業のキーワード >

西洋美術史 美術史学 絵画 彫刻 建築

< 授業の進め方 >

- ・プロジェクターで図版を見せながら、内容を解説する。

・毎回の授業内レポートで、作品記述や歴史文化に関する論述に取り組む。

< 履修するにあたって >

・前期開講の「美術研究I」から継続して受講するとよい。

・3回生以上は、前期開講の「文化交流論III」(図像学の授業)を受講するとよい。

・3回生以上は、後期開講の「美術研究IV」(作家研究)と並行して受講するとよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画に記された予習・復習の課題を行う。(各60分)

< 提出課題など >

・毎回、授業内レポートに取り組む。当日あるいは後日、フィードバックを行う。

・学期中に、授業内応用問題を3回実施する。後日、解答例を示す。

・期末レポート(3000字)を提出する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、dotCampusあるいはTeamsでフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

・授業内レポート 30%(到達目標1・2の達成度合い)

・授業内応用問題(3回) 30%(到達目標1・2の達成度合い)

・期末レポート(3000字) 40%(到達目標1・3の達成度合い)

・応用問題1回以上と期末レポートの提出がない場合は、単位取得はできない。

< テキスト >

レジュメや参考資料を配布する。

< 参考図書 >

適宜、紹介する。

・高階秀爾・三浦篤[編]『西洋美術史ハンドブック』新書館 1997年

・『西洋美術館』小学館 1999年

・『西洋美術の歴史』(第6～8巻)中央公論新社 2016～17年

< 授業計画 >

第1回 西洋美術史の概要

西洋美術の歴史と美術史学の方法論を概観する。

- ・ヨーロッパ・アメリカ史の大きな流れを予習する。
- ・16世紀から20世紀までの美術史を復習する。

第2回 マニエリスム

マニエリスムとフォンテーヌブロー派を考察する。

- ・16世紀イタリア・フランスの状況を予習する。
- ・マニエリスムの語源を復習する。

第3回 17世紀イタリア美術

カラヴァッジョ、ポロニーヤ派、盛期バロックを考察する。

- ・17世紀のイタリア諸都市の状況を予習する。
- ・カラヴァッジョとポローニャ派の様式的な相違点を復習する。

第4回 17世紀スペイン美術

スペインの宗教画とベラスケスの代表作を考察する。

- ・17世紀スペインの状況を予習する。
- ・カトリック改革が美術に与えた影響を復習する。

第5回 17世紀フランドル美術

ルーベンスとフランドルの画家の制作活動を考察する。

- ・17世紀ネーデルラントの状況を予習する。
- ・フランドル画家の共同制作を復習する。

第6回 17世紀オランダ美術

レンブラント、フェルメールの代表作を考察する。

- ・17世紀オランダの状況、特に独立戦争の経緯を予習する。
- ・プロテスタント圏の絵画の特色を復習する。

第7回 フランス古典主義

プッサン、クロード・ロランの芸術活動を考察する。

- ・17世紀フランスの状況を予習する。
- ・理想的風景画の特徴を復習する。

第8回 ロココ美術と新古典主義

ヴァトー、ダヴィッド、アングルの代表作を検討する。

- ・18～19世紀のフランスの状況を予習する。
- ・新古典主義の理想美を復習する。

第9回 ロマン主義と写実主義

ジェリコー、ドラクロワ、ターナー、クールベの代表作を考察する。

- ・19世紀前半のフランス・イギリスの状況を予習する。
- ・写実主義の社会的背景を復習する。

第10回 印象派とアカデミスム

マネ、モネ、ルノワール、官展派の制作活動を考察する。

- ・19世紀後半のフランスの状況を予習する。
- ・印象派と官展派の技法上の相違点を復習する。

第11回 後期印象主義

セザンヌ、ファン・ゴッホ、新印象主義の技法の特色を考察する。

- ・19世紀末から20世紀初頭のフランスの状況を予習する。
- ・点描の理論と手法を復習する。

第12回 象徴主義と世紀末美術

モロー、クリムト、ラファエル前派の主要作例を考察する。

- ・19世紀イギリスの状況を予習する。
- ・近代化と世紀末美術の関係を復習する。

第13回 フォーヴィスムとキュビスム

マチス、ピカソ、ブラックの主要作例を考察する。

- ・20世紀前半のヨーロッパの状況を予習する。
- ・セザンヌの芸術とキュビスムとの接続を復習する。

第14回 ダダとシュルレアリスム

デュシャン、ダリ、マグリットらの制作活動を考察する。

- ・第1次大戦の経緯を予習する。

- ・『シュルレアリスム宣言』を復習する。

第15回 戦後美術

ジャコメッティ、ウォーホルらの代表作を考察する。

- ・第2次大戦の経緯を予習する。
- ・ポップアートと戦後社会との関わりを復習する。

2022年度 前期

2単位

美術研究

岸本 吉弘

< 授業の方法 >

対面式授業を軸として実施します。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

通常授業時の取扱いと同様に、休講とします。

解除・発令時刻と授業・試験開始時限等、取扱いの詳細については大学ホームページの

以下の場所に記載されているので、ご確認ください。

URL: <https://www.kobegakuin.ac.jp/students/toriatsukai.html>

< 授業の目的 >

「絵画」というと皆さんどういった作品を思い浮かべるでしょうか？豪華な額縁に入れられた美しい風景画、もしくは写真と見間違えるほどに精密に写實的に描かれた人物画、などが脳裏に浮かんだ人も多いかもしれません。勿論それらも絵画です。しかし本授業で紹介する美術（絵画）は、それらと関係しながらも、少し違った美的な価値や理念を備えています。

本授業では絵画作品を本質的に理解できるようになる豊かな感性と必要な知識を養います。主に近代以降の西洋絵画の展開（西洋美術史）を軸とし、多様な現代的な絵画表現等（メディア表現なども含む）に至る流れを丁寧に紹介し、芸術家の創作理念や方法論を中心としながらも、その時代背景なども併せて考察し、より深い絵画作品の理解へとつなげます。それらは本学のディプロマ・ポリシーの中でもとりわけ、課題や問題点の適正な把握と論理的分析、そしてそれをもとにした的確な表現力を重視する 思考力・判断力・表現力 と深く関わります。

近代以降の絵画芸術が、かつてのテーマ「宗教」や「物語」すらも必要なくなり、さらには「対象物（モチーフ）」までも拒否し、現代へと至る道のり、それは絵画というひとつの「窓」から平面的な「壁」への抽象的

な移行とも例えられるでしょう。そうした20世紀絵画芸術の最大の焦点でもある「抽象化」や、その後の「メディア化」などの諸現象を、欧米の近現代美術の豊富な画像や映像を中心に紹介します。また現代における同時代的な表現（ポップやアニメ等のメディア表現や写真表現）などにも触れながら同時代的なリアリティを探ると同時に、「日本」という独特な文化的な背景にも触れ、欧米からの受容またはアジアからの発信という視点も織り交ぜて現代美術が孕む諸問題も紹介します。

尚、シラバスについては、時々の特ピックス等によって、順序や内容を変更する場合があります。

<到達目標>

絵画の鑑賞を主軸に、題材やテーマをどう理解し、その絵画的（造形性・構図・色彩など）特性をどう判断・分析するか、自分らしい「ものの見方」や価値基準をもって作品を具体的かつ総合的に理解する力、すなわち「高度な鑑賞力」を得ることが本授業の目標であり、これは本学のディプロマ・ポリシーにある能力育成（思考力・判断力・表現力）や「主体性を持った態度」にも深く連動します。

<授業のキーワード>

現代美術、近代美術、抽象絵画、平面性、還元性、メディア性、欧米からの受容

<授業の進め方>

15回の授業は全て今のところ対面形式で行います。基本はパワーポイントなどで作品画像を紹介する形式です（出席については出席カードで管理します）。また授業回によっては授業レポート（100字程度）の提出や、や小テストの開催がある授業回もあります。また最終的には期末レポートを提出してもらいます。期末レポートの具体的な内容については授業内で具体的に指示します。

<履修するにあたって>

授業中の私語や居眠りは厳禁です。

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習のために以下の指定図書・参考書を読むとより授業理解が深まります。なかでも授業内容の反芻（復習）は必要です、できたら毎回1時間程度の時間を使用し関連書籍などの該当箇所を講読下さい。また、美術館やギャラリーなどの施設に出掛けて行き、実物の絵画作品等に接してみるのが良いです。実際の作品には多義的な情報量が含まれます。

<提出課題など>

・授業回によっては簡単なコメントや感想等を授業レポートとして提出してもらい、小テストを実施する回も設けます。

・学期末レポートの提出をしてもらいます。（レポート課題・提出形式・字数等については授業終盤に告知します。）尚、適宜フィードバックなども行います。最終レ

ポート課題については指定の美術館企画への実際的な見学。鑑賞によるものを予定しています。

<成績評価方法・基準>

平常点（参加度、コメント内容等：30%）、期末レポート（70%）

<テキスト>

岸本吉弘著「絵画 新たなる物語のために」晃洋書房、2018年

（テキストにおいては

重要度の極めて高い参考図書として理解してください。授業内においても本著より紹介する内容等が多く含まれます。）

<参考図書>

岸本吉弘著「絵画 新たなる物語のために」晃洋書房、2018年

藤枝晃雄著「絵画論の現在（マネからモンドリアンまで）」スカイドア。1999年

末松照和監修「カラー版 20世紀の美術」美術出版社、2000年

高階秀爾監修「カラー版 西洋美術史」美術出版社、1990年

以上が西洋美術史、20世紀美術を知るための初歩的（基礎的）な参考図書（1部ですが）になります、カラー図版も多くヴィジュアル的に楽しめる図書です。

<授業計画>

第1回 絵画とは？

絵画の原理と歴史、定義などを、中世や近代の名作を中心に、絵画の見方などを紹介する。

第2回 印象主義とジャポニズム

西洋絵画の伝統からの逸脱、前衛絵画としての印象主義、その背景とジャポニズムとの関連やフォービズムへの展開を紹介する。

第3回 マティスの色彩表現

アンリ・マティスの生涯を追いながら、その作品的な特徴を紹介し、近代という時代性をも考察する。

第4回 キュビズムの革命

キュビズムの動向をピカソやブラックを中心に紹介し、その造形的な特徴に迫る。

第5回 未来派から抽象表現へ

印象主義とキュビズムの動向を受け、発展した未来主義。キュビズムの動向を主にその後の抽象表現への有様を紹介する。

第6回 ドイツ表現主義について

カンディンスキーらのドイツ表現主義の有様について紹

介する。

第7回 アメリカ抽象表現主義ーポロックを軸に

ヨーロッパからアメリカへ、美術潮流の移行と同時に、アメリカ抽象表現主義の旗手であるジャクソン・ポロックの生涯を追い紹介する。

第8回 アメリカ抽象表現主義

アメリカ抽象表現主義の展開を、複数の画家たちの表現を通じ紹介する。

第9回 アメリカ美術の展開 1

アメリカ美術の展開を、ネオダダイズムを核に、その後の潮流であるポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアートを併せて紹介する。

第10回 アメリカ美術の展開2

アメリカ美術の展開を、ストリート、ニューペインティングを中心に紹介する。

第11回

現代における表層 1

現代的な表現の有り様を紹介する。

第12回 現代における表層 2

前回における授業の続きとして、現代における表現の多様性などを軸に紹介する。

第13回 サイトスペシフィック・アートについて

今回は近年の動向である「サイトスペシフィック（場所に関連する）アート」の有り様を紹介する。

第14回 芸術祭の現状

昨今、国内外で様々な形で開催される現代芸術祭を俯瞰し、身近な近県市内で開催された事例も併せて紹介する。

第15回 まとめとして

本日は授業最終回として、最終レポート課題の詳細を紹介します。

2022年度 後期

2単位

美術研究

倉持 充希

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに掲げられる「人文学の知見にも

とづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できる」ことを目指して、17世紀のヨーロッパ社会と芸術文化を学ぶ。

人文学科専門教育科目の人間探求科目群に属する本科目では、17世紀にローマで活躍したフランス人画家、ニコラ・プッサンの画業と作品を分析する。当時の社会や信仰の状況、人文主義の芸術理論、芸術庇護、絵画の自由取引等の多様な観点から、社会の変化に対応する人間の文化活動を考察することを目的とする。

< 到達目標 >

1. 芸術家の生涯に関する知識と、作家研究のために必要な分析手法を習得する。（知識・技能）
2. 作品の特色に気づき、それを適切な方法論を用いて論じる。（思考力・判断力・表現力）
3. 芸術文化の研究を通じて、時代とともに変容する価値観に対応し、社会の諸問題に向き合う姿勢を修得する。（主体性・協働性）

< 授業のキーワード >

西洋美術史 カトリック改革 パトロネージ 絵画市場
作家研究

< 授業の進め方 >

- ・プロジェクターで図版を見せながら、内容を解説する。
- ・毎回の授業内レポートで、作品記述や制作状況等に関する論述に取り組む。

< 履修するにあたって >

- ・前期開講の「美術研究I」（16世紀までの西洋美術の歴史）、後期開講の「美術研究II」（16世紀以降の西洋美術の歴史）を受講するとよい。
- ・前期開講の「文化交流論III」（図像学の授業）を受講するとよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

- ・授業計画に挙げられた作例を予習する。（60分）
- ・授業での解説を基に、キーワードや重要項目を整理し、レポートの準備を進める。（60分）

< 提出課題など >

- ・毎回、授業内レポートに取り組む。当日あるいは後日、フィードバックを行う。
- ・期末レポート（4000字）を提出する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、dotCampusあるいはTeamsでフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

- ・授業内レポートとそれに基づく議論 40%（到達目標1の達成度合い）
- ・期末レポート（4000字） 60%（到達目標2・3の達成度合い、特に適切な情報収集と論理的展開で判断する）

< テキスト >

レジュメや参考資料を配布する。

< 参考図書 >

適宜、紹介する。

・大野芳材 [ほか] 『西洋美術の歴史6 17-18世紀 パ
ロックからココロへ、華麗なる展開』中央公論新社 20
16年
・望月典子 『ニコラ・プッサン 絵画的比喻を読む』慶
應義塾大学出版会、2010年
・栗田秀法 『プッサンにおける語りと寓意』、三元社、
2014年

< 授業計画 >

第1回 授業の概要

マニエリスムまでの西洋美術史の流れ、プッサンの画業、
授業の内容を概観する。

第2回 17世紀ローマの状況

特に各地から芸術家が集まったローマの状況や絵画市場
の成立等を把握する。

第3回 プッサンの画業：ローマ以前（1612-1624年）

プッサンが1624年にローマに到着する以前のパリ時代の
活動を概観し、代表作《聖母の死》などを分析する。

第4回 プッサンの画業：ローマ初期時代（1624-1630年）（1）

プッサンが競争の激しいローマで、顧客を得るまでの戦
略を考察する。絵画市場向けの売り絵や、枢機卿の注文
を受けて制作した《ゲルマニクスの死》などを分析する

第5回 プッサンの画業：ローマ初期時代（1624-1630年）（2）

画家の制作活動の広がりについて、ティツィアーノの影
響を受けて描かれた神話画《バッコスの前のミダス》や、
サン・ピエトロ聖堂のための祭壇画《エラスムスの殉教
》などの分析を通じて考察する。

第6回 プッサンの画業：ローマでの開花（1631-1640年）（1）

ローマ内外の顧客から注文を得られるようになった時期
の作風や芸術的課題について、対作品《アシドドのベスト》・《フローラの王国》などの分析を通じて考察する。

第7回 プッサンの画業：ローマでの開花（1631-1640年）（2）

複雑な群像表現や展示場所に即した工夫について、《サ
ビニの女たちの掠奪》や、リシュリユー枢機卿のための
《パンの勝利》・《バッコスの勝利》などの分析を通じ
て考察する。

第8回 プッサンの画業：ローマでの開花（1631-1640年）（3）

この時期の画家の戦略と古典主義的な画風の形成につい
て、パリ在住の顧客に向けて制作された《マナの収集》
や《アイネイアスに武具を指し示すウェヌス》などを通
じて考察する。

第9回 プッサンの画業：パリ滞在（1641-42年）

国王付首席画家としてパリに滞在した時期の制作活動に
ついて、祭壇画《日本の鹿児島で死んだ娘を蘇らす聖フ
ランシスコ・ザビエル》や、ルーヴル宮の装飾などの分
析を通じて考察する。

第10回 プッサンの画業：円熟期（1643-1652年）（1）

ローマに戻ったプッサンが、パリの顧客のために制作し
た《七つの秘跡》（第二連作）の分析を通じて、カトリ
ック改革期に重要視された「秘跡」の図像や、画家の構
想について考察する。

第11回 プッサンの画業：円熟期（1643-1652年）（2）

この時期の画面構成の特色や芸術理論への関心、顧客と
の関係性について、《エリエゼルとリベカ》、《ソロモ
ンの審判》、2点の《自画像》の分析を通じて考察する。

第12回 プッサンの画業：円熟期（1643-1652年）（3）

古代神話に基づく人物を含む、壮大な風景画について、
《オルフェウスとエウリュディケのいる風景》や《ピュ
ラモスとティスベのいる風景》などの分析を通じて考察
する。

第13回 プッサンの画業：晩年（1652-1665）（1）

晩年の物語画の構成や図像の特色について、《キリスト
と姦淫の女》、《エジプト逃避途上の休息》、《受胎告
知》などの分析を通じて考察する。

第14回 プッサンの画業：晩年（1652-1665）（2）

最晩年の理想的風景画の図像と、細かい筆触を用いた技
法について、《ディアナとオリオンのいる風景》、連作
「四季」などの分析を通じて考察する。

第15回 総括

プッサンの画業に関する総括を行い、作家研究を行う上
で重要な観点を整理する。

2022年度 後期

2単位

兵庫の文学

白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は人文学部専門教育科目に属し、教職・教科（
国語）の選択科目を兼ねます。

授業を通して人文学部のディプロマポリシーに掲げられ
た「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている
」「人間の心理、行動および文化に関する専門知識と技
能を総合的、体系的に身につけている」「多様な他者と
共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協
働できる」ことを目指します。

授業では兵庫県、とくに大学キャンパスの位置する神戸
市、明石市に関連する日本の文学作品を取りあげ、作品
の内容や表現を解説し、作品の背景や影響、文学史的知
識などについて学びます。また当地が日本人にどのよう
に理解され、文学作品のなかに描かれてきたかについて

解説します。

<到達目標>

(1) 日本の文学への関心を高める。

(2) 兵庫県に関わりの深い文学作品について、内容やあらすじを要約することができる。

(3) 兵庫県に関わりの深い日本文学について、文学史的知識を獲得し、それを説明できる。

(4) 文学作品を鑑賞し、そこから得た自分なりの問題意識や考え、感想などを文章で表現することができる。

<授業のキーワード>

兵庫県 日本近代文学 古典文学

<授業の進め方>

講義形式を中心として授業を進めます。予習状況・理解度などを確認するミニツツペーパー・小レポート・ワークシートの提出を求めますので、きちんと予習したうえで授業に参加して下さい。

<履修するにあたって>

・講義形式で授業を進めますが、受講者の授業参加・発言を求める場合があります。

・文学作品を中心に扱います。文学作品を読むことや、感想を述べることに抵抗がある人の受講はおすすめしません。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画(進度、内容等)は予定から変更される場合があります。

・私語などで他の受講生に迷惑がかかる場合は、退室を指示することがあります。

・不在時間が長い場合、課題が未提出である場合は、欠席とみなすことがあります。

<授業時間外に必要な学修>

各回180分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

<提出課題など>

(1) ミニツツペーパー・ワークシート・小レポートを課します。授業の中でフィードバックを行います。

(2) 学期末レポートを課します。

<成績評価方法・基準>

提出物(ミニツツペーパー・ワークシート・小レポート)70%、学期末レポート30%として、総合的に評価します。

ミニツツペーパー・ワークシート・小レポートの評価基準は「到達目標」を達成できているか、適切に予習・復習を行うなど、授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、の2点です。学期末レポートの評価基準は「到達目標」です。

<テキスト>

プリントを配布します。電子テキスト等の閲覧を指示する場合があります。

<参考図書>

兵庫県高等学校教育研究会国語部会編『兵庫県文学読本』(第一学習社、1993年)、『兵庫近代文学事典』(和泉書院、2011年)。ほか授業中に紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

受講上の注意などについて説明します。

第2回 神話・伝説

兵庫、とくに神戸市や明石市に関わりの深い神話や伝説について開設します。

第3回 生田川伝説1

古典作品における「生田川伝説」(菟原処女の伝説)について講義します。

第4回 生田川伝説2

近代以降の文学作品における「生田川伝説」(菟原処女の伝説)について講義します。

第5回 『源氏物語』

『源氏物語』「須磨」「明石」について講義します。また次回の授業に備えて、「謡曲」について概説します。

第6回 兵庫を舞台とした謡曲

『高砂』『松風』など、兵庫を舞台とする謡曲について、映像を鑑賞しつつ、解説します。

第7回 『男色大鑑』

『男色大鑑』の「傘持つても濡るる身」について講義します。

第8回 前半のまとめ(古典作品に描かれた兵庫のイメージ)

前回は引き続き、『男色大鑑』の「傘持つても濡るる身」について講義します。また、前半の授業を振り返り、「古典作品に描かれた兵庫のイメージ」について考えます。また、後半の授業について概説します。

第9回 『蒼茫』

石川達三『蒼氓』について講義します。

第10回 『火垂るの墓』

野坂昭如『火垂るの墓』について講義します。映像資料を鑑賞する予定です。

第11回 『火垂るの墓』2

前回は引き続き、野坂昭如『火垂るの墓』について講義します。

第12回 『神戸』

西東三鬼『神戸・続神戸』について講義します。

第13回 『細雪』

谷崎潤一郎と兵庫県の関わり、谷崎『細雪』等について講義します。

第14回 『細雪』2

前回は引き続き、映像資料などを視聴しながら、谷崎潤一郎と兵庫について解説します。

第15回 『明石』・後半のまとめ(近現代作品に描かれ

た兵庫のイメージ)

稲垣足穂『明石』について講義します。また、後半の授業内容を振り返り、「近現代の文学作品に描かれた兵庫のイメージ」について考えます。

2022年度 前期

2単位

ファッションの文化

齋藤 朋子

< 授業の方法 >
「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DPIに掲げる、文化に関する専門知識を修得すること、他者の意見を理解し、自らの考えを的確に表現できる力を養うことを目指す。

現代において、服飾は、衣・食・住の生活文化の中で、「流行」が顕著に捉えられ、関心の高い分野と言えよう。この「装いの文化」は、世界の各地域で、身体を保護することに始まり、素材の獲得と染織技術の習得により、機能と美を求めて発展し、人の交流と文物の交易によって伝播し、異文化間で影響を及ぼしあった。日本の服飾文化を中心に、その歴史や形成要因についての知識を習得し、脆弱ながらも今日まで継承された染織品の価値、文様の流行の背景や日本人の生活の中の美意識について理解できるようになることを目的とする。

博物館学芸員の実務経験のある教員が、館所蔵の作品や実見した作品等を紹介し、解説する。

< 到達目標 >

1. 染めや織りの素材や技術について説明できる。
2. 日本文化が中国文化の影響を受け、それを基に、わが国独自の文化を展開してきたことについて例を挙げて説明できる。
3. 日本の服飾文化の海外への影響について関心を持ち、意見を述べることができる。
4. 他者の話の要点をまとめ、自身の観点を示して、口頭や文章で表現することができる。

< 授業のキーワード >

服飾文化、染織史、文様史

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で授業を進めるが、グループワークでの受講生同士の意見交換を予定している。また適宜「授業後ミニレポート」について口頭でコメントする時間、質疑応答の時間を設ける。

< 履修するにあたって >

この授業では、服飾や染織品が中心となるが、文様の流行の背景や日本人の生活の中の美意識について理解するには、広く工芸分野の作品に興味を持つこと、展覧会で実作品をみることも必要である。展覧会情報は授業でも

紹介する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、dotCampusにて配布する授業資料を読んでから授業に臨むこと。(30分程度)

授業後は、各回の要点を整理し、染織の素材・技術等の用語や基礎知識について復習しておくこと。(40分程度) なお「授業後ミニレポート」のうち、出席カードではなく、dotCampusでの提出をもとめた回はこれに取り組むこと。(40分程度)

< 提出課題など >

各回「授業後ミニレポート」を課す。出席カードで当日提出の場合と、dotCampusで次回授業前日提出の場合がある。共に、疑問点や理解度を確認して、授業時に全員に向けて口頭のコメントにてフィードバックを行う。グループワークに先立ち、意見交換の準備課題の提出を求め、当日のミニレポートをグループワーク成果課題とする。なお、質疑応答は授業中に行う。

< 成績評価方法・基準 >

学期末レポート試験 40%

< 課題の理解、授業内容の理解と活用、自身の視点・考察、書くことへの努力(文章構成・表記の正しさ)を評価する。 >

授業後ミニレポート課題 35%

< 当日提出：授業及び課題の理解・短い制限時間内で記述する努力 >

< dot Campus提出：授業及び課題の理解・設定された記述量・正しい表記で書く努力 >

授業中の活動 25%

グループワーク活動(準備課題・成果課題)、積極的な取り組み、

< テキスト >

第1回の授業資料は当日に配布する。

第2回～履修登録完了までの資料は、OneDriveに提示予定。初回授業で指示する。

履修登録完了後は各回、dotCampusにて授業資料を配布する。授業までに各自がダウンロードをして準備すること。

< 参考図書 >

講義において、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス はじめに

授業の進め方(提出課題、グループワーク等)について説明 / ファッションと展覧会 / 「装い」の歴史と文化を考える手がかり (目標4)

* 初回の授業資料については、当日配布とする。

第2回 祈りと装い・仏教伝来と荘厳

装いの変化(原始時代～飛鳥時代) / 中国における刺繍工芸の発展 / 仏教伝来と繡仏 / 日本における上代の刺繍 / 仏教荘厳具としての染織品 (目標1,

2,4)
第3回 シルクロード?絹織物と織物技術の伝播(1)
描かれた女性たちとシルクロードのファッション /
技術と文様の変遷 中国の絹織物の伝播 (目標1,2,4)
第4回 シルクロード?絹織物と織物技術の伝播(2)
上代裂にみる染めと織の技法 / 技術と文様の変遷
法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様~唐風から和風へ
/ 舞楽の装束 (目標1,2,4)
第5回 公家の服飾
装いの変化?奈良時代から平安時代へ? / 公家の装束
~ 自然環境、社会変化の影響 / 有職文様 / 宮
廷装束 (目標1,2,4)
第6回 賞玩された舶載裂
舶載裂の歴史 / 舶載裂の種類~交易がもたらした新
たな技法 / 舶載裂の用途~伝承された特別な装い /
名物裂 / 裂手鑑 (目標1,2,4)
第7回 桃山時代の意匠
装いの変遷?平安・鎌倉・室町時代?小袖の定着 / 絵
画にみる中世から近世へ / 桃山時代の意匠 / 桃山
期の染織 唐織 繡箔 辻が花染 / 辻が花
染から次へ (目標1,2,4)
第8回 戦国武将の装い
戦国武将のファッション / 日本の甲冑の歴史 / 変
わり兜の意匠 /
陣羽織・胴服の意匠 (目標1,2,4)
第9回 近世の小袖意匠(1)
小袖意匠の変遷<江戸前期> 慶長小袖 女院御
所の小袖 寛文小袖 元禄小袖 (目標1,4)
第10回 近世の小袖意匠(2)
小袖意匠の変遷<江戸中期?後期> 友禅染 光
琳文様 / 出版メディアの発達とモードの流行 (目
標1,4)
第11回 江戸文化「いき」の美意識と型染めの技
日本の型染の種類 / 型染めの歴史 / 型紙染めの発
展 / 小紋の流行 / 江戸風の美意識 / 浮世絵にみ
る庶民の装い / 伊勢型紙 (目標1,4)
第12回 更紗
更紗とは / 文様染めの方法 / インド更紗-技法 / イ
ンド国内向け / エジプト出土例 / 各国向け更紗 / 日
本に舶載された更紗-古渡り更紗 / 近世初期風俗画に
みるインド更紗の小袖 / 日本での受容 / 各地でつくら
れた更紗
第13回 日本の服飾文化の海外への影響
万国博覧会 / ジャポニスム / 江戸の小袖 / キ
モノによる西欧のモードへの影響 / 型紙の欧米の芸
術・工芸デザインへの影響 (目標3,4)
第14回 家紋-日本独自の紋章文化-
公家の家紋 / 武家の家紋 / 庶民の紋 / 西洋の
紋章・日本の紋章 / 家紋のデザイン / 光琳意匠

の流行にみる日本人ならではの美意識 (目標3,4)
第15回 グループワーク
あらかじめ、dotCampusで提出を求めた各自の準備課題
をもとに、グループでの意見交換と全体での報告を行う。
(目標4) / まとめ

2022年度 後期

2単位

ファッションの文化史

森栗 茂一

<授業の方法>

講義(対面、状況により遠隔)

毎回、約15回、宿題をdotcampusから出します。授業
に出ない・動画みないと、的外れな宿題として、評価を
低くします。

特別警報または暴風警報発令時も遠隔授業は実施しま
す。(ただし、避難指示、避難勧告が発令されている
場合は、自分の安全を最優先にして行動してください。
)

<授業の目的>

本授業は、人文学科専門教育科目に属し、本学人文学部
DPにもとづき、歴史にもとづくファッションの「問題の
解決」に向け、「総合的かつ主体的に理解」し、対話に
よってわかちあい、グループワーク等の「協働によって
問題解決」する能力を養う。

? ?なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立
歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづく
り研究所を設立運営してきた、高校教育・博物館企画展
示・歴史的まちづくりに実務経験のある教員である。こ
れらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史学
に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて
解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生に
は更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

生活、性に関する多様な協働議論のなかから、多面的科
学的論理的思考を育む。

<授業のキーワード>

ダイバシティ、ジェンダー、子育て、夜這い、水子

<授業の進め方>

対面(社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり
)

使用するブログのURLは、{森栗メール,morikuri@human.
kobegakuin.ac.jp}で連絡する。スマホ、PCによるチャ
ットを活用することもある。

<履修するにあたって>

この授業、step by stepですすめます。主体的、学ぶ経験ない人にも、歴史探求、面白い。自ずと力がついてくる。それだけに、自ら予習、発表する、主体的思考、大変です。苦しく楽しい授業です。

なお、受講者数、教室の都合によって、シラバスどおり、授業すすまぬこともあり。

< 授業時間外に必要な学修 >

参考文献や資料検索には、60分以上、そのレポート記述には30分以上が、必要となる。

< 提出課題など >

毎回、授業の予習として、参考文献、資料検索等により、下調べ・発展学習をし、引用等を明示してコメント提出する。その予習・発展学習で、次回の授業を展開する。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の感想・レポート11回×5=55点

不十分な内容、引用不明は、減点される。

個別の質問、意見、各宿題の意欲作は、毎回3点を加算、上限45点

< テキスト >

森栗「夜這い 夜這いの崩壊・村の崩壊」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集、国立史民俗博物館[277-303頁]、1993年

森栗「水子供養の現状と展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集、国立歴史民俗博物館[95-127頁]、1994年

森栗「地蔵コミュニティの世相史 都市化・災害と子どもの生きる場の喪失」『子どもの文化』第32巻10号[21-28頁]、文民教育協会:子どもの文化研究所、2000年

< 参考図書 >

三橋順子『女装と日本人』、中野明『裸はいつから恥ずかしくなった』、西川麦子『ある近代産婆の物語 能登・竹島みいの語りより』、千葉徳爾『間引きと水子』、安井真奈美『出産の民俗学・文化人類学』、ヘレン・ハーディカ『水子供養 商品としての儀式』、大塚英志『捨て子たちの民俗学』

< 授業計画 >

1 何故「女と男の文化」なのか

{<https://zoom.us/j/92476684122>}教授者のジェンダー研究歴から解説する。

ブログ「神戸学院大学臨床歴史学研究室」{<https://kurimori2007.seesaa.net>}で、該当記事「第1回 女と男の文化」の解説、指示を読む。デマンド動画もここにUPする。

宿題 指示にしたがい、dotCampusに宿題(頁も含め引用付)をあげる。

2 現代日本文化 コスプレ、ニューハーフ

「異装のモダリティ」「日本の異装文化」を参考に考える。

3 男装女装の歴史

「とりかえばや物語」から考える。

4 ファッションの哲学

「モードの迷宮」「面とペルソナ」「化粧論」から考える。

5 LGBTを学ぶ

6 LGBTから学ぶ

7 reflection、Dialogue

相互ふりかえり、相互対話をおこないます。

8

性の民俗

性の民俗、聞書水俣民衆誌、夜這いと近代買春

9 都市と遊女

性の民俗、聞書水俣民衆誌、夜這いと近代買春

10 産の歴史

11 中絶の歴史

12 現代の出産

「キャリアと出産」から学ぶ。

13 水子供養

ヘレン・ハーディカ『水子供養 商品としての儀式』から学ぶ。

14 なじみ子、申し子、みなし子、福子、福助
みなし子、捨て子、に関するプレゼン、動画をみなさい。
参考文献で発見したこと、プレゼン・動画で発見した
ことを、(引用頁付き)でまとめ、金曜までに(時間が
ない!) dotCampusにあげなさい。

15 長屋と地蔵と子育て

2022年度 前期

2単位

舞台芸術研究

上田 学

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・本授業は、全学DPが示す、「幅広い知識に基づいて、
他者および異文化を理解することができる」ことの修得
を目指すものである。具体的には、身近な地域で製作され
た、過去の映像文化について知見を深めることで、現在
の映像文化を捉え直す「メディア考古学」の考え方を
身につける。

・私たちの周囲に、当り前のように存在している映像文
化は、歴史的な変遷を経て、現在の形式に至っている。
そうした過去の映像は、現在の私たちにとって、決して
無関係ではなく、むしろ将来の様々な映像の可能性を示
唆している。演劇史と映画史の関係をテーマに、現代の
演劇・映像文化を再考する。

< 到達目標 >

1. 現代に生きる私たちにとって「他者」である、過去の
演劇・映像文化を、身近な演劇・映像文化との関連で
理解することで、現在の演劇・映像文化を捉え直し、未
来の演劇・映像文化と向き合うための知識を身につける。
2. 身近な演劇・映像文化に関わる過去の演劇・映像文
化を分析し、解釈するための方法を理解し、自らの考え
を文章として表現することができる。

< 授業のキーワード >

演劇史、映画史

< 授業の進め方 >

・基本的にPower Pointを使った講義形式で授業を進め
る。適宜、必要な映画作品の抜粋を提示する。
・授業の理解度を把握するために、毎回の授業で前回授
業に関する小課題を、第5回・第10回の授業で小レポート
を提出してもらう。
・毎回配布する資料について、予習、復習に活用するこ
と。
・出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席
しても、毎回の小課題、二回の小レポート、一回の期末
レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得で

きない。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習：授業の時間は限られているため、事前に映画
作品の視聴を指示することがある。(90~120分)。

事後学習：毎回の授業で配布する資料を復習に活用する
こと(一回の授業につき目安として60分)。

< 提出課題など >

小課題(毎回)、小レポート(第5回・第10回)、期末
レポート(第15回、2800字以上、規定字数に到達しない
レポートは受領しない)。小レポートは講評するので、
期末レポート作成の参考とすること。

< 成績評価方法・基準 >

小課題(前回授業の内容・キーワードについて、2点×1
5回)30%、小レポート(10点×2回)20%、期末レポー
ト(2800字以上)50%で評価する。

出席点はいっさい評価しない。例え全ての授業に出席し
ても、毎回の小テスト、二回の小レポート、一回の期末
レポートで、必要な点数に達しなければ、単位は取得で
きない。

< テキスト >

特に定めない。毎回の授業で資料を配布する。

< 参考図書 >

神山彰・児玉竜一編『映画のなかの古典芸能』森話社、
2010年

金井景子、榎沢健、能地克宜、津久井隆、上田学、広岡
祐『浅草文芸ハンドブック』勉誠出版、2016年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の全体的な概要、進行方法と成績評価の基準につ
いて説明する。

第2回 歌舞伎と旧劇映画

近世における歌舞伎の成立と、それが時代劇映画にどの
ように継承されていったのかを学ぶ。

第3回 新派劇と新派映画

近代における新派劇の成立と、それが現代劇映画にどの
ように継承されていったのかを学ぶ。

第4回 芝居小屋と映画館

芝居小屋から映画館への移行と、近年進みつつある回帰
について学ぶ。

第5回 寄席と映画館

寄席がいかに都市の人々に身近な存在であり、どう映画
館に継承されたのかについて学ぶ。

第6回 浅草という興行空間

東日本の代表的な興行街であった浅草について学ぶ。

第7回 新開地という興行空間

西日本の代表的な興行街であった新開地について学ぶ。

第8回 松竹の演劇・映画

松竹の成立と、それが演劇史・映画史に果たした役割に
ついて学ぶ。

第9回 東宝の演劇・映画

東宝の成立と、それが演劇史・映画史に果たした役割について学ぶ。

第10回 宗教と演劇・映画

宗教が日本の演劇史・映画史に与えた影響について学ぶ。

第11回 宝塚歌劇と日本映画

宝塚歌劇と日本映画の歴史的な関係について学ぶ。

第12回 声優と日本映画

声優と日本映画の歴史的な関係について学ぶ。

第13回 メロドラマという概念

メロドラマという概念がいかに日本映画に適用されるのかについて学ぶ。

第14回 現代演劇と映像

現代演劇において、どのように映像が効果的に使用されているのかを学ぶ。

第15回 まとめ

講義の全体的な復習をしつつ、過去の演劇・映像文化が、未来の演劇・映像文化にどのように接続していくのかを考える。

2022年度 後期

2単位

舞台芸術研究

上念 省三

< 授業の方法 >

講義

この授業は、舞台芸術作品を観るということが前提となります。教室の大型スクリーンで舞台芸術の映像を鑑賞して、講師が解説を加える、ということが基本となりますので、出席が前提となります。授業に関する感想、コメントの提出を求めます。受講者相互のディスカッションやプレゼンテーション等の場を設ける予定はありませんが、時々コメントに関するフィードバックを行い、鑑賞体験の共有を図る予定です。

今年度は、『ロミオとジュリエット』の様々な上演を通じて、舞台芸術全般への理解を図ります。

< 授業の目的 >

舞台芸術、上演芸術の中でも、演劇、ダンスという身体性の強いジャンルに着目し、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を軸に、その魅力を解き明かします。

なお、授業内容については、時々の特ピックス等によって、順序や内容を変更する場合があります。

人文学部人文学科DPの1, 2, 7項に深く関係するものと思われま

す。講師は、国際演劇評論家協会日本センター関西支部が発行する「Act」誌の編集を担当、文化庁や大阪府、京都市の文化芸術関係の委員を務めるなど、実務経験のある教員として、皆さんに現場の知識と経験をシェアできるものと思われま

< 到達目標 >

舞台芸術の歴史と現在を把握できる

舞台芸術の魅力を実感できる

現代の舞台芸術を理解することにより、今という時代を把握することができる

舞台芸術の総合性を理解し、他の芸術分野(音楽、美術等)への理解が深まり、広がる

< 授業のキーワード >

演劇 ダンス バレエ 宝塚歌劇 ロミオとジュリエット シェイクスピア

< 授業の進め方 >

様々なジャンルの『ロミオとジュリエット』について、映像資料を見、解説を加え、各自の見方を深めるために毎回コメントシートの提出を求めます。小レポート課題を出し、フィードバックします。

< 履修するにあたって >

各回のコメントシートの比重が高いため、結果的に出席を重視する。

授業外に劇場へ行き、生の観劇体験を得てほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

舞台芸術に関するニュースや資料に敏感に目を通しておくこと(毎週30分程度)

授業で取り上げた作品、劇団やダンサーについて、Youtube等で観ておくこと(毎週90分程度)

レポート作成

< 提出課題など >

授業で指示するレポート、1000字程度

最終レポート2500字程度

採点后、模範レポート及び講評を公表する

< 成績評価方法・基準 >

毎回のコメントシート、授業への参加度30点

小レポート10点

最終レポート60点

< テキスト >

シェイクスピア全集 (2) ロミオとジュリエット (ちくま文庫) 978-4480033024

< 参考図書 >

平田オリザ『演劇のことば』(岩波現代文庫)

鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史』(平凡社)

河合祥一郎『あらずじで読むシェイクスピア全作品』(祥伝社新書)

< 授業計画 >

第1回 人文学、芸術を学ぶことの意義

大学で人文学を学ぶことの意義を、多様性、無価値性という観点から、ともに考える。また、このたびのコロナ禍によって、多くの舞台芸術が公演の中止を迫られた。芸術が危機の時代にあって、どのような意味・価値を持

つのかを、海外の事例も踏まえて考える。

第2回 舞台芸術の特徴

舞台芸術、特に演劇、ダンスについて、その特徴を他のジャンルと比較しながら考察し、舞台芸術特有の魅力を探る。

第3回 日本の演劇の歴史

能、歌舞伎といった伝統芸能から、明治以後の演劇改良、新劇、プロレタリア演劇、アンガラ演劇、小劇場演劇と、日本の演劇の歴史を概観する

第4回 ロミオとジュリエットについて

『ロミオとジュリエット』のあらすじ、配役、名セリフなどを通じて、その魅力を探る。

第5回 シェイクスピアについて

『ロミオとジュリエット』に続くシェイクスピアの名作をいくつか紹介し、その魅力を探る。

第6回 演劇の『ロミオとジュリエット』1

現代演劇における「ロミオとジュリエット」の代表的な上演を鑑賞し、戯曲と演劇、演出、俳優について考察する。

第7回 演劇の『ロミオとジュリエット』2

現代演劇における「ロミオとジュリエット」の代表的な上演を鑑賞し、戯曲と演劇、演出、俳優について考察する。

第8回 映画の『ロミオとジュリエット』

映画化された『ロミオとジュリエット』を見比べる。

第9回 バレエの『ロミオとジュリエット』

バレエ作品となった「ロミオとジュリエット」を鑑賞することで、バレエの魅力を探る。

第10回 ミュージカルの『ロミオとジュリエット』

ミュージカル化された『ロミオとジュリエット』の鑑賞を通じ、ミュージカルの魅力を探る。

第11回 宝塚歌劇の『ロミオとジュリエット』

宝塚歌劇で上演された『ロミオとジュリエット』を鑑賞し、宝塚歌劇の魅力を探る。

第12回 コンテンポラリーダンスの『ロミオとジュリエット』

コンテンポラリーダンスとして再構成された『ロミオとジュリエット』を鑑賞し、その魅力を探る。

第13回 和製ロミオとジュリエット、妹背山婦女庭訓

和製『ロミオとジュリエット』とも呼ばれる人形浄瑠璃（文楽）作品を鑑賞し、その魅力を探る。

第14回 ウェストサイドストーリー

『ロミオとジュリエット』を現代に置き換えたミュージカル作品を鑑賞する。

第15回 その他、補遺

ここまでで取り上げられなかったもの、不十分であったものについての補遺を行う。

2022年度 前期

2単位

舞台芸術研究

佐藤 良子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに掲げる、舞台芸術の創造・発展を支えるマネジメントや政策に関する専門知識と技能を総合的・体系的に身に付け、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、国（総務省）の外郭団体で文化芸術振興による地域づくりのための事業に3年間従事した実務経験のある教員であるので、全国の多様な文化的取り組みの事例を参照しながら、学びを深めていく。

< 到達目標 >

・舞台芸術とそれを取り巻く社会の仕組みを学際的に捉え、アートマネジメントや文化政策の観点から説明することができる。（知識）

・舞台芸術の創造・発展に影響を及ぼす社会的課題の解決に向けて主体的に考察できる。（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

アートマネジメント、文化政策、劇場・音楽堂等、舞台芸術組織、公的支援

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めるが、双方向の対話を重視し、適宜ミニレポートを求める。

< 履修するにあたって >

音楽や演劇など実演芸術が好き、劇場やホールに興味がある、文化関係の行政の仕事や、公演・イベントの企画運営の仕事に携わりたいと考えている学生を歓迎。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業内で配付する資料や参考図書で指定する箇所を十分読み込んでおくこと。また、授業内で紹介する事例のみならず、自分で劇場・ホールや実演団体等に関する情報収集をすること。

< 成績評価方法・基準 >

課題点40%（ミニレポートの内容及び授業時の自発的な発言を総合的に評価）、期末レポート60%

< 参考図書 >

根木昭・佐藤良子著「公共ホールと劇場・音楽堂法」、水曜社、2013年。根木昭・佐藤良子著「文化政策学要説」、悠光堂、2016年。松本茂章編著「はじまりのアートマネジメント」、水曜社、2021年。

< 授業計画 >

第1, 2回目の講義内容はこちらに置く。ドットキャンパ

スを通じて、資料を配布する。

授業当日にドットキャンパスに資料を上げるので、確認のこと。

授業前に課題作品を読み、自分で人物関係図を書いて手元に置く。

作品の解説PPTを読み、指示に従い、理解に資する映像を鑑賞する。

毎回の授業について、感想を書いた小レポートをドットキャンパスに送る。

履修人数によって授業方法が変化する可能性があるが、初回授業で明示する。 ガイダンス

アートマネジメントの歴史

授業の説明および国内外のアートマネジメントの歴史を把握する。

第2回 舞台芸術の上演組織

舞台芸術の上演に関わる様々な組織について理解する。

第3回 舞台芸術のマネジメント

オーケストラ等の実演芸術組織の経営について理解する。

第4回 劇場・音楽堂等の成り立ち

日本における国公立の劇場・音楽堂等の成り立ちを知る。

第5回 劇場・音楽堂等の運営

公立文化施設を中心に、その機能・役割と運営について理解する。特に、「劇場法」と指定管理者制度について詳しく理解する。

第6回 劇場・音楽堂等の事業

日本のトップレベルの劇場や、地域で特色ある活動を展開している劇場など、事例を通して具体的な事業内容を知る。

第7回 劇場・音楽堂等と地域の関わり

劇場・音楽堂等の存立に不可欠な地域との関わりについて、事例を交えて理解を深める。

第8回 文化政策の組織・法制

文化庁及び独立行政法人の組織、地方公共団体の文化行政組織等について把握するとともに、文化に関わる基本法制と個別法制、及び地方公共団体の文化法制を把握する。

第9回 文化政策の予算

国（文化庁）と地方公共団体の文化予算を把握し、あわせて、民間企業等のメセナによる資金援助の実態を眺める。

第10回 文化政策の基本理念

文化政策の基本理念を理解するとともに、そのもとの芸術文化の振興と地域文化政策の位置付けを整理する。

第11回 文化政策の近年の動向

文化観光、文化経済等近年の国の文化政策の動向を把握する。

第12回 文化芸術活動への支援

実演芸術や、劇場・音楽堂等への公的支援制度を理解する。

第13回 文化芸術活動への支援

地域の文化芸術活動への支援制度を理解する。

第14回 地域文化活動の担い手

（一財）地域創造や地域アーツカウンシル等の活動を参考に、地域の活性化と文化活動の担い手育成について考える。

第15回 文化芸術活動を支える組織・人材

文化芸術活動を支える様々な組織・人材が存在していることを踏まえ、アートマネジメントを担う人材について考える。

2022年度 後期

2単位

舞台芸術研究

亀岡 典子

< 授業の方法 >

講義(対面授業)

< 授業の目的 >

主題 「日本の古典芸能にみる日本人の精神性と日本文化の可能性」 目標 この授業では、人文学部人文学科のDPに示す「人間行動およびその文化所産との有機的関連を理解し」、「自然と人間に関する専門知識や人間の社会的・文化的活動に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ」、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導き」、「社会的な場において創造性や表現力を発揮し」、「自由で公正で豊かな社会の実現に貢献できる」力を培うことを目指す。具体的には、伝統芸能についての基礎的な知識を持ち、それぞれのジャンルの芸能の特色や、世界でも類を見ない日本の伝統芸能のオリジナリティーや現在まで継承されてきた理由などを検証。特に上方において戦後、衰退と再興を繰り返してきた伝統芸能の課題と現状、さらに未来への可能性を探る。なお、この授業の担当者は新聞社の伝統芸能担当という実務経験のある教員なので、より実践的、具体的な事例を引いて解説するものとする。

< 到達目標 >

・古典芸能について概略的な知識を身につけることができる。 ・現代における古典芸能のあり方について建設的かつ創造的な議論ができる。 ・古典芸能について、その発展に貢献できるような批評ができる。 ・古典芸能の作品に描かれているテーマをよく把握し、そこに潜む日本人の精神性を理解することができる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、理解を促進するために、舞台写真などビジュアル的な要素を積極的に取り入れるよう

にします。ただの解説ではなく、いま伝統芸能の世界で起きている課題にアプローチし、解決法を考える「ディスカッション」の時間も設ける予定です。

<履修するにあたって>

古典芸能を実際に見たことがなくても、興味があるという学生や、テレビや文学、歴史、現代演劇などを通して興味をがあったという学生、また、将来、演劇にかかわる仕事がしてみたいと考えている学生が受講してくれることを希望します。

<授業時間外に必要な学修>

古典芸能の本質を知るために、本来は劇場等で実際になまの舞台を鑑賞する機会がほしいが、コロナ禍の状況下では、実現は難しいと思われる。また、能楽堂や歌舞伎の劇場などの構造を理解するため劇場等を見学する機会も作りたいが、こちらも難しいのが現状だ。なまの舞台鑑賞が不可能な場合、テレビ放送やインターネット、DVDなどでの鑑賞で代替してよい。

<提出課題など>

i 講義を聞いた上で、テーマにのっとった中間レポートと期末レポートを提出する。 伝統芸能が未来にどういう可能性を持ち得るかを社会的観点からレポートとして提出する。なお、提出されたレポートに関しては、その内容について触れる授業を行い、個別に感想をメールなどで送る。

<成績評価方法・基準>

上記、 を総合的に判定する。

<テキスト>

適宜、プリントを配布します。

<授業計画>

1 はじめに

この半期で何を学ぶのかを、授業の進め方とともに説明。三大伝統芸能といわれる能、歌舞伎、文楽を中心に、日本の古典芸能のおおまかな歴史や内容、ジャンルを解説します。

2 歌舞伎の成立と変遷

四百年前、京の河原で奇抜な踊りをしていた女性、出雲の阿国に始まったといわれる歌舞伎。遊女歌舞伎から若衆歌舞伎、野郎歌舞伎へと変化していった歌舞伎の形態をたどり、歌舞伎の最大の特徴である「女形」誕生の過程を説明します。

3 歌舞伎の独自性

さまざまな古典芸能のなかで歌舞伎は厳密な意味で唯一、現在も興行として成り立っています。なぜこういう運命をたどったのか。歌舞伎は能狂言をはじめ、多くの先行芸能を取り込み、オリジナリティーに富んだ表現や様式を作り上げていきました。歌舞伎の独自性と多様性を探ります。

4 上方と江戸

歌舞伎には大きく分けて江戸歌舞伎と上方歌舞伎があり、それぞれの地域の歴史や土壌が異なるスタイルを作り上

げたといえます。上方歌舞伎は戦後次第に衰退していきませんが、近年、盛り返しの気配を見せています。両者の特色を解説、上方歌舞伎の低迷と再興への道を解説します。

5 能の成立と変遷

三大伝統芸能の中で最も古く室町時代に成立した能楽。もともとは中国から伝わった「散楽」がのちに「猿楽」といわれるようになり、観阿弥、世阿弥親子によって洗練された芸術へと昇華しました。初期の上演形態からもっとも大きな変化を遂げたといわれる能楽。その変遷と理由を解説します。

6 鎮魂の芸術

能楽は鎮魂の芸術といわれます。主人公のほとんどは現世に思いを残した死者の霊であり、シンプルな物語のなかに人間の業や運命を浮かび上がらせます。大きな天災の後など、能が現地でしばしば上演されるのは、人間の魂を鎮める力があるといわれるからです。能の物語に潜むテーマを検証します。

7 三位一体の文楽

世界中の人形劇のほとんどは子供向きですが、文楽はそのテーマの深さや表現形態など大人のための人形劇といえます。また、太夫、三味線、人形の三業が三位一体となって舞台を作り上げるなどオリジナリティーに富んだ表現形態も特色です。高い文学性と、他の芸能に与えた影響などを解説します。

8 文化と行政の関係

平成24年、大阪市が文楽協会への補助金見直しを打ち出しました。大阪で生まれ育った芸能である文楽に対して、大阪市が補助金削減を決めたことは当時大きなニュースになりました。改めて、文楽をはじめ、伝統芸能の問題点が浮き彫りにされました。文化と行政の関係性について、海外や日本の都市で成功している例をあげながら解説します。

9 時代が生んだ芸能

能、歌舞伎、文楽には同じ題材で描かれた作品が存在しますが、作者が込めたテーマは違っています。そこにはその芸能が生まれた時代が反映されているのです。具体的な演目を取り上げ、それぞれの芸能の特性と影響を解説します。

10 伝統芸能の課題

伝統芸能はこの数百年の間に衰退と再興を繰り返してきました。特に戦後の関西での低迷は著しく、現在も、芸の継承、観客の減少、若者離れなど複合的な問題が指摘されています。伝統芸能が次代に継承されていく上での課題と未来への展望を解説します。

11 日本舞踊、女流義太夫

日本舞踊は歌舞伎や文楽に欠かせない芸能ですが、近年習う人が減少し、それに伴ってプロの舞踊家も減っています。一方、女流義太夫も、本場の大阪で衰退が深刻な芸能です。これらの芸能がなぜ厳しい状況に陥ったのか

を検証し、現在の取り組みを探っていきます。

12 コロナ禍のなかでの挑戦

一昨年から続くコロナ禍は、伝統芸能をはじめとする舞台芸術の世界に大きな打撃を与えました。エンタメ業界は、アーティスト、スタッフ、劇場、興行会社ら関わるすべての人たちが、コロナの時代の興行のあり方を模索しています。そんななか、インターネットを使った新しい形の動画配信などが伝統芸能の世界でも行われています。彼らの挑戦を探りながら、近年、漫画を原作にした新作歌舞伎やバーチャル・シンガーと俳優が共演する「超歌舞伎」などこれまでになかった斬新な舞台が次々に生まれる伝統芸能の世界を探り、その未来と可能性を考えます。

13 海外への進出

伝統芸能が海外で高く評価されているのは周知のとおりです。文楽のアルジェリア公演、能や歌舞伎のパリ公演などを例に取り上げながら、伝統芸能がなぜこれほど外国人を引き付けるのかを解説。将来、観光資源や文化資源として海外でどういう価値を持つものになるのかなどを説明します。

14 東西の融合

シェークスピア劇の歌舞伎化や文楽化、アイルランドの詩劇をもとにした新作能など東西の文化のボーダーを超えた新作づくりが盛んに行われています。一方で、文楽の三人遣いの人形劇が東南アジアなどに広がりを見せるなど、海外の芸能に影響を与えています。伝統芸能の未来を拓く鍵となる東西文化の融合について解説します。

15 まとめ

伝統芸能は、混沌とした現代社会において、わたしたちに何をもたらしてくれるのか。日本人のアイデンティティを証明するものともいえる伝統芸能の意義を説明します。

2022年度 前期

2単位

文化交流論

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

対面講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。人文学部専門科目に属し、上位セメスターの「地域文化研究」や「文化交流論」の導入科目として位置づけられる科目である。

授業の目的は

「非ハリウッド映画から文化性を読み取る」

に設定する。

< 到達目標 >

全世界的に見ればハリウッドの中心としたアメリカの娯楽映画の持つ様式はもっとも支配的なものだが、個別に考えるならそれとは別の映像表現様式を発達させてきた映画界が世界にはいくつかある。本講義では日本映画とインド映画を取り上げて、独自の様式の発生の要因と発展の過程を分析する。

本講義は受講生が以下を理解できるようにすることを到達目標に定める。

1. 異なった文化環境が独自の映像表現を発生させること。
2. 日本とインドの映画に見られる独自の様式は先行する芸術形態である民間演劇に起因すること。
3. 上記の変質をもたらしたものは西洋文化からの直接の影響ではなく各々の社会が近代化してゆく過程で発生した要請に対応したものであること。

< 授業のキーワード >

時代劇、無声映画、ミュージカル、スターシステム

< 授業の進め方 >

前回講義の確認小テスト（15分）+ 講義（60分）

< 履修するにあたって >

配信される講義動画を視聴可能なネット環境が必要。また最低1本の映画を鑑賞することが要求されるためレンタルやNetflixやAmazon PrimeVideoなどネット配信で確保できるようにしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

内容確認に約1時間

< 提出課題など >

レポート1回

< 成績評価方法・基準 >

確認のための小テスト80% + レポート20%

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

全15回の授業の運営方法に関して説明し、概論としてハリウッドの特性について論じる。

第2回 古典的ハリウッド様式

（小テスト1）

古典的ハリウッド様式について説明する。

第3回 時代劇の発生と全プロ化

（小テスト2）

時代劇の発生に関して考察し、製作配給の両面からいわゆる「全プロ化」は何であったかを論じる。

第4回 時代劇と他の芸術表現との関係

(小テスト3)

時代劇俳優の土壌としての歌舞伎を考え、旧劇から時代劇への変化に関して分析する。

第5回 インド映画の成立と先行芸術としての演劇

(小テスト4)

インド映画の発生と先行形態としての演劇を考察し、日本映画との並行関係を論じる。

第6回 インド映画におけるイデオロギーと検閲

(小テスト5)

インド映画が独立のイデオロギーを表現するにおいて、検閲を逃れるためにどのような対応がとられたかを考える。

第7回 インド映画の実際

(小テスト6)

実際のインド映画をサンプリングして鑑賞

第8回 インド映画の実際

実際のインド映画をサンプリングして鑑賞

第9回 インド映画の実際

実際のインド映画をサンプリングして鑑賞

第10回 ミュージカル映画とは何か

ミュージカル映画の特性を示しインド映画との近似性をヒーロー中心主義を中心に考察する。

第11回 ヒーロー崇拜と集団的鑑賞

(小テスト7)

インド映画におけるヒーロー崇拜と集団的映画鑑賞の緊密性に関して考察する。

第12回 ファンクラブ、コメディシーン、言語別市場

(小テスト8)

インド映画におけるファンクラブ、コメディシーン、言語別市場に関して考える。

第13回 インド映画における互換性

(小テスト9)

インド映画における製作陣(スタッフ、俳優など)の互換性を考察し、それがどのように多言語市場の成立を補強しているかを論じる。

第14回 インド映画におけるスターシステム#2

(小テスト10)

インド映画においてヒーロー崇拜が果たしてきた役割を考え、また特定の言語圏映画において顕著に見られるスターと政治の結びつきについて論ずる。

第15回 総括と授業評価

本講義の総括と授業評価を行う。

2022年度 後期

2単位

文化交流論

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

講義・対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。

人文学部専門科目に属し、上位セメスターの「地域文化研究」や「文化交流論」の導入科目として位置づけられる。料理としてのカレーの変遷を比較文化論的に考察することが本講義の目的である。

< 到達目標 >

本科目の内容を把握することによって以下のことが理解できるようになる。

1. カレーのような身近なコモディティ(日用品)の背景に文化が重層的に累積していることを読み取る。
2. 文化の重層化は恣意的に発生するのではなく、植民地支配という強制的な西洋化が原動力となっていたことが判明する。

そして結果的に

3. 異文化間の複雑な関係性を理解し多文化共生社会の到来に具える。

< 授業の進め方 >

プレゼンテーション・ソフトを使った講義が主体。状況に応じて遠隔講義。遠隔講義実施中は複数のネット・アプリを利用して受講者側からの意見を受け付け、双方向性を確保する。レポートは理解度を深めるような内容を設定し、講義期間中に詳細を明らかにする。

< 履修するにあたって >

評価に出席点は加味しないが、アプリを介した意見や質問提出は講義への参加度を図るための対象とするので重要視する。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の内容を復習し指定のアプリを通じて質問や意見を提出する。(毎回1時間ほど)

< 提出課題など >

指定のアプリを介した意見・質問と最終的なレポート。

< 成績評価方法・基準 >

質問意見×13(13点)+レポート87点=100点。レポートは指定の書式で10000字以上。レポートは返却しない。

< テキスト >

特になし。必要があれば、適宜指示する。

< 参考図書 >

特になし。必要があれば、適宜指示する。

< 授業計画 >

第1週 オリエンテーション

授業の概要および授業計画を説明する。

第2週 カレーと西洋の接触(1)

第1クール。インドのカレーといっても昔から統一されたスタンダードがあったわけではない。各地域の文化的特性が反映された多様なバリエーションがあったのである。ここに一定のフォーマット化が行われたのは、ポルトガル人、イギリス人などがインドへ到来して植民地支配をはじめて以来といてよい。異種の文化の接触が飲食文化にどのような相互影響を与えたかを分析する。

第3週 カレーと西洋の接触(2)

第1クール。インドのカレーといっても昔から統一されたスタンダードがあったわけではない。各地域の文化的特性が反映された多様なバリエーションがあったのである。ここに一定のフォーマット化が行われたのは、ポルトガル人、イギリス人などがインドへ到来して植民地支配をはじめて以来といてよい。異種の文化の接触が飲食文化にどのような相互影響を与えたかを分析する。

第4週 カレーと西洋の接触(3)

第1クール。インドのカレーといっても昔から統一されたスタンダードがあったわけではない。各地域の文化的特性が反映された多様なバリエーションがあったのである。ここに一定のフォーマット化が行われたのは、ポルトガル人、イギリス人などがインドへ到来して植民地支配をはじめて以来といてよい。異種の文化の接触が飲食文化にどのような相互影響を与えたかを分析する。

第5週 カレーと西洋の接触(4)

第1クール。インドのカレーといっても昔から統一されたスタンダードがあったわけではない。各地域の文化的特性が反映された多様なバリエーションがあったのである。ここに一定のフォーマット化が行われたのは、ポルトガル人、イギリス人などがインドへ到来して植民地支配をはじめて以来といてよい。異種の文化の接触が飲食文化にどのような相互影響を与えたかを分析する。

第6週 カレーがイギリス料理になる(1)

イギリス人は基本的に保守的な人種である。そんなかれらが支配者となってインドへやってきて、本国と同じようなものを食べようとどれほど懸命な努力をしたか。それが結局不可能だと悟ったとき、かれらは渋々現地の料理を自分たちの口に合うように取り入れようとする。これが「カレー」の始まりである。こうして生まれたカレーが本国イギリスにもたらされて、どのように国民食として定着してゆくかを分析する。

第7週 カレーがイギリス料理になる(2)

イギリス人は基本的に保守的な人種である。そんなかれらが支配者となってインドへやってきて、本国と同じようなものを食べようとどれほど懸命な努力をしたか。それが結局不可能だと悟ったとき、かれらは渋々現地の料理を自分たちの口に合うように取り入れようとする。これが「カレー」の始まりである。こうして生まれたカレーが本国イギリスにもたらされて、どのように国民食として定着してゆくかを分析する。

第8週 前半の内容確認

前半の内容確認

第9週 カレーがイギリス料理になる(3)

イギリス人は基本的に保守的な人種である。そんなかれらが支配者となってインドへやってきて、本国と同じようなものを食べようとどれほど懸命な努力をしたか。それが結局不可能だと悟ったとき、かれらは渋々現地の料理を自分たちの口に合うように取り入れようとする。これが「カレー」の始まりである。こうして生まれたカレーが本国イギリスにもたらされて、どのように国民食として定着してゆくかを分析する。

第10週 カレーがイギリス料理になる(4)

イギリス人は基本的に保守的な人種である。そんなかれらが支配者となってインドへやってきて、本国と同じようなものを食べようとどれほど懸命な努力をしたか。それが結局不可能だと悟ったとき、かれらは渋々現地の料理を自分たちの口に合うように取り入れようとする。これが「カレー」の始まりである。こうして生まれたカレーが本国イギリスにもたらされて、どのように国民食として定着してゆくかを分析する。

第11週 日本式カレーの成立(1)

日本のカレーは本来イギリスに定着したカレーに由来するものである。つまり日本人はカレーをダイレクトにインドから輸入したのではなく、イギリスを経由して受け入れたという背景がある。カレーの日本への定着を、近代化の流れに沿って分析する。

第12週 日本式カレーの成立(2)

日本のカレーは本来イギリスに定着したカレーに由来するものである。つまり日本人はカレーをダイレクトにインドから輸入したのではなく、イギリスを経由して受け入れたという背景がある。カレーの日本への定着を、近代化の流れに沿って分析する。

第13週 日本式カレーの成立(3)

日本のカレーは本来イギリスに定着したカレーに由来するものである。つまり日本人はカレーをダイレクトにインドから輸入したのではなく、イギリスを経由して受け入れたという背景がある。カレーの日本への定着を、近代化の流れに沿って分析する。

第14週 日本式カレーの成立(4)

日本のカレーは本来イギリスに定着したカレーに由来するものである。つまり日本人はカレーをダイレクトにインドから輸入したのではなく、イギリスを経由して受け入れたという背景がある。カレーの日本への定着を、近代化の流れに沿って分析する。

第15週 後半の内容確認

後半の内容確認

2022年度 前期

2単位

文化交流論

倉持 充希

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPIに掲げられる「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」ことを目指して、キリスト教に根差した芸術文化を考察する。

人文学科専門教育科目の人間探求科目群に属する本科目では、旧約聖書・新約聖書に基づく絵画や諸聖人の画像を分析することにより、キリスト教の基本的な教義や道徳観に関する知見を深める。そのうえで、偶像崇拜や祈念画の是非、時代や地域に応じて多様化する信仰についても検討し、宗教画に求められた機能を理解することを目的とする。

< 到達目標 >

- 1．キリスト教の教義と宗教画の主題に関する専門知識を習得する。（知識・技能）
- 2．主要作例の意味内容を、自らの言葉で説明できる。（思考力・判断力・表現力）
- 3．キリスト教美術の分析を通じて、キリスト教文化や宗教画に対する理解を深める。（主体性・協働性）

< 授業のキーワード >

西洋美術史 キリスト教 宗教画 図像学 旧約聖書・新約聖書

< 授業の進め方 >

- ・プロジェクターで図版を見せながら、内容を解説する。
- ・毎回の授業内レポートで、作品記述や宗教画の役割等に関する論述に取り組む。

< 履修するにあたって >

- ・前期開講の「美術研究Ⅰ」（16世紀までの西洋美術の歴史）、後期開講の「美術研究Ⅱ」（16世紀以降の西洋美術の歴史）と併せて受講するとよい。
- ・3回生以上は、後期開講の「美術研究Ⅳ」（作家研究）を継続して受講するとよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画に挙げられた予習・復習の課題を行う。（各60分）

< 提出課題など >

- ・毎回、授業内レポートに取り組む。当日あるいは後日、フィードバックを行う。
- ・学期中に、授業内応用問題を3回実施する。後日、解答例を示す。
- ・期末レポート（3000字）を提出する。レポート提出後、全体への講評をまとめ、dotCampusあるいはTeamsでフィ

ードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

- ・授業内レポート 30%（到達目標1・2の達成度合い）
- ・授業内応用問題（3回） 30%（到達目標1・2の達成度合い）
- ・期末レポート（3000字） 40%（到達目標1・3の達成度合い）
- ・応用問題1回以上と期末レポートの提出がない場合は、単位取得はできない。

< テキスト >

レジュメや参考資料を配布する。

< 参考図書 >

適宜、紹介する。

- ・ジェイムズ・ホール『西洋美術解説事典』高橋達史 [ほか] 訳 新装版 河出書房新社 2004年
- ・共同訳聖書実行委員会『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』日本聖書協会 2003年

< 授業計画 >

第1回 キリスト教美術の概要

キリスト教の概要と予型論を学ぶ。

- ・キリスト教の主題を描いた絵画作品を予習する。
- ・旧約と新約の関係性を予型論の観点からまとめ直す。

第2回 旧約聖書（1）

「天地創造」、「アダムとエヴァ」を学ぶ。

- ・『創世記』の前半部を予習する。
- ・西洋美術における裸体表現の重要性を復習する。

第3回 旧約聖書（2）

「大洪水」、「バベルの塔」、「イサクの犠牲」を学ぶ。

- ・『創世記』の後半部を予習する。
- ・旧約における神と人間の関係性を復習する。

第4回 旧約聖書（3）

モーセの幼少期から青年期までの主題を学ぶ。

- ・旧約聖書『出エジプト記』の前半の概要を予習する。
- ・キリストの予型としてのモーセを復習する。

第5回 旧約聖書（4）

「紅海渡渉」から「十戒の授与」までの主題を考察する。

- ・旧約聖書『出エジプト記』の後半の概要を予習する。
- ・十戒の内容を復習する。

第6回 旧約聖書（5）

ダヴィデ、ソロモンの逸話を学ぶ。

- ・旧約聖書『サムエル記』と『列王記』の概要を予習する。
- ・ダヴィデと改悛の教義を復習する。

第7回 新約聖書（1）

スクロヴェーニ礼拝堂壁画を基に、イエスの生涯を把握する。

- ・イエスの生涯を予習する。
- ・ヨセフ信仰の高まりと聖家族の画像を復習する。

第8回 新約聖書（2）

「マリアの神殿奉獻」、「受胎告知」を学ぶ。
・マリアの生涯の前半の出来事を予習する。
・ウォラギネ『黄金伝説』の該当箇所と、三位一体の教義を復習する。

第9回 新約聖書(3)

「キリスト降誕」、「羊飼いの礼拝」、「三王礼拝」を学ぶ。

- ・福音書の「降誕」の箇所を予習する。
- ・公現祭の意義を復習する。

第10回 新約聖書(4)

「嬰兒虐殺」、「エジプト逃避」、「洗礼」を学ぶ。

・『マタイによる福音書』の「嬰兒虐殺」と「洗礼」の箇所を予習する。

- ・洗礼の儀式を復習する。

第11回 新約聖書(5)

「最後の晩餐」、「キリスト捕縛」を考察する。

- ・4つの福音書の「最後の晩餐」の箇所を予習する。
- ・聖餐式の起源を復習する。

第12回 新約聖書(6)

「磔刑」、「十字架降下」、「哀悼」を検討する。

- ・4つの福音書の「磔刑」の箇所を予習する。
- ・磔刑図の機能を復習する。

第13回 新約聖書(7)

「復活」、「エマオの巡礼」、「昇天」を学ぶ。

- ・4つの福音書の「復活」の箇所を予習する。
- ・「復活」の教義上の意義を復習する。

第14回 新約聖書(8)

「聖母の死」、「無原罪の御宿り」を学ぶ。

- ・マリアの生涯の後半の出来事を予習する。
- ・「無原罪の御宿り」の教義を復習する。

第15回 新約聖書(9)

福音書記者、諸聖人の図像を学び、講義全体を総括する。

- ・『使徒行伝』の概要を予習する。
- ・聖人を見分けるアトリビュートを復習する。

2022年度 後期

2単位

文化交流論

赤井 敏夫

< 授業の方法 >

講義・対面授業

ただし新型コロナウイルスの状況によっては遠隔に転換する可能性あり

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のDPに示す、広い知識や体験をもとに柔軟で確固とした価値基準・行動規範を身につけ、多様な他者と共存し、積極的に交流・協働できる能力の修得を目指す。飲食が個別の文化に果たした役割を文化的に解釈し、現代文化への多角的な視点を涵養できる

ようにすることを目的とする。

< 到達目標 >

本科目の内容を把握することによって以下のことが理解できるようになる。

1.人間の生命維持に不可欠な飲料の摂取の仕方が特定の文化圏の食文化を決定する因子となり得ること

2.アルコール摂取に対する対応が文化圏ごとに差異があること

そして結果的に

3.脱アルコール化の政策がプロテスタンティズム的近代化の発想と深く結びついていること

< 授業の進め方 >

プレゼンテーション・ソフトを使った講義が主体。状況に応じて遠隔講義。遠隔講義実施中は複数のネット・アプリを利用して受講者側からの意見を受け付け、双方向性を確保する。レポートは理解度を深めるような内容を設定し、講義期間中に詳細を明らかにする。

< 履修するにあたって >

評価に出席点は加味しないが、アプリを介した意見や質問提出は講義への参加度を図るための対象とするので重要視する。遠隔講義を受けられるネット、PC環境が必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の内容を復習し指定のアプリを通じて質問や意見を提出する。(毎回1時間ほど)

< 提出課題など >

指定のアプリを介した意見・質問と最終的なレポート。

< 成績評価方法・基準 >

質問意見×13(13点)+レポート87点=100点。レポートは指定の書式で10000字以上。レポートは返却しない。

< テキスト >

特になし。必要があれば、適宜指示する。

< 参考図書 >

特になし。必要があれば、適宜指示する。

< 授業計画 >

第1週 オリエンテーション

授業の概要および授業計画を説明する。

第2週 飲食文化の中のビバレージ(1)

ビバレージの飲食文化の中での位置づけを考える

第3週 飲食文化の中のビバレージ(2)

ビバレージの飲食文化の中での位置づけを考える

第4週 飲食文化の中のビバレージ(3)

ビバレージの飲食文化の中での位置づけを考える

第5週 エールハウスと村落共同体(1)

ビバレッジとしてのエールの成立と飲食文化におけるその位置を考える

第6週 エールハウスと村落共同体(2)

共同体の社交場、外界との接点としての宿屋としてのエールハウスの社会的機能を考察する

第7週 エールハウスと村落共同体(3)

エールハウスがパブへと変化した過程について論ずる

第8週 前半の内容確認

前半の内容確認

第9週 ジンと都市貧民(1)

名誉革命以降のジンの本格的導入とその政治的背景を考える

第10週 ジンと都市貧民(2)

ジン飲酒の習慣が惹起した弊害を同時代の社会改革運動家の資料から見る

第11週 ジンと都市貧民(3)

ジン酒税の導入とその社会的影響に関して考察する

第12週 国民的飲料としての紅茶(1)

ヨーロッパへの非アルコール系ビバレッジ(コーヒーと紅茶)の導入について論ずる

第13週 国民的飲料としての紅茶(2)

コーヒーハウスの成立と紅茶の優位に関して茶税という観点から考える

第14週 国民的飲料としての紅茶(3)

紅茶の大量安定供給と三角貿易と関連に就いて論ずる

第15週 後半の内容確認

後半の内容確認

2022年度 前期

2単位

文学と人間

中山 文

< 授業の方法 >

対面授業で講義を行う。

特別警報又は暴風警報発令の場合、本科目は通常授業時同様に休講とします。

時間や地域など取扱いの詳細は大学HPを確認してください。

連絡は fumi@human.kobegakuin.ac.jp

<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について>
4月28日(水)から5月26日(水)までの間、授業形態をオンデマンド授業に変更します。

受講方法につきましては、「遠隔授業情報」をご確認ください。

< 授業の目的 >

主題：「魯迅を読む」

この科目は、人文学科のDPに示す、幅広い知識と教養を身につけ、異なった価値観を尊重して将来にわたる知的好奇心を涵養することを目的とする。具体的には、現代中国文学についての専門知識を集中的、体系的に理解し、現代中国への理解と興味をなくくむことを目的としている。

魯迅は中国現代文学の父とよばれる作家である。19世紀末、欧米諸国の侵略により近代への道を歩まざるを得なくなった清朝は1911年に辛亥革命で倒壊し、翌年中華民国が誕生する。だがその後も袁世凱による帝政復古や軍閥割拠など政治的混乱が続く。一方陳独秀らの日本・アメリカ留学組は文学革命を提唱、口語の文学により民衆に国民国家共同体を想像させようとした。魯迅はこのような時代の大転換期の中で、伝統と現代の矛盾を考え、新しい社会における人間のあり方を考えた。

魯迅の作品解釈はいずれも一筋縄ではいかない。善人と悪人、白黒ははっきりつくような人物は出てこない。彼の作品世界を知ること、現代日本にも有効な、社会に対する多層的な視点を養う。

また、魯迅は日本留学の経験者であり、作品の中にも日本や日本人がしばしば描かれている。

近年、日中の関係が悪化しているが、魯迅の生き方を通して政治と民間人の友情は別物だということを理解する。日中交流についての知識を習得し、解放以前の中国の状況を理解することができる。

< 到達目標 >

中国近代史を知り、中国の歴史と民俗に対する深い知識をもつことができる。

19世紀から20世紀にかけて、中国と日本の交流史を理解することができる。

魯迅の作品を通して、当時の知識人、農民、女性の置かれた状況を理解することができる。

世界文学として著名な魯迅の作品をよみ、文学的教養を広げることができる。

< 授業のキーワード >

魯迅、近代中国史、日中関係、纏足、故郷

< 授業の進め方 >

第1, 2回目の講義内容はこちらに置く。

3回目以後はドットキャンパスを通じて、資料を配布する。

授業当日にドットキャンパスに資料を上げるので、確認のこと。

授業前に課題作品を読み、自分で人物関係図を書いて手元に置く。

作品の解説PPTを読み、指示に従い、理解に資する映像

を鑑賞する。

毎回の授業について、感想を書いた小レポートをドットキャンパスに送る。

履修人数によって授業方法が変化する可能性があるが、初回授業で明示する。

<履修するにあたって>

その日に読む作品を、かならず前もって読んでから授業に臨むこと。

<授業時間外に必要な学修>

中国に興味を持ってほしいので、テレビやネットで中国情報をまめに集めておくこと。

毎回指定された作品を読んだ上で授業に臨む。そのため予習復習に2時間以上必要。

<提出課題など>

授業前に、ドットキャンパスに上げられた資料を印刷し、読んでおく。また、3日以内に指定された課題にそって400字以内で小レポートを書き、ドットキャンパスに送る。それをもって出席とする。期間内に、2度800字程度のレポートを課す。

<成績評価方法・基準>

毎回の小レポート提出をもって出欠とし、学期末にレポートを課します。

小レポート 75%、学期末レポート25%

毎回提出課題の優秀作をドットキャンパスを通じて返却し、振り返りの教材として使用します。

優秀レポートは、成績に反映されます。

<テキスト>

魯迅「故郷/阿Q正伝」光文社文庫 762円

<参考図書>

大東和重他『中国現代文学傑作セレクション』勉誠出版

張愛玲作『中国が愛を知ったころ』岩波出版

藤井省三「魯迅辞典」三省堂

<授業計画>

1 中国近代の夜明け 清朝末期から民国の社会状況
日中交流歴史を抑えたいうえで、中国の近代について考える。

2 魯迅という人 中国現代文学の父・魯迅

台湾演劇『リスボンの恋人』。

及び、次週以後の遠隔授業についての説明。

以下、シラバスにかかれた内容は、1週ずつ繰り下がる。

魯迅の生い立ち、経歴など、今後作品を読むための手助けとなる情報を得る。

3 魯迅作品を読む1『呐喊』から 「狂人日記」の覚醒
魯迅の処女作。中国で初めて白話文で書かれた小説。白

話文で書く意味、当時の社会状況を踏まえつつ、「子供を救え！」の意味を考える。

4 魯迅作品を読む2『呐喊』から 「孔乙己」と科挙
旧中国の男性にとって出世の道は科挙に合格することしかなかった。何年浪人しても予備試験にも合格しなかった孔乙己の憐れさは、当時決して珍しいものではなかった。このような人物が現代の日本にはいないと言い切れるだろうか。

5 魯迅作品を読む3『呐喊』から 「薬」と革命
革命家の生血を吸った饅頭を食べれば息子の肺病が治ると信じる老夫妻。暗い時代に、一縷の光をみるかのように、革命家の墓が花輪で飾られる。

6 魯迅作品を読む4『呐喊』から 「茶館」という時間と空間

老舍作「茶館」を通して、魯迅の生きた時代の社会状況を学ぶ。

7 魯迅作品を読む5『呐喊』から 「故郷」と紹興
日本人にとっては、一番よく知られた魯迅の作品。成長して故郷に帰ると、かつてのヒーローが、とんでもなく色褪せて見える。時の残酷さをかみしめつつ若い世代に希望を託す魯迅の心を探る。

8 魯迅作品を読む6『呐喊』から 「故郷」と紹興
「故郷」の補足。

9 魯迅作品を読む7『呐喊』から 「纏足」
纏足をテーマにした映像によって、当時の女性がおかれた状況を学ぶ。

10 魯迅作品を読む8『呐喊』から 魯迅についての復習
映画「魯迅伝」によって、これまで読んできた魯迅作品を振り返る。

11 魯迅作品を読む9『呐喊』から 「阿Q正伝」
阿Qとは、「通常の名を持たず、家族から孤立し、旧来の共同体の人々の劣悪な性格を一身に集めて読者を失笑苦笑させたのち犠牲死して、共同体の倫理的欠陥を浮き彫りにする」（藤井省三言）人物である。日本人にとっては、どのような人間に当たるのだろうか。

12 魯迅作品を読む10『呐喊』から 「阿Q正伝」
精神勝利法で自らのプライドを支える阿Qを当時の人々はどのように遇するのか。

阿Qは本当に死んだのだろうか？

13 魯迅作品を読む11『呐喊』から 「阿Q正伝」
映画「阿Q正伝」（1981年作）を鑑賞する。滑稽劇の名優巖順開の主演。翌年、中国大陸の映画として初めてカンヌ映画祭に出品し、国内のみならずポルトガルやスイスの映画祭でも受賞した作品。本作は魯迅生誕100周年記念の作品だが、時代の作為が感じられる演出があちこちにある。原作との違いを指摘し、時代の意図を読み取る。

14 魯迅を読む12『呐喊』から 「魯迅と日本人」
魯迅は若い時に日本に留学し、多くの日本人の友人を得た。井上ひさしの「上海ムーン」には最晩年の魯迅を支

える日本人の姿が描かれている。金子光晴、太宰治、大江健三郎、村上春樹など、魯迅を愛した日本人作家の作品をとりあげ、その影響を考える。

15まとめ ふりかえり

確認ワーク。

2022年度 後期

2単位

文学概論

中山 文

< 授業の方法 >

講義(対面授業および遠隔授業併用)

< 授業の目的 >

主題：「現代中国の女性文学を読む」

この科目は、人文学科のDPに示す、幅広い知識と教養を身につけ、異なった価値観を尊重して将来にわたる知的好奇心を涵養することを目的とする。具体的には、現代中国文学についての専門知識を集中的、体系的に理解し、現代中国への理解と興味をはぐくむことを目的としている。

19世紀末、欧米諸国の侵略により近代化への道を歩まざるを得なくなった清朝は1911年に辛亥革命で倒壊し、翌年中華民国が誕生する。だがその後も袁世凱による帝政復古や軍閥割拠など政治的混乱が続く。一方陳独秀らの日本・アメリカ留学組は文学革命を提唱、口語の文学により民衆に国民国家共同体を想像させようとした。魯迅はこのような時代の大転換期の中で、伝統と現代の矛盾を考え、新しい社会における人間のあり方を考えた。魯迅の処女作「狂人日記」が中国における現代文学のはじまりとされる。

この授業では、1910年代から10年ごとの代表作を読みつつ、その背景にある中国の近現代史を学ぶ。アヘン戦争以来の100年間、常に身近に戦争や内戦を経験しながら近代化してきた中国において、その文学は政治や社会状況から超然としてはおられなかった。たとえば同じ1940年代、上海では蘇青や張愛玲のようなフェミニズム文学が生まれ、延安では毛沢東の文芸講話の指導する人民文学が生まれていた。地域の隔たりは人々の生活環境を大きく変え、人々の行動も大きく異なった。中国の広さは、おのずと文学の多様性を内包する。文学作品を通して、現在もっているイメージとは異なる姿の中国に、出会うことができる。

< 到達目標 >

中国近代史を知り、中国の歴史と民俗に対する深い知識をもつことができる。

19世紀から20世紀にかけて、中国と日本の交流史を理

解することができる。

多様な中国作家の作品を通して、当時の知識人、農民、女性の置かれた状況を理解することができる。

世界文学としても著名な作品に触れることで、文学的教養を上げることができる。

< 授業のキーワード >

近代中国史、日中関係、女性、孤島、淪陷区、解放区

< 授業の進め方 >

作品を読解し、その理解に資する映像を鑑賞する。毎回の授業について、小テストを行う。

< 履修するにあたって >

その日に読む作品を、かならず前もって読んでから授業に臨むこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

中国に興味を持ってほしいので、テレビやネットで中国情報をまめに集めておくこと。

指定された作品を読んだ上で授業に臨む。そのため予習復習に2時間以上必要。

< 提出課題など >

(1) 毎回、課題に沿って講義内容に関する小レポートを書く。優秀作は翌週に配布する。

(2) 理解度確認のためのワークを1回おこなう。模範解答を掲示する。+AH171

< 成績評価方法・基準 >

毎回のコメントシート 60%、確認ワーク 40%

翌週優秀コメントを提示、確認ワークは模擬答案を提示する。

< テキスト >

ドットキャンパスを通じて配布

< 参考図書 >

徐嘉澤作『次の夜明けに』書?肆侃侃房

張愛玲作『中国が愛を知ったころ』岩波出版

『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会 2018年

< 授業計画 >

1 中国近代の夜明け 清朝末期から民国の社会状況
遠隔授業で後期授業の進め方について説明を行う。

日中交流歴史を抑えたうえで、中国の近代について考える。

2

1910年代 女性作家 謝冰心

謝冰心「二つの家庭」を読む

魯迅が旧社会で苦しむ女性を書いたとき、五四文化運動から生まれた女性作家たちはどのような理想をもち、どのような生活をしていただろうか。

3

1910年代 映画「紅夢」

「紅夢」から過渡期中国における女子の生き方を読む。

中国で初めて大学に女学生が入学した時代。女子の高等教育は実家の経済状況が左右する。先進的な考えをした父親が亡くなり、女子教育に理解のない継母が経済力を握ったとたん、学問への道は閉ざされる。行きつく先は、お嫁入り。しかも金持ちの第4夫人。理想と現実の、このギャップ！

4

1920年代 女性作家・沈櫻
沈櫻「祝宴の後」を読む

せっかく恋愛結婚したのに、夫は仕事ばかりで倦怠期の夫婦。パーティで元カレと遭遇した妻は、久しぶりにワクワク。さて、どうなる？

1920年代の上海には、こんなモダンガールがいたのです。

5

1920年代
女性左翼作家・馮鏗
馮鏗「子を売る女」を読む
自由恋愛の果ての倦怠期に悶々とするセレブがいた一方で、夫に先立たれた貧しい女は仕事を得るために子供を売るしかなかった。子供はどこで売くの？ いったいいくらで、だれが買うの？ 作者は国民党により処刑された左翼作家の一人。

6

1930年代
東北作家・蕭紅を読む
蕭紅「手」を読む。
これからの社会、女が一人前に生きていくためには教育が必要だ！ そう言って
貧しい父は私を女学校に入れてくれた。でも、田舎者に都会のお嬢様学校は
ひどく冷たい。新時代を象徴する女学校にも、階級社会は生きていた。

7

1930年代 解放区作家・丁玲を読む
丁玲「夜」を読む。
40年代、中国の文学状況は共産党根拠地となった延安に生まれた解放区、
日本に占領された淪陷区、国民党が支配する地域の国統区とはっきり
分断された。ここでは、20年代に女性の性欲をテーマにした「ソフィ女史の日記」の
作者丁玲が、延安生活を経て、どのように変化したかに
焦点を当てる。

8

1930年代 延安について
映画「黄色い大地」で延安を学ぶ。
解放区延安とはどのような自然環境の土地なのか。さらに
辺境に住む人々にとって、延安からやってくる解放軍

兵士はどんな人物に映ったのか。彼は何のために
民謡を集めているのか？ 映像に沿って当時の社会背景を
説明する。

9 1940年代 女性作家 梅娘

梅娘「異郷の人」を読む
1940年代は日本が太平洋戦争に突進していった時代である。この時代、
植民地韓国から働きに来た韓国人と留学生を送る中国人女性が阪急電車の神戸線で出会う物語。

10

1940年代 淪陷区作家・張愛玲
張愛玲「心経」を読む。

丁玲が共産党の会議に悩む農民を描いた頃、日本侵略下の上海では
政治的な作品が禁止され、その結果家庭や恋愛をテーマにした作品が流行する。中でも二大女性作家が張愛玲と蘇青である。張愛玲は「中国が愛を知ったころ」で、裕福な生活と引き換えに自由を売り男性に囲われる女学生の葛藤を描いた。

授業では父親に性的な執着をもつ女子高生を描いた「心経」を読む。

11

1940年代 淪陷区作家・蘇青
蘇青「結婚10年」を読む
張愛玲と人気を二分した蘇青は、働く女性を描いた。あからさまな男女不平等な
社会で、家庭と仕事を両立させるために奮闘する彼女の姿は、今も決して古びていない。

12

1950年代 解放後の一般大衆 1
1 映画「生きる」を観る

945年の日中戦争後、中国共産党と国民党の間で3年間にわたる内戦が続いた。

1949年に共産党政権の中華人民共和国が設立。

1950年代には朝鮮戦争に参加、大躍進運動によって多数の餓死者がでた。

1960年代、中国指導部の闘争が激化し、10年間にわたり文化大革命が続く。

1972年に日中国交回復が実現し、1976年に毛沢東が逝去すると、

鄧小平は経済改革開放路線を展開した。

このめまぐるしく変化する政治運動の中、一般大衆はどのように生きてきたのか。

映画を見ながら、建国以後の中国社会の背景を学ぶ。

第1回目は、民国期に大金持ちだった主人公が賭博で無一文になり、趣味の影絵

を生活のたつきとして、人生を立て直す。国民党に徴用され、共産党の捕虜となり無事に故郷に帰国するまでを描く。

13

1960年代 解放後の一般大衆2
映画「生きる」を観る2

50年代、主人公富貴は大躍進政策の求める大衆行動のために日々たくたになりながらも、家族4人楽しい生活を送っていた。が、政治運動の余波で息子、娘に次々不幸がおそいかかる。

14

1980年代 解放後の一般大衆3
映画「生きる」を観る3

孫と老夫婦3人の生活に婿が加わり、貧しいながらも平和な食卓がラストシーンとなる。この作品を見て、人間の幸福について討論する。

15まとめ ふりかえり
確認ワーク。

2022年度 後期
2単位
文学方法論
白方 佳果

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施されます。

本科目では泉鏡花の初期短編小説を取り上げます。泉鏡花の作品は現在でも読まれています。発表からおおよそ百年を経ており、現在の読者には意味や背景を理解しづらい表現があります。授業では、作品との時間的な隔たりの大きさを意識し、当時の社会・文化状況をふまえて、本文を丁寧に読み解いてゆく方法を身に付けます。またそのうえで、文学研究で用いられる方法や考え方に基づき、文学作品を解釈できるようになることを目指します。

< 到達目標 >

(1) 日本近代文学への関心を深める。

(2) 泉鏡花、またその文学について文学史的知識を習得し、他者に説明できる。

(3) 鏡花作品の内容を精密に読解する。

(4) 鏡花作品の主題を読み取る。

(5) 上記に基づき、文学研究・鑑賞の一般的な手法を見につける。

(6) 上記に基づき、自らの考えや解釈、理解を的確に表現できるようになる。

< 授業のキーワード >

泉鏡花 文学 読解 日本文学 近代文学

< 授業の進め方 >

講義形式を中心として授業を進めますが、場合により演習形式で授業を行う場合があります。

< 履修するにあたって >

・積極的な授業参加を期待します。

・受講にあたって、指示する回までに取り上げる泉鏡花の作品を全文を読んでおくこと。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

・私語などで他の受講生に迷惑がかかる場合は、退室を指示することがあります。

・不在時間が長い場合などは、欠席とする場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

・各回120～180分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。

< 提出課題など >

ワークシート、小レポートの提出を複数回課します。学期末にはレポートを課します。

< 成績評価方法・基準 >

ミニツッペーパー / 授業中の発言・ワークシート・小レポート等の提出課題60%、期末レポート40%として、総合的に評価します。

(1) ミニツッペーパー / 授業中の発言・ワークシート・小レポート。評価基準は「到達目標」の2～4と、きちんと事前・事後学習を行い授業に取り組んでいるか、です。

(2) 期末レポート。評価基準は「到達目標」1～6です。

< テキスト >

プリント等を配布します。

< 参考図書 >

授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方、受講上の注意点などについて解説します。泉鏡花について解説します。

第2回 『外科室』1

泉鏡花『外科室』について概説します。また、映画『外科室』を視聴します。

第3回 『外科室』2

『外科室』を精読します。

第4回 『外科室』3

泉鏡花『愛と婚姻』を踏まえて、鏡花の婚姻観や、鏡花文学における「人妻」の問題から『外科室』を考えます。

第5回 『海城発電』1

泉鏡花『海城発電』を精読しつつ、解説します。

第6回 『海城発電』2

『海城発電』を精読しつつ、解説します。

第7回 『琵琶伝』1

『琵琶伝』を精読しつつ、解説します。

第8回 『琵琶伝』2

『琵琶伝』を精読しつつ、解説します。

第9回 『琵琶伝』3・『化鳥』1

前半の授業を振り返ります。また、泉鏡花『化鳥』について解説します。

第10回 『化鳥』2

『化鳥』を精読しつつ、解説します。

第11回 『化鳥』3

『化鳥』を精読しつつ、解説します。

第12回 『鶯花径』1

泉鏡花『鶯花径』を精読しつつ、解説します。

第13回 『鶯花径』2

『鶯花径』を精読しつつ、解説します。

第14回 『清心庵』1

泉鏡花『清心庵』を精読しつつ、解説します。

第15回 『清心庵』2

『清心庵』を精読しつつ、解説します。

2022年度 前期

2単位

倫理学

平光 哲朗

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題 他者からはじまる倫理

目的

私たちはふだん、「自己」、「意識」、「主体性」、「理性」、そして「人間」といった概念を深く問い直すことなく用いています。しかしこれらの概念は、20世紀を通して根本的に問い直されてきました。「自己」に対して「他者」が、「意識」に対して「無意識」が、「主体的決定」に対して「構造的決定」が、「理性」に対して「欲望」が、それぞれ徹底的な仕方に対置されたので

す。それによって私たちが近代以降前提にしてきた思考の形式が、「自我中心」、「自民族中心」、「理性中心」、「人間中心」として批判されました。またそれとともに「人類の進歩」という言葉を、私たちはもはや素朴な仕方では信じることはできなくなりました。

この講義ではまず、第二次世界大戦後の実存主義という思想潮流が「自己」、「意識」、「主体性」、そして「人間」に強い信頼を保持していたことを確認します。そして、その次にあらわれた構造主義という思想潮流が、どのようにこれらの諸概念を批判し、「他者」、「無意識」、「構造」という概念に基づいて思考を展開したかを、ひとつずつ辿っていきます。

こうした講義の展開を通して、本講義では、現代に生きる私たちの倫理を考えるための前提を受講者と共有します。そしてそのうえで、「他者」から出発する倫理の可能性を探究します。それは、ますます多様化し複雑化すると同時に、また断絶をも深める世界に生きる私たちが、「異なること」を受け入れて生きる仕方を模索する試みです。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

< 到達目標 >

サルトルの実存主義について理解し、説明できる。

構造主義者たちの諸理論について理解し、説明できる。

レヴィナスの他者論について理解し、説明できる。

他者から出発する倫理を理解し、自らの見解を述べることができる。

< 授業の進め方 >

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）。

< 提出課題など >

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

< 成績評価方法・基準 >

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の全体像を理解する。

第2回 実存主義

サルトルの実存主義

- ・「主体性から出発しなければならない
- ・神なき人間の在り方について」

第3回 構造主義

レヴィストロースの文化人類学

- ・『親族の基本構造』
- ・文化相対主義

第4回 構造主義の二つの源泉

フロイトによる無意識の発見

第5回 構造主義の二つの源泉

ソシュールの構造言語学

第6回 構造主義

ラカンの精神分析

- ・「無意識は言語によって構造化されている」
- ・主体を成立させる三つの次元

第7回 構造主義

フーコー、知の考古学

- ・『狂気の歴史』
- ・『言葉と物』、エピステーメー

第8回 ポスト構造主義

フーコー、権力批判

- ・『監獄の誕生』
- ・『性の歴史』

第9回 他者からはじまる倫理

サルトルにおける他者

- ・まなざしとしての他者

第10回 他者からはじまる倫理

レヴィナスにおける他者

- ・顔における他者

第11回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・フッサール現象学とその批判

第12回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

- ・ハイデガーの存在論とその批判

第13回 他者からはじまる倫理

デリダ、脱構築としての正義

- ・デリダによるレヴィナス批判

第14回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの応答

- ・『存在するとは別の仕方、あるいは存在の彼方へ』

第15回 総括

講義の全体を振り返る

2022年度 前期

2単位

歴史

大原 良通

< 授業の方法 >

遠隔授業

初回と2回目の授業は講義内容をOneDriveに挙げます。

その後はdotCampusでおこないます。

< 授業の目的 >

講義該当内容での教員採用試験に合格するだけの知識を身につける。

この授業では、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

この授業では、私たちが社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。人文学部のDPに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる（思考力・判断力・表現力）。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます（知識・技能）。さらに、この授業を通して多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります（主体性・協働性）。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。（主体性・協働性）。学部教育と融合した教職教育をとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、生徒の知識や技能、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成を図る教員として活躍できる（教職志望者）。

< 到達目標 >

中国史の各王朝の基本的な事項について説明できる。東アジアと西方諸国の交流を理解し、その影響について考察できる。

高校世界史の東洋史関連項目についてほぼ理解できる。社会人として恥ずかしくない程度の東洋史の知識を身につけ、教員採用試験の東洋史関連分野に関しては高得点をとれるようになる。

< 授業のキーワード >

世界史 教職

< 授業の進め方 >

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』と高校世界史の教科書を使用し、課題を提出してもらいます。

課題はdotCampusで通知しますので、授業時に必ず確認

してください。
前向きに、教員採用試験合格レベルの知識を得るんだ！
という強い気持ちで頑張りましょう。

<履修するにあたって>

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと。
予習や復習の際には、高校の世界史で使用していた教科書や資料集も活用すること。

<授業時間外に必要な学修>

教科書の読解と暗記、課題制作で、週に4時間ぐらいをめどにしてください。

<提出課題など>

ほぼ毎回、何らかの課題を提出してもらいます。
かならず、dotCampusで確認してください。
課題には頭に、表題、学籍番号、氏名を必ず明記してください。

<成績評価方法・基準>

授業毎におこなうテストや課題で評価します。
課題は教科書の5章までを全て覚えることです。(100パーセント)。

<テキスト>

北村厚、『教養のグローバル・ヒストリー』、ミネルヴァ書房。

ISBN978-4-623-08288-9

<授業計画>

第1回 ガイダンス、東洋史のあゆみ

この、シラバスを読んでください。

OneDriveに授業の説明がありますので、そちらもしっかり読んでください。

第2回 教員採用試験に見る世界史1

授業内容はOneDriveにあります。

世界史の東洋史部分がどのように扱われてきたのか、教員採用試験を使用して考察する。

第3回 南越国と南海交易

dotCampusで授業をおこないます。兵庫県の地歴公民の教員採用試験。南越国と南海交易。

第4回 古代の東アジア

班超と甘英など。

第5回 海の道の形成

漢代の東アジアと西方諸国の東西交流について学び、それが物や文化に与えた影響について考察する。

第6回 教員採用試験に見る世界史2

教員採用試験から、古代史がどのように扱われて以下について確認する。

第7回 東西の大帝国

唐の制度と文化、周辺諸国との関係について学ぶ。

第8回 イスラーム・ネットワークの拡大

タラス河畔の戦いと製紙法の西伝。

第9回 東西帝国の衰退

ウイグルと安史の乱

第10回 海洋の発展と大陸の分裂

日宋貿易や陶磁器

第11回 教員採用試験に見る世界史3

教員採用試験で唐代などがどのように扱われているかを確認します。

第12回 大モンゴルのユーラシア

モンゴル帝国の発展と、それが東西交流に与えた影響について学ぶ。ジンギス・ハン、ジャムチ。

第13回 大モンゴルユーラシア・ネットワーク

ラマ教やジャムチ制度、マルコポーロやモンテ・コルヴィノ

第14回 教員採用試験に見る世界史4

教員採用試験でアジアがどのように取り上げられきたかを確認する。

第15回 全体を俯瞰する

授業内容を確認しながら、学生の習熟度を測ります。

2022年度 後期

2単位

歴史

北村 厚

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1,2で示される教養としての基礎知識及び人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

「西洋の歴史」では、いわゆるグローバル・ヒストリーを学びます。グローバル化が進む現代において、世界の歴史をただ各国別・時代別に学ぶのではなく、地球儀を俯瞰する視点から世界全体の動きを学ぶことが重要です。そこでは国家や英雄たちではなく、海や山や砂漠を超える人々の動きや、商品の交易、気候や疫病といった自然環境の影響、さらに文字や宗教といった人々の生活にかかわる文化の交流が主人公となります。すなわち異文化間ネットワークの歴史です。

世界中がつながるネットワークの一端には、当然ながら日本も加わっていました。グローバル・ネットワークにおける日本の役割の変遷を知ることによって、日本人の歴史を人類史的な視点で眺めなおすことができます。これによってグローバル時代に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養います。これは2022年度からはじまる「歴史総合」や「世界史探究」において必要なスキルとなります。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従ってこの授業では、教職科目として必要な知識として、高校世界史の教科知識を身につけることができます。

<到達目標>

1. 世界の諸地域の歴史を、異文化ネットワークの観点から結びつけて説明することができる。
2. 日本史をグローバルな歴史から考えることができる。
3. 世界史を題材として主体的に「問い」を立て、歴史的思考力を身につける。

<授業のキーワード>

グローバル・ヒストリー 海域アジア 異文化間ネットワーク 歴史総合 世界史探究 アクティブ・ラーニング

<授業の進め方>

教科書と配布資料をもとに、スライドで授業をします。ノートを必ず取るようにしてください。授業の最後に課題を出しますので、3日間の期限で時間外に復習として課題に取り組み、指定されたGoogleフォームに投稿してください。

<履修するにあたって>

私語や途中退室は厳禁です。授業を受ける最低限のマナーを守ってください。

<授業時間外に必要な学修>

授業の予習として、必ずテキストの次の範囲を読み込んでください(1時間)。さらに復習として、授業後に課題に取り組んでください(1時間)。

<提出課題など>

毎回授業の最後に課題を提示します。3日間の期限で用意されたGoogleフォームに投稿してください。次の回の冒頭でフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題7点満点×15=105点で採点し、成績評価をします。

<テキスト>

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

<参考図書>

小川幸司『世界史との対話 70時間の歴史批評』(上・中・下)地歴社、2011年

前川修一・梨子田喬・皆川雅樹『歴史教育「再」入門 歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019年

<授業計画>

第1回 グローバル・ヒストリーとは何か

最初に授業の概要を説明します。これまで日本史に限らず世界史においても各国史の集合体であることが少なくありませんでした。また避けがたい西洋中心史観も問題でした。これらを乗り越えようとするグローバル・ヒス

トリーの試みを紹介します。

第2回 世界史探究のための「問い」

歴史教育の現場では、2022年に実施予定の「歴史総合」や「世界史探究」に向けた準備が進んでいます。これまでの歴史教育と異なり、史料の読み解きや生徒間のグループワークを想定した「主体的・対話的で深い学び」の実践が必要とされています。その成功は、いかにして生徒の興味を引き出し、能力を身につけさせる「問い」を創出するかにかかっています。以降、受講生には毎回「問い」を創出してもらいますが、そのための方法論や考え方をレクチャーします。

第3回 大モンゴルのユーラシア：13世紀～14世紀

13世紀、モンゴルのチンギス・ハンによってユーラシア大陸の東西が直接結びつけられます。彼とその後継者たちは大陸と海洋を有機的に結び付け、周辺諸国をもまきこむ「ユーラシア・ネットワークの円環」を作り出します。空前の大帝国の時代と14世紀におけるその崩壊を概略します。

第4回 大交易時代の到来：15世紀

明帝国は鄭和の大船団を南海に派遣し、海域アジアを再び結びつけました。明を中心とする「海禁＝朝貢体制」は早期に破綻し、むしろ琉球王国やマラッカ王国、ヴィジャヤナガル王国といった海域アジア諸国の活躍により、「大交易時代」を迎えます。

第5回 15世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第6回 世界の一体化：16世紀

16世紀はグローバル・ヒストリーの画期をなします。大西洋へと漕ぎ出したポルトガルとスペインの活躍によりヨーロッパのアジアとアメリカへの進出が始まり、オスマン帝国の発展によりムスリム商人のネットワークが強化され、新大陸と日本からの銀が世界を結びつけます。言葉の真の意味での「グローバル・ネットワーク」の成立です。

第7回 16世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第8回 大交易時代の終焉：17世紀

ヨーロッパの海洋帝国はポルトガルからオランダに交代し、天下統一成った日本の江戸幕府は海域アジアへと朱印船を派遣して、大交易時代はさらに繁栄しましたが。しかし日本の鎖国と明清交代は交易を縮小させ、大交易時代は終わりを迎えます。

第9回 17世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第10回 アジア/大西洋の分岐点：18世紀

江戸幕府・清・オスマン帝国といった長期的な大帝国の安定によってアジアは平和の時代を迎え、人口も激増し

ます。一方ヨーロッパは大西洋を舞台に戦争を繰り返し、やがてイギリスが覇権を握るに至ります。大西洋のネットワークは「環大西洋革命」を引き起こし、ヨーロッパの成長がアジアを圧倒していく原動力になるのです。

第11回 18世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第12回 不平等なネットワークの構築：19世紀前半
ナポレオン戦争を経てグローバルな海洋帝国となったイギリスは、アメリカ・アジアへと進出し、諸国と不平等条約を結んでいきます。英領インドで生産されたアヘンは中国に流れ込み、アヘン戦争を引き起こします。中国を組み込んだ不平等なネットワークはタイや日本をも巻き込み、欧米列強が次々とアジアへと進出し、世界は激動の時代を迎えるのです。

第13回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第14回 ネットワークの緊密化と「帝国」：19世紀後半
19世紀はグローバル・ネットワークの完成の時代です。世界中に蒸気船航路や鉄道網が張り巡らされ、さらにアメリカ横断鉄道とスエズ運河によってネットワークの短縮化が完成しました。欧米列強だけでなく、アジア諸国もこのネットワークを利用し、欧米の支配に対抗していくこととなります。欧米の「帝国」とそれに抗するアジアのネットワークの関係を学びます。

第15回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

2022年度 前期

2単位

歴史

森栗 茂一

< 授業の方法 >

教材ブログ、{森栗メール,morikuri@human.kobegakuin.ac.jp}で連絡する。

< 授業の目的 >

本授業は、人文学科の専門教育科目に属し、本学人文学部DPにもとづき、歴史の「問題の解決」に向け、歴史随想によって「総合的かつ主体的に理解」し、「協働によって問題解決」する能力を養うことを目的とする。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた高校教育と博物館展示企画、歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史教育に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極

めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

< 到達目標 >

- ・ 歴史問題に対処する系統的な判断ができるようになる。
- ・ 歴史教育に対する総合的な知識、主体的に学ぶ態度を身に着ける。

< 授業のキーワード >

歴史教育、歴史問題、生き方と歴史

< 授業の進め方 >

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

使用するブログ、ZOOM、GoogledriveのURLは、{森栗メール,morikuri@human.kobegakuin.ac.jp}で連絡する。スマホ、PCによるチャットを活用することもある。

< 履修するにあたって >

視聴覚教材等は、準備の都合によって変更することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の宿題に90分程度が必要である。

< 提出課題など >

毎回、試験を実施する。範囲は、宿題と当日の視聴覚教材のなかから。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の試験 13回×6点=78点 随想等に関する諮問...22点

< テキスト >

東京アカデミー編『2021年度教員採用試験対策 専門教科 中学社会』（2020年度の古いものでも可）

< 参考図書 >

森栗茂一『河原町の歴史と都市民俗学』明石書店、2003年（図書館に複数用意する）

< 授業計画 >

1 オリエンテーション

自己紹介動画、授業の組立、宿題提出法

2 NHK歴史番組をみる 1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

3 歩き、見る、聞く実践

神戸、明石on-line動画を活用し、各自で予習する。

4 歩く・見る・聞く まちあるき実践

必要な動画を撮り、投稿する。

5 教員採用試験の経験 1（古代、中世）

自己採点で自己確認

6 地歴教員物語（大学生篇）

地理学教室の学び、社会科初志の会、教員採用試験の経験

7 NHK歴史番組をみる2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

8 地歴新書を読む1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

9 教員採用試験の経験2（近世）

自己採点で自己確認

10 地歴教員物語（鈴高、定時制編）

新任教員経験を知る。教師か研究か？ 社会矛盾と社会科教育に悩む。

11 NHK歴史番組をみる3

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

12 地歴新書を読む2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

13 教員採用試験の経験3（現代、総合）

自己採点で自己確認

15 地歴教員物語（大学教育編）

大学教育の教師像を知る。（学に志す。イケイケ国立歴史博。大学院教養・キャリア教育。）

地歴探究教育の志

社会科の初志、地歴の意味

2022年度 前期

2単位

歴史文化特別講義

齋藤 朋子

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DPに掲げる、文化に関する専門知識を修得すること、他者の意見を理解し、自らの考えを的確に表現できる力を養うことを目指す。

現代において、服飾は、衣・食・住の生活文化の中で、「流行」が顕著に捉えられ、関心の高い分野と言えよう。この「装いの文化」は、世界の各地域で、身体を保護することに始まり、素材の獲得と染織技術の習得により、機能と美を求めて発展し、人の交流と文物の交易によって伝播し、異文化間で影響を及ぼしあった。日本の服飾文化を中心に、その歴史や形成要因についての知識を習得し、脆弱ながらも今日まで継承された染織品の価値、文様の流行の背景や日本人の生活の中の美意識について理解できるようになることを目的とする。

博物館学芸員の実務経験のある教員が、館所蔵の作品や実見した作品等を紹介し、解説する。

< 到達目標 >

1. 染めや織りの素材や技術について説明できる。
2. 日本文化が中国文化の影響を受け、それを基に、わが国独自の文化を展開してきたことについて例を挙げて説明できる。
3. 日本の服飾文化の海外への影響について関心を持ち、意見を述べることができる。
4. 他者の話の要点をまとめ、自身の観点を示して、口頭や文章で表現することができる。

< 授業のキーワード >

服飾文化、染織史、文様史

< 授業の進め方 >

基本的に講義中心で授業を進めるが、グループワークでの受講生同士の意見交換を予定している。また適宜「授業後ミニレポート」について口頭でコメントする時間、質疑応答の時間を設ける。

< 履修するにあたって >

この授業では、服飾や染織品が中心となるが、文様の流行の背景や日本人の生活の中の美意識について理解するには、広く工芸分野の作品に興味を持つこと、展覧会で実作品をみることも必要である。展覧会情報は授業でも紹介する。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、dotCampusにて配布する授業資料を読んでから授業に臨むこと。（30分程度）

授業後は、各回の要点を整理し、染織の素材・技術等の用語や基礎知識について復習しておくこと。(40分程度)なお「授業後ミニレポート」のうち、出席カードではなく、dotCampusでの提出をもとめた回はこれに取り組むこと。(40分程度)

<提出課題など>

各回「授業後ミニレポート」を課す。出席カードで当日提出の場合と、dotCampusで次回授業前日提出の場合がある。共に、疑問点や理解度を確認して、授業時に全員に向けて口頭のコメントにてフィードバックを行う。グループワークに先立ち、意見交換の準備課題の提出を求め、当日のミニレポートをグループワーク成果課題とする。なお、質疑応答は授業中に行う。

<成績評価方法・基準>

学期末レポート試験 40%

<課題の理解、授業内容の理解と活用、自身の視点・考察、書くことへの努力(文章構成・表記の正しさ)を評価する。>

授業後ミニレポート課題 35%

<当日提出：授業及び課題の理解・短い制限時間内で記述する努力>

<dot Campus提出：授業及び課題の理解・設定された記述量・正しい表記で書く努力>

授業中の活動 25%

グループワーク活動(準備課題・成果課題)、積極的な取り組み、

<テキスト>

第1回の授業資料は当日に配布する。

第2回～履修登録完了までの資料は、OneDriveに提示予定。初回授業で指示する。

履修登録完了後は各回、dotCampusにて授業資料を配布する。授業までに各自がダウンロードをして準備すること。

<参考図書>

講義において、適宜紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス はじめに

授業の進め方(提出課題、グループワーク等)について説明 / ファッションと展覧会 / 「装い」の歴史と文化を考える手がかり (目標4)

*初回の授業資料については、当日配布とする。

第2回 祈りと装い・仏教伝来と荘厳

装いの変化(原始時代～飛鳥時代) / 中国における刺繍工芸の発展 / 仏教伝来と繡仏 / 日本における上代の刺繍 / 仏教荘厳具としての染織品 (目標1,2,4)

第3回 シルクロード?絹織物と織物技術の伝播(1)

描かれた女性たちとシルクロードのファッション / 技術と文様の変遷 中国の絹織物の伝播 (目標1,2,4)

)

第4回 シルクロード?絹織物と織物技術の伝播(2)
上代裂にみる染めと織の技法 / 技術と文様の変遷
法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様～唐風から和風へ / 舞楽の装束 (目標1,2,4)

第5回 公家の服飾

装いの変化?奈良時代から平安時代へ? / 公家の装束
～ 自然環境、社会変化の影響 / 有職文様 / 宮廷装束 (目標1,2,4)

第6回 賞玩された舶載裂

舶載裂の歴史 / 舶載裂の種類～交易がもたらした新たな技法 / 舶載裂の用途～伝承された特別な装い / 名物裂 / 裂手鑑 (目標1,2,4)

第7回 桃山時代の意匠

装いの変遷?平安・鎌倉・室町時代?小袖の定着 / 絵画にみる中世から近世へ / 桃山時代の意匠 / 桃山期の染織 唐織 繡箔 辻が花染 / 辻が花染から次へ (目標1,2,4)

第8回 戦国武将の装い

戦国武将のファッション / 日本の甲冑の歴史 / 変わり兜の意匠 /

陣羽織・胴服の意匠 (目標1,2,4)

第9回 近世の小袖意匠(1)

小袖意匠の変遷<江戸前期> 慶長小袖 女院御所の小袖 寛文小袖 元禄小袖 (目標1,4)

第10回 近世の小袖意匠(2)

小袖意匠の変遷<江戸中期?後期> 友禅染 光琳文様 / 出版メディアの発達とモードの流行 (目標1,4)

第11回 江戸文化「いき」の美意識と型染めの技

日本の型染の種類 / 型染めの歴史 / 型紙染めの発展 / 小紋の流行 / 江戸風の美意識 / 浮世絵にみる庶民の装い / 伊勢型紙 (目標1,4)

第12回 更紗

更紗とは / 文様染めの方法 / インド更紗-技法 / インド国内向け / エジプト出土例 / 各国向け更紗 / 日本に舶載された更紗-古渡り更紗 / 近世初期風俗画にみるインド更紗の小袖 / 日本での受容 / 各地でつくられた更紗

第13回 日本の服飾文化の海外への影響

万国博覧会 / ジャポニスム / 江戸の小袖 / キモノによる西欧のモードへの影響 / 型紙の欧米の芸術・工芸デザインへの影響 (目標3,4)

第14回 家紋-日本独自の紋章文化-

公家の家紋 / 武家の家紋 / 庶民の紋 / 西洋の紋章・日本の紋章 / 家紋のデザイン / 光琳意匠の流行にみる日本人ならではの美意識 (目標3,4)

第15回 グループワーク

あらかじめ、dotCampusで提出を求めた各自の準備課題をもとに、グループでの意見交換と全体での報告を行う。

